

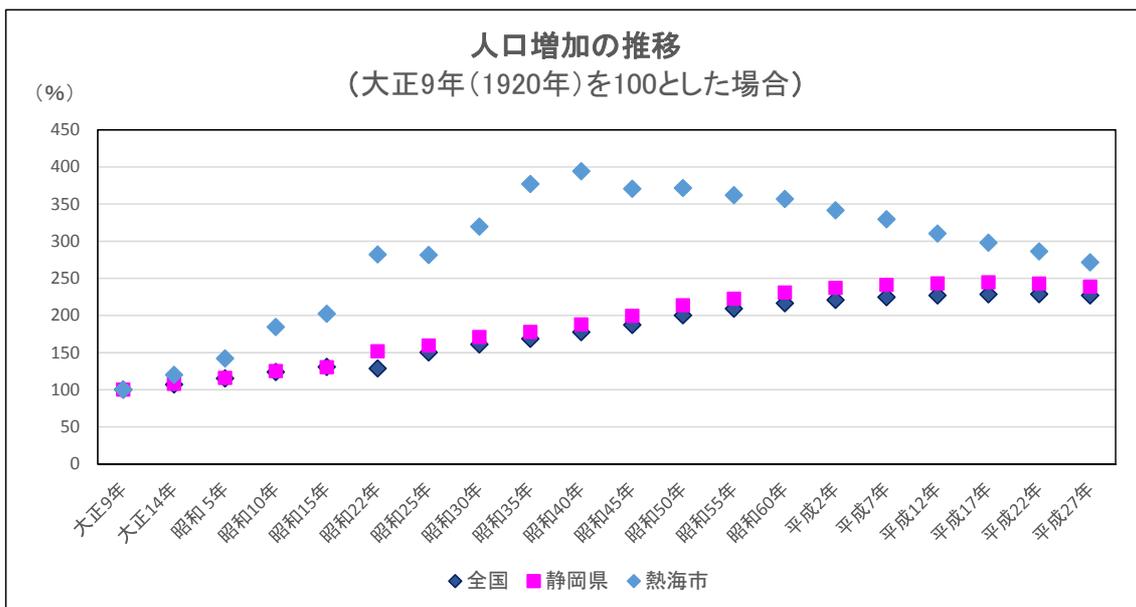
# II. 熱海市・熱海港湾エリアの現状と課題

## II.1 熱海の現状と課題の整理

### 1) 社会的動態

#### (1) 熱海市の人口

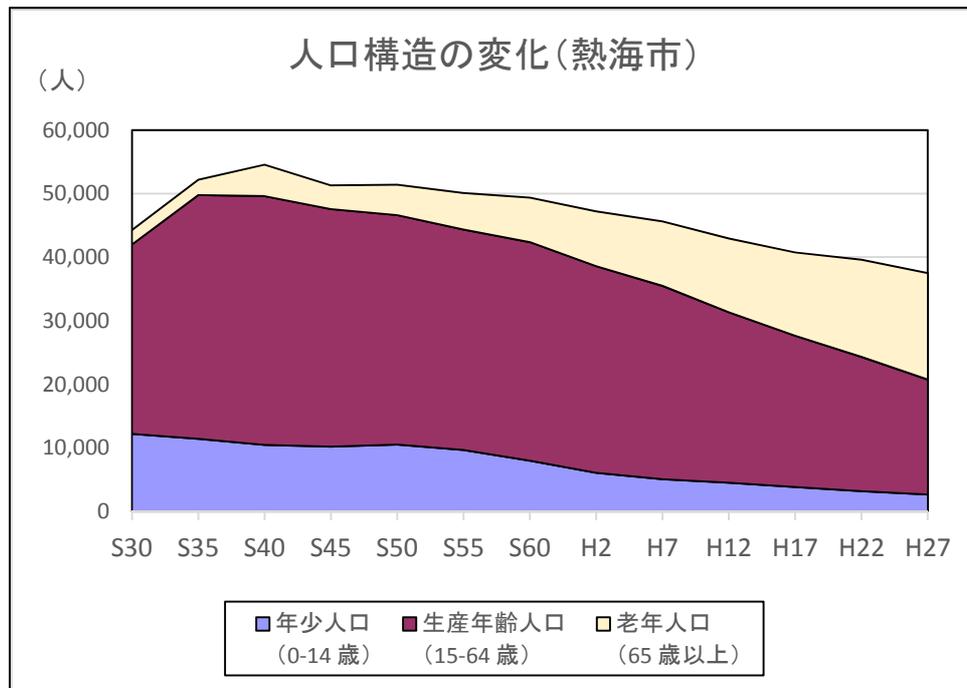
熱海市の人口は平成 30 年 2 月現在では約 37,000 人となっている。人口の推移は図 II. 1. 1 に示すように大正から昭和までの 50 年間に人口が 4 倍に増加し、昭和 40 年をピークにその後減少傾向にあり、平成 30 年 2 月時点では平均世帯数は 2.1 世帯、世帯平均人員数は 1.74 人（熱海地区は約 2 万人、1.2 万世帯、1 世帯平均人員数 1.66 人）となっている。



出典：熱海市役所 HP（熱海市の人口構造の変化）

図 II. 1. 1 熱海市の人口推移

熱海市の人口構造は図 II. 1. 2 に示すように昭和 40 年は年少人口 19.2%、生産年齢人口 71%、老年人口 9.7%であったが、平成 27 年では年少人口 7.1%、生産年齢人口 48.2%、老年人口 44.7%となり、大幅な生産年齢人口の減少と老年人口の増加がみられており、少子化が進み超高齢社会（高齢化率 21%以上）となっている。

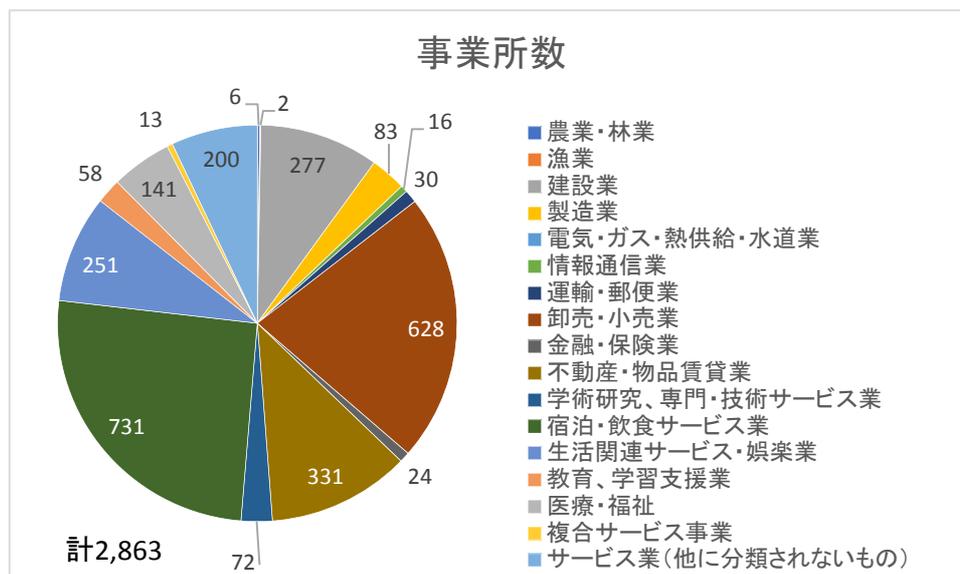


出典：熱海市役所 HP（熱海市の人口構造の変化）

図 II. 1. 2 熱海市の人口構造の変化

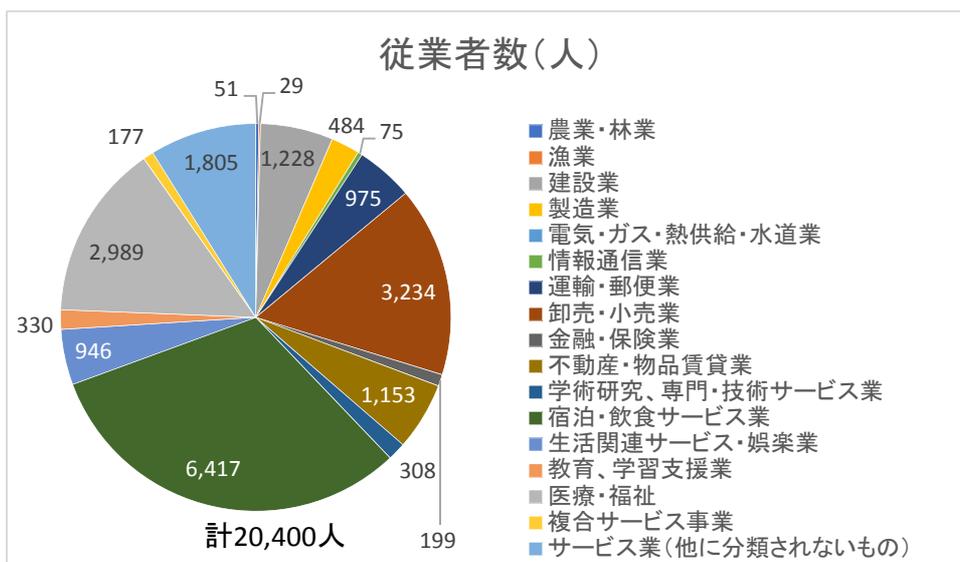
## (2) 熱海市の産業

熱海市の平成 26 年の事業所数を図 II. 1. 3 に産業別従業者数を図 II. 1. 4 に示す。事業所数は全体で約 2,900 となっており、宿泊・飲食サービス業の事業所数は 731 (全事業所の 26%) を占めており、次いで卸売・小売業約 22%、不動産・物品賃貸業約 12% と多かった。従業者数は全体で約 2 万人となっており、宿泊・飲食サービス業に従事している人が最も多く 6,417 人 (全従業者数の 32%) を占めており、次いで卸売・小売業約 16%、医療・福祉約 15% であることから、宿泊・飲食業が基幹産業である。



出典：「経済センサスー基礎調査」熱海市 HP

図 II. 1. 3 熱海市の産業別事業所数



出典：「経済センサスー基礎調査」熱海市 HP

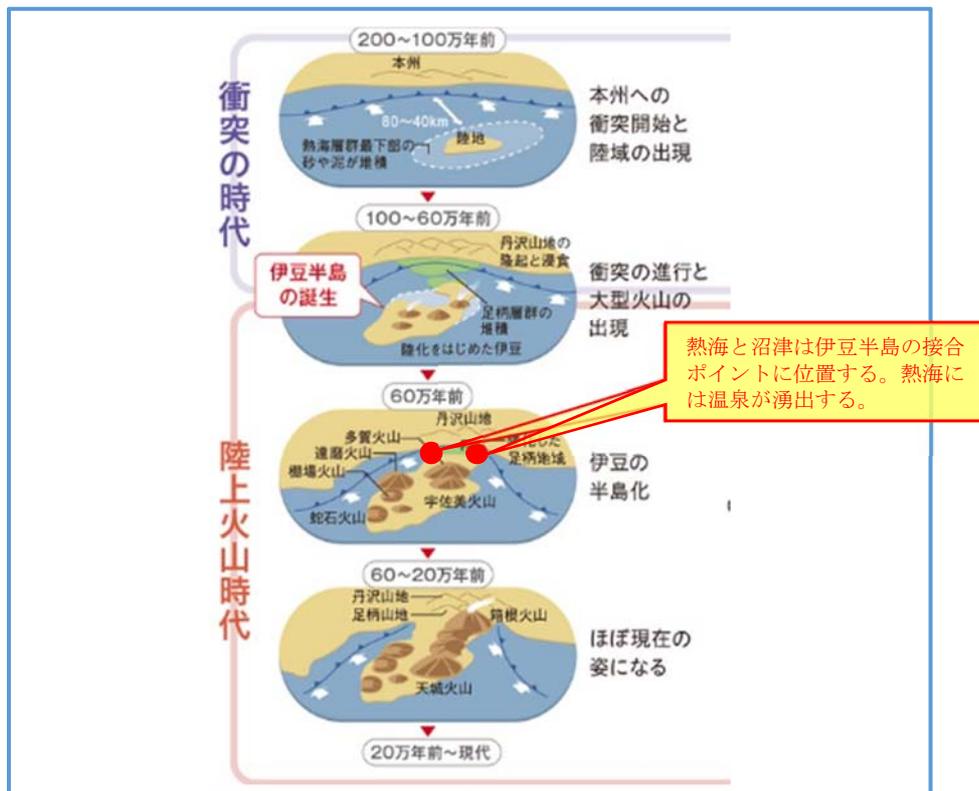
図 II. 1. 4 熱海市の産業別従業者数

### (3) 熱海の立地特性

#### ① 位置特性

伊豆半島は約 2,000 万年前には南洋にあった火山島や海底火山の集まりで、フィリピン海プレートの北上に伴い火山活動を繰り返しながら本州に衝突して誕生した。そのため、現在も火山活動や地殻変動が続いており、これによって豊かな温泉や変化に富んだ地形となっている。このような特徴から 2012 年に伊豆半島ジオパーク\*が設定された。

#### ■伊豆半島の来歴と熱海の位置～熱海は沼津とともに伊豆半島の玄関口～



出典：伊豆半島ジオパーク推進協議会・伊豆かかりつけ湯協議会「伊豆ジオめぐり」パンフレット

図 II. 1. 5 伊豆半島の歴史と熱海の位置

※ジオパークとは：NPO 法人日本ジオパークネットワークによると、「地球・大地（ジオ：Geo）」と「公園（パーク：Park）」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球（ジオ）を学び、丸ごと楽しむことができる場所をいう。日本ジオパーク委員会によると、地質のみならず考古学的・生態学的・文化的な価値、地域による運営、持続可能な社会・経済発展の育成、教育・普及活動を行う等の要件が挙げられ、防災への取組みも重視されるようになっている。日本ジオパーク委員会が認定するジオパークは、伊豆半島も含め、平成 29 年 1 月現在、43 か所ある。

熱海は、西側に連なっている富士箱根伊豆連山から相模湾に幾筋にも伸びている尾根の谷間の扇状地に市街地が形成されており、山と海に囲まれたすり鉢状の地形構造を有している。丘陵地からは海を臨め、また海岸からは市街地とその背後に広がる山を眺めることができる特徴を持つ。

また、伊豆半島ジオパークの東の玄関口で、多様な水産資源を含む豊かな自然があるが、地域活性化が課題となっており、西の玄関口である沼津市とともに半島の魅力を引き出し、活力を牽引する位置にある。また、相模湾西部の拠点となっているため、水産資源を共有し、湘南とともに海洋レクリエーションの先進地である。さらに東京から新幹線で1時間以内であり、上野東京ラインの利便性向上等により関東圏から訪れやすくなった。

## ② 漁場の特徴

### a. 伊豆半島周辺の漁場特性

伊豆半島は入り組んだ岩礁域を特徴としており、駿河湾と相模湾に面し、駿河湾湾口部では水深 2,500m の深海性漁場となり、深海魚を対象とした漁がみられる。また、相模湾に面する伊豆半島東岸は相模湾に流入する左回りの強い沿岸流が流れており、伊豆半島東岸から神奈川県西湘地域にかけてイカ、アジ、サバ等を漁獲する定置網漁業が盛んである。また、伊豆半島東岸は小湾と小さい岬の交替する岩礁海岸であり、平地が狭いこともあって、古くから沿岸漁業に依存する度合いの高い漁業集落が点在している。主な漁業は潜水漁業や採貝・採藻漁業による漁獲のほか、イセエビやヒラメ等を漁獲する刺し網漁業が盛んである。さらに、伊豆半島の南方には伊豆七島の西側海面に広がる「ダシ」「根」付近に優良な金目鯛漁場が形成され、静岡県のほか、神奈川県、東京都の入会漁場となっている。静岡県からは、伊豆漁協下田支所や稲取支所の組合員が「立縄釣り」と呼ばれる漁法で漁獲しているが、漁場から水揚げ地まで近いことから鮮度がよいことが評価されており、「伊豆の地きんめ」の名称で地元や県内観光地の他、首都圏に出荷されている。

### b. 近年の漁場資源

上述のように伊豆半島周辺は豊かな漁場に恵まれているが、近年、海洋資源が不安定となっており、漁獲量は減少傾向にある。この背景には、地球温暖化の影響による海流変化（黒潮の蛇行、南下）があり、それにより魚の回遊が沿岸から離れる結果となった。また、この傾向は伊豆半島周辺のみならず、我が国の太平洋沿岸海域に共通する現象となっている。

静岡県水産技術研究所伊豆分場の調査によれば、伊豆半島東岸に敷設されている定置網漁業の平成 28 年下半期の漁獲量は、例年漁獲量が多いゴマサバやスルメイカ等の不漁が原因して総漁獲量は 1,160 トンと、前年（1,518 t）および平年値（昭和 57～平成 27 年の平均：1,915 t）を下回った。マアジも低調に推移している。ただし、マサバやマイワシ、ブリ等の資源は現在増加傾向にあり、定置網には当面例年並みの漁獲があるとの予想もある。

また、伊豆半島において重要な水産資源の一つであるキンメダイは、過去 30 年間にわたって漁獲量が減少傾向にあり、その原因の一つが黒潮の接近通過にあるとされている。また、近年では資源量自体も減少傾向にあることが分かってきており、広域視点でのキンメダイの資源管理が強化されている。キンメダイやアジ類をはじめとする浮魚類は、観光資源としても重要な魚種であるとともに、資源が不安定な時期であるからなおさら、丁寧な荷扱いと付加価値づくりが求めら

れている。

さらに、熱海および周辺の最近の水揚げ状況を見ると、ウマヅラハギ類やホウボウ、イカ類、サザエ等の貝類が比較的によく漁獲されている。サメ類もよく網にかかり、加工品として付加価値化する試みもみられる。

伊豆半島、相模湾では、共通する魚種は多いが、漁獲量は津々浦々で差異がみられる。いずれも大消費地に近く、多品種少量型産地間で市場を共有し、新鮮な天然魚の供給において補完し合う関係もみられる。

出典：静岡県水産技術研究所伊豆分場「減り続ける金目鯛の漁獲量を回復させる取り組み」(H29)  
神奈川県水産技術センター「神奈川県水産技術センター漁海況情報」第68号(H29.8)  
水産研究・教育機構「平成29年度第1回太平洋イワシ類、マアジ、サバ類長期漁海況予報」  
(H29.7)

## 2) 観光等

### (1) 観光資源

#### ① 熱海の観光特性

##### a. 沿革

熱海は江戸時代から温泉湯治の地として広域から人を集めてきた宿泊観光地である。高度成長期には団体を中心に 500 万以上の宿泊客を集めた。新鮮な地魚は熱海の名物であり、主に宿に供給する消費地直結型の産地であった。

近年は、きめ細かなまちづくり、プロモーションの展開など戦略的な観光振興施策を展開し、国際温泉文化観光地としての新たな歩みをはじめている。

##### b. 観光地特性～熱海国際観光温泉文化都市～

首都圏から近畿圏にあって旅客を中心とする美しい観光港である（初島の生活を支える離島航路、貨物運輸を含むが、大規模な物流ヤードや臨海工業等はない）。

二地域居住者約 8 千人宿泊、宿泊観光客約 1 万人/日に、日帰りの観光・業務来訪者を含むと熱海で「食べる人」は 5～6 万人/日近くになると考えられる。

## ② 広域観光施設

熱海市周辺には図 II. 1. 6 に示すように 16 箇所の観光施設がある。

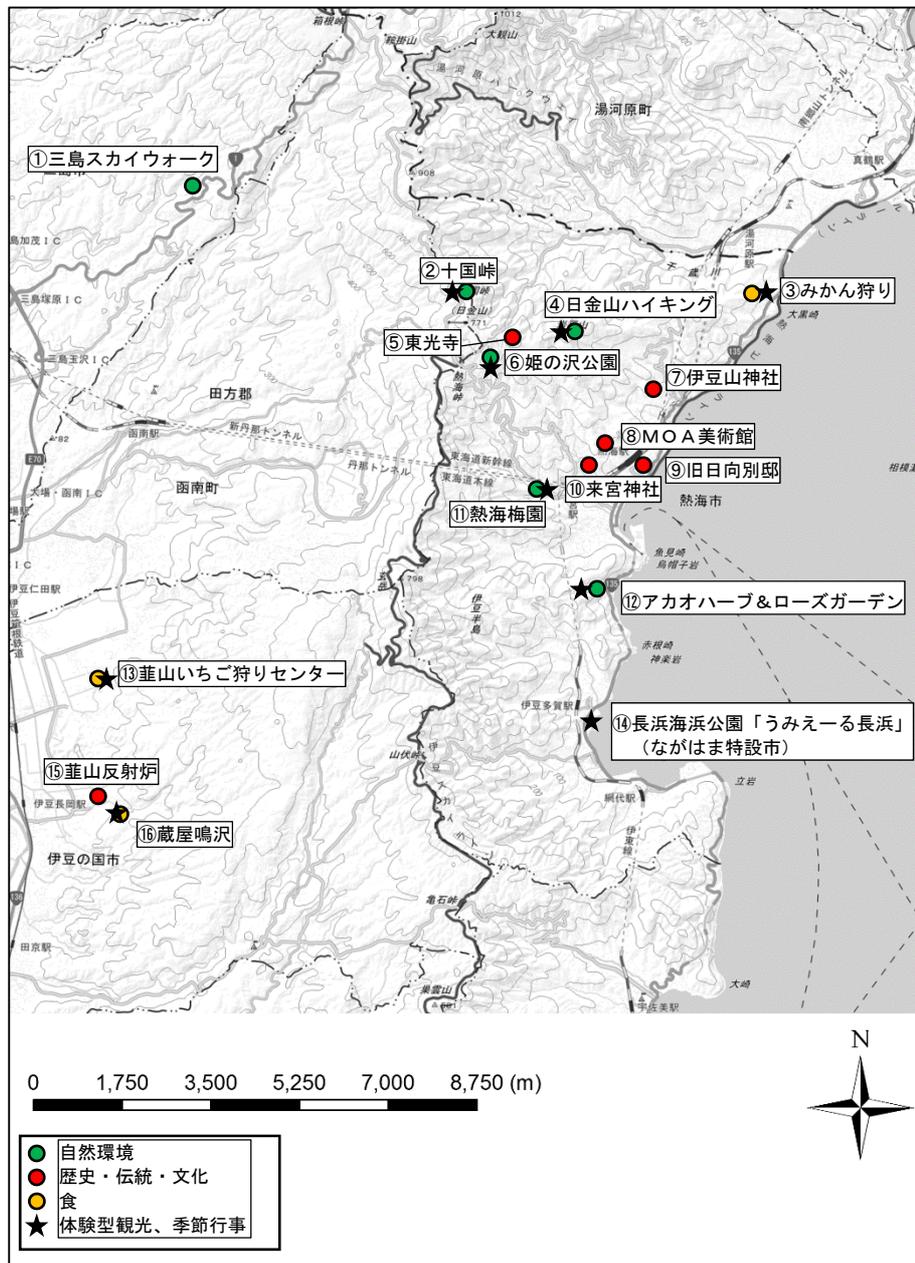


図 II. 1. 6 熱海周辺の観光資源

### ③ 熱海市内観光施設

熱海市内には図 II. 1. 7に示すように 8 箇所の観光・文化施設、5 箇所の公園・レジャー施設がある。

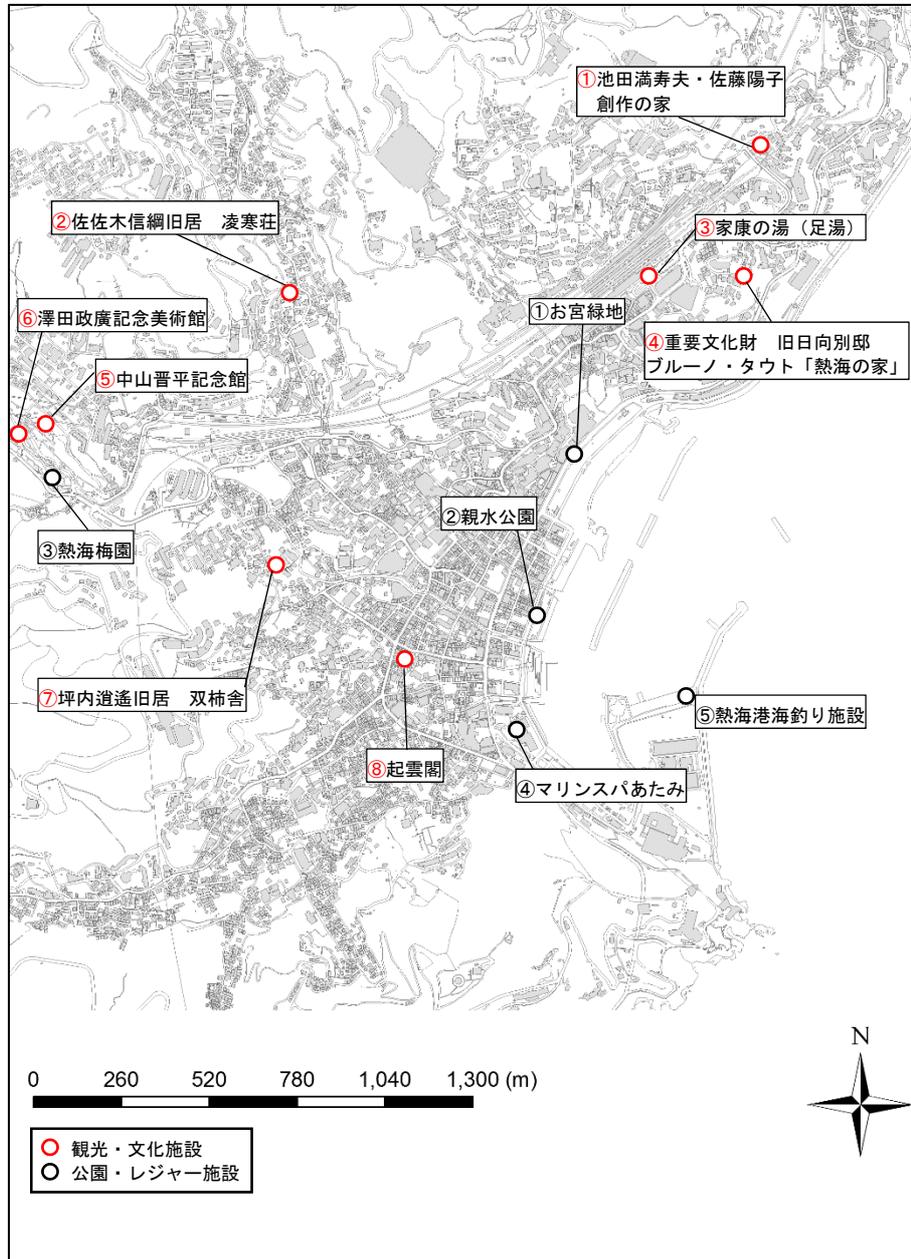


図 II. 1. 7 熱海市内の観光施設

#### ④ 飲食施設

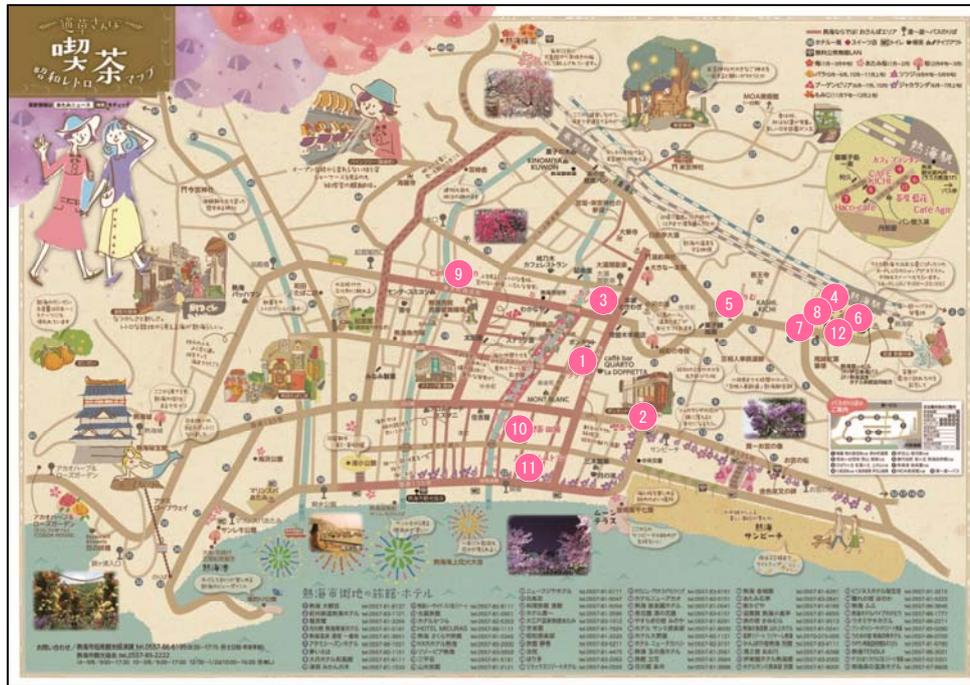
熱海の地魚を提供する飲食施設は、図 II. 1. 8に示すように 14 件の地魚グルメ店、15 件の地魚どんぶりを扱う店があり、計 29 店で地元の魚を堪能できる。駅周辺および国道より山側に多く分布している。



出典：「あたま通信 vol.04」2017年9月 熱海市役所

図 II. 1. 8 地魚飲食店

熱海市内には、図 II. 1. 9 に示すように散歩をしながら立ち寄ることのできる昭和レトロな雰囲気のお茶店が 12 件、図 II. 1. 10 に示すような甘味処が 11 件ある。駅周辺、銀座通りおよびバス通りに分布する傾向がみられた。



出典：「道草さんぽ喫茶昭和レトロ map」2017 年 09 月発行 熱海市観光協会

図 II. 1. 9 熱海市内の昭和レトロ喫茶店



出典：「道草さんぽ花スイーツ map」2016 年 12 月発行 熱海市観光協会

図 II. 1. 10 熱海市内のスイーツ店

その他の飲食店は、図 II. 1. 1 1 に示すように、スナック 18 件、クラブ等 11 件、バー5 件の計 34 件となっている。



出典：「あたま通信 vol.03」 2017 年 9 月 熱海市役所

図 II. 1. 1 1 熱海市内のその他の飲食店

## ⑤ まち歩き

熱海市内には、図 II. 1. 1 2 に示すように、季節の花を見ながらの散歩コースやまち歩きガイドの会が設定したガイドコースがある。

1月～3月中旬は梅、1月～2月はあたま桜、2月中旬～3月は桜、4月中旬～5月中旬はツツジ、6月～7月上旬はジャカラнда、6月～7月および10月～11月はバラ、6月～7月および10月はブーゲンビリア、11月下旬～12月上旬はもみじと、一年中市内のどこかで花や紅葉を楽しむことができる。

また、ガイドコースに設定している「芸奴見番コース」、「湯けむりコース」および「温泉の神様を訪ねるコース」は季節を問わずまち歩きを楽しむことができる。



出典：「道草さんぽスイーツ map」2016年03月発行 熱海市観光協会

図 II. 1. 1 2 熱海市内散歩コース

## ⑥ 観光イベントの入込状況

熱海市の平成 28 年における主な観光イベントは表 II. 1. 1 に示すように約 30 あり、最も多い入込数は花火大会（計 18 回）の約 36 万人、次いで熱海梅園梅まつり（1/9～3/6）の約 19 万人となっている。

表 II. 1. 1 熱海市における主な観光イベントの入込状況

行事名	区分	場 所	初年度	日 程	平成28年
尾崎紅葉祭		お宮の松	昭和18年	1/17	250
熱海梅園梅まつり		熱海梅園	昭和20年	1/9～3/6	190,158
あたま桜糸川桜まつり		糸川遊歩道	平成23年	1/23～2/14	30,152
献湯祭		湯前神社		2/9～2/10	30
初島漁師の井合戦		初島	平成24年	2/6～3/13	未発表
坪内逍遙忌記念祭		起雲閣	昭和47年	2/28	75
わかめまつり		長浜海浜公園	昭和61年	3/5～3/6	11,000
伊豆山神社例大祭		伊豆山神社		4/15	未発表
熱海城桜まつり		熱海城	昭和58年	3/26～4/10	50,000
姫の沢公園花まつり		姫の沢公園	昭和50年	4/29～5/8	76,000
熱海をどり		芸妓見番	平成2年	4/28～4/29	700
初島とこ天祭り		初島	昭和51年	5/1～5/5	10,808
春のあたまビール祭り		渚親水公園	平成26年	5/3～5/4	25,000
湯かけまつり		泉公園		5/28	3,000
ほたる観賞のタベ		熱海梅園	平成6年	6/1～6/12	5,241
ATAMIジャカラダフェスティバル		ジャカラダ遊歩道	平成28年	6/11～6/26	9,940
宮川マス釣り大会		下多賀宮川		7/3	500
こがし祭り山車コンクール		お宮の松前	昭和44年	7/15～7/16	66,000
熱海で遊ぼう！ゆかたで遊ぼう！		渚親水公園	平成13年	7/24～8/26	20,300
マリンフェスタ・アタミ		熱海湾	平成8年	7/24	763
網代ベイフェスティバル		網代港		7/21	3,000
あたまビール祭り		渚親水公園	昭和60年	8/1～8/4	12,000
薪能		MOAMア広場	昭和60年	8/1～8/2	
薪能		サン・ビーチ	平成28年	10/14～10/15	3,974
初島・熱海間団体競泳		サン・ビーチ	昭和23年	8/4	1,900
網代ふるさとまつり		大縄公園		8/14～8/15	10,000
伊豆山さざえまつり		伊豆山海岸	昭和45年	8/23～8/24	1,500
アロハフェスティバル		渚親水公園	平成13年	9/3～9/4	8,000
伊豆山仲秋の名月歌会		伊豆山神社	昭和27年	9/15	270
献湯祭(湯まつり)		湯前神社	昭和39年	10/1～10/2	1,950
湯汲み道中(市内行列)		熱海駅前～湯前神社			
海辺のあたまマルシェ		銀座通り商店街	平成25年	奇数月	未発表
熱海梅園もみじまつり		熱海梅園	昭和61年	11/12～12/4	42,660
網代ひものまつり		大縄公園・長浜海浜公園		1・2・11・12月 各2回 計8回	21,000
花火大会		熱海湾他		18回	359,000

出典：「平成 28 年版熱海市の観光」平成 29 年 3 月 熱海市観光建設部観光経済課

## (2) 観光の動向

### ① 国内動向（平成 29 年版「観光白書」等より）

日本人の国内旅行の傾向は図 II. 1. 1 3 に示すように、宿泊旅行、日帰り旅行とも延べ人数は増加傾向にある。



資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

出典：「平成 29 年版 観光白書」国土交通省

図 II. 1. 1 3 国内宿泊旅行・日帰り旅行延べ人数の推移

国内の宿泊施設のタイプ別の客室稼働率は、図 II. 1. 1 4 に示すように、シティホテル 78.7%、ビジネスホテル 74.4%と高い水準にあった。旅館は比較的低い水準ではあるが、近年は上昇傾向にある。



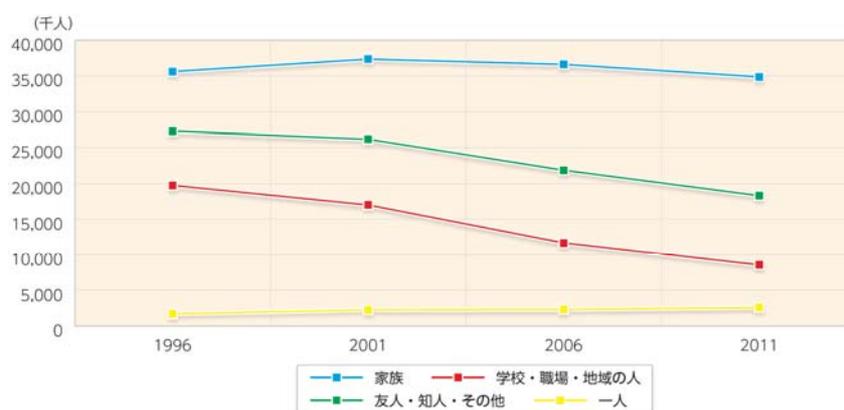
資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」

注 1：2016年(平成28年)の数値は速報値。

出典：「平成 29 年版 観光白書」国土交通省

図 II. 1. 1 4 国内宿泊施設のタイプ別客室稼働率の推移

国内旅行の同行者は、図 II. 1. 1 5 に示すように「学校・職場・地域の人」等の団体旅行が著しく減少しており、1996 年（平成 8 年）に約 2,000 万人であったが、2011 年（平成 23 年）には約 850 万人となっており、団体客に依存していた施設に大きな影響を与えたと考えられる。「友人・知人・その他」についても、1996 年（平成 8 年）に約 2,800 万人であったが、2011 年（平成 23 年）には約 1,800 万人と大きく減少した。なお、旅行実施人数が最も多い家族旅行は横ばいで約 3,500 万人程度を維持している。



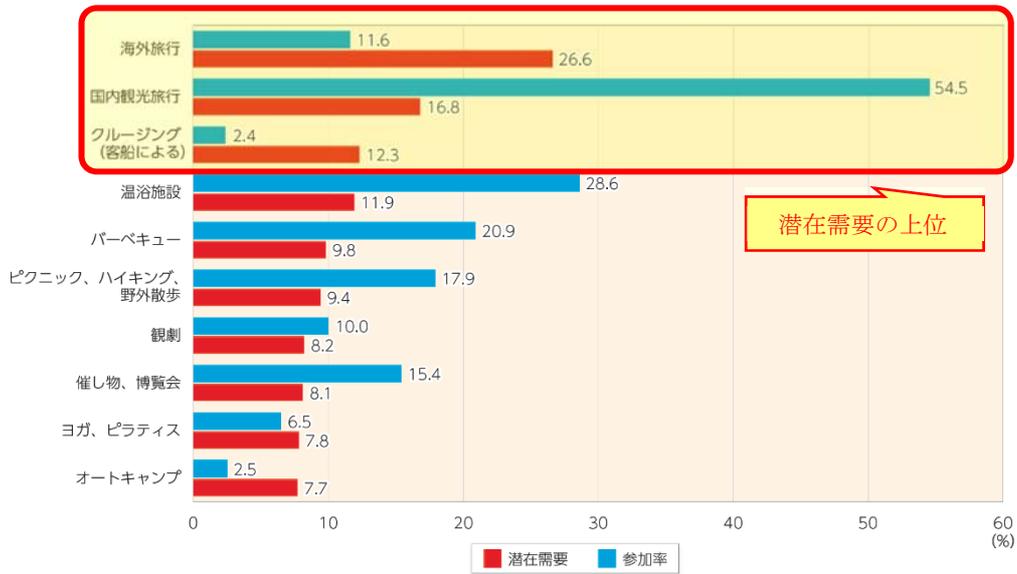
資料：総務省「社会生活基本調査」

注：総務省「社会生活基本調査」の国内観光旅行において、各同行者タイプでの旅行を実施した行動者数。2001年以降「友人・知人・その他の人」という区分となるため、経年比較のため、その他の人も含めて集計を行った。いずれも、10歳以上人口のものである。

出典：「平成 29 年版 観光白書」国土交通省

図 II. 1. 1 5 国内旅行の同行者タイプ別行動者数の推移

余暇活動の参加率は、図 II. 1. 1 6 に示すように、1 位国内観光旅行、2 位温浴施設、3 位バーベキューである。また、余暇活動の潜在需要率の上位は1 位海外旅行、2 位国内観光旅行、3 位クルージングとなっている。温浴施設の潜在需要は4 位となっており、温泉を希望する人も比較的多い。

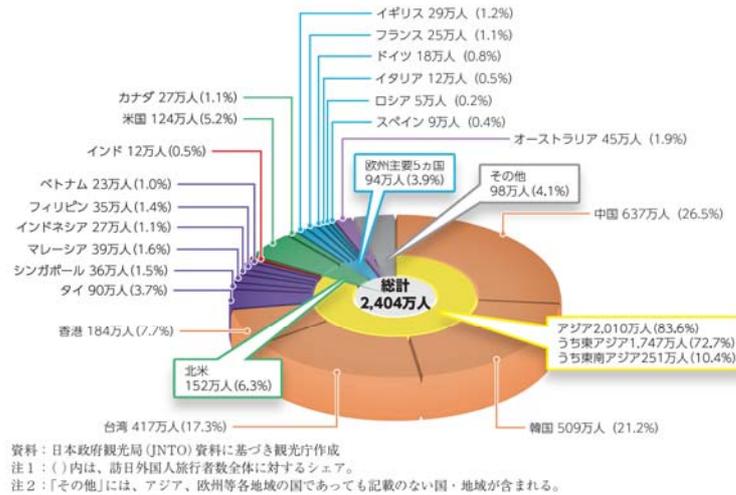


出典：観光庁「観光白書」平成 29 年度版（平成 29 年度版公益財団法人日本生産性本部「レジャー白書 2016」に基づき観光庁作成。潜在需要とは参加希望率から参加率を差し引いて算出）

図 II. 1. 1 6 日本人の余暇需要の潜在需要上位 10 項目（2015 年）

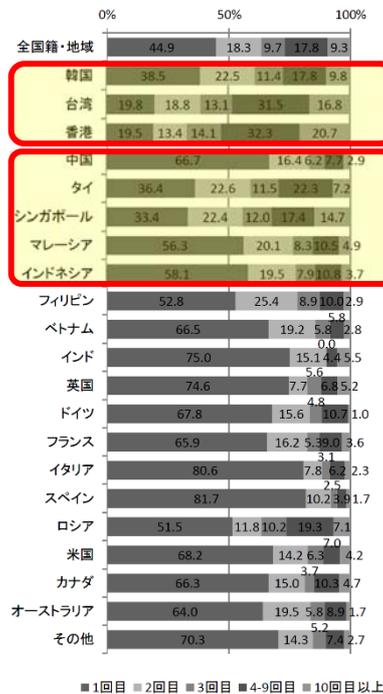
## ② 訪日外国人の動向

訪日外国人旅行者の内訳は図 II. 1. 1 7 に示すように、アジアからの訪日者が全体の 83.6% を占め、日本への来訪回数も図 II. 1. 1 8 に示すように、台湾、香港、シンガポール、タイ、韓国、東南アジア等のアジアからのリピーターが多い。また、後述の図 II. 1. 3 3 に示すように、熱海については近年は中国からの来訪者数がめざましく増加している。



出典：「平成 29 年版 観光白書」国土交通省

図 II. 1. 1 7 訪日外国人旅行者の内訳

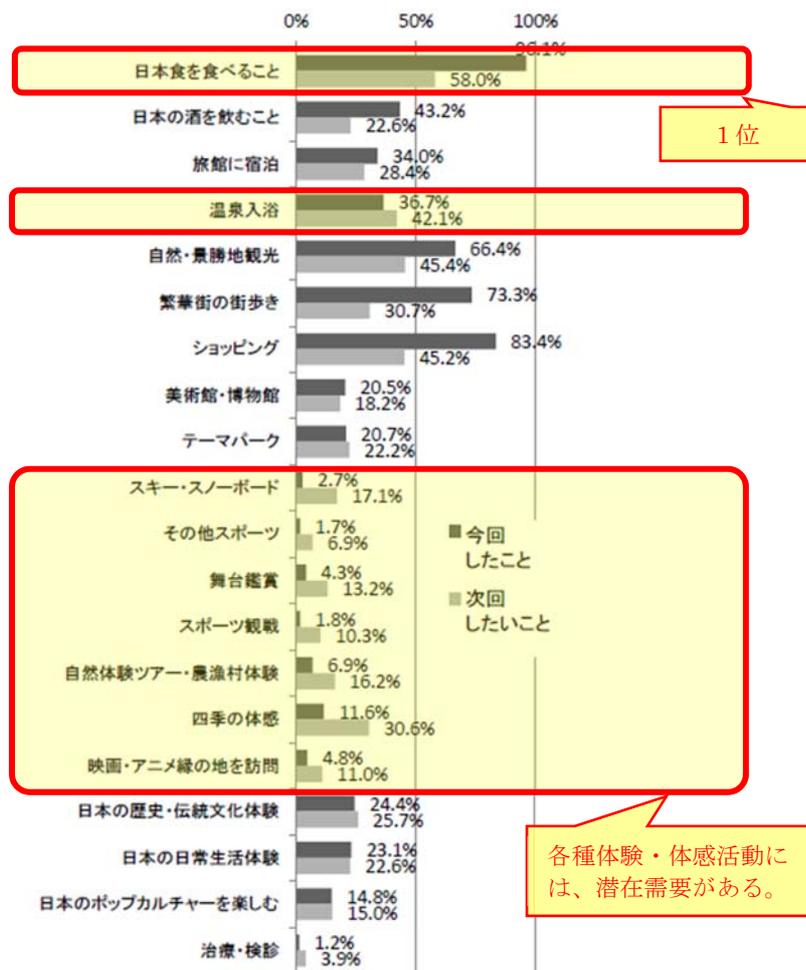


出典：観光庁「訪日外国人外国人消費動向調査」平成 28 年年次報告

図 II. 1. 1 8 国別日本への来訪回数 (国籍・地域別、観光・レジャー目的)

訪日外国人の来日時に実施したことおよび次回したいことは、図 II. 1. 1 9 に示すように「日本食」と「買い物」が人気で、「温泉入浴」と「四季の体感」は潜在需要がある。

熱海には「温泉」「グルメ」「海浜リゾート」があり、周辺には「ジオパークの自然」がある。ここに熱海の潜在力（ポテンシャル）があるといえる。体験・体感の機会を充実することにより、これを顕在化させていく余地があるといえる。



出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」平成 28 年年次報告

図 II. 1. 1 9 訪日外国人が日本で今回実施したことで次回したいこと (MA)

訪日外国人の1人当たりの費目別旅行支出は、表 II. 1. 2 に示すように、買物代が 59,323 円と最も高く、次いで宿泊料金 (42,182 円)、飲食費 (31,508 円) の順となっている。

国籍・地域別にみると、宿泊料金は、欧米豪の国々からの来訪者が上位を占めているが、買物代では中国からの来訪者が 122,895 円と最も高い。

表 II. 1. 2 訪日外国人の1人当たりの費目別旅行支出

平成28年暦年(確報)

(円/人)

国籍・地域	訪日外国人1人当たり旅行支出(円/人)							
	総額		宿泊料金	飲食費	交通費	娯楽サービス費	買物代	その他
		前年比						
全国籍・地域	155,896	-11.5%	42,182	31,508	17,838	4,725	59,323	320
韓国	70,281	-6.5%	22,090	17,847	7,505	3,042	19,562	234
台湾	125,854	-11.1%	33,634	26,611	14,126	4,137	47,122	224
香港	160,230	-7.0%	41,501	34,570	17,328	4,412	62,389	29
中国	231,504	-18.4%	44,126	38,943	19,917	5,014	122,895	609
タイ	127,583	-15.3%	34,532	25,858	16,529	4,821	45,414	430
シンガポール	163,210	-12.9%	58,462	34,903	24,891	3,242	40,428	1,285
マレーシア	132,353	-12.0%	41,047	27,753	19,799	3,671	40,023	60
インドネシア	136,619	-7.2%	47,117	22,586	27,171	5,051	34,665	28
フィリピン	112,228	-11.3%	33,192	26,505	13,419	4,959	34,093	59
ベトナム	186,138	-4.5%	49,314	54,182	19,556	4,125	58,883	77
インド	144,275	-2.7%	61,354	27,379	19,713	2,784	32,971	74
英国	181,795	-13.7%	80,131	41,220	30,011	6,408	24,000	24
ドイツ	171,009	-0.0%	78,849	36,899	29,715	5,068	20,350	128
フランス	189,006	-9.7%	75,462	40,799	34,590	7,830	30,299	26
イタリア	198,000	-2.0%	78,597	45,299	38,900	9,315	25,596	293
スペイン	224,072	-1.4%	92,211	49,103	44,168	6,482	32,052	57
ロシア	190,874	+4.6%	61,845	31,004	21,812	7,258	64,889	4,067
米国	171,418	-2.4%	70,707	41,137	27,856	5,427	26,111	180
カナダ	154,977	-9.2%	55,366	36,319	28,509	5,184	29,326	273
オーストラリア	246,866	+6.7%	99,802	51,202	40,169	17,957	37,587	150
その他	183,083	+2.8%	67,698	41,889	29,633	6,505	37,333	24

資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」

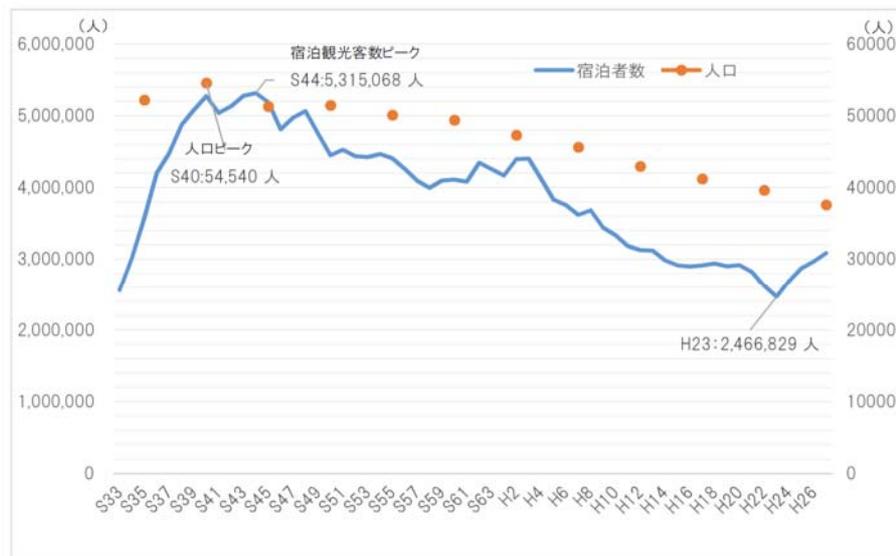
出典：「平成29年版 観光白書」国土交通省

### ③ 熱海市の観光客の動態

熱海市の観光客および別荘所有者の動態を以下に示す。

#### a. 年度別宿泊客数の推移

熱海市の年間宿泊客数は、図 II. 1. 2 0 に示すように昭和 40 年代後半に 500 万人を超え、それ以降平成 23 年度まで減少し続けて約 250 万人となったが、近年は若干の回復傾向がみられる。

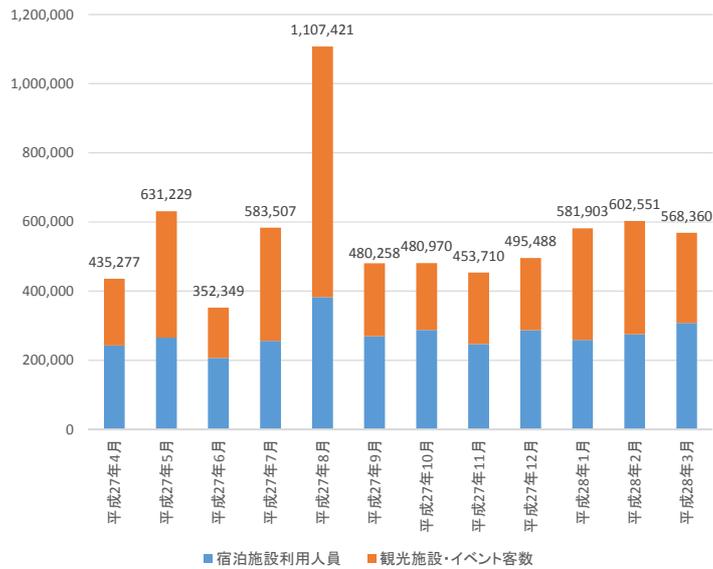


出典：「熱海市公共施設等総合管理計画」平成 29 年 3 月 熱海市

図 II. 1. 2 0 熱海市における宿泊客数の経年変化

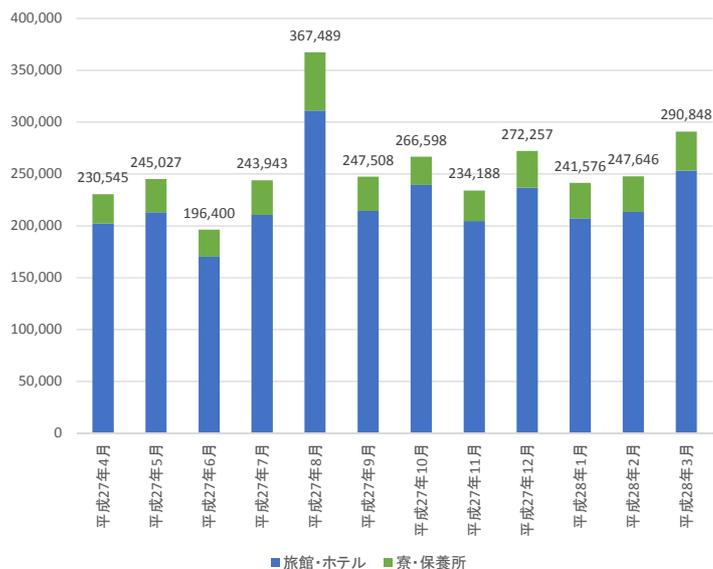
## b. 季節別観光客数

熱海市の平成 27 年度における月別観光入込客数は、8 月が約 110 万人と最も多く、その他の月は 3 月を除いて 40 万人～60 万人程度であった(図 II. 1. 2 1)。また、熱海市の平成 27 年度における月別宿泊人員数も観光客数と同様に、8 月が約 36 万人と最も多く、その他の月は 20～30 万人程度であった(図 II. 1. 2 2)。8 月は宿泊施設および観光施設の客数が多く、海水浴客によるものと想定される。



出典：「平成 28 年版熱海市の観光」平成 29 年 3 月 熱海市観光建設部観光経済課

図 II. 1. 2 1 熱海市の月別観光入込客数

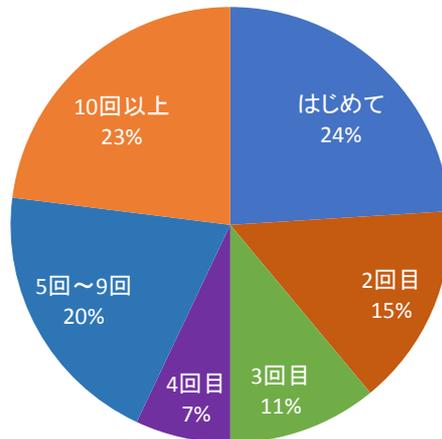


出典：「平成 28 年版熱海市の観光」平成 29 年 3 月 熱海市観光建設部観光経済課

図 II. 1. 2 2 熱海市の月別宿泊人員数

### c. 来訪回数

平成 28 年 1 月 23 日および 24 日に実施した調査によると、熱海市に訪れた観光客の熱海市への来訪回数は、図 II. 1. 2 3 に示すように、はじめてと 5 回～9 回および 10 回以上の観光客が 23%前後と同程度であり、リピーター多い。



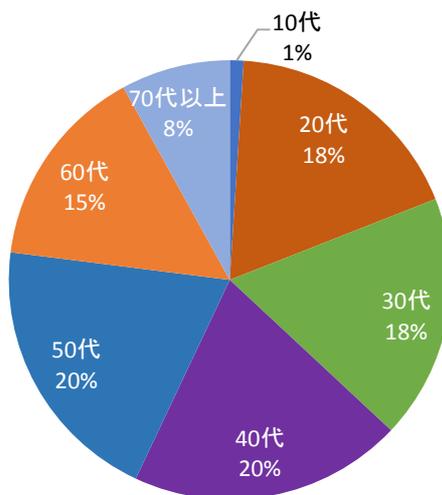
【今回調査 N=623】

出典：「2015 年度熱海市観光動線実態調査報告書」熱海市観光建設部観光経済課

図 II. 1. 2 3 熱海市の観光客の来訪回数

### d. 年齢別割合

平成 28 年 1 月 23 日および 24 日に実施した調査によると、熱海市に訪れた観光客の年齢別割合は、図 II. 1. 2 4 に示すように 20 代から 60 代まで 20%前後と均等な割合となっており、幅広い年齢層が訪れている。

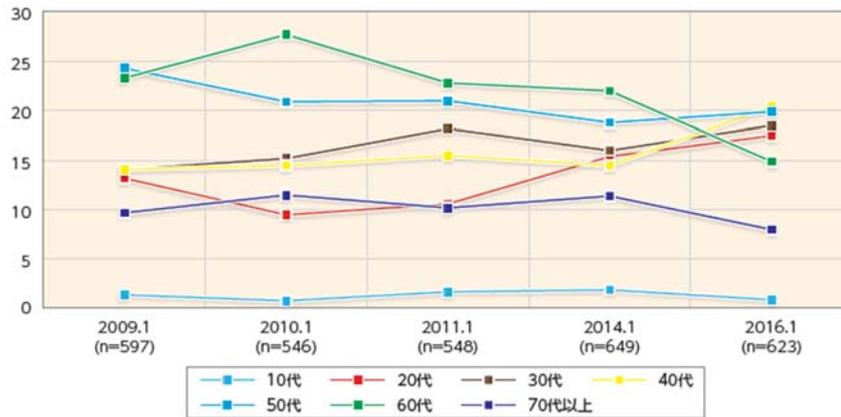


【今回調査 N=623】

出典：「2015 年度熱海市観光動線実態調査報告書」熱海市観光建設部観光経済課

図 II. 1. 2 4 熱海市の観光客の年齢別割合

平成 21(2009)年から平成 28(2016)年の 5 年間の観光客の年代別構成比の推移は、図 II. 1. 2 5 に示すように平成 23(2011)年からは 20 代が増加し、平成 26(2014)年からは 40 代が増加している。

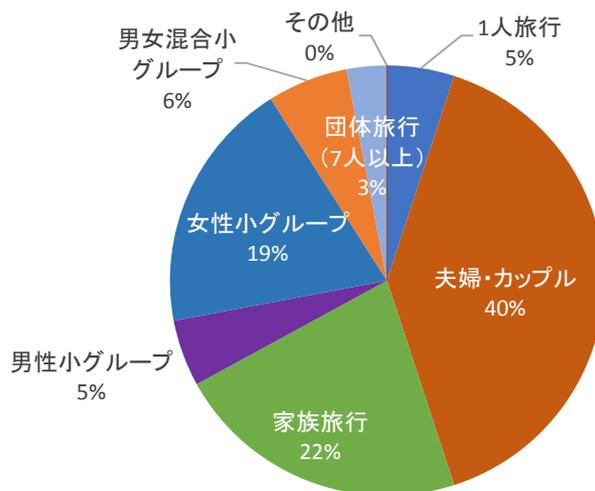


資料：熱海市「観光動態調査」  
 注：調査対象は熱海市を訪れた観光客で、調査員による無作為抽出(1グループ1枚を基本)。調査地点は来宮神社、熱海梅園、起雲閣、サンビーチ、熱海駅前。質問票(自計方式、一部対面聞き取り)にて実施。

図 II. 1. 2 5 熱海市の観光客の年代別構成比の推移

e. 参加形態別割合

平成 28 年 1 月 23 日および 24 日に実施した調査によると、熱海市を訪れた観光客の旅行形態は、図 II. 1. 2 6 に示すように夫婦・カップルの 40%が最も多く、次いで家族旅行が 22%、女性小グループは 19%であり、比較的少人数で訪れている。



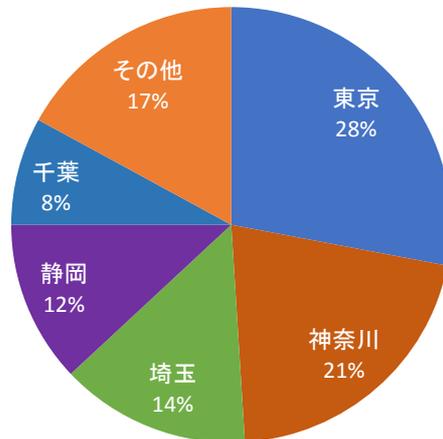
【今回調査 N=623】

出典：「2015 年度熱海市観光動線実態調査報告書」熱海市観光建設部観光経済課

図 II. 1. 2 6 熱海市の観光客の旅行形態

## f. 居住地

平成 28 年 1 月 23 日および 24 日に熱海市が実施した調査によると、図 II. 1. 2 7 に示すように、熱海市を訪れた観光客は東京都および神奈川からの観光客が約 50%を占めており、また比較的近い都道府県からの来訪者が多い傾向にある。



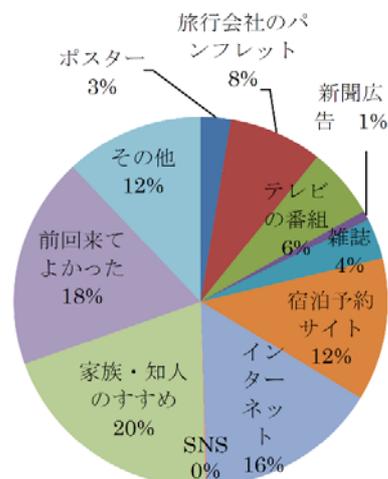
【今回調査 N=623】

出典：「2015 年度熱海市観光動線実態調査報告書」熱海市観光建設部観光経済課

図 II. 1. 2 7 熱海市の観光客の居住地

## g. 来遊のきっかけとなった情報源

平成 28 年 1 月 23 日および 24 日に熱海市が実施した調査によると、来遊のきっかけとなった情報源は、図 II. 1. 2 8 に示すように家族・知人のすすめが 20%と最も多く、次いで前回来てよかった 18%、インターネット 16%、宿泊予約サイト 12%である。1 件の来訪（もてなし）が本人や家族の他、知人やインターネットを通じた第三者の来訪につながる 경우가うかがえる。



【今回調査 N=623】

出典：「2015 年度熱海市観光動線実態調査報告書」熱海市観光建設部観光経済課

図 II. 1. 2 8 熱海市の観光客の来遊のきっかけとなった情報源

## h. 市内での滞在期間と宿泊

平成 28 年 1 月 23 日および 24 日に熱海市が実施した調査によると、滞在期間は 1 泊が 7 割（内、朝食付きが 9 割）を占め、日帰り（3 時間～5 時間程度の滞在）も多い。熱海で食事をする人も少なくないことがうかがえる。

## i. 市内での訪問先

平成 26 年 6 月 7 日および 8 日並びに平成 28 年 1 月 23 日および 24 日に熱海市が実施した調査によると、観光客の訪問先は表 II. 1. 3～表 II. 1. 4 に示すように、6 月は海岸線、ローズガーデン、起雲閣、MOA 美術館と飲食店が多く、1 月は梅園、来宮神社、海岸線、飲食店である。

表 II. 1. 3 熱海市の観光客の旅行形態別訪問先上位 10 位（平成 26 年 6 月）

順位	①日帰り (88 名)		2 日以上滞在							
			②夫婦・カップル (111 名)		③家族旅行 (99 名)		④女性小グループ (60 名)		⑤その他 (69 名)	
	訪問先	%	訪問先	%	訪問先	%	訪問先	%	訪問先	%
1	海岸線	33	ローズガーデン	35	MOA 美術館	30	ローズガーデン	50	起雲閣	36
2	起雲閣	30	海岸線	32	飲食店	28	起雲閣	32	海岸線	25
3	MOA 美術館	28	起雲閣	30	ローズガーデン	28	MOA 美術館	27	MOA 美術館	20
4	ローズガーデン	23	飲食店	28	土産店	26	飲食店	27	飲食店	19
5	飲食店	22	土産店	21	海岸線	25	土産店	23	熱海城	17
6	土産店	18	来宮神社	21	起雲閣	18	来宮神社	18	土産店	14
7	来宮神社	13	MOA 美術館	17	お宮の松	15	海岸線	15	来宮神社	13
8	お宮の松	9	お宮の松	12	来宮神社	14	土産・飲食 以外の店	13	お宮の松	12
9	土産・飲食 以外の店	9	梅園	10	土産・飲食 以外の店	13	熱海城	8	ローズガーデン	9
10	日帰り温泉	7	土産・飲食 以外の店	8	伊豆山神社	7	お宮の松	7	土産・飲食 以外の店	7

注 1：⑤その他は、②③④以外の観光客、すなわち 1 人旅行、男性小グループ、男女混合小グループ、団体旅行、その他を含んでいる。

注 2：上位 5 位以内に含まれる訪問先を同一色として示している。

出典：「2014 年度熱海市観光動線実態調査報告書」熱海市観光建設部観光経済課

表 II. 1. 4 熱海市の観光客の旅行形態別訪問先上位 10 位（平成 28 年 1 月）

順位	①夫婦・カップル (249名)		②家族旅行 (139名)		③女性小グループ (117名)		④その他 (118名)	
	訪問先	%	訪問先	%	訪問先	%	訪問先	%
1	梅園	60	梅園	52	梅園	53	梅園	48
2	来宮神社	44	来宮神社	40	来宮神社	53	海岸線	37
3	海岸線	35	海岸線	31	飲食店	33	来宮神社	36
4	飲食店	25	お宮の松	20	起雲閣	29	飲食店	32
5	糸川桜	24	土産店	20	海岸線	28	起雲閣	22
6	起雲閣	19	糸川桜	19	土産店	22	お宮の松	17
7	お宮の松	19	飲食店	17	糸川桜	21	糸川桜	16
8	土産店	14	起雲閣	17	以外の店	9	土産店	16
9	駅前足湯	12	駅前足湯	14	お宮の松	9	熱海城	9
10	以外の店	10	以外の店	10	駅前足湯	9	ロプウェイ	9

注 1：④その他は、①②③以外の観光客、すなわち 1 人旅行、男性小グループ、男女混合小グループ、団体旅行、その他を含んでいる。

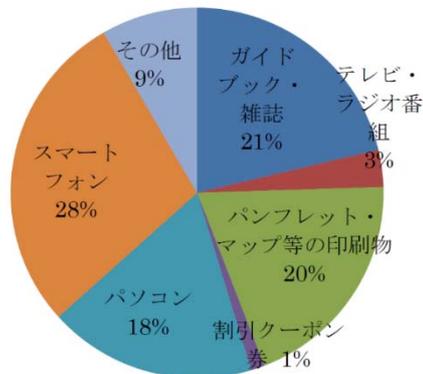
注 2：標本数は日帰り客および宿泊客の合計である（無回答者を除く）。

注 3：上位 5 位以内に含まれる訪問先を同一色として示している。

出典：「2015 年度熱海市観光動線実態調査報告書」熱海市観光建設部観光経済課

#### ジ. 訪問先の選定手段

平成 28 年 1 月 23 日および 24 日に熱海市が実施した調査によると、訪問先を選定する際の手段は、図 II. 1. 2 9 に示すようにスマートフォンが 28% で最も多く、次いでガイドブック・雑誌が 21%、パンフレット・マップ等の印刷物が 20%、パソコンが 18% であり、印刷物よりもデジタル機器による選定が多い。



出典：「2015 年度熱海市観光動線実態調査報告書」熱海市観光建設部観光経済課

図 II. 1. 2 9 熱海市の観光客の訪問先の選定手段

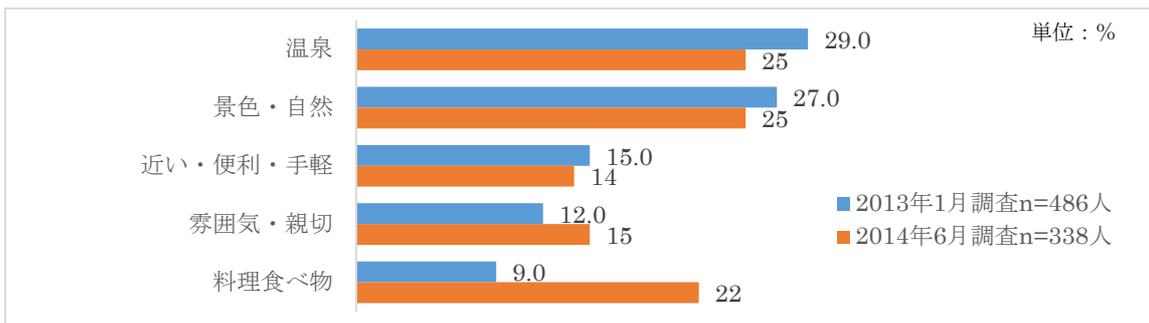
### k. 観光客の1人当たりの予算

平成28年1月23日および24日に熱海市が実施した調査によると、宿泊費は平均約15,000円、土産は2,000円未満が4割、飲食費は3,000円以上が4割であり、1人1泊2日でおおむね2万円程度を消費している。

### l. 熱海の魅力

平成25年1月25日および26日、平成26年6月7日および8日に熱海市が実施した調査によると、熱海市の良いところは図II.1.30に示すように温泉が最も多く、次いで景色・自然であった。

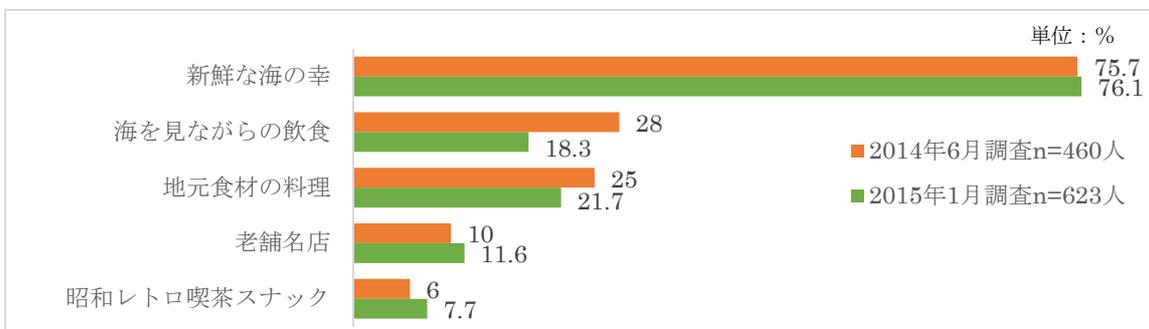
また、平成26年6月7日および8日、平成27年1月23日および24日に熱海市が実施した調査によると、熱海の食の魅力は図II.1.31に示すように新鮮な海の幸が76%と最も多く、次いで海を見ながらの飲食や地元食材の飲食である。



出典：「2013年度熱海市観光動線実態調査報告書」熱海市観光建設部観光経済化

「2014年度熱海市観光動線実態調査報告書」熱海市観光建設部観光経済課

図 II. 1. 3 0 熱海市の観光客からみた「熱海の良いところ」上位5位



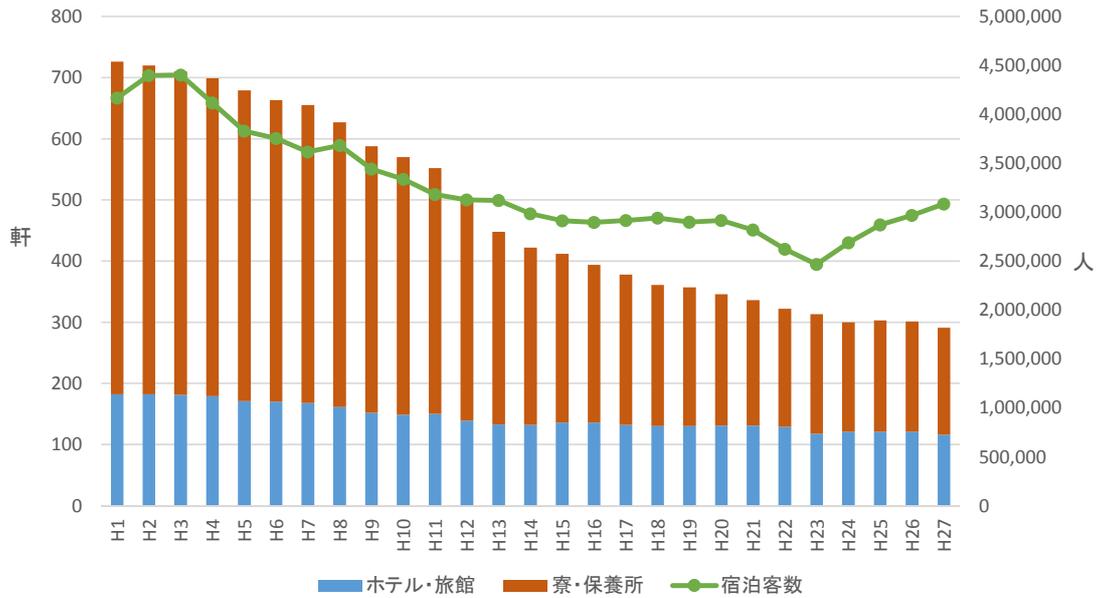
出典：「2014年度熱海市観光動線実態調査報告書」熱海市観光建設部観光経済課

「2015年度熱海市観光動線実態調査報告書」熱海市観光建設部観光経済課

図 II. 1. 3 1 熱海市の観光客からみた「熱海の食の魅力」上位5位

### m. 宿泊施設数の推移

熱海市の宿泊施設数の推移は、図 II. 1. 3 2 に示すように平成元年は約 700 件であったのが平成 27 年には約 300 件と減少傾向にあり、特に寮・保養所の減少数が大きい。

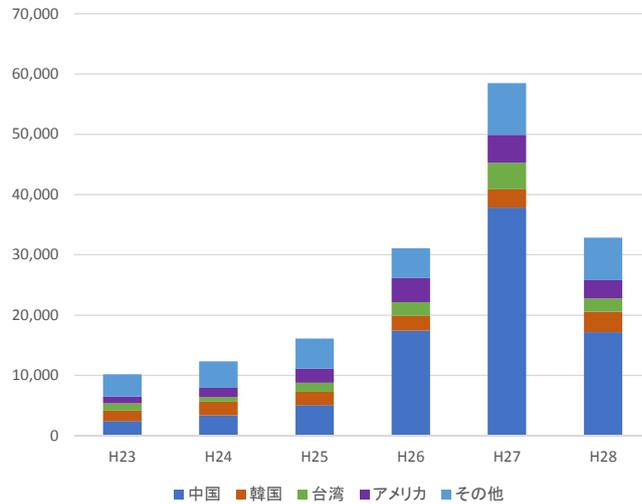


出典：「平成 28 年版熱海市の観光」平成 29 年 3 月 熱海市観光建設部観光経済課

図 II. 1. 3 2 熱海市の宿泊施設数の推移

## n. 外国人宿泊客の動態

熱海市の外国人宿泊客数の推移は、図 II. 1. 3 3 に示すように平成 23 年以降増加しており、特に中国からの旅行者が増加傾向にある。



	H23	H24	H25	H26	H27	H28
中国	2,392	3,352	5,068	17,423	37,851	17,199
韓国	1,739	2,259	2,221	2,493	3,043	3,381
台湾	1,214	831	1,491	2,251	4,377	2,177
アメリカ	1,116	1,503	2,338	3,956	4,636	3,038
その他	3,711	4,368	4,997	4,949	8,574	7,068
計	10,172	12,313	16,115	31,072	58,481	32,863

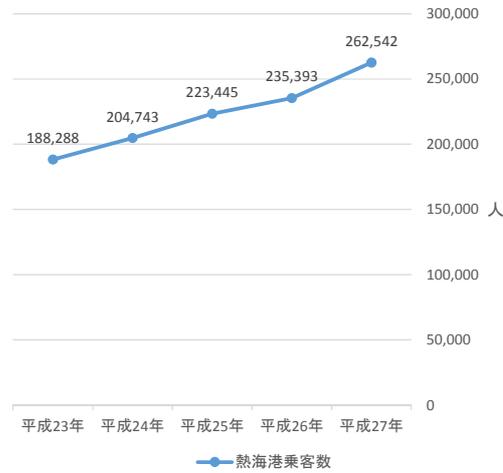
出典：「熱海市の観光振興施策」熱海市観光建設部観光経済課

図 II. 1. 3 3 熱海市の外国人宿泊客の推移

#### p. 初島航路乗客数

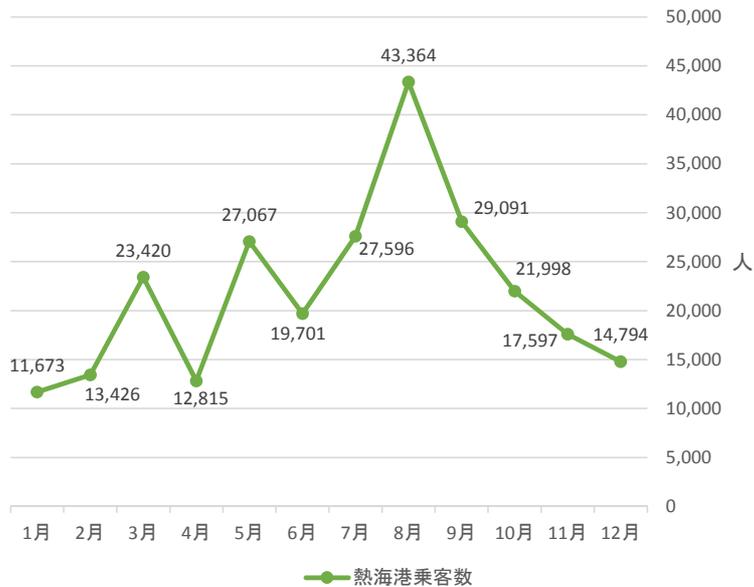
熱海から初島へ向かう観光客の経年変化を図 II. 1. 3 4 に、月変化を図 II. 1. 3 5 に示す。平成 23 年から増加傾向にあり、4 年間で約 7 万人増加している。これら乗客は熱海市内を回遊する機会があることから、旅客ターミナルから市内観光スポットへの賑わいも重要な要素になる。

また、月別変化では春休みやゴールデンウィーク、夏休み等の長期休暇時に客数は増加し、8 月が最も乗客数が多い。



出典：「熱海市統計書 平成 28 年版」熱海市

図 II. 1. 3 4 初島航路における熱海港乗客数（年別）



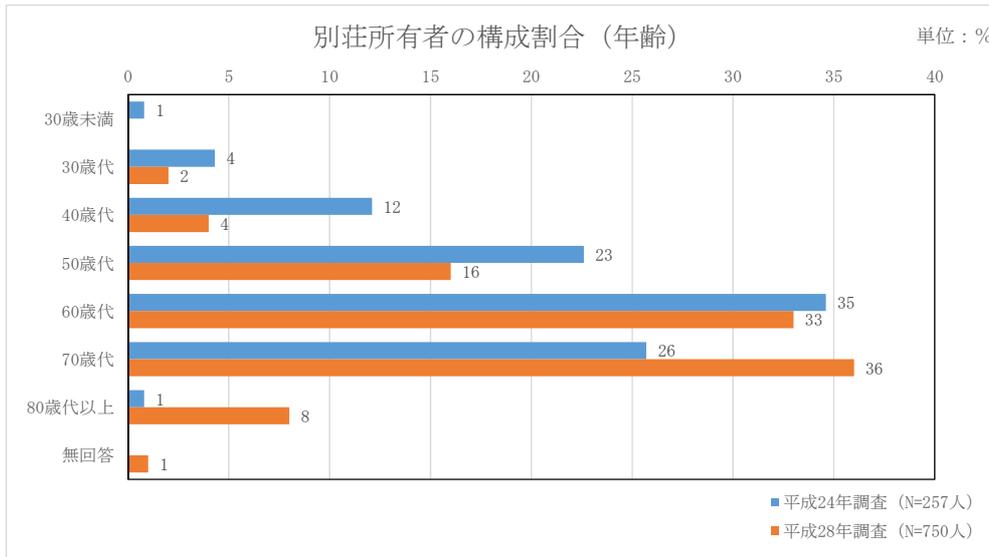
出典：「熱海市統計書 平成 28 年版」熱海市

図 II. 1. 3 5 初島航路における熱海港乗客数（平成 27 年月別）

### (3) 別荘所有者の動態

#### ① 別荘所有者の構成割合

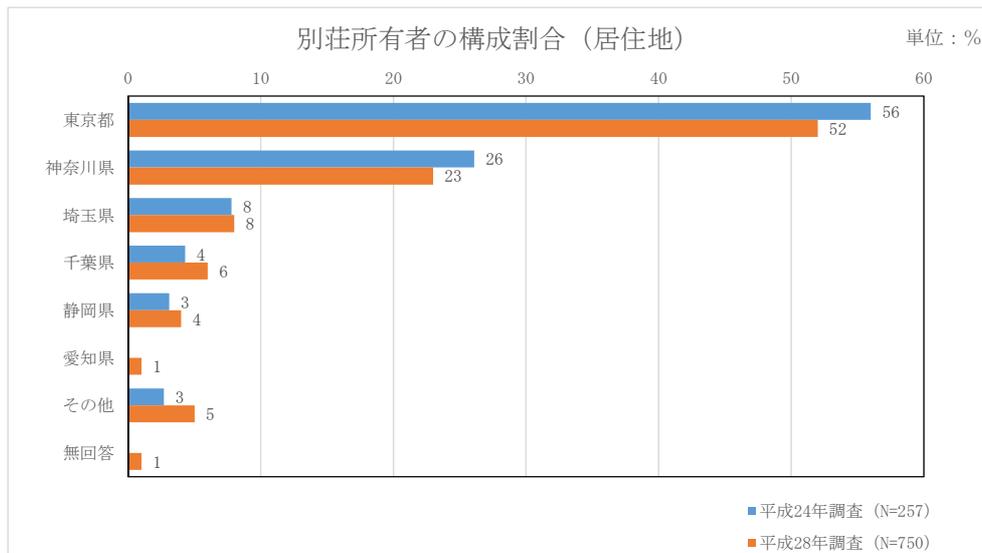
平成 24 年 6 月～7 月および平成 28 年 6 月～7 月に実施した熱海市の別荘等所有者へのアンケート調査では、所有者の年齢は図 II. 1. 3 6 に示すように 60 歳代または 70 歳代が最も多く、次いで 50 歳代であった。



出典：「別荘等所有者アンケート調査報告書」平成 24 年 11 月熱海市総合政策推進室  
「別荘等所有者アンケート調査報告書」平成 28 年 9 月熱海市総合政策推進室

図 II. 1. 3 6 熱海市の別荘所有者の年齢

別荘所有者の居住地は、図 II. 1. 3 7 に示すように東京都が 55%前後と最も多く、次いで神奈川県が 25%前後となり、首都圏の居住者が 90%を占めている。

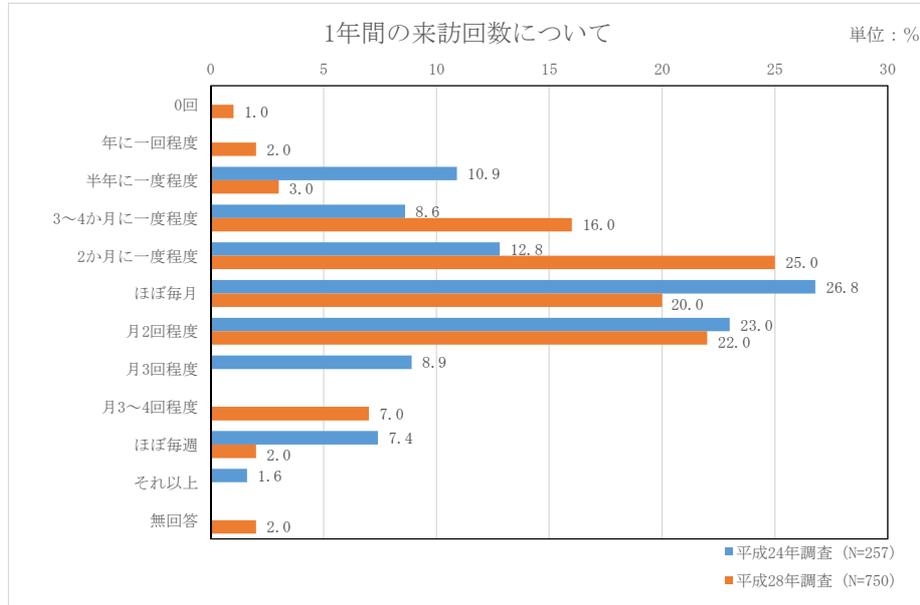


出典：「別荘等所有者アンケート調査報告書」平成 24 年 11 月熱海市総合政策推進室  
「別荘等所有者アンケート調査報告書」平成 28 年 9 月熱海市総合政策推進室

図 II. 1. 3 7 熱海市の別荘所有者の居住地

## ② 別荘利用状況年間利用頻度

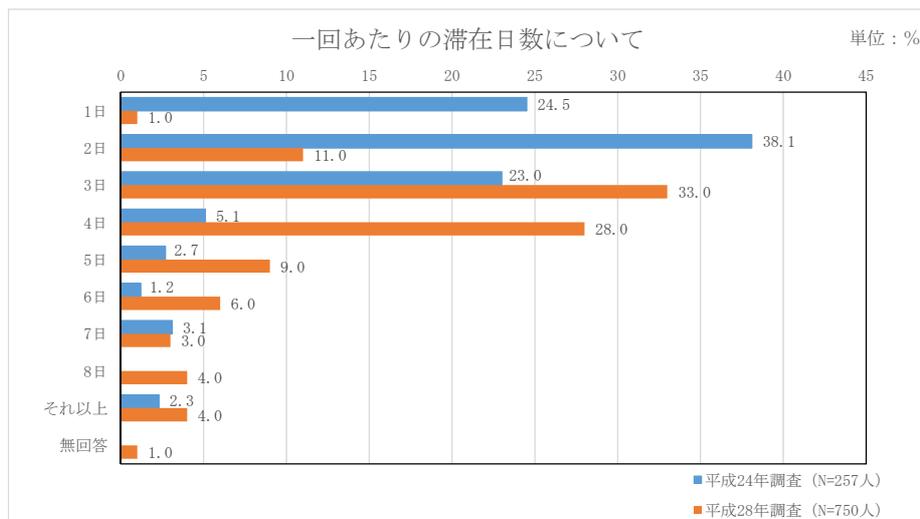
平成 24 年 6 月～7 月および平成 28 年 6 月～7 月に実施した熱海市の別荘等所有者へのアンケート調査では、年間利用頻度は図 II. 1. 3 8 に示すように、ほぼ毎月、または月 2 回程度、次いで 2 か月に一度程度が多かった。



出典：「別荘等所有者アンケート調査報告書」平成 24 年 11 月熱海市総合政策推進室  
「別荘等所有者アンケート調査報告書」平成 28 年 9 月熱海市総合政策推進室

図 II. 1. 3 8 熱海市の別荘所有者の年間利用頻度

また、1 回当たりの滞在日数は図 II. 1. 3 9 に示すように 2 日または 3 日が最も多く、次いで 1 日または 4 日となっている。



出典：「別荘等所有者アンケート調査報告書」平成 24 年 11 月熱海市総合政策推進室  
「別荘等所有者アンケート調査報告書」平成 28 年 9 月熱海市総合政策推進室

図 II. 1. 3 9 熱海市の別荘所有者の 1 回あたりの滞在日数

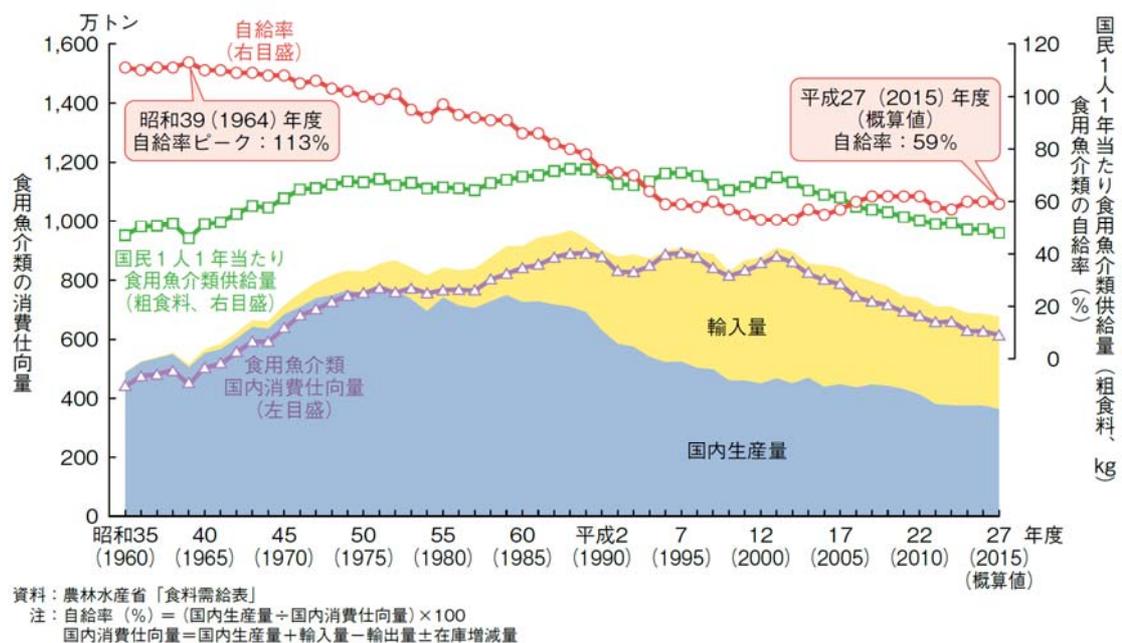
### 3) 水産業

#### (1) 漁業・水産業の動向

##### ① 国内の水産物消費・需給の動向

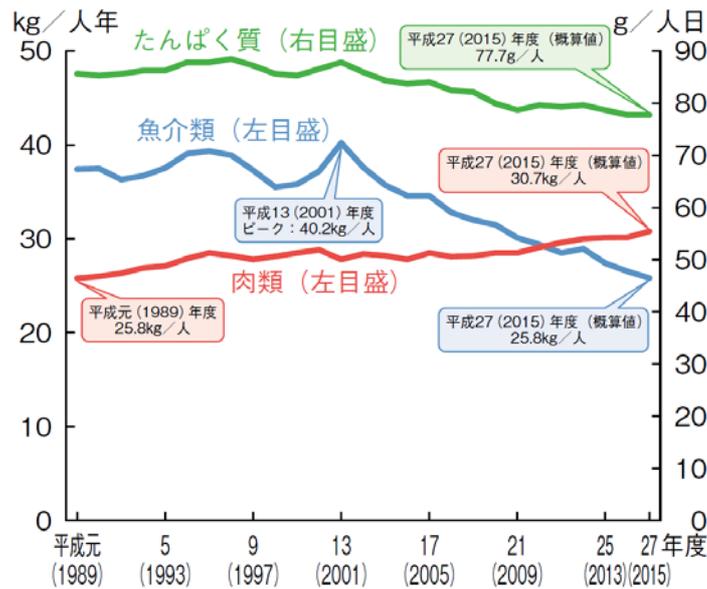
平成 28 年版「水産白書」から、日本における食用魚介類の自給率は図 II. 1. 4 0 に示すように底打ち傾向（2015 年 59%）にあることがわかる。国際的な漁獲量調整や水産物輸出入の環境の激化、浜の活力再生プランを軸とする沿岸漁業の再編、魚食の促進、漁業の 6 次産業化や漁港機能の高度化（観光利用等）の背景を受け、農林水産省の施策により漁業・水産業の高度化・複合化が進みつつある。

また、図 II. 1. 4 1 に示すように日本人のタンパク源は近年魚から肉にシフトする傾向にあり、生鮮魚介類の購入量も減ってきている。一方で、図 II. 1. 4 2 に示すように魚介類の購入支出金額は下がっていない。



出典：「平成 28 年度 水産白書」水産庁

図 II. 1. 4 0 食用魚介類の自給率の推移



資料：農林水産省「食料需給表」

出典：「平成28年度 水産白書」水産庁

図 II. 1. 4 1 食用魚介類および肉類の1人1年当たり消費量とタンパク質の1人1日当たり消費量の推移



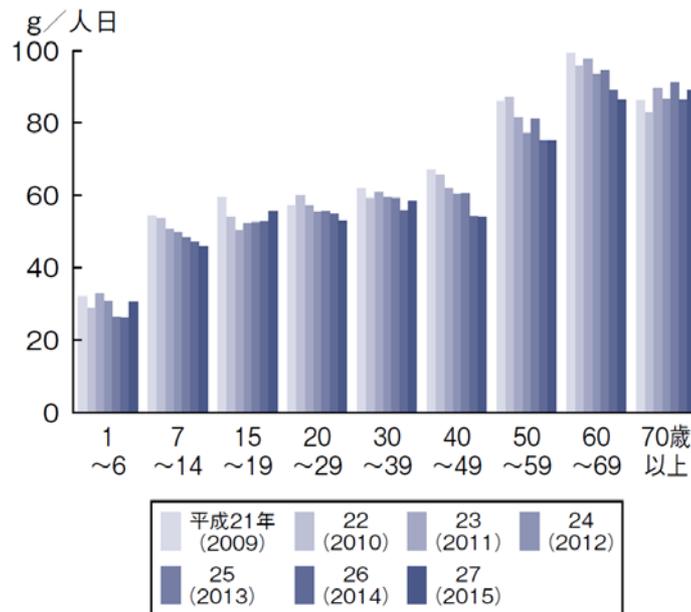
資料：総務省「家計調査」  
注：二人以上の世帯。

出典：「平成28年度 水産白書」水産庁

図 II. 1. 4 2 生鮮魚介類の1世帯当たり年間支出金額・購入量の推移

魚介類の年齢階層別摂取量は図 II. 1. 4 3 に示すように50歳代以上が多いが、図 II. 1. 4 4 および図 II. 1. 4 5 に示すように魚介類の摂取は増やしたい、または栄養のバランスがとれたものにしたいと考えていることがうかがえる。

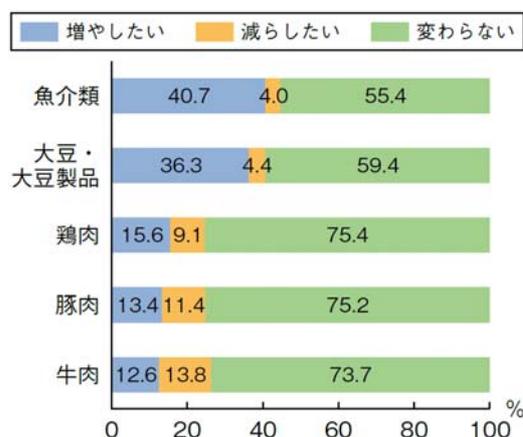
このように、国民の嗜好、消費者のニーズからみても、熱海での地魚提供に成長余地をみいだすことができる。ポテンシャルを引き出すためには、観光都市として漁業・水産業を高度化させていくことも重要である。



資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」に基づき水産庁で作成

出典：「平成28年度 水産白書」水産庁

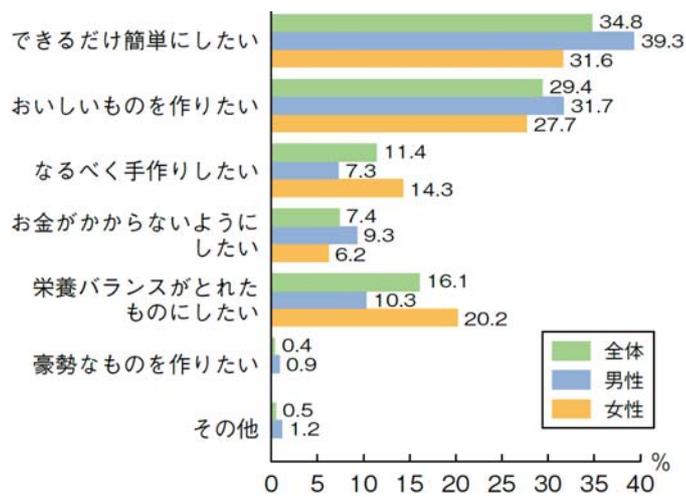
図 II. 1. 4 3 年齢階層別の魚介類の1人1日当たり摂取量



資料：(株)日本政策金融公庫「平成28年度上半期消費者動向調査」(平成28(2016)年7月1日～7月12日実施、インターネットによるアンケート調査、全国の20～70歳代の男女2,000人(男女各1,000人))  
注：四捨五入の関係上、合計が一致しない場合がある。

出典：「平成28年度 水産白書」水産庁

図 II. 1. 4 4 主催となる食材の今後の摂取量に関する消費者の意向



資料：(株)日本政策金融公庫「平成28年度上半期消費者動向調査」(平成28(2016)年7月1日～7月12日実施、インターネットによるアンケート調査、全国の20～70歳代の男女2,000人(男女各1,000人))  
 注：四捨五入の関係上、合計が一致しない場合がある。

出典：「平成28年度 水産白書」水産庁

図 II. 1. 4 5 消費者の「調理する事」に関する考え方

## ② 熱海市内の漁業動向

### a. 熱海市の漁業

熱海市は、四季折々の多種多様な天然魚を水揚げする少量多品種型産地である。全国的に漁業経営体数が減少する中で、熱海市では漁業経営体数は増えている。海面漁業漁獲量も近年増加傾向にある。また、10t未満の漁船が多く、平成25年度の定置網の経営数の内訳は網代2、伊豆山1、熱海1カ統であり（漁業センサス）、高級魚介を扱う刺し網や一本釣り等の広がりもみられる（魚市場資料およびヒアリングより）。

一方、ダイビング、遊漁、漁師食堂を展開しており、マリンレジャー先進地となっている。

#### ■熱海市の漁業経営体数

	H20	H25
漁業経営体数	89	101
動力船	34	45
5t未満	29	31
10t未満	2	8
30t未満	3	5
30t以上	0	1
船外機等	34	44
定置網	9	4
養殖(藻類)	6	8

資料:漁業センサス

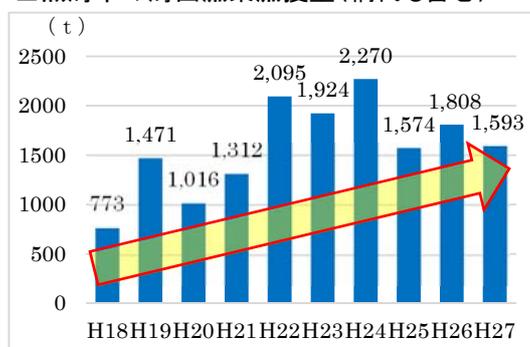
#### ■大熱海漁協の漁業

- ・定置網漁業が漁獲量のメイン。
- ・他に一本釣り、刺し網、ワカメ養殖、採貝、伊勢海老等の籠漁。漁協がヒラメ放流、ワカメ養殖。

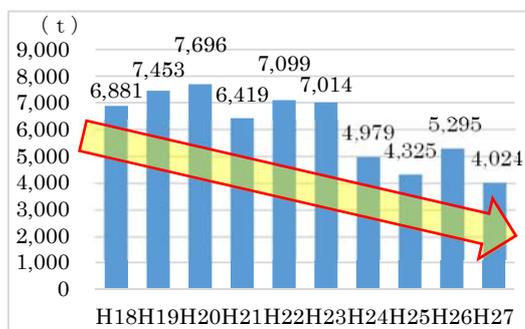
出典：静岡県漁連ホームページ

注：初島、多賀、伊豆山、網代等を含む。網代は現在いとう漁協に属する。

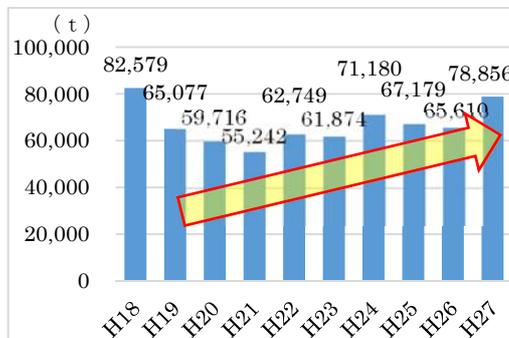
#### ■熱海市の海面漁業漁獲量(網代も含む)



#### 【参考】伊東市の海面漁業漁獲量



#### 【参考】沼津市の海面漁業漁獲量



出典：農林水産統計「海面漁業生産調査」各年

図 II. 1. 4 6 熱海市の漁業動向

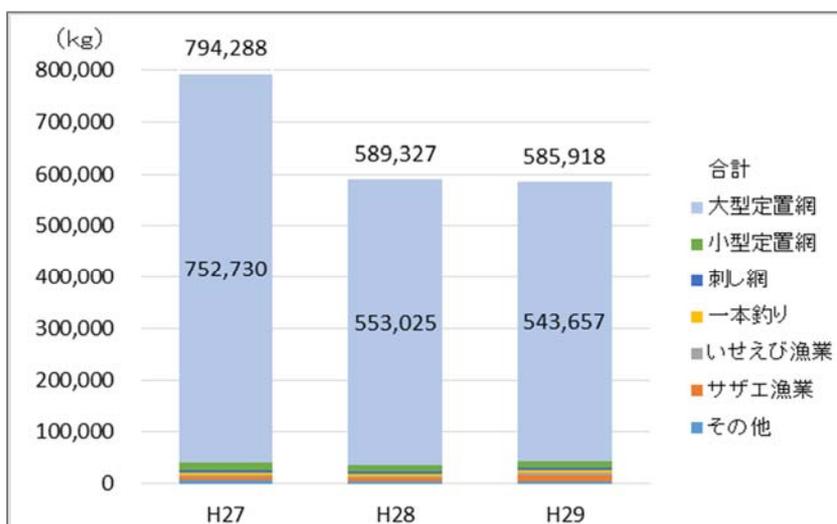
## b. 大熱海漁協の漁業

大熱海漁協は、伊豆山から下多賀までの4地区から構成されている。組合員数は、平成30年3月20日現在、442人で、うち漁業を生業とする正会員は40人(9%)となっている。地区別には多賀、伊豆山への分布が多く、熱海地区は28人(合計の6%)と少数であるが、うち正組合員が14人と半数を占めており、漁業を生業とする人の比率が高い地域となっている(大熱海漁協資料より)。

最近3年間の動向をみると、図 II. 1. 4 7 に示すように水揚げ量は平成27～29年にかけて800t弱から600t弱へと減少しているが、水揚げ額は図 II. 1. 4 8 に示すように概ね2億円規模を維持しており、生産量の減少に対し魚価の上昇があったことがうかがわれる。なお、市外漁港への水揚げも少なくなく、市外船からの水揚げはほとんどない(ヒアリングより)。

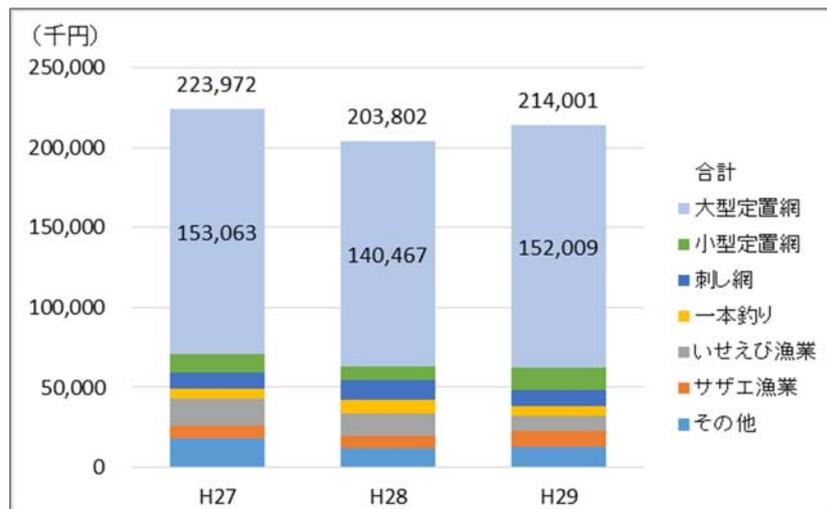
大熱海漁協における漁業は、大型定置網がメインであるが、水揚げ高をみると小型定置網、いせえび漁業、刺し網をはじめ、多様な漁業も重要な位置づけにあることがわかる。これらの漁業は、需要の高い高級魚種を揚げるものであるとともに、品質の高さが高値につながっているということもある。

以上は、大熱海漁協が把握する組合員の水揚げ分であり、組合員が他地域の港に揚げている量は把握していない。魚価の動向や漁港機能の使いやすさなどにより、小田原漁港をはじめ他の市場に揚げる傾向もみられる。



出典：大熱海漁協 (H29)

図 II. 1. 4 7 大熱海漁協の水揚げ量の推移



出典：大熱海漁協（H29）

図 II. 1. 4 8 大熱海漁協の水揚げ額量の推移

### c. 熱海港の漁業・海業経営環境

大熱海漁協等へのヒアリングにより、熱海港における漁業・海業経営をめぐる環境の現状と課題について把握した。その結果を表 II. 1. 5 に示す。熱海港では漁獲した魚の水揚げや荷捌きが困難なことから、現状では漁業者各自が市街地内の熱海魚市場に搬出しており、他地域の漁港（小田原、沼津等）への持ち込みも行われている。

表 II. 1. 5 大熱海漁業等へのヒアリング結果

<p>○漁港区域でない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁船の出漁・帰港の動線に無理がある。</li> <li>・水揚げに必要な諸機能がなく、他港船が熱海に水揚げすることはない。熱海の漁船が他港（小田原、真鶴等）に水揚げしている状況。</li> </ul> <p>○バース機能がない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・斜路や船溜まりスペースを使って水揚げしている。</li> <li>・水揚げ時の労働負荷量を軽減するためにも浮き桟橋が必要な状態。</li> </ul> <p>○荷捌き施設がない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和 39 年に 4 地区が合併した際、市全体の魚市場整備の話があったが、実現せず、まちなかに第二市場（昔からある民間の魚市場：熱海魚市場）があるのみ。</li> <li>・給水・製氷、貯蔵・冷蔵等の施設・設備がなく各自で確保しなければならない。滅菌海水施設がない。雨水を避ける施設もない。出荷プラットホームもない。</li> </ul> <p>○畜養いけすがない。活魚出荷、出荷調整ができず定置網漁業の強みが発揮できない。</p> <p>○以上の状況から、現状では他地域の漁港（小田原、沼津等）に持ち込んだり、各自水揚げ場所から軽トラック等を使って市街地内の熱海魚市場に搬出している。午後に漁獲した活魚などは漁業者が自宅に持ち帰って翌日改めて出荷する。</p>
<p>○共同出荷体制がとれないため、組合員による生産・出荷状況を大熱海漁協として把握できない。「熱海の地魚」としての生産・流通体制が弱い。地元の需要者（宿泊・飲食業者）や消費者、観光客から、熱海の魚や漁師の顔がみえない。</p>
<p>○熱海港を母港とする漁船は約 30 隻（遊漁・ダイビングを含む）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイビングは、初島や他の拠点も含めると数千、熱海港では年間約 3 千人の利用がある。トイレやシャワー、練習用プール、食事休憩施設、駐車場等の陸上施設の充実が待たれている。</li> <li>・遊漁船は現在 6 隻で、午前・午後いずれも営業している。ホテルと提携した朝の短時間の体験型観光釣も行われている（道具も用意し、5 人以内、人数に関係なく 1 回 2 万円）。</li> <li>・漁師食堂は、臨港に 5 軒ある。市場に出せない端物の活用先としても重要であるが、湾奥部で目立たない、営業日時が限られている等の現状がみられる。</li> </ul>
<p>○魚市場の臨港地区への移転、フィッシャーマンズワープ整備をのぞむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁師は獲るプロ。流通販売はその分野のプロに任せたい。</li> <li>・漁師食堂は、現在の 5 軒の経営を維持させたい。</li> <li>・事務所や会議・研修のためスペースも確保したい。</li> <li>・網干場や陸上作業のためのスペースも必要。</li> </ul>

※熱海港は、伊豆山～多賀の範囲におよぶが、ここでは熱海港渚地区（和田浜周辺）をいう。

漁業・海業関連エリアの現状を現地踏査により確認した(図 II. 1. 4 9 参照)。  
漁師食堂は、営業している日時が限られている等の利用しにくい点もあり、メニューやサービスの向上も期待される(地魚や漁についての情報提供やアピール、副菜や接客の工夫などで、さらなる魅力化が可能)。高齢者、子どもおよび若い女性の嗜好への対応も必要であり、英語併記のある店には外国人も入りやすいと考える。

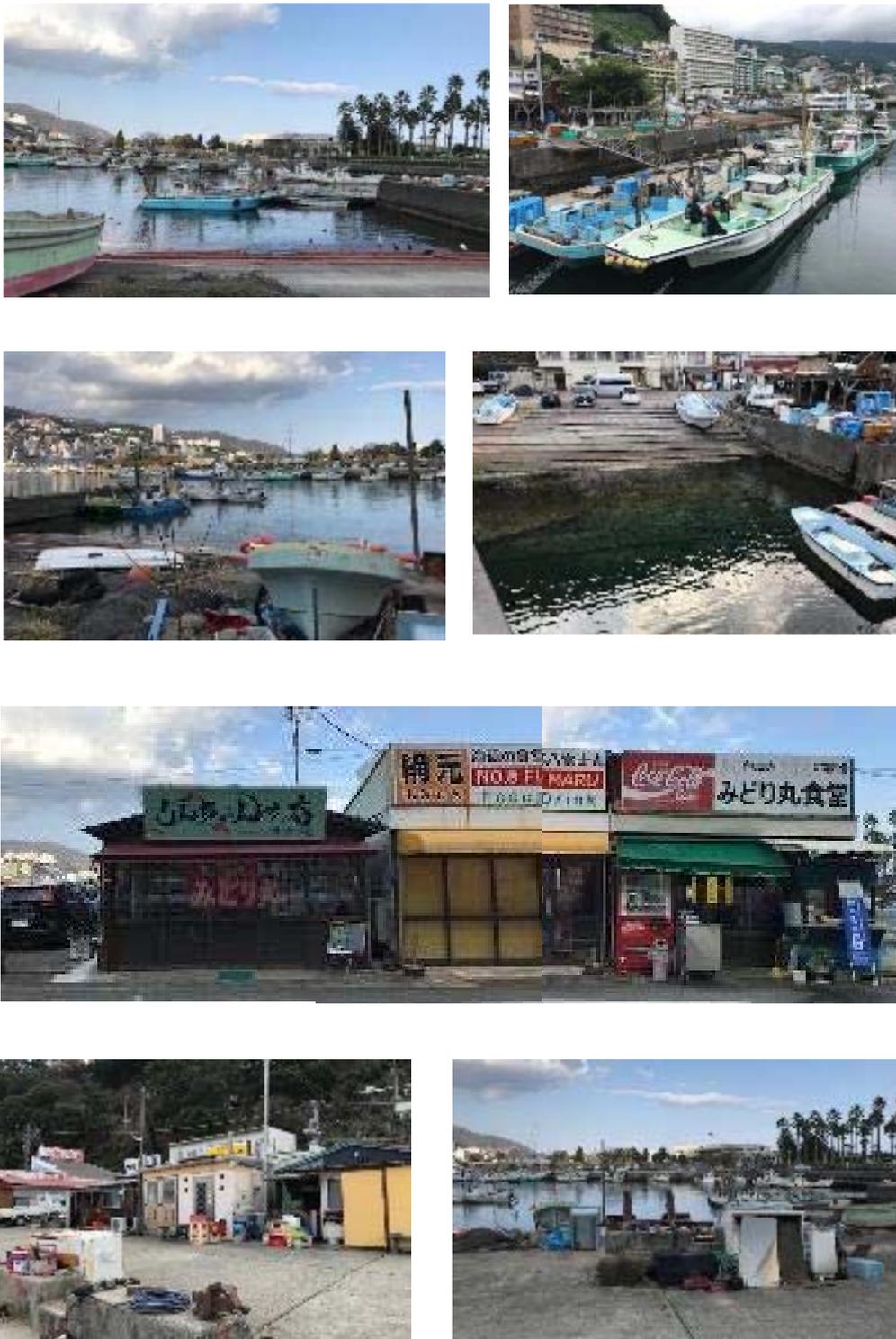


図 II. 1. 4 9 熱海港の漁業・海業関連施設等の展開状況

また、熱海鮮魚組合、熱海魚市場および宿泊・飲食業者へのヒアリングにより、熱海における地魚の扱い等をめぐる環境の現状と課題について把握した。

表 II. 1. 6 熱海鮮魚組合、熱海魚市場および宿泊・飲食業者へのヒアリングに基づく地魚の扱い等をめぐる環境の現状と課題

- ・熱海魚市場の地魚取扱率は金額ベースで約6割となっている。熱海鮮魚組合(熱海魚市場買付人)は、組合員29人、うち5人は加工業者、24人は小売・卸売で卸売が主となっている。4人が飲食店も経営しており、20軒は旅館・飲食店への納入を主としている。
- ・主な魚種の取引状況は、次のような傾向にある。
  - ・キンメダイ:大熱海漁協の漁獲はほとんどない。他港と比較して熱海での価格が高く、稲取、下田から陸送される。
  - ・イセエビ:大半は大熱海漁協に水揚げされる。需要期には周辺から陸送搬入する。
  - ・貝類:サザエは地産地消しやすい。アワビも獲れるが、サイズ揃えの関係から熱海以外からの搬入に依存(韓国産等)している。
  - ・その他:地元定置網への期待はあるが、畜養・水揚げ施設がなく流通が課題となっている。
  - ・初島産の魚介は引き合いがあるが、量が少なく島内消費に限っている(それでも不足し、量的には域外仕入が主)。
- ・小田原等其他港への水揚げも少なくなく(漁協は把握できない)、逆に熱海に揚げる他船はほとんどない。荷揚や給水・給水の設備が整うと熱海に水揚げしやすくなる。
- ・他港やその周辺海域で獲れる魚や漁獲状況に関する情報の受発信が弱い。
- ・市内宿泊・飲食業における水産物需要量は大きく、熱海での水揚げで補いきれない。
  - ・ホテル・旅館は、海産物メニューを売りとする施設が多い。生簀設置も少なくない。低価格で量・規格の安定を求める施設(域外仕入が主)と、高級魚種、ブランド魚、天然・地物を求める施設に二極化してきている。
  - ・飲食業は、寿司店、居酒屋、専門料理店が多い。和食が人気で、日帰り客や昼食需要に対して地魚料理を提供する店舗も多い。生簀(活魚槽)の設置店もある。
  - ・ただし、宿泊・飲食施設とも活魚の仕入は沼津、伊東、網代等の養殖が主。天然・地物志向の店も品揃え面から熱海産には頼れない(市内魚店経由で調達)。
  - ・調理人材の雇いにくさ(人材不足、人件費の負担)、衛生管理面の負担があり、魚店に切り身加工、お造りまで任せる宿が少なくない。
- ・天然魚、活魚、地魚へのニーズは大きく、事業の差別化要因となっている。宿泊・飲食業界とも、そのニーズは今後も高まるとみている。
- ・熱海産は量的にみて限りがある。地魚の括りを伊豆半島、相模湾に広げたい。
- ・魚市場の臨港移転、フィッシャーマンズワープ整備に期待・賛成する。
  - ・魚市場の魚祭りを、回数を増やしさらに充実させたい。
  - ・魚の香り、姿がみえる港にしたい。
  - ・予めメニューを決めるのではなく、その日揚がった魚を客に提供する形態にしたい。
  - ・ご当地メニューも考案中(サバコロッケ)。
  - ・旅館・ホテルがセリ権を得られるようにしたらどうか(制度上、仲買人は入る)。
  - ・準備として、既存施設を活用した取組み(浜焼き、バーガー等の試行販売等)に着手することには賛成する。実際の事業を通じて運営体制もみえてくる。

#### d. 水産物流通の動向

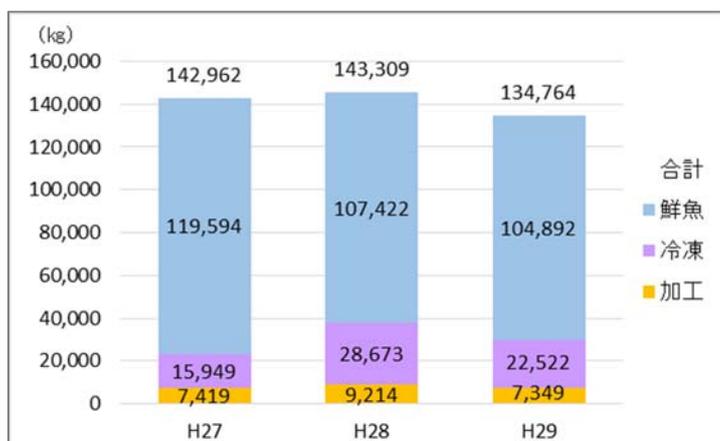
市街地に立地する株式会社熱海魚市場は、かつて地魚の集出荷拠点であったが、近年は取扱量が縮小している。平成 27～29 年の 3 年間の動向をみると、出典：静岡県魚市場協会

図 II. 1. 5 0 および図 II. 1. 5 1 に示すように取扱量は 6% (143 t→135 t)、取扱金額は 16% (1.8 億円→1.5 億円) の減少となっている (売場面積 300 m<sup>2</sup> とすると面積当取扱額は約 50 万円/m<sup>2</sup>)。

鮮魚についてみると、3 年間で取扱量は 12% (120 t→105 t)、取扱金額は 6% (1.36 億円→1.27 億円) 減少している。加工品・冷凍品は取扱量が横ばいまたは増加、取扱額は減少傾向にある。高級鮮魚と安価な冷凍・加工品と、扱いが二極化しつつある状況がみてとれる (宿泊事業者ヒアリングでも料金の二極化が指摘されている)。

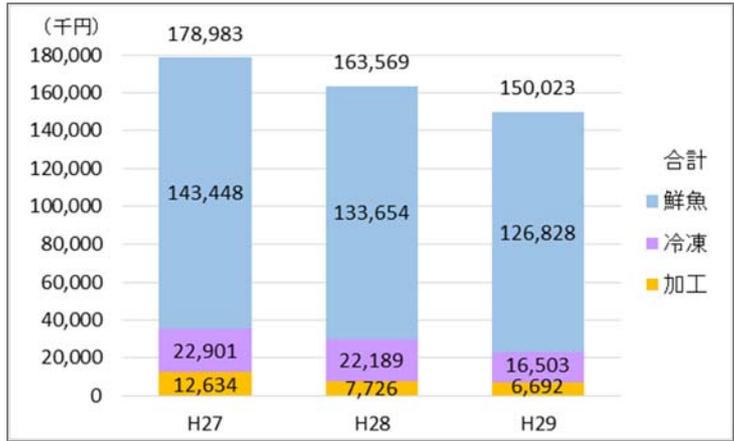
熱海魚市場によると、鮮魚の地元 (大熱海漁協エリア) からの入荷割合は約 6 割 (7,600 万円程度) とのことであり、これを大熱海漁協の水揚額 (2.14 億円) と比較すると水揚げ高の 3 分の 1 以上 (1.4 億円近く) が市外流出している計算になる。さらに、市内宿泊・飲食業者の水産物は沼津、伊東・網代、小田原・真鶴、築地等市外からの仕入が圧倒的に多いことがわかっており、市内の地魚流通の空洞化がみられる。

なお、熱海魚市場への鮮魚入荷状況を量ベースでみると、平成 27 年では熱海も含む県内 73% (うち沼津が約半分)、県外 27%、平成 29 年では県内 86% (うち沼津は 1 割強)、県外 14% となっており、入荷における県内のウェイトの高まりがみられる。魚市場ヒアリングによると、県内の主な入荷先は沼津、伊東 (網代を含む)、稲取、県外では小田原、真鶴等で、水揚げの量や魚価の変動により取扱量の変動がある。



出典：静岡県魚市場協会

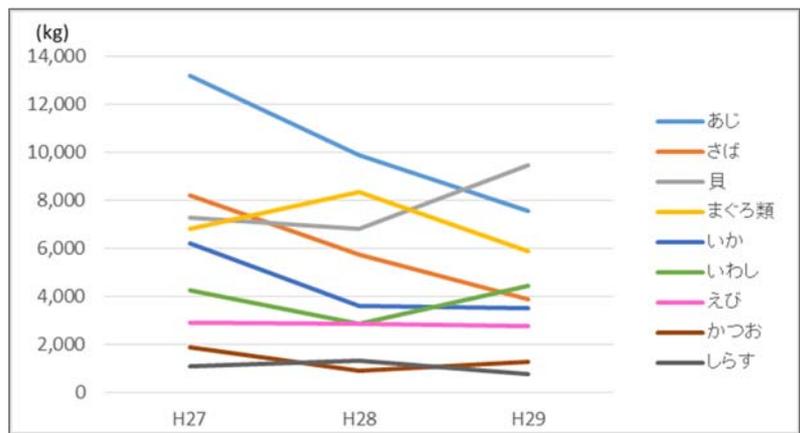
図 II. 1. 5 0 熱海魚市場における取扱量の推移



出典：静岡県魚市場協会

図 II. 1. 5 1 熱海魚市場における取扱金額の推移

また、主要魚種の取扱量は図 II. 1. 5 2に示すように、最近3年間ではアジやサバの減少と貝類の増加が目立つ一方、広域で人気のあるエビ、シラスは横ばいである。



出典：静岡県魚市場協会

図 II. 1. 5 2 熱海魚市場における主要魚種の取扱量の推移

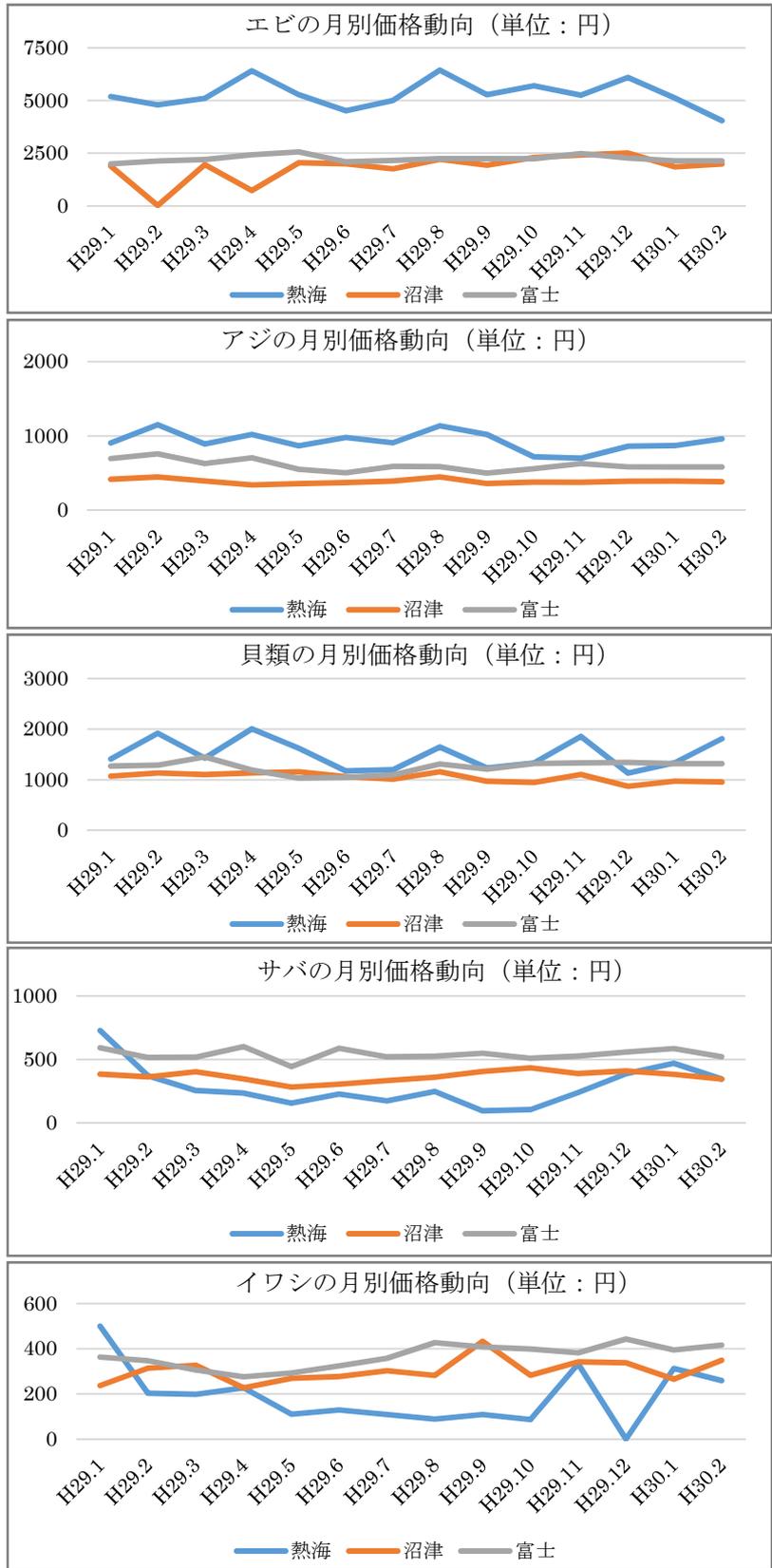
熱海は水産物の産地であり、高級魚へのニーズが高い消費地である。水産物の取引は、需要に規定され、生産量と魚価により、集出荷は周辺の産地・市場を流動する。

最近の魚価の動向を県内の周辺市場（沼津、富士）と比較してみると、図 II. 1. 5 3 に示すように熱海では特にエビ、貝類、アジ等が高値で取引されている。一方で、サバ、イワシは他より安値となっている。なお、他港からの陸送品が多いことから、価格水準については諸コストの上乗せについても加味する必要がある。

観光客にとって、熱海の食事の魅力は「新鮮な海の幸」であり、市内の宿泊・飲食事業者にとっても水産物は重要な商材であるが、熱海の地魚仕入は「量と品数が揃わない」との理由から敬遠する傾向にあり、安定的に仕入れられる沼津、網代等とのつながりが強い。しかし、熱海魚市場に鮮魚・活魚を見に来るホテルがある、オーベルジュが地元食材の勉強会を運営するなど、地魚への潜在的なニーズは低くない。

（株）熱海魚市場に入札権を持つ買付人は 30 人規模で、うち 20 余店の市内魚店は、多くが中小旅館・飲食店を顧客とし、加工して卸すなど宿の台所機能を担ってきた。しかし、高齢化や宿泊施設の食材調達の地元離れ等により、定常的な取引を休止しているケースもあり、事業の承継が途絶えていく兆しもみられる。

新鮮な天然地魚への需要がある中で、地魚流通の空洞化が改善され、生産者、流通業者、宿泊・飲食業者の連携により、少量多品種型産地のよさを活かす地魚提供の途が開かれていくことが期待される。



出典：静岡県魚市場協会

図 II. 1. 5 3 周辺魚市場との魚価動向比較【熱海・沼津・富士】

## (2) 熱海の地魚の PR 等に係る市や魚市場の取組み

### ① 熱海市

熱海市では「あたま通信」において「熱海を食べる」の特集を続けており、地魚を扱っている飲食店を紹介している。

### ② 熱海鮮魚組合・魚市場の取組み

熱海鮮魚組合・魚市場では、地魚マップを平成 25 年頃に作成・配布している。また、魚祭りを隔月で開催しており、高価な魚を市価より安価で購入できる。10 回目からは飲食業者も参加し、ピザ、焼きそば、海鮮弁当等が提供され好評である。1 回 100 万円程度の収益があることから、出店者も収益を得る仕組みとなっている。

さらに、食育についても市健康福祉部等と連携しており、市との関わりは観光と食育がメインとなっている。



戦後に配給拠点として立地した熱海魚市場。周辺道路や施設の狭さ、老朽化により現在は不便も生じている。

図 II. 1. 5 4 株式会社熱海魚市場の外観



鮮魚組合・魚市場が平成 25 年頃に作成・配布した「地魚マップ」が火付け役となった。若手旅館経営者の中には「地魚カレンダーをみて熱海の地魚に注目した」という声もある。

図 II. 1. 5 5 熱海鮮魚組合の「地魚マップ」と熱海市の「あたま通信」

### (3) 熱海は「地消地産」の地

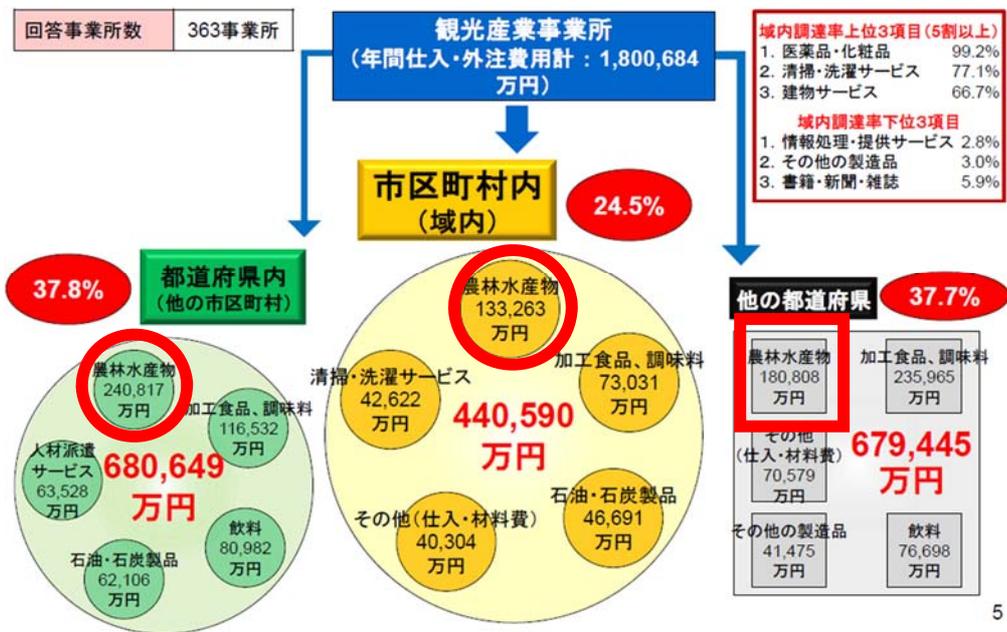
生産者、流通業者、需要者からのヒアリングにより、「昔から熱海は地魚の産地市場であり消費市場であった。それが崩れつつあるが、今こそその特性を活かすことが求められている。浜で揚げた魚を食べる消費者、美味しく料理して提供する宿や飲食業がある。食べる人がいるから獲る。海と都市がコンパクトにつながっている熱海は『地消地産』のモデル都市にふさわしい」という意向が浮かび上がった。

平成 23 年度に観光庁が実施した観光地域経済調査によると、熱海市では観光需要に基づく資金の域内循環率は 25%、農林水産物の域内循環率は 24%となっている。地魚流通の「空洞化」を食い止めることで、これらの上昇（回復）が期待される。

漁協、魚市場、宿泊・飲食業者とも「熱海のみ漁獲では不安定。地魚を伊豆半島、相模湾の範囲で捉えることで、相互に安定供給を図ることができる」と考えている。周辺漁業地域との機能分担（例えば、沼津は干物、熱海は鮮魚等）と、市内流通の仕組みづくり、また、農林業との連携により、熱海の「地消地産」は現状にも増して、価値を高めていくと考えることができる。

【参考】観光地域経済調査 平成 23 年度予備的調査における「熱海」の結果

#### 観光需要に基づく資金の約25%が域内に循環している 観光庁



農林水産物の域内調達 = 24.0%

出典：観光庁「観光地域経済調査平成 23 年度予備的調査」

#### (4) フィッシャーマンズワーフとは

フィッシャーマンズワーフとは、アメリカのサンフランシスコにある観光地（漁師の波止場）のことであったが、日本では、漁港等において新鮮な魚介類を提供する施設・エリアの代名詞として使われている。漁業・水産業と観光を結び付けた集客拠点であり、多くが観光と漁業・水産業の双方を活性化することを目的としている。

フィッシャーマンズワーフに類する施設を運営する都市は、いずれも一定の人口集積（定住人口あるいは交流人口）を有し、みなとまちづくりに関わるビジョン・計画を策定し、官民が連携して地域全体で交流事業を推進している。

日本人の国内旅行者数は、近年増加傾向にあり、フィッシャーマンズワーフ施設を運営する都市も、観光入込客数を順調に伸ばしているところが多いもの（H27～28の増加率小浜市+21%、釧路地域+12%等）、三崎と白浜などは減少しているところもあり、半島地域における集客の難しさがうかがわれる。

表 II. 1. 7 フィッシャーマンズワープに類する国内の主な施設

施設名	立地地域	施設概要
釧路フィッシャー マンズワープ MOO	北海道釧路市 ・人口：約 17 万人 ・海面漁業生産量：57 千 t ・観光客約 425 万人（うち宿泊 126 万人）（H27 年度） ・S43 から河畔開発構想、MICE 推進、観光振興ビジョン H29～	・運営主体：(株)釧路河畔開発公社、H 元～ ・立地特性：釧路川河畔臨港、JR 釧路駅徒歩 20 分 ・施設概要：複合施設（ショッピング、飲食、生鮮市場、各種公共機関、医師会健診センター、多目的アリーナ）全天候型植物園併設(EGG)を併設、wifi 環境、総面積 16,029 m <sup>2</sup> （5 階）、駐車場 76 台 ・営業日時：無休（元旦のみ休）ショッピングゾーン 9:00～19:00(通常)レストラン 11:00～22:00
三崎フィッシャ ーナ・ウォーフ らり	神奈川県三浦市 ・人口：4.4 万人 ・海面漁業生産量：18 千 t ・観光客約 602 万人 ・海業発祥、三崎漁港水産業・漁協を核とした振興ビジョン H28.3	・運営主体：(株)三浦海業公社（市・県・民間の三セク）H3～ ・立地特性：臨港、三崎口駅からバス 20 分、水産基地 ・施設概要：産直センターうらりマルシェ（水産・野菜）市民ホール等の公民複合施設、水中観光船、海上いけす釣堀、漁港ゲストバスあり、駐車場 50 台（有料） ・営業日時：年中無休 9：00～17：00
七尾フィッシャ ーマンズワープ 能登食祭市場	石川県七尾市 ・人口：約 5.4 万人 ・海面漁業生産量：10 千 t ・和倉温泉約 94（うち宿泊 90）万人 ・S60 能登マリンシティ構想、エコノミックガーデニング（内発経済）推進	・運営主体：(株)香島津（県・市・民間の三セク）、H3～ ・立地特性：臨港・商店街近く、JR 七尾駅徒歩 10 分 ・施設概要：飲食、生鮮、物産、遊覧船運行、観光情報、コンベンション機能(多目的ホール等)、みなとオアシス、道の駅 延床面積約 5400 m <sup>2</sup> 、駐車場 200 台・大型 15 台 ・営業日時：火曜定休（夏季無休）8：30～18：00
若狭フィッシャ ーマンズ・ワープ	福井県小浜市 ・人口：約 3 万人 ・海面漁業生産量：0.7 千 t ・観光客約 200 万人	・運営主体：若狭湾観光(株)・(株)そともめぐり S60～ ・立地特性：臨港、JR 小浜駅徒歩 20 分、御食国食文化館近く ・施設概要：飲食、物産、観光船運行、ビジターバスあり、海の駅、wifi 環境 駐車場 150 台・大型 17 台 ・営業日時：無休（年末年始 2 日間休）8:30～19:00(店舗により異なる)
清水魚市場お さかなセンター 河岸の市	静岡県静岡市 ・人口：約 70 万人 ・観光客約 25（うち宿泊 2）百万人 ・海面漁業生産量：9 千 t ・清水 WF 地区開発基本方針 H29	・運営主体：魚市場仲卸業者の直売施設 ・立地特性：臨港、清水駅徒歩 4 分 ・施設概要：いちば館・まぐろ館（物販、飲食）、仲卸人 20、来場年百万人以上、駐車場 200 台・大型 5 台(有料) ・営業日時：水曜定休 9：30～17：30(いちば館)
沼津港水産 複合施設「沼 津魚市場 INO」 マーケットモ ール「みなと新 鮮館」	静岡県沼津市 ・人口約 20 万人 ・観光客約 415（うち宿泊 81）万人 ・海面漁業生産量：68 千 t ・沼津港みなとまちづくり推進計画 H27	・運営主体：沼津魚市場 INO：沼津魚市場(株) H19～ みなと新鮮館：沼津港振興会 ・立地特性：臨港、みなとオアシス沼津にある施設 JR 沼津駅徒歩 10 分、魚河岸食堂街、展望水門、深海魚水族館、観光船、水産物即売所などが集積 ・施設概要：沼津魚市場 INO：高度衛生型魚市場、見学通路、飲食店、建築面積 5837 m <sup>2</sup> 、延床面積 7697 m <sup>2</sup> みなと新鮮館：特産物販売店、観光案内、イベントスペース、展望ウッドデッキ ・営業日時：沼津魚市場 INO:見学 不定休 5:00～17:00 飲食は 10：00～22：00（店舗により異なる） みなと新鮮館:第 2・4 火曜日(除祝祭日)9:00～17:00
フィッシャーマ ンズワープ白浜	和歌山県白浜町 ・人口約 2 万人 ・海面漁業生産量：0.1 千 t ・観光客約 330（うち宿泊 200）万人 ・白浜温泉街活性化推進計画 H28	・運営主体：株式会社フィッシャーマン、H28～ ・立地特性：温泉宿泊観光地、JR 白浜駅徒歩 20 分 ・施設概要：鮮魚市場、飲食、ビアホール、海釣り、ダイビング、観光船、駐車場 120 台（有料） ・営業日時：不定休 10:00～18:30（飲食 11:00～22:00）

出典：人口：住民基本台帳（H29.10.1）、海面漁業生産量：農林水産統計「海面漁業生産統計調査（H28）」、

その他の情報は、各市町村・施設ホームページから整理した。

ただし、フィッシャーマンズワープと称していても飲食機能のない施設は除いた。

全国の港ではフィッシャーマンズワーフ的施設以外にも、新鮮な地魚を提供する小規模な観光施設が増えている（沿岸漁業漁協約 900 の約 3 分の 1 が直売所を運営し何らかの形で飲食を提供、全国約 160 の海の駅のうち 20 施設が海産物を提供している）。静岡県や神奈川県内の港にも、地魚料理提供施設が立地しているが、漁協等が運営し、営業日や営業期間（季節）が限られている施設も少なくない。静岡県内の漁協が運営する食堂も、全 8 施設中約半分が漁期により営業を限定している（JF 静岡漁連ホームページより）。

熱海周辺（相模湾、伊豆半島）における臨港の主な地魚提供施設（通年週 5 日以上営業の飲食施設）は、年中無休または週 6 日程度の常設施設であり、いずれも単体の施設ながら盛況で、曜日・時間帯によっては行列ができる場合もある。運営体制をみると、11 施設中 6 施設が漁協直営、4 施設が魚市場での営業（民間事業者 3、町営 1）、その他（民間事業者）となっている。

これらの施設は、漁港・魚市場に近く獲れたての魚介類を仕入れられることを強みとして PR しているとともに、施設の特色を打ち出して差別化を図っている。特に次のようなことが注目される。

- **仕入**： 漁協直営の定置網の漁獲物を提供（いとう漁協直営：漁師めしや波魚波）、市場終了時間後は漁師から獲れたての魚介類を直接仕入れ（魚がし食堂はま蔵）
- **商材**： 活きアジ（内浦漁協直営：いけすや）、金目鯛（市場の食堂金目亭（下田市魚市場内））、イカ（伊豆漁協仁科支所：沖あがり食堂）
- **売り方**： 海鮮バーベキュー（小田原おさかなセンター）、プライドフイッシュ（みうら漁業協同組合：地魚料理松輪）

また、湯河原福浦のダイビング、内浦漁協の自然体験のように、集客事業を多角化する経営方式もみられるが、必ずしも飲食客の拡大につながらず、運転コストが大きくなる経営方式ではある。

表 II. 1. 8 相模湾・伊豆半島における臨港の地魚提供施設（通年週5日以上営業の飲食施設）

施設名	立地特性	施設概要
魚かし食堂 はま蔵	神奈川県横須賀市平成町 ・横須賀魚市場隣、京急堀ノ内駅徒歩10分、安浦漁港近接、周辺に沿道型大規模店、公共施設、住宅地	・経営：民間事業者 ・特徴：本マグロ、地魚メニューが豊富（数百円～2千円台）隣接する株式会社横須賀魚市場から朝獲れの魚介類、市場終了後も昼獲れ・夕獲れの魚介類を漁師から連絡を受けて直接仕入れている ・営業：無休(年始を除く) 10:00～21:30 駐車場無料（市場と共有）
地魚料理 松輪	神奈川県三浦市南下浦町 ・松輪漁港、遊漁船ターミナル兼京急三浦海岸駅からバス	・経営：みうら漁協 ・特徴：松輪サバ、金目鯛、湘南シラス等地魚は三浦産のみ（350～3500円）プライドフィッシュ、全席オーシャンビュー ・営業：火曜定休(年末年始)11:00～16:00 駐車場無料
めしや大磯港	神奈川県大磯町大磯 ・大磯漁港（134号線、JR大磯駅徒歩10分）	・経営：大磯漁協 ・特徴：大磯漁港を中心に地魚のみ（300円～）ブログで漁の様子、大磯町紹介 ・営業：水曜定休 11:00～21:00 駐車場有
平塚漁港の 食堂	神奈川県平塚市千石河岸 ・平塚漁港側、134号線沿、JR平塚駅徒歩25分	・経営：平塚漁協 ・特徴：平塚漁港の地魚メニュー（1000～2000円）国6次産業化事業認定、食育活動等、予約可 ・営業：水・隔週火定休 11:00～15:00 駐車場無料
小田原さかな センター	神奈川県小田原市早川 ・西湘バイパス早川ICすぐ、小田原魚市場隣（漁港内に地方卸売市場・魚市場食堂、近隣に飲食店集積）	・経営：民間事業者 ・特徴：みて買って食べて遊べる「市場エンターテイメント」と称し海鮮バーベキュー、朝食・ランチ、海鮮市場、土産飲食は平均1500円 ・営業：年中無休(元旦を除く)9:30～17:00 駐車場無料（市場と共有）
真鶴魚座	神奈川県真鶴町真鶴 ・真鶴港、魚市場2階、町営ヨットハーバー向い、JR真鶴駅からバス	・経営：真鶴町 ・特徴：真鶴港の地魚中心（300～3000円）オーシャンビュー、駐車場無料 ・営業：不定休 11:00～15:00
福浦漁港みな と食堂	神奈川県湯河原町福浦 ・JR真鶴駅徒歩10分、真鶴ブルーライン福浦IC	・経営：福浦漁港 ・特徴：福浦・真鶴港沖定置網である朝どれの地魚ランチ（1000～1500円）、駐車場あり ・営業：水曜定休 11:00～15:00
いとう漁協直 営漁師めしや 波魚波（はと ば）	静岡県伊東市静海町 ・臨港、JR伊東駅徒歩15分、135号沿道に伊東魚市場	・経営：いとう漁協 ・特徴：いとう漁協自営定置網2か所から伊東魚市場（いとう漁協）に運ばれ直接仕入れ。「自分たちが獲った魚を直接食べていただく」がモットー（1000～1500円）オーシャンビュー、魚情報を発信 ・営業：火曜定休 11:00～15:00
内浦漁協直 営いけすや	静岡県沼津市内浦小海 ・内浦漁港、堂ヶ島近くの漁協直営店136号を西伊豆役場から北方隣に漁協直売所	・経営：内浦漁協 ・特徴：内浦漁協の養殖マアジが売り。鮮魚・無添加の加工品販売、湾内クルーズ（夏季）では養殖場の見学ができる ・営業：水曜定休 11:00～15:00（物販9:00～16:00）駐車場あり
沖あがり食堂	静岡県西伊豆町仁科 ・臨港、堂ヶ島近くの漁協直営店	・経営：伊豆漁協仁科支所 ・特徴：イカと丼にこだわった食堂。活イカの刺身、季節の魚も刺身で提供。丼720～1300円、隣の直売所で買った魚介類の調理サービスもある ・営業：火曜定休 11:00～14:00 駐車場あり
市場の食堂 金目亭	静岡県下田市外ヶ岡 ・下田魚市場内	・経営：民間事業者 ・特徴：仕入は魚市場から。金目鯛を中心に新鮮な魚介を提供 ・営業：火曜定休7:00～9:30・11:00～15:00 駐車場あり

出典：静岡県漁連ホームページ、各施設ホームページ

#### (5) 熱海港への地消地産拠点形成に係る実態と意向の整理

各種統計の分析や関係者ヒアリングを通じて、熱海における地魚の地消地産の仕組みづくり、熱海港の地消地産拠点（≒フィッシャーメンズワーフ）形成を肯定・歓迎する方向性が示された。表 II. 1. 9 に分野（主体）別の実態と意向を整理する。

表 II. 1. 9 各ステークホルダーの現状と意向

【凡例】■統計データ（熱海市）、◆統計データ（全国傾向）●熱海市観光動線調査、○ヒアリング等

漁業・漁業者	魚市場・鮮魚組合	宿泊・飲食業者等	市民・観光客等
<p>■漁業営体数 101（2013）但し網代を含む 漁船は 5 t 未満が 8 割以上、定置網 4 等 ○大熱海漁協では約 80 隻が市内に分散、 熱海港には約 30 隻（海業を含む） ■海面漁業生産量 1,600 t（H27） 資源減少の中最近 10 年増加傾向＝需要</p> <p>○消費地直結の少量多品種型産地 ・昔はブリの産地。水揚げは市内消費（宿需要大） ・今は少量多品種。市内に売りにくい ・小田原、真鶴等にも水揚げ</p> <p>○漁港機能がないことが大きなネック ・漁船の出漁・帰港の動線に無理がある ・港に荷捌き所、水や氷の供給、生簀等の設備がなく、生産者が各自荷揚げ、活魚・鮮魚も自ら水や氷を確保、鮮度管理して出荷 ・港に荷捌き所（魚市場）がなく、水揚げが分散的で量がまとまらず、端物扱いになり、値がでない</p> <p>○遊漁、ダイビングの先進地、海業が活発な港 ・ダイビング客は初島も含めると数千人 練習用プール、講習・休憩・着替え等の場がある よい ・遊漁船は 6 隻（ホテルと組んだ体験事業も） ・漁師食堂は 5 軒（端物の活用拠点でもある） ・朝市が開けるとよい</p>	<p>○戦後の食糧分配基地として街中に開設 ○年間売上は 2 億円弱、取扱量は数百 t ○出荷者数は約 20/回 ○入札者は 29 市内 28（魚店 25、干物 4） ■取引価格（静岡県魚市場協会 H29） ・熱海は沼津と比較してエビは 2～3 倍、アジは 2 倍、貝類も 1.5～2 倍で推移。サバ、イワシは沼津より低い</p> <p>○産地市場であり消費市場 ・資源が減少し伊豆半島・相模湾で地魚を捉えないと量が集まらない。現在市内産は 6 割、真鶴、稲取、下田からも集荷している ・市内宿泊飲食業者への納入を主とする魚店が 8 割（加工しての納品が多い）</p> <p>○消費者向け事業に力を入れている ・地魚マップ（4 年前） ・魚祭り（隔月）→魚店+飲食店 収益有。出店者も収益を得る仕組みへ ※網代は生産基地で魚祭り不可だった ・食育（市健康福祉部等と連携）</p> <p>【参考】小規模な魚市場は活魚の扱いが活発 ◆漁業センサス（2013） ・全国魚市場の年間平均取扱量（859 件） 平均 68 百 t；水揚 59%、搬入 41% 活魚 4%（金額は 7%） ・取扱金額 1-5 億円の魚市場（280 件） 規模軽金：取扱額 2.5 億円、販売面積 674 m<sup>2</sup> 平均 6 百 t；水揚 96%、搬入 5% 活魚 15%（金額は 25%）</p>	<p>■宿泊・飲食事業所数：市内事業所の 26% 従業員数：市内従業員の 31% ○熱海の宿・飲食店は魚が売り ・宿食では量・サイズ揃え・安定供給が必須 ・仕入れは沼津、築地、伊東、地元魚店、ネット等 ・キンメダイは鉄壁、エビ・マグロ・タイ人気も安定 →産地にこだわらない店、冷凍品仕入の店も ・活魚は売り。安定供給のため沼津・伊東の養殖業者から仕入れている ・質の良い魚介は有名産地・ブランドも取り入れる ・浜焼きや魚ファストフードは市内にない ・初島には飲食店が並び浜焼きからホテルフレンチまで食べられる（漁師丼イベント等も）</p> <p>○地魚へのニーズはある（大きい） ・小規模な宿や飲食店で天然地魚へのこだわりもある ・「地魚マップをみて熱海の地魚に注目した」声もある ・高級オーベルジュ 3 軒が地産(テロワール)勉強会を開催 ・地魚は差別化要因として魅力が大きい</p> <p>○新鮮な地魚を提供したいが難しい ・量が揃わない、安定供給が極めて困難 ・宿泊料金低下で板前を置くことが難しい ・鮮魚は衛生管理が必須。宿ではあまり捌かず、専門業者（魚店）に加工して納入してもらう</p> <p>○港に魚市場・FWができるとよい ・魚市場が港にできたら魚祭りがもっと盛況になる ・駅から港への動線で街中を歩く人が増える ・駅商業施設や街中の商店とのバランスも大事だが、どんどん競争することで全体がよくなる ・製氷業を。イベント時も氷の需要がある ・初島航路の利便性確保、駐車場の確保がのぞまれる</p>	<p>■市人口・世帯：38 千人・21 千世帯 ■市観光交流客数：677 万人/年（2015） 宿泊 328 万人、観光レク 349 万人 ●熱海市観光客動線調査（2013-15） ・7 割が宿泊客、宿泊客の 9 割が夕朝食を宿で取る ・熱海来訪目的①温泉②自然・味覚 ・熱海の食の魅力、8 割が「新鮮な海の幸」 ・宿泊費 1 万円、飲食 3 千円、土産 2 千円</p> <p>○新鮮な魚が食べたい ・クルーズ船客も港町で美味しい鮮魚を食べたい ・海釣り施設には市外からの来客が多い（港で）BBQ や食事ができるとよい</p> <p>●別荘寺領者：よく行く飲食店は 8 割が和食店 ○熱海を愛する人を増やし、つながりたい。 ・二地域居住から定住へ。 ・都内居住地（麻布）で外国人に熱海を P R し て連れてきたい ・外国人はモナコらしさより和を求めている</p> <p>【参考】魚介類は全支出の 2% だからこそ大切に食べたい？ ◆家計調査（2017）平均魚介類消費 総世帯 4900 円/月（うち生鮮 2800 円） ◆国民の魚食（水産白書） ・タンパク質減は肉にシフトしているが魚食に価値 ・生鮮魚介類の購入は量低下も金額は横ばい 魚介類摂取は高齢者で多いが子育て世代で伸びている ・食の安全に関心</p>
<p>○魚市場が港にあるとよい（移転） ○地元魚が地元うまく流通していない。「獲る～食べる」のマッチングができるとよい ○地魚は高いが、流通を単純化する（他地域経由にしない）ことで価格を抑えられる</p>	<p>○魚は熱海の魅力。 ○地元食材の生産～提供をまちづくりの力に。若者のビジネスも起こっている ○魚のことをあまり知らない。熱海でいつどんな魚が獲れるかも、食べ方も、漁師の顔も知らない ○湾奥部が淋しい。漁港風景は魅力的。もっと人が行けるように</p>		
<p>○船着き場～FW～魚市場～漁船溜まり～海業が一体となって賑わいを形成し、地産地消により市全体が魅力アップする機会にできるとよい ・それは各立場が共通に願う方向。関係者が集い話しあっていきたい ・人材育成が大事（供給が不安定な熱海の地魚を柔軟に料理して提供、ニーズに合った料理メニュー開発、もてなし 等）</p>			

## 4) 市等の関連施策

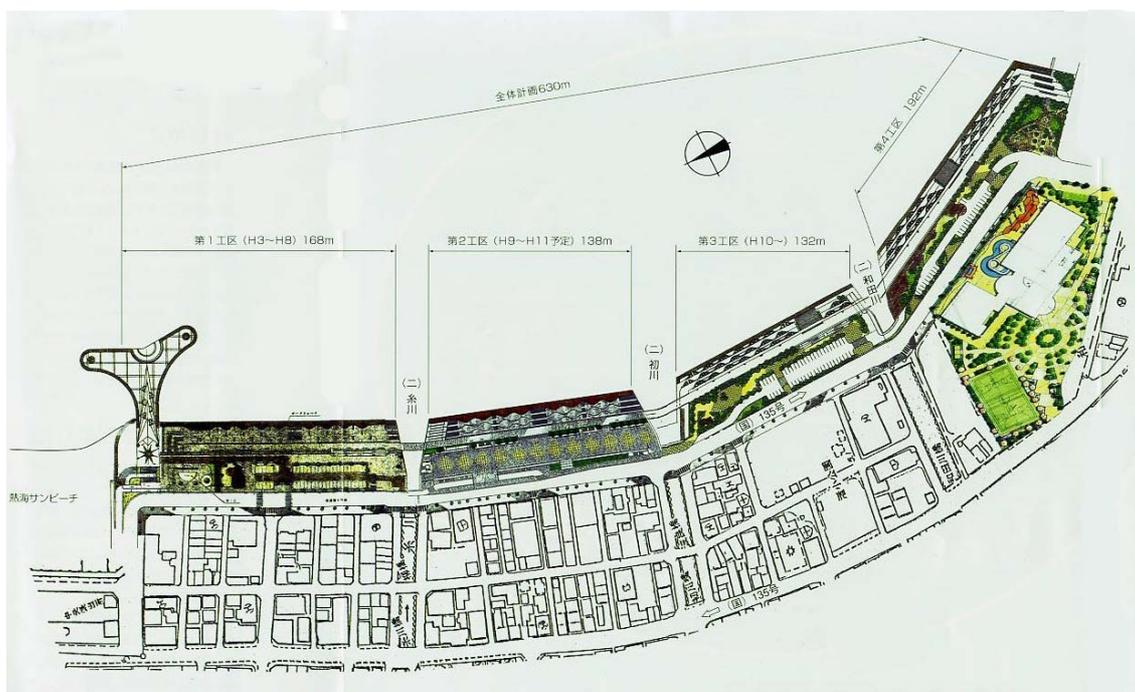
### (1) 上位計画および関連施策

熱海港湾エリア賑わい創出整備計画（案）の作成にあたり、熱海市および熱海港に係る上位計画および関連施策について整理した。

#### ① 熱海港海岸環境整備事業（渚地区）（H3～、静岡県）

熱海港は全国有数の観光都市であることから、観光港の特長を生かして臨海部に新たなにぎわい空間を創出するために、コンクリート護岸と消波ブロックの親水性に乏しい海岸線を改良し、保全機能向上と親水性に配慮した熱海港コースタリゾート構想の実現を目指した整備を進めている。

整備事業は第1工区から第4工区に分かれており、現在第3工区まで完成している。図 II. 1. 5 6 に完成平面図を示す。



出典：静岡県熱海土木事務所 H.P

図 II. 1. 5 6 渚地区完成平面図

#### ② 第四次熱海市総合計画（H23.3、H28.3 熱海市）

熱海市総合計画は昭和54年より順次策定しており、第四次熱海市総合計画は平成23年度（2011年度）から平成32年度（2020年度）までの10年間を対象とし、5年ごとに前期基本計画と後期基本計画を策定している。第四次熱海市総合計画は、地域間競争に対応した創意・工夫に基づく自立した行政経営が求められる中、時代の動向をしっかりと見据え、熱海市の特性を最大限に生かしたまちづくりをすすめるために市民と行政がともに考え築いていくためのものとしてい

る。前期では方針を定め、後期では具体的な事業案を示している。賑わい創出に関連するものとしては、観光ブランドプロモーション事業や観光まちづくり事業に対する支援および官民共同による創業支援体制の強化等がある。

### ③ 熱海市まち・ひと・しごと創生総合戦略（H28.1、熱海市）

熱海市は人口減少と少子高齢化や、それに伴い引き起こされる生産年齢の減少による地域経済縮小のリスク回避や地域サービスの維持のために、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目指し、5か年の目標および施策の基本的方向・具体的な施策を「熱海市まち・人・しごと創生総合戦略」でまとめている。基本目標は「日本でNo.1の温泉観光地を目指す」、「若者の安定した雇用を創出する」、「新しい人の流れをつくる」、「若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる」および「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」の5つである。

賑わい創出の観点からは多くの目標が深く関わっており、「日本でNo.1の温泉観光地を目指す」におけるADさんいらっしゃい事業や、「若者の安定した雇用を創出する」におけるリノベーション構想の策定および推進等、具体的に事業が進められているものもある。これらは、第四次熱海市総合計画の後期基本計画で設定した分野別の目標と相互に連携していくものである。

### ④ 熱海市景観計画（H19.3、熱海市）

平成16年に景観法が制定されたことをふまえて、全市の景観の方向性を示すマスタープランとしての役割と個別建築物等に対する景観形成に関する誘導内容を明確にするために景観計画を策定している。景観形成の目標は「海・山・島・温泉という豊かな自然のめぐみににぎわいある都市のまちなみが調和した熱海らしい景観づくり」であり、基本方針は「まちの基礎となる緑の景観を守り整える」、「海の魅力を活かす景観づくり」、「新たなにぎわいの景観づくり」、「湯のまち文化を守り、活かす」および「市民生活景観の創出」とし、類型別景観、構造別景観および眺望景観について形成を進めることとしている。

「渚・和田浜地区」、「海辺及びその周辺」および「漁港及びその周辺」における景観形成の方針を以下に示す。

#### ○渚・和田浜地区

方針：海洋リゾートの拠点的な地区としてふさわしいにぎわい空間を創出する  
[具体的な取り組み・配慮事項]

- ・建築物やその前面の空間は、道路や港湾施設等の公共空間の整備状況との調査に配慮する。
- ・底層部は商業施設で構成し、明るく開放的なデザインとするなど、にぎわいが感じられる景観を形成する。

- ・開放的で海の魅力を活かせる建築物等の形態意匠とする。

#### ○海辺及びその周辺

方針：砂浜の海岸や自然岩等で構成された特徴的な海岸線の景観を維持する

[具体的な取り組み・配慮事項]

- ・現状の地形や樹木をできるだけ維持・保全する。

方針：砂浜等の周辺では、開放感のある景観を形成する

[具体的な取り組み・配慮事項]

- ・海辺の敷地では、海側の壁面をできるだけ後退させるようにする。
- ・建築物の前面の空間は、熱海の海岸沿いの景観にふさわしい樹種で植栽するなど、周囲との連続性に配慮し、適切に緑化する。

方針：サンビーチ及びその周辺のライトアップされた夜間景観を活用する

[具体的な取り組み・配慮事項]

- ・サンビーチ周辺では、サーチライト等の強い光を放つ照明や派手なネオンサイン等、ライトアップされたサンビーチの夜間景観に影響を及ぼすような照明器具の使用を避ける。

#### ○漁港及びその周辺

方針：漁村市街地の町割りを残す地区では、ヒューマンスケールを重視した特徴のあるまちなみ景観を形成する。

[具体的な取り組み・配慮事項]

- ・道路側の軒の高さをそろえて、3階以上の部分を後退させるなど、まちなみの連続性に配慮する。
- ・干物の風景を地区の風景として活用する。

その他、東海岸町の視点場から海への眺望の保全・活用のための方針や、景観重要公共施設の指定方針が定められている。景観重要公共施設の指定予定候補は、「にぎわい創出路線（まちづくり条例）」、「東海岸町地区内の駅から海へつながる道路」、「海岸（サンビーチ、渚町デッキ、長浜人工海浜を含む市内全域の海岸）」および「熱海駅前広場」となっている。

### ⑤ 熱海市観光基本計画（H19.12、熱海市）

減少している熱海の宿泊客数を回復するために、熱海の持つ可能性や地域資源、特性を最大限に活かした熱海のまちづくりや魅力づくりを行い、集客力を高めていくために観光基本計画を策定している。その中で熱海の目指すべき姿を「長期滞在型の世界保養地」とし、そのための方針を「温泉中心主義」、「もう一度行きたくなる街」、「歩いて楽しい温泉保養地」および「全員参加のまちおこし」として示している。特に重点プロジェクト3つについては、さまざまな施策を組み合わせ、事業を推進しており、すべて賑わいに関連した内容となっている。その他賑わいに関する計画としては、花によるまちづくりや熱海サンビーチの砂浜ライ

トアップ、食を活かした魅力づくりおよび夜も楽しめる街の活性化等を挙げている。

#### ⑥ 熱海まちづくりビジョン（H21.9、熱海市）

平成 19 年に「熱海市景観計画」および「熱海市観光基本計画」が策定されたことから、熱海市のまちづくりは観光と景観の両方の観点から連携して進めていく必要があるとして、「熱海まちづくりビジョン」を策定している。まちづくりの基本方針は、「熱海の地形・気候に根ざす」、「温泉・歴史・文化を活かす」および「市民の取り組みを活かす」とし、重点拠点をエリア別に 5 つ（熱海駅周辺、市役所湯前神社前、起雲閣周辺、観光港および海岸線）設定して行動戦略を検討している。賑わいに関する行動戦略としては、糸川並木（あたま桜）再整備計画や駅から海（東海岸町）のルート整備（視点場）および海上タクシーの運行等を挙げている。

#### ⑦ 渚地区まちづくり推進地区計画（H24.3、熱海市）

渚地区は「熱海まちづくりビジョン」の重点地区の 1 つに定められていることから、人が来て滞在したくなるような地区の魅力づくりや地元住民による積極的なまちづくり活動を展開させるために渚地区まちづくり推進地区計画を策定した。基本目標は「海と空と川とにぎわいのあるまち渚」とし、5 つの基本方針（「周辺と連携し、人の流れ、回遊性を生み出す」、「気持ち良く歩きたくなる通りをつくる」、「多様な取組により、魅力・にぎわいのあるまちをつくる」、「きれいで安全なまちをつくる」および「人の輪を強くし、一体感のあるまちをつくる」）を基に取組みを行うとしている。賑わいに関する取組みとしては、「食べ歩きができるものの販売や、屋台を設けるなどにより、立ち寄りやすい店を増やす」や「昼間に営業する店を増やし、日中ににぎわいをつくる」等がある。

#### ⑧ 熱海市シティプロモーション基本指針（H25.2、熱海市）

熱海市はまちづくりの指針として平成 23 年に第四次熱海市総合計画を定めており、その中でシティプロモーションの推進は、将来都市像実現に向けた施策の一つとして位置づけられている。そのため、熱海市のシティプロモーションは、熱海市が有する様々な地域資源や優位性を発掘・編集するなどにより価値を高めると共に、市内外に効果的に訴求し、ヒト・モノ・カネ・情報を呼び込み、地域経済の活性化を図る一連の活動を示している。その結果、顧客に対して継続的に魅力を訴求し、「訪れる」、「住む」および「投資をする」というアクションにつながることを目標としている。プロモーションにあたり共通ルール 3 つ（「都市イメージの向上」、「戦略的な情報発信」および「情報発信力の強化」）を定め戦略的に推進していくとしている。賑わいに関する施策の方向としては、花火大会

や熱海ビールフェスティバル、オンたま（体験交流イベント）等のイベント実施がある。

#### ⑨ 熱海市移動等円滑化基本構想（H19.12、熱海市）

熱海市は傾斜地が多く歩いて市内を移動するには不便を感じている人も少なくなく、高齢者、障害者および子供など誰もが安心して便利に生活できる環境づくりが求めてられており、更に観光客も安心して楽しく散策できる施設の整備が必要であることから、「誰もが生き生きと生活できるまちづくり」を目指し、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の推進に関する法律」の主旨に基づき、熱海市中心市街地における「移動等円滑化基本構想」を策定している。「移動等円滑化基本構想」では、高齢者や障害者等の日常生活および社会生活を確保することを目的とし、一定地区の公共交通機関の旅客施設および車両、道路、公園、路外駐車場ならびに建築物の構造および設備を改善し、観光客を含め高齢者や障害者等の移動および施設利用の利便性や安全性の向上を図るものである。

基本方針は、「市民、行政、事業者が連携した移動等円滑化の推進」、「熱海市の地域特性をふまえた移動等円滑化の推進」および「心のバリアフリー化の推進」である。

#### ⑩ 富士箱根伊豆交流圏構想（H21.10、山梨県・静岡県・神奈川県）

山梨・静岡・神奈川三県が富士箱根伊豆交流圏の一体的な振興に向け、「交流・連携を通じて地域の価値が高まり、豊かなくらしを実感できる、魅力あふれる圏域」という将来像を共有しつつ、関係市町村などと協力しながら広域的な行政課題に対して、これまでの実績を活かして取り組むことで将来にわたり交流圏の活性化を図ることとしている。

基本方向は、「交流・連携の推進」、「豊かな自然環境の保全と活用」および「交流・連携を支える安全・安心の確保と基盤整備」の3つであり、そのために5つのテーマ（「観光振興」、「防災対策」、「交通体系整備」、「環境対策」および「国際的な評価の向上」）を策定している。賑わいに関する施策としては、地域の多彩な観光資源を活かした国内からの観光客誘致促進として「新たな周遊モデルコースの開発および商品化支援」や、来訪者の利便性向上にむけた公共サインの整備の「ピクトグラム（図記号）を活用した観光サインの多言語化」等がある。

## (2) 熱海での成功事例

### ① 熱海でとられた具体的施策

#### a. 財政危機をきっかけとした危機意識の共有、首長主導での観光戦略の合意形成

宿泊者数が長期的に低迷する危機的な状況の中、2006年（平成18年）12月に熱海市は「熱海市財政危機宣言」を出し、地元の事業者、住民等に対して市政への協力依頼を行った。そして、熱海市は市長を座長とする「熱海市観光戦略会議」を設置し、長期的な観光基本計画を策定するところから再生をスタートさせた（表 II. 1. 10）。

#### b. 観光関連者の中で統一プロモーションの必要性を共有、新規顧客獲得に向けて若年層をターゲットに選定

「熱海市観光戦略会議」の議論において、統一プロモーションの必要性が提起され、「長年、団体旅行の受け皿として栄え、さらにその後衰退の危機にあった過去の熱海」を知っている年代よりも、過去の熱海を知らない、先入観のない若年層を狙う方がいいのではないか等の意見から、ターゲットとして新たに若年層の新規顧客を獲得することが提案された。以降、将来のリピーターとなり得る若年層（特に女性）に向けた熱海のブランドイメージの醸成に努めてきた（図 II. 1. 57）。

#### c. やる気のある民間プレーヤーにより、個人客を意識した宿泊施設のリニューアルやコンテンツづくり

民間ベースでは、やる気のある宿泊事業者により旅行スタイルのニーズに合わせた施設のリニューアルや、Uターン者が立ち上げたNPO法人による魅力的なコンテンツづくりが進められている。

このように、従来の観光関連事業者、Uターン者が中心となって新たなプレーヤーを巻き込み、行政の観光地域づくりの基盤をつくる取組みと連携しながら活躍することで、熱海が生まれ変わりつつある（表 II. 1. 10）。

表 II. 1. 10 熱海の再生に向けた主な取り組み

<p>公的主体</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●熱海市財政危機宣言による危機意識の共有</li> <li>●熱海市観光戦略会議の設立</li> <li>●観光施設周辺の都市計画道路の無電柱化、民間の資金協力を受けて遊歩道を整備</li> <li>●観光基本計画・実施計画（アクションプログラム）の策定</li> <li>●観光プロモーション事業の公募（「意外と熱海」プロジェクト推進）</li> <li>●プロモーションの実施（プロモーションツール作成、情報番組・バラエティ番組等の誘致など）</li> </ul>
<p>民間事業者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●旅行スタイルのニーズに合わせた宿泊施設のリニューアル             <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊事業者による個人利用向けに対応したリニューアル</li> <li>・所有者変更による全面リニューアル</li> <li>・保養所からの転換</li> </ul> </li> <li>●Uターン者（NPO 法人 atamista）による熱海の魅力的なコンテンツづくり             <ul style="list-style-type: none"> <li>・熱海の街・農業・海・緑・歴史・健康などの資源を生かし、住民・別荘所有者・観光客のための体験交流型イベント事業（「オンたま」事業）の提供</li> <li>・株式会社 machimori（NPO 法人 atamista から派生）が、熱海の中心商店街の空き店舗をリニューアルし、カフェ、ゲストハウス等を運営 等</li> </ul> </li> </ul>



若者の感覚を意識した表紙



熱海の街中マップを掲載、地元のお店やカフェ・スイーツ等を紹介

資料：熱海市総合観光ガイドブック

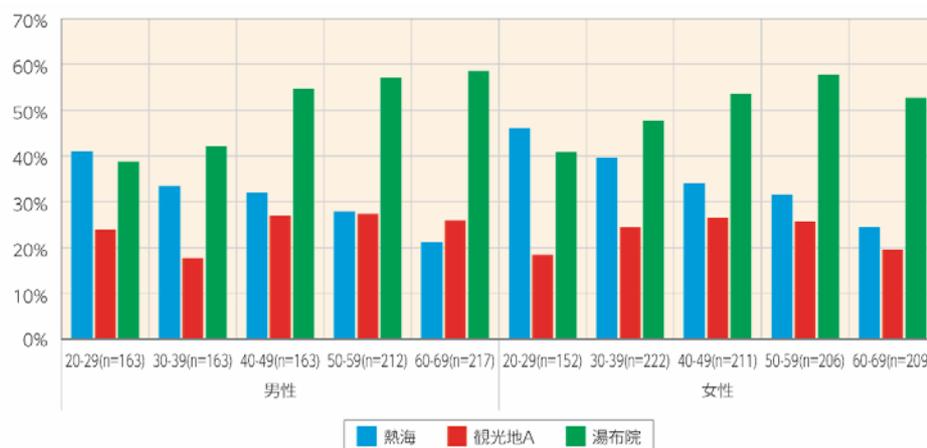
「平成 29 年版観光白書」観光庁観光戦略課観光経済調査室

図 II. 1. 57 若年層（特に女性）を意識したパンレットの作成

## ② 施策による効果

### a. 若年層をターゲットとした取組みの成果が現れている熱海

熱海を訪れる観光客の年代別シェアを見ると、平成 23 年（2011 年）以降、20 代が大きく伸びている。また、性別・年代別の熱海・観光地 A・湯布院の訪問意向率をみると、熱海ではターゲットとしている若年層の訪問意向率が他の年代に比べて特に高い傾向にあり、前述のような若年層をターゲットとしたプロモーション等の取組みが奏功していると考えられる（図 II. 1. 5 8）。



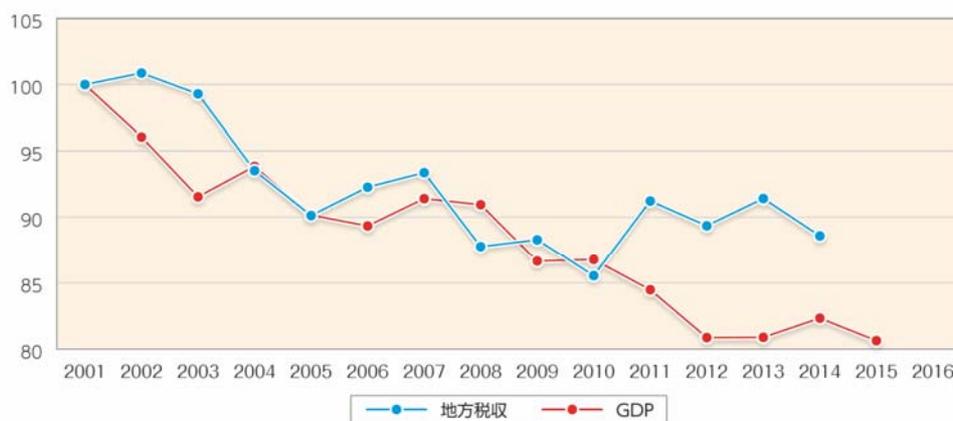
資料：観光庁「平成 28 年度観光地に関するアンケート調査」

出典：「平成 29 年版観光白書」観光庁観光戦略課観光経済調査室

図 II. 1. 5 8 性別・年代別の訪問意向率

### b. 2010 年を底に GDP が増加

熱海市の宿泊者数は平成 23 年（2011 年）を底に回復傾向にあり、GDP についても平成 22 年（2010 年）を底に上昇している。地方税収は長期的な減少傾向にあったが、平成 24 年（2012 年）以降は下げ止まっている（図 II. 1. 5 9）。



注：一般的に税収はGDPに比例するが、熱海市においては2010年以降も地方税収のうち固定資産税収入が減少しており、地価上昇がGDP増加に追いついていないものと考えられる。

出典：「平成 29 年版観光白書」観光庁観光戦略課観光経済調査室

図 II. 1. 5 9 熱海の地方税収およびGDPの推移

### (3) 渚町まちづくり活動状況

渚町は平成 21 年 9 月に策定した「熱海まちづくりビジョン」において、景観まちづくりを重点的に推進する必要がある地区の1つとして位置づけされことから、渚町の商店街の活気を取り戻すために、人が来て滞在したくなるような地区の魅力づくりや地元住民による積極的なまちづくり活動を展開させるための個性と調和のある景観を形成し、地域や商業の活性化の促進を目的として、平成 24 年 3 月に「渚町まちづくり推進地区計画」が策定された。

#### ① 「渚町まちづくり推進地区計画」取組みの方向性

渚地区におけるまちづくりの基本方針は、「周辺と連携し、人の流れ、回遊性を生み出す」、「気持ち良く歩きたくなる通りをつくる」、「多様な取組により、魅力・にぎわいのあるまちをつくる」、「きれいで安全なまちをつくる」および「人の輪を強くし、一体感のあるまちをつくる」の 5 つであり、これら基本方針に基づいて取組みの方向性を定めている。

表 II. 1. 1 1 「周辺と連携し、人の流れ、回遊性を生み出す」における取組みの方向性

取組みの方向性	主体	時期
1. 人の流れを生み出し、ぶらぶら回遊できるまちとする。 (取組例) ・にぎわい・特色・魅力づくりを行い、渚地区へ訪れやすい雰囲気をつくる。 ・まちあるきルート、まちあるきマップ、サイン(看板)などをつくり、回遊性を創出する。	行政 地元	短期 中長期
2. 海との接点を大切にし、地区に立ち寄りやすくする (取組例) ・まちの顔や通りを海岸と一体的な雰囲気ですつらえる。(国道海側) ・店舗構成や店構えを工夫し、コースタルデッキを訪れる人々が、地区に立ち寄りたくなるようにする。	行政 地元	短期 中長期
3. 川の魅力を活かし、季節毎の楽しみを演出する (取組例) ・南北に流れる 3 つの川を活かし、まちなかと海側から人を誘導する。 ・川毎に植栽を設け、季節を感じられる場所とする。(糸川の熱海桜など)	行政 地元	中長期
4. 川の親水性を高める (取組例) ・歩きながら水の音や流れを感じられるような工夫をする。 ・安全を確保した上で川辺に降り、水とふれ合えるようにする。	行政	中長期

注：1. 主体における「行政」は熱海市、静岡県および国とし、「地元」は地区住民、事業者等を示す。  
2. 時期における「短期」は概ね 5 年以内での実施とし、「中長期」は概ね 15 年以内を目途に実施することを示す。

出典：「渚地区まちづくり推進地区計画」平成 24 年 3 月 熱海市

表 II. 1. 1 2 「気持ち良く歩きたくなる通りをつくる」における取組みの方向性

取組みの方向性	主体	時期
1. 通りをみどりと花で演出する (取組例) ・街路樹や花植え等により、気持ち良く歩ける通りとする。 ・建物を新築する際には、なるべく1階部分を通りから後退させ、植物等を配置する。	行政 地元	短期 中長期
2. 歩きやすい通りをつくる (取組例) ・一方通行等により通行量を減少、無電柱化などにより、誰もが歩きやすい通りにする。 ・ベンチ等や日除けをおき、休憩しながら歩けるようにする。	行政 地元	中長期
3. 通りに面する部分に気をつかう (取組例) ・ショーウィンドウ等により、通りに面する部分のにぎわいや楽しさを演出する。 ・エアコンの室外機などは、木製カバーをつけるなどによって、目立たないようにする。 ・通りに面する部分に不要なもの出さないようにする。	地元	短期
4. まちの統一感を作り出す (取組例) ・看板の大きさや色づかいに気を配る。 ・建物の形や色をまちの雰囲気合わせる。 ・ひさしやロゴマークの統一により、商店街の統一感をつくる。	行政 地元	短期 中長期

注：1. 主体における「行政」は熱海市、静岡県および国とし、「地元」は地区住民、商業者等を示す。  
2. 時期における「短期」は概ね5年以内での実施とし、「中長期」は概ね15年以内を目途に実施することを示す。

出典：「渚地区まちづくり推進地区計画」平成24年3月 熱海市

表 II. 1. 1 3 「多様な取組により、魅力・にぎわいのあるまちをつくる」における取組みの方向性

取組みの方向性	主体	時期
1. 観光客等が気軽に立ち寄れるような工夫をする (取組例) ・食べ歩きができるものを販売したり、屋台を設けたりすることで、立ち寄りやすい店を増やす。	地元	短期 中長期
2. 昼間に営業する店を増やし、日中のにぎわいをつくる (取組例) ・ランチ営業する店や物販店を増やすことなどにより、日中でも楽しめる場所をつくる。	行政 地元	短期
3. 個性ある店舗を増やす (取組例) ・空き店舗等でのチャレンジショップなど、個性ある店舗を増やす。	地元	短期
4. 小公園と連携し、人の流れをつくる (取組例) ・小公園の朝市の開催に合わせ、渚中通りでも朝市を開催し、約500人集まる人々を渚地区へ集める。	行政 地元	短期
5. 渚地区の魅力や良さを伝えていく (取組例) ・季節毎の楽しみや飲食店情報等を掲載したマップを作成する。	行政 地元	短期

注：1. 主体における「行政」は熱海市、静岡県および国とし、「地元」は地区住民、商業者等を示す。  
2. 時期における「短期」は概ね5年以内での実施とし、「中長期」は概ね15年以内を目途に実施することを示す。

出典：「渚地区まちづくり推進地区計画」平成24年3月 熱海市

表 II. 1. 1 4 「きれいで安全なまちをつくる」における取組みの方向性

取組みの方向性	主体	時期
1. ごみのないきれいな渚地区をつくる (取組例) ・定期的な通りの清掃活動を行い、通りにゴミがなく、捨てにくい雰囲気をつくる。	地元	短期
2. 川の清掃活動を継続し、親しみのある川づくりをおこなう (取組例) ・定期的な川の清掃活動を行う。	行政 地元	短期 中長期
3. 災害に強いまちをつくる (取組例) ・火災、地震、津波に強いまちをつくる。 ・防災シュミレーションを実施し、地区の防災性を把握する。 ・危険性の高い建物は、耐震化や取り壊しによる共同化を検討する。	行政 地元	中長期
4. 犯罪が起きづらいまちをつくる (取組例) ・見回り活動や不法なゴミの撤去により、犯罪を予防する。	地元	短期 中長期

注：1. 主体における「行政」は熱海市、静岡県および国とし、「地元」は地区住民、商業者等を示す。  
2. 時期における「短期」は概ね5年以内での実施とし、「中長期」は概ね15年以内を目途に実施することを示す。

出典：「渚地区まちづくり推進地区計画」平成24年3月 熱海市

表 II. 1. 1 5 「人の輪をつくり、一体感のあるまちをつくる」における取組みの方向性

取組みの方向性	主体	時期
1. 花植え、清掃活動などを通じて、地区を支えるひとをつくる (取組例) ・花植え、清掃活動を継続し、地区に浸透させる。 ・花植え、清掃活動に参加する人を増やすように工夫する。 ・これらの活動により、地区を大切に想うを持つ人を増やす。	地元	短期 中長期
2. 多様な主体の連携や新たな体制づくりにより地区を盛り立てる (取組例) ・地域に関わる様々な主体が、連携して活動を行い、地域の活力を高める。 ・地区内外の多様な世代が渚地区を盛り立てるために、新たな体制作りを検討する。 ・気軽にできることから取組を開始し、取組の成果や、活動実績を増やす。	行政 地元	中長期
3. 何度も来たくなる親しみを持てるまちをつくる (取組例) ・あいさつやもてなしの心を観光客や市民に伝え、何度も通ってもらえるようにする。	行政 地元	中長期

注：1. 主体における「行政」は熱海市、静岡県および国とし、「地元」は地区住民、商業者等を示す。  
2. 時期における「短期」は概ね5年以内での実施とし、「中長期」は概ね15年以内を目途に実施することを示す。

出典：「渚地区まちづくり推進地区計画」平成24年3月 熱海市

## 全体コンセプト：海と空と川とにぎわいのあるまち渚



渚中通り：人が集い、みどりと鼻のあふれる、歩きたくなるみち  
 国道山側：熱海の中心部からの人を呼び込むにぎわいのある雰囲気づくり  
 国道海側：コースタルデッキから人を呼び込む海を感じる雰囲気づくり

出典：「渚地区まちづくり推進地区計画」平成24年3月 熱海市

図 II. 1. 60 渚地区取組みの方向性の実施箇所

## ② NPO 法人の取組み

渚町で実施している民主導の取組みとして、遊休化した不動産を活用して新しいコンテンツや人を呼び込むために、オープンな雰囲気のレストラン、裏路地歩きガイド、シェアハウスなどに取り組んでいる（ヒアリングより）。

## ③ 渚町の現状

平成 24 年 3 月に「渚町まちづくり推進地区計画」が策定されてから約 5 年経過した渚町の現状について踏査により確認したところ、表 II. 1. 16 に示す項目について取組みの成果があがっている。

表 II. 1. 1 6 渚町の取組みに対する成果（踏査により確認）

基本方針	取組みの方向性		実施時期	踏査による確認結果
周辺と連携し、人の流れ、回遊性を生み出す	人の流れを生み出し、ぶらぶら回遊できるまちとする	まちあるきルート、まちあるきマップ、サイン(看板)などをつくり、回遊性を創出する。	短期 中長期	
気持ち良く歩きたくなる通りをつくる	通りをみどりと花で演出する	街路樹や花植え等により、気持ち良く歩ける通りとする。	短期 中長期	
歩きやすい通りをつくる	歩きやすい通りをつくる	一方通行等により通行量を減少する。	中長期	

基本方針	取組みの方向性		実施時期	踏査による確認結果
<p>気持ち良く歩きたくなる通りをつくる</p>	<p>通りに面する部分に気をつかう</p>	<p>エアコンの室外機などは、木製カバーをつけるなどによって、目立たないようにする。</p>	<p>短期</p>	
<p>多様な取組により、魅力・にぎわいのあるまちをつくる</p>	<p>渚地区の魅力や良さを伝えていく</p>	<p>季節毎の楽しみや飲食店情報等を掲載したマップを作成する。</p>	<p>短期</p>	

しかしながら、図 II. 1. 6 1 に示すように、現在の渚町は飲食店と住居および空き家が混在している状況にあることから、更に賑わいのあるまちづくりのためには、まちあるきルートやまちあるきマップの掲示や、まちの統一感を作り出すことが必要と考える。

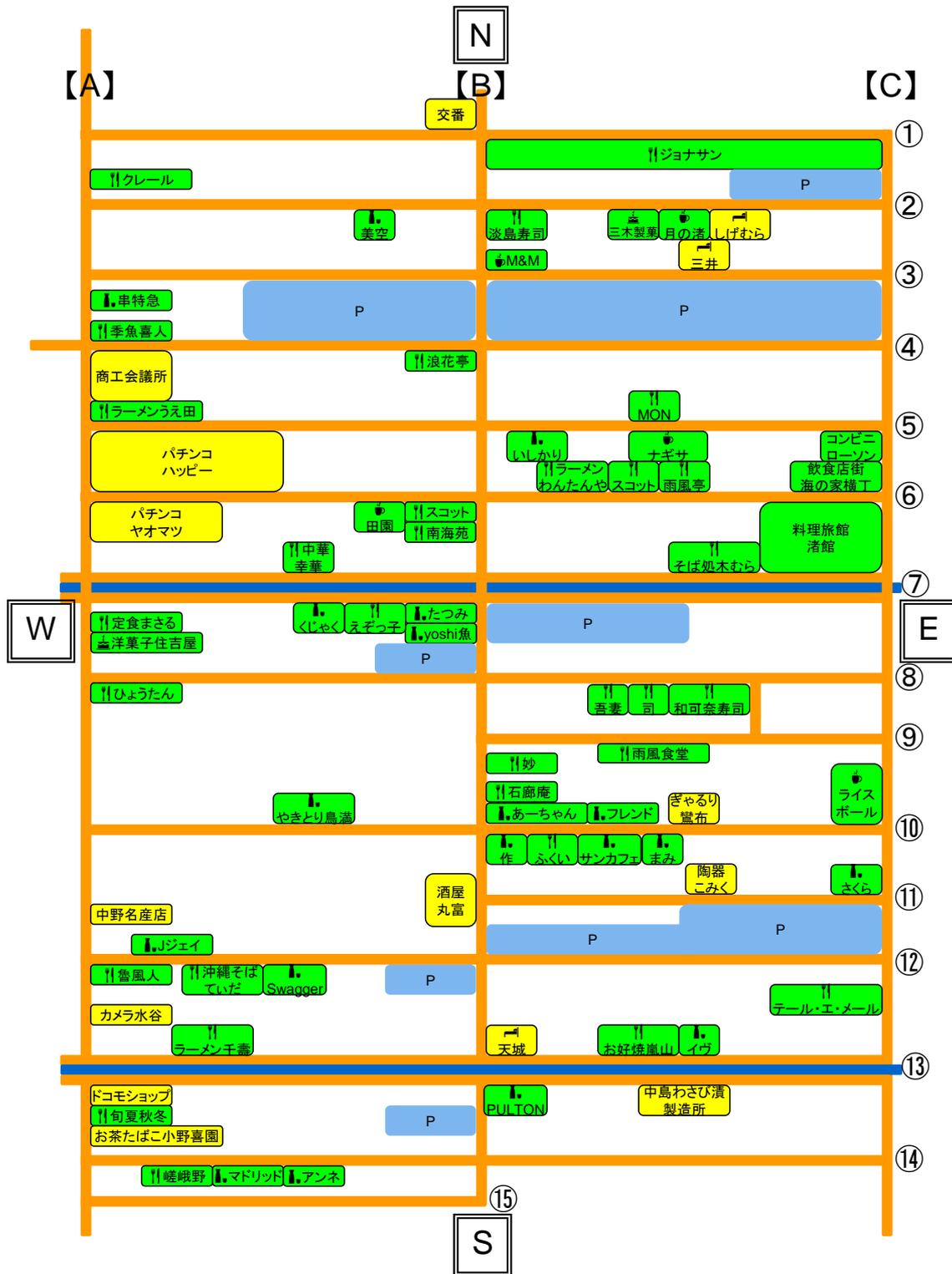


図 II. 1. 6 1 渚地区の店舗

## 5) 熱海の賑わいに係るニーズ等（地域意見）

熱海の賑わいに係る地元関係者のニーズ等を把握するために、客船誘致委員会で得られた意見とヒアリングで得られた意見を表 II. 1. 1 7 に示す。新しく観光施設を設置するというニーズよりも、今ある資源を活用した魅力的なコンテンツについてのニーズが多くみられた。

表 II. 1. 1 7 熱海の賑わいに係るニーズ等

項目		意見・提案	
観光振興	観光施設	現状資源の活用	熱海港海釣り施設は人気スポット。有効活用すべき。
			サンレモ公園を活かすべき。
			ラスカ熱海の効果を活かすべき。
			赤線、青線の建物の観光化。
		集客施設	熱海の観光資源・伝統文化である芸者さんをもっと取り上げるべき。
			商売のチャンスは防波堤にある。
			人が集まる施設として水族館などがある。
			集客施設の一体化が必要。相乗効果生まれる。
		設備（その他）	商業施設と待合所は一体化している方がよい。
			疲れて辿りつけないため、ポイントで楽しめるような休憩所がほしい。
	駅前に展望がない。		
	熱海はコンパクトな中心市街地を持つ温泉地であることが強みである。今後ハードも含めて変えていく必要がある。ただし自然に溶け込むハードがのぞましい。		
	設備（ビーチ）	（港で）BBQ や食事ができるとよい	
		ビーチを有料にして積極整備を向上させる。	
		ダイビング客は初島も含めると年間数千人は訪れるので、練習用プール、講習・休憩・着替え等の場があるとよい。	
	営業時間	昼食時間 14 時終了となっている。飲み屋も 14 時～17 時休憩で昼食を食べるところがない。	
閉店時間が早く、お客に紹介できない。			
防波堤の活用	外国人客は夜お酒を飲む時間が長い、熱海には遅くまで開いている店がない。		
観光施設、コンテンツ	防波堤の活用	サンビーチ⇄熱海港の回遊性が向上すると防潮堤を歩くことになるが、現状何もない。	
	回遊性	駅からのみでなく、クルーズ船の客など海からの客を街中へ誘導することが大切。	
	集客施設	クルーズ船等の客が市街で楽しむスポット作りが必要である。	
		第一～第三公園、親水公園の護岸の活用がのぞまれる。（バルなど）	
	泊食分離がのぞまれる。		
設備（その他）	海岸部の歩行距離が長い。楽しみ拠点が必要である。		
	公共空間をもっと活用すべき、イベントも多機能など質の良いものに変えていくべきである。		
防波堤の活用	港は一般の人が触れられる機会（船の利用、体験など）があってもよい。		
	防潮堤の後ろの店は見晴らしが悪く流行らないのではないかな。		
コンテンツ	歴史	歴史を強調することで厚みがでる。	
		温泉神社や歴史の中で有名な場所に故事来歴を書いた看板を作成して歴史の街を強調してはどうか。	

項目		意見・提案			
観光振興	コンテンツ	イベント	サンビーチでのサンドアートをもっと広めるために、冬にも開催する。 渚町は緑が少ない。オープンな雰囲気飲み屋、裏路地歩き、昭和レトロ、nagisa アートなどに取り組んでいる。 港は一般の人が触れられる機会（船の利用、体験など）があってもよい。		
		現状資源の活用	温泉文化の発掘活用 温泉玉子を作っている学生がいつもいる。SNS で拡散しているのか？		
		客層	近年増えてきた若年層の女性を港に呼び込む工夫が必要 富裕層の個人へのアプローチを検討してほしい。		
		設備（案内看板）	駅から海岸など人の流れがわかりやすいサインが必要。 堤防上から糸川遊歩道、銀座商店街への案内の充実。 外国人向けに4か国語の案内看板の設置。		
		設備（その他）	イベント会場		
		設備（ビーチ）	サンビーチにシャワー設備を設置してはどうか。		
		回遊性	クルーズ船とビーチレジャーを組み合わせると楽しみが出るのではないかと。 クルーズ船等がきっかけで水産が潤うなど間接的な効果も含まれるのか。 糸川から商店街へ人を呼び込むことが必要である。 街歩きルートの設定とPR（神社と七湯めぐりの有効活用、温泉玉子、大湯）が必要である。 港の奥までの動線を確保する。 コンビニなどをレンタルサイクルステーションにする。 駅ビル（ラスカ）がお客さんを独り占めしており、周辺の商店街がさびれている。 海岸は駅前に比べて利便性がない。 駅周辺から海をのぞめるビューポイントが整理されているとよい。 湾奥部が淋しい。漁港風景は魅力的。もっと人が行けるように		
		誘致	海からの来訪客層を十分研究した誘致活動をしてほしい。		
		その他	商店街が温泉発祥の地ということが歩いていてもわからない。 まちのイメージは、今ある雰囲気の延長線でよい。		
		課題（防波堤での商売）	防潮堤の上で商売ができるよう規制緩和が必要である。		
		水産業活性化	漁業基地機能	設備（給油所）	第4工区あたりに漁港もマリーナも一般も使える給油所を設置してほしい。 給油の利益が漁協に入る仕組みがあってもよいのではないかと。
				設備（製氷）	製氷業を。イベント時も氷の需要がある。
				設備（その他）	定期船発着所とフィッシャーマンズワープ施設を一体的に整備する必要がある。魚市場の臨港移転、フィッシャーマンズワープ整備に期待・賛成する。

項目		意見・提案			
水産業活性化	漁業基地機能	集客施設	<p>漁師食堂。ある意味殿様商売的である。</p> <p>定期船発着所。フィッシャーマンズワーフと一体化し協力体制を作る。</p> <p>フィッシャーマンズワーフについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規模が不明</li> <li>・具体的な計画を描くべき</li> <li>・大規模なものが好ましい</li> <li>・流通販売はその分野のプロに任せたい。</li> <li>・漁師食堂は、現在の5軒の経営を維持させたい。</li> <li>・事務所や会議・研修のためにもスペースも確保したい。</li> <li>・網干場や陸上作業のためのスペースも必要。</li> <li>・予めメニューを決めるのではなく、その日揚げた魚を客に提供する形態にしたい。</li> <li>・朝市が開けるとよい。</li> </ul> <p>フィッシャーマンズワーフは網代では盛り上がらなかった。</p> <p>魚市場の魚祭りを、回数を増やしさらに充実させたい。</p> <p>魚の香り、姿がみえる港にしたい。</p> <p>地元魚が地元でうまく流通していない。「獲る～食べる」のマッチングができるとよい。</p> <p>旅館・ホテルがセリ権を得られるようにしたらどうか（制度上、仲買人は入る）。</p> <p>準備として、既存施設を活用した取組み（浜焼き、バーガー等の試行販売等）に着手することには賛成する。実際の事業を通じて運営体制もみえてくる。</p> <p>クルーズ船客も港町で美味しい鮮魚を食べたい</p>		
		意見（施設整備）	湾奥、埋め立ててほしい		
		地産地消のしくみ	集客施設	<p>供給側の都合で販売することは可能。獲れたもので勝負。成功している例もある。</p> <p>船着き場～F W～魚市場～漁船溜まり～海業が一体となって賑わいを形成し、地産地消により市全体が魅力アップする機会にできるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そのために、関係者が集い話しあっていきたい</li> <li>・人材育成が大事（供給が不安定な熱海の地魚を柔軟に料理して提供、ニーズに合った料理メニュー開発、もてなし 等）</li> </ul>	
			その他	熱海産の対象範囲	
		その他	人材	熱海産の対象範囲	熱海産は量的にみて限りがある。地魚の括りを伊豆半島、相模湾に広げたい。
				人材	<p>人口が増えないと観光客が増えても人手不足になっている。人材を育てることが重要。</p> <p>人手不足により営業時間にしわ寄せ。</p> <p>仕入れ、人手不足が追いついていない現実がある。</p> <p>観光客増で地元の従業員の昼食に影響が出ている。</p> <p>熱海を愛する人を増やし、つながりたい。</p>

## 6) 賑わい創出にかかる課題の整理

熱海港の賑わいを創出するためには、現在、熱海駅や観光施設周辺にいる観光客に熱海港まで来てもらう必要があります、そのためには熱海駅や観光施設から街中を介し、海沿いから熱海港や港の先端までの各エリアに魅力的な施設・コンテンツが配置されていることがのぞまれる。また、熱海市までの交通手段として約25%は自家用車であることから、熱海駅を利用しない観光客が熱海港を訪れ、街中を回遊して駅まで移動するために、エリア間での回遊や各エリアの賑わいの連携による、熱海全体の賑わいの創出が必要と考える。図 II. 1. 6 2 に賑わい創出のシナリオを示す。

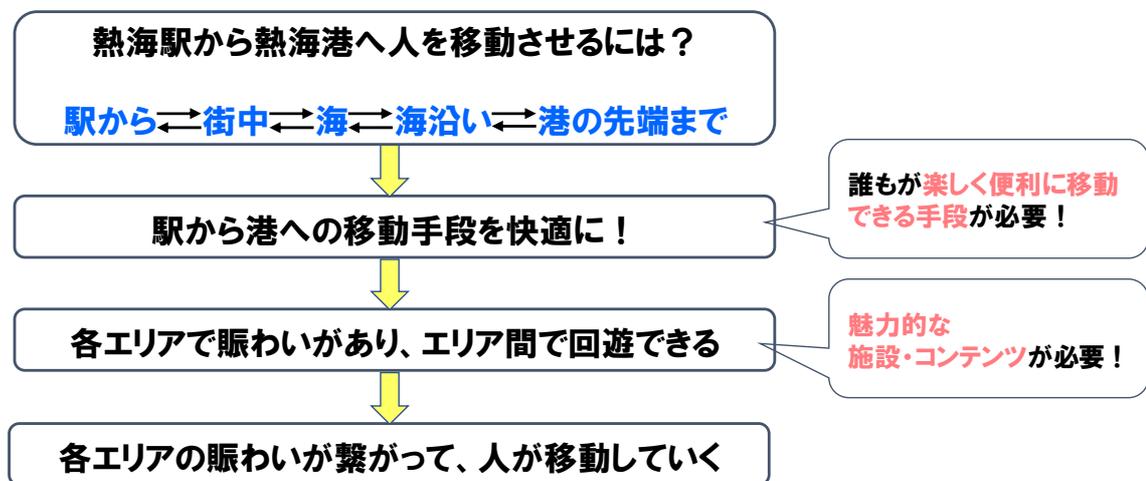


図 II. 1. 6 2 熱海港賑わい創出シナリオ

表 II. 1. 18 賑わい創出に係る課題

問題点		課題	
観光振興	観光施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅から海までの観光施設が点在している</li> <li>・ 海辺に観光施設や飲食店がない</li> <li>・ インバウンドに対応したナイト施設が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅から海までのエリアにおける賑わい施設の整備</li> <li>・ 海辺に隣接するエリアの景観向上</li> <li>・ まち歩きを楽しめる空間の整備</li> </ul>
	コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビーチや親水公園を周年利用するためのイベントが少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間を通じたイベント企画の立案</li> <li>・ 街中の観光施設を活かした回遊ルートの開発</li> <li>・ サンビーチから和田浜エリアにおける海辺の賑わい動線の創出</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渚町へ人を呼び込むための店舗や取組みが少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光客が気軽に立ち寄れるような店舗（屋台、食べ歩きショップ等）の設置</li> <li>・ 海岸と一体的な雰囲気を通りや店舗設置</li> <li>・ まちの統一感づくり</li> <li>・ 災害に強いまちづくり</li> </ul>
水産業活性化	漁業基地機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バース機能がない</li> <li>・ 荷捌所等の漁港機能がない</li> <li>・ 魚市場等の集客施設が港にない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水産総合施設の整備</li> </ul>
	埋立地・湾奥部の老朽化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在港にある係留施設や漁師食堂等の施設の老朽化</li> </ul>	
	地産地消のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地魚へのニーズはあるが流通経路が確立しておらず、地元魚が地元うまく流通していない（域外流出）</li> <li>・ 少量多品種供給を生かせていない（域外調達）</li> <li>・ 熱海の魚が周知されていない</li> <li>・ 集客が少ないため店舗の開店時間が短い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地魚を市内へめぐらす仕組みの整備</li> <li>・ 地域産業へ触れる機会の充実</li> </ul>

## II. 2 港湾エリアの現状と課題の整理

### 1) クルーズ船の寄港状況

近年の熱海港へのクルーズ船の寄港状況を表 II. 2. 1 に示す。年間 1 回～2 回の寄港実績（にっぽん丸）がある。

表 II. 2. 1 クルーズ船の寄港実績

年	入港	出港	船名	前港	次港	係留施設名
H25	7/28	7/28	にっぽん丸	茨城／大洗	茨城／大洗	-7.5m 耐震岸壁
H27	7/26	7/26	にっぽん丸	大洗	大洗	-7.5m 耐震岸壁
H28	7/24	7/24	にっぽん丸	鳥羽	横浜	-7.5m 耐震岸壁
H28	9/16	9/16	にっぽん丸	清水	宮古	-7.5m 耐震岸壁
H29	7/23	7/23	にっぽん丸	—	仙台	-7.5m 耐震岸壁

出典：国土交通省中部地方整備局港湾航空部「クルーズ振興」、H29 年実績は静岡新聞記事



図 II. 2. 1 クルーズ船の寄港（にっぽん丸）

## 2) 既存の定期船等

熱海港と初島や大島との間には定期船や遊覧船が運行されている。漁船が港の奥部に、レジャーボート（ヨット等）がマリーナに係留されている。また、作業船が-7.5m岸壁の西側に係留されている。既存の定期船等の現状を表 II. 2. 2に示す。既存の定期船等の係留水域を図 II. 2. 2に示す。

表 II. 2. 2 既存の定期船等の現状

		現状
定期船	熱海港－初島間	1日に10便程度運行されている。 (往復60分程度)
	熱海港－大島間	1日に1便運行されている。 (往復90分程度)
遊覧船	熱海港周辺海域を遊覧	1日に10便程度運行されている。 (遊覧時間30分程度)
漁船		港の奥部に20隻程度係留されている。
レジャーボート（ヨット等）		渚町前面の海域に係留されている。 (スパマリーナ熱海)
作業船		-7.5m岸壁の西側に係留されている。

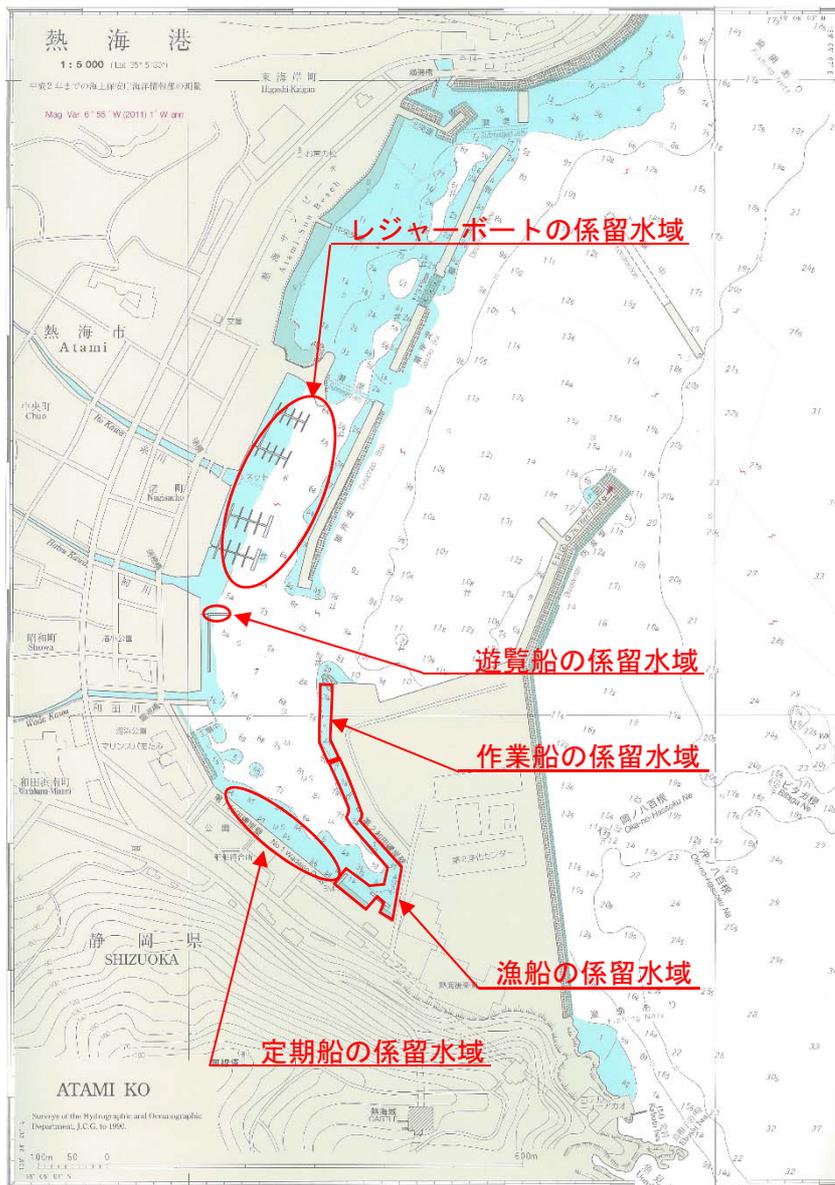


図 II. 2. 2 既存の定期船等の係留水域



熱海港と初島や大島との間の定期船



遊覧船



漁船



レジャーボート（ヨット等）



作業船

図 II. 2. 3 熱海港における定期船等の現況

### 3) 堤防計画

堤防（海岸保全施設）は渚地区まで計画があり、整備が進められている。それより南側には堤防の計画はないため、津波来襲時には避難する必要がある。

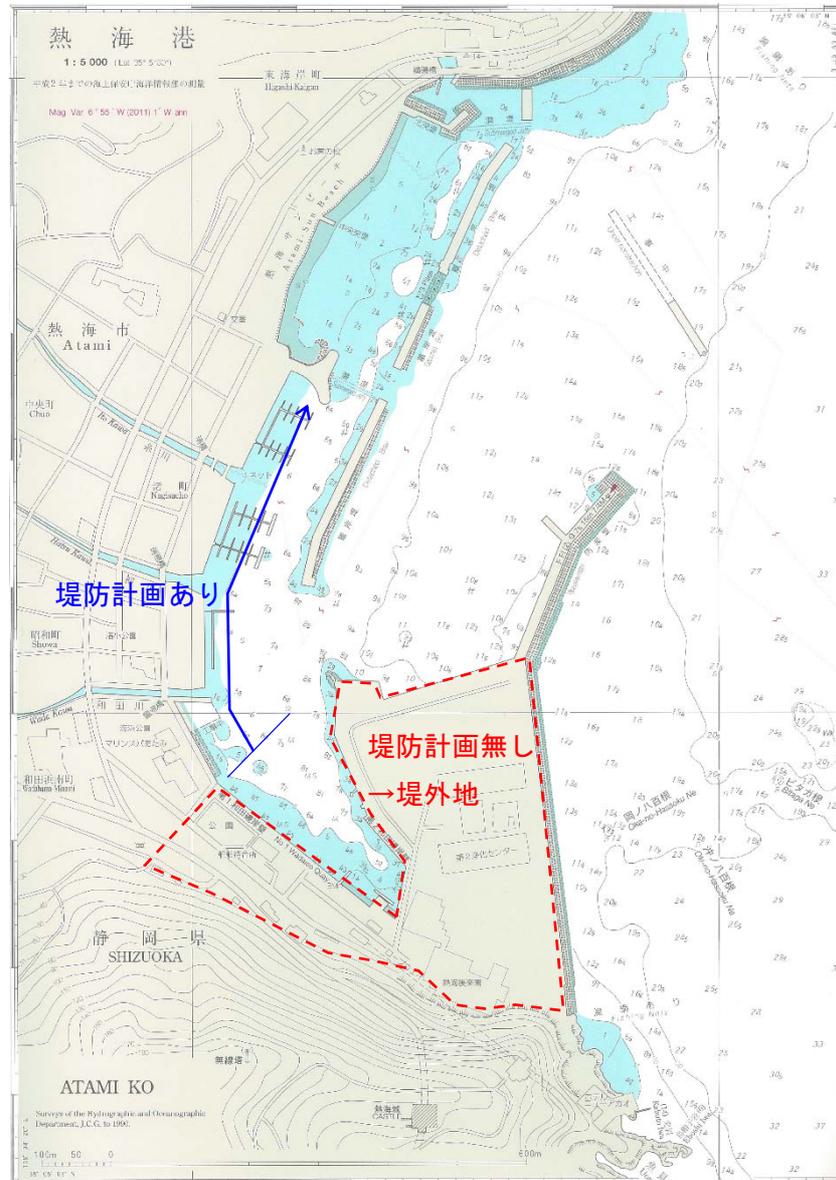


図 II. 2. 4 熱海港の堤防計画

#### 4) 港湾整備に係るニーズ（地域意見）

港湾整備に係るニーズ（地域意見）をヒアリングおよびワークショップを通じて把握した。港湾に係る（地域意見）を表 II. 2. 3 に示す。

表 II. 2. 3 港湾整備に係るニーズ（地域意見）

区分	港湾整備に係るニーズ
船舶利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港内の静穏度を高めてほしい。そのためには北防波堤の整備が必要である。</li> <li>・クルーズ船の誘致には-7.5m 岸壁の整備が必要である。</li> <li>・ラグジュアリーなクルーズ船やスーパーヨット等の誘致がのぞましい。</li> <li>・現在の熱海港の施設で受入可能な資産価値の高い船・ヨットが常にある状況をつくりたい。</li> <li>・タグボートを必要としない着岸がのぞましい。</li> <li>・景観が向上するため、クルーズ船にこだわらずいろいろな船（自衛隊の船等）の誘致がのぞましい。</li> </ul>
背後地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・背後地の整備を優先し、その価値を高める。その後、北防波堤等の外郭施設の整備とする方向で考えたい。</li> <li>・防波堤等の外郭施設は操船の支障にならない程度にとどめておくことがのぞましい。</li> <li>・クルーズ船の誘致と関連して、市場、飲食施設、船舶への給油施設等を整備する必要がある。</li> <li>・集客施設が点在しているため、港の機能を集約する必要がある。</li> <li>・港から国道までの出口の渋滞を解消してほしい。</li> <li>・-7.5m 岸壁の背後地に、賑わい創出の観点から客船ターミナルを兼ねたシンボリックな建物の整備がのぞましい。</li> <li>・賑わい創出の観点から人の動線や施設整備は港の奥部までを対象とする必要がある。</li> </ul>
レクリエーション利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間の街の歩行やライトアップ等を目的とした照明を整備してほしい。</li> <li>・釣り施設にバーベキュー等が可能な飲食施設がほしい。</li> <li>・漁港や市場の様子を見ながら魚を食べられる施設が必要である。</li> <li>・市場と飲食施設が一体化された施設（フィッシャーマンズワーフ等）が必要である。</li> <li>・ビーチを有料にしてシャワー施設等を積極整備したい。</li> <li>・クルーズ船客を熱海にとどまらせる施設が必要である。</li> </ul>
防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海釣り公園から後樂園ホテルまでは距離があるので、津波時の避難を考慮した施設整備がのぞましい。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港の奥部を埋め立ててほしい。</li> <li>・市場を港に近い位置に移動したい。</li> <li>・ヘリポートは誰でも使えるようにしてほしい。</li> <li>・受入施設の整備は出来るだけ小さく、既存施設を有効活用することがのぞましい。</li> </ul>

## 5) 港湾エリアの課題の整理

ヒアリングおよびワークショップ等を通じて港湾エリアの現状（強みや弱み）を整理し、現状をふまえた課題を抽出した。

表 II. 2. 4 港湾エリアの現状の整理結果

	強み	弱み
船舶利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>港が消費地に近い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防波堤と離岸堤に挟まれた水域が玄関口で、港の奥部も水域が狭い。</li> <li>防波堤の外側は水深が深く泊地に向いていない。</li> <li>港内の静穏度が確保されていない。</li> <li>マリーナの容量が不足している。</li> <li>ヨットや漁船に給油施設が無い。</li> <li>漁港施設が無い。</li> </ul>
背後地利用	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>集客施設（定期船、遊覧船、港の奥部の食堂）が点在している。</li> <li>市場が港から離れている。</li> <li>港から国道までの出口が渋滞する。</li> </ul>
レクリエーション利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>坂の町で海からの景観が美しい。</li> <li>定期船（初島および伊豆大島）、遊覧船、マリーナがあり多様な魅力がある。</li> <li>伊豆半島ジオパークがある。西海岸の景観（夕日を望む駿河湾等）は特に美しい。</li> <li>海釣り施設として開放している防波堤がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ船客が熱海にとどまらない。また、クルーズ船の寄港が増えない。</li> </ul>
防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>-7.5m 岸壁背後にスペースがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋立地が堤外地となっており、津波時に避難する必要がある。津波来襲まで3分しかない。</li> </ul> <p>※避難速度は1m/s程度（歩行困難者等はその半分程度）である。避難開始時間や昇降時間を考慮すると、避難可能距離は100m程度である。（【参考：避難可能距離の算定式】を参照）</p>

表 II. 2. 5 港湾エリアの課題

問題点		課題
船舶利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防波堤と離岸堤に挟まれた水域が玄関口で、港の奥部も水域が狭い。</li> <li>・防波堤の外側は水深が深く泊地に向いていない。</li> <li>・港内の静穏度が確保されていない。</li> <li>・マリーナの容量が不足している。</li> <li>・ヨットや漁船に給油施設が無い。</li> <li>・漁港施設が無い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海からの美しい景観、定期船、遊覧船、マリーナ等の多様な魅力を生かして地域経済活性化を図る。</li> <li>・漁港機能を付加して、地元の魚の魅力を生かせる港とする。</li> <li>・堤外地である埋立地においてクルーズ船客や釣り客が津波来襲時に避難できるようにする。</li> <li>・港から国道への道路の渋滞を解消する。</li> </ul>
背後地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集客施設（定期船、遊覧船、港の奥部の食堂）が点在している。</li> <li>・市場が港から離れている。</li> <li>・港から国道までの出口が渋滞する。</li> </ul>	
レクリエーション利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ船客が熱海にとどまらない。</li> <li>また、クルーズ船の寄港が増えない。</li> </ul>	
防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋立地が堤外地となっており、津波時に避難する必要がある。津波来襲まで3分しかない。</li> </ul> <p>※避難速度は1m/s程度（歩行困難者等はその半分程度）である。避難開始時間や昇降時間を考慮すると、避難可能距離は100m程度である。（【参考：避難可能距離の算定式】を参照）</p>	

【参考：避難可能距離の算定式】

<避難可能距離 の算定式>

$$\text{避難可能距離 } L1 = \text{歩行速度 } P1 \times (\text{津波到達予想時間 } T - t1 - t2)$$

(m)                      (m/秒)                      (秒)

ここに、

<b>【歩行速度 P1】</b>	1.0m/秒を想定。ただし、港湾関係者・漁業関係者は、歩行速度がこれよりも速くなる可能性があることから、各港湾関係者、漁業関係者を対象とした調査結果を基に歩行速度を上げて良い。詳細は、2.4.4 を参照。一方、対象者に歩行困難者、身体障害者、乳幼児、重病人等が存在する可能性がある場所については、さらに歩行速度が低下する(0.5m/秒)ことを考慮する必要がある。 <sup>※1</sup>
<b>【津波到達予想時間 T】</b>	第4次地震被害想定シミュレーション結果より、適切に設定する。
<b>【避難開始時間 t1】</b>	地震の揺れが震度5弱以下となった時刻を避難開始時間とする。(表2-5参照)  <b>【参考】</b> 静岡県内の港湾・漁港において地震動加速度波形(地表面波)から震度5弱以下になる時刻を避難開始時間として算出したところ、おおよそ2分30秒となった。(巻末資料参照)
<b>【昇降時間 t2】</b>	昇降時間(高台や高層階等まで上がるのにかかる時間)については、「最大浸水深 H (m) + 余裕高」÷「昇降速度 P2 (m/秒)」で求める。「最大浸水深 H (m)」は津波シミュレーション結果等から設定する。昇降速度は 0.21 (m/秒) (老人昇降速度)を目安とする。 <sup>※2</sup>

※1 津波避難対策推進マニュアル検討会報告書 平成25年3月 消防庁 参照

※2 「障害者を考慮した住宅団地の研究(その1)歩行行動からみた障壁の分析」  
日本建築学会大会学術講演梗概集 別冊 建築計画・農村計画(1980年) 参照

「静岡県“みなと津波避難タワー”設計手引書(案)」より抜粋

## II.3 交通・人の動線の現状と課題の整理

交通・人の動線に係る課題は、下記の観光交通、渋滞、歩行者経路、公共交通、駐車場、地域のニーズについて調査あるいは既往データの解析結果を踏まえて整理した。

項目		使用データ・出典等	結果概要
観光交通	観光客の実態、動線	熱海市観光動線実態調査 (アンケート)	pⅡ-90
	観光客の動線 ・市全域での500mメッシュにおける流動人口(観光客、地元民、季節変動) ・観光地等における流動人口の時間変化 ・居住地別来訪状況 ・市内移動	モバイルビッグデータ (株式会社ゼンリンデータコム『混雑統計®』)	pⅡ-102~104 pⅡ-141, 142 pⅡ-145 pⅡ-150, 151 pⅡ-158, 163, 166, 169
道路渋滞	・自動車、歩行者の交通量 ・混雑状況、渋滞状況 ・交通事故発生状況	道路交通センサス 熱海市商工会議所調査 熱海市統計 ナビタイムジャパン	pⅡ-177, 184
歩行者経路	整備状況	現地調査	pⅡ-186
公共交通利用状況	バス等	熱海市統計書 熱海市観光動線実態調査	pⅡ-190
公共駐車場	配置、利用状況	熱海市統計書	pⅡ-192
地域意見	—	ヒアリング調査、熱海港客船誘致委員会	pⅡ-193 pⅡ-195~203

### 1) 熱海市における観光交通特性

#### (1) 熱海市観光動線実態調査結果の分析結果 (H27年(2015年)調査)

##### ① 目的

熱海市観光動線実態調査結果の分析結果 (H27年[2015年]調査) を用いて観光客の行動および動態を把握し、熱海市の観光交通の実態を把握する。

##### ② 分析項目

- 交通手段×居住地
- 年齢×旅行形態
- 年齢×来遊回数
- 年齢×熱海市までの交通手段
- 熱海市までの交通手段×旅行形態
- 熱海市までの交通手段×熱海市内の移動手段
- 熱海市内の移動手段×訪問箇所数
- 熱海市内の移動手段×選択した場所
- 熱海市までの交通手段×熱海市以外の訪問地
- 熱海市までの交通手段×訪問目的

## 参考資料（アンケート調査の概要）

### I. 調査の概要

#### 1. 調査目的

「熱海市観光ブランド・プロモーション事業」（3カ年計画の3年目）の一環として、観光客の実態および動線を調査し、観光による地域活性化の指針立案に役立てる。

#### 2. 調査方法

(1)調査対象：熱海市を訪れた観光客

(2)調査期間：2016年1月23日（土）および24日（日）

(3)調査地点

梅園、来宮神社<sup>1</sup>、起雲閣、海岸線（サンビーチ付近）、駅前付近の市内5か所

(4)実施方法：調査員による無作為抽出（1グループ1枚を基本に回収）で、質問票調査（自計方式を基本とするが、一部対面聞き取り方式をとる）を実施

#### 3. 調査時および回収の状況

調査日には、「第72回梅まつり（1月9日～3月6日）」および「第6回糸川桜まつり（1月23日～2月14日）」が開催されており、例年より早く、早咲きの梅と熱海桜が見ごろを迎え、梅と桜の両方を楽しむ人たちがでにぎわっていた。天候にはあまり恵まれず寒い日ではあったが、梅園や来宮神社、駅前付近は多くの人出があり、順調に質問票の回収を行うことができた。

質問票の回収枚数は635枚、このうち途中までしか回答されていないもの（7枚）や外国人（5枚：出身がシンガポール、中国、香港、マレーシアの4名の外国人とカナダから一時帰国中の日本人1名）からのものを除いた有効回答は623枚であった【表1参照】。ただし、すべての質問項目に回答されている完全有効回答<sup>2</sup>は567枚であった。有効回答623枚のうち、各質問項目の無回答数は、「資料1：集計結果」の各項に示す。

表1. 質問票の有効回答数

調査地点	1月23日	1月24日	合計
駅前	66	66	132
海岸線	60	58	118
起雲閣	55	59	114
梅園	61	64	125
来宮神社	68	66	134
合計	310	313	623

<sup>1</sup> 来宮神社への来遊者が増えていることから、新たに調査地点として追加した。

<sup>2</sup> 項目12(3)の宿泊施設の印象、項目14の訪問先の選択方法、項目16の熱海の飲食店の印象、項目18の熱海再訪の意向については、これから観光する回答者もいたため、完全有効回答数の算定から省いた。さらに、項目17の市内での1人当たり予算の宿泊費以外は、無回答か、予算金額0円かが不明のため完全有効回答数の算定から省いた。また、その他等の記述のみが無回答の場合も、完全有効回答として扱った。

### ③ 分析結果概要

分析結果概要を表 II. 3. 1 に示す。

表 II. 3. 1 熱海市観光動線実態調査報告書分析結果概要

	熱海観光の特徴等
居住地	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱海へ訪れる観光客の居住地は、「東京都」、「神奈川県」、「埼玉県」、「静岡県」、「千葉県」の近隣の1都4県で83%を占めている。</li> <li>居住地を熱海までの交通手段別にみると、関東及び中部の近隣地域は「JR在来線」が最も多く、次いで「自家用車」が多い。</li> <li>東北や関西などの遠隔地域は「新幹線」利用が大半を占めている。</li> </ul> <p>⇒熱海観光においては、「首都圏に近接し、公共交通の利便性に優れる」といった地域特性が活かされている。</p>
旅行形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱海観光を支える主要な顧客層は、「夫婦・カップル」、「家族旅行」、「女性小グループ」の3つ。</li> <li>「夫婦・カップル」は、10代を除き、いずれの年代においても最も多い。</li> <li>「家族旅行」は、10代が突出して多いほか、30代及び40代にピークがある。</li> <li>「女性小グループ」は、20代において27%と最も多く、30代以降も10%代をキープ。</li> </ul>
熱海市への来遊回数	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱海市への来遊回数は、「はじめて」が24%と最も多く、次いで「10回以上(23%)」、「5～9回(20%)」と続いている。</li> <li>リピーター率が76%と高く、しかも4回以上来遊の観光客が半数を占めることから、何度行っても楽しめる観光地であるといえる。</li> <li>熱海市への来遊回数を年代別にみると、年齢とともに来遊回数の増加傾向が認められる。</li> </ul> <p>⇒リピーター率が高い</p>
熱海市までの交通手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>■熱海市までの交通手段割合 <ul style="list-style-type: none"> <li>熱海市までの交通手段は、「JR在来線」が約半数を占めている。</li> <li>「新幹線(23%)」を含めると、7割以上が公共交通を利用。</li> <li>「自家用車」利用は、26%と比較的少ない。</li> </ul> </li> <li>■旅行形態との関連性 <ul style="list-style-type: none"> <li>熱海市までの交通手段において、「自家用車」を利用しているのは、「夫婦・カップル」および「家族旅行」に特化している。</li> <li>「女性小グループ」は、「新幹線」および「JR在来線」の利用が多い。</li> </ul> </li> <li>■熱海市内の移動手段との関連性 <ul style="list-style-type: none"> <li>「新幹線」及び「JR在来線」を利用した観光客では、「徒歩のみ」がそれぞれ35%、45%と最も多い。</li> <li>次いで「路線バス」が多い。</li> <li>熱海市まで「自家用車」で来訪した観光客は、その大半が熱海市内の移動においても「自家用車」を利用している。</li> </ul> </li> <li>■訪問箇所数との関連性 <ul style="list-style-type: none"> <li>熱海市内の移動手段別の平均訪問箇所数を比較すると、「湯～遊～バス」が4.4箇所と最も多く、一方、「自家用車」は3.4箇所と最も少ない。</li> <li>「レンタカー」、「路線バス」、「徒歩のみ」、「観光バス」、「タクシー」は、いずれも4箇所前後である。</li> </ul> </li> <li>■訪問目的 <ul style="list-style-type: none"> <li>熱海市までの交通手段別の訪問目的を比較すると、いずれの交通手段においても「温泉」が突出して第1位となっている。</li> <li>次いで「交通の便が良い」、「料理・味覚」、「景色・自然」等が続いている。これらは、「新幹線」、「JR在来線」、「自家用車」において共通した傾向である。</li> </ul> </li> <li>■日帰りの滞在時間 <ul style="list-style-type: none"> <li>熱海市までの交通手段と日帰りの滞在時間を比較すると、「JR在来線」が平均4.3時間と最も長く、次いで「新幹線(4.0時間)」、「自家用車(3.0時間)」、「観光バス(1.0時間)」の順となっている。</li> </ul> </li> </ul> <p>⇒「湯～遊～バス」は市内周遊観光の利便性向上に寄与している。(ただし、利用者は少ない)  ⇒「徒歩のみ」でも他の交通手段と遜色のない周遊観光が行われている。  ⇒熱海市内においては、「自家用車」よりも「徒歩のみ」もしくは「バス」利用による周遊観光が便利。  ⇒「温泉」が熱海観光の大きな魅力として捉えられている。今後より誘客・滞在時間の増大を図るためには、「温泉」のみに依存するのではなく、多様性のある魅力度の増大を図ることが重要と考えられる。  ⇒公共交通利用者の滞在時間が長い理由として、自家用車利用者特有の、帰宅時の交通渋滞や飲酒運転等の心配が無いことが考えられる。  ⇒観光消費額の増大を図る観点からは、自家用車よりも公共交通で来訪してもらうことがのぞましいと考えられる。</p>
熱海市以外への訪問地	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱海市以外への訪問者数(n=116)の割合は全体(n=623)の18.6%であった。</li> <li>訪問地は、「伊東市」が41%と最も多く、次いで「湯河原町」、「東伊豆町」、「箱根町」など熱海市周辺の都市に立寄っていることがうかがえる。</li> <li>交通手段別にみると、「自家用車」だけではなく、「新幹線」、「JR在来線」利用者も活発な周遊観光を行っていることがうかがえる。</li> <li>「JR在来線」及び「自家用車」では「伊東市」への訪問割合が高い。</li> <li>「新幹線」利用者は、伊豆地域以外では新幹線駅のある都市への立寄りが顕著である。</li> </ul>

#### ④ 分析結果

##### 【熱海市までの交通手段 × 居住地】

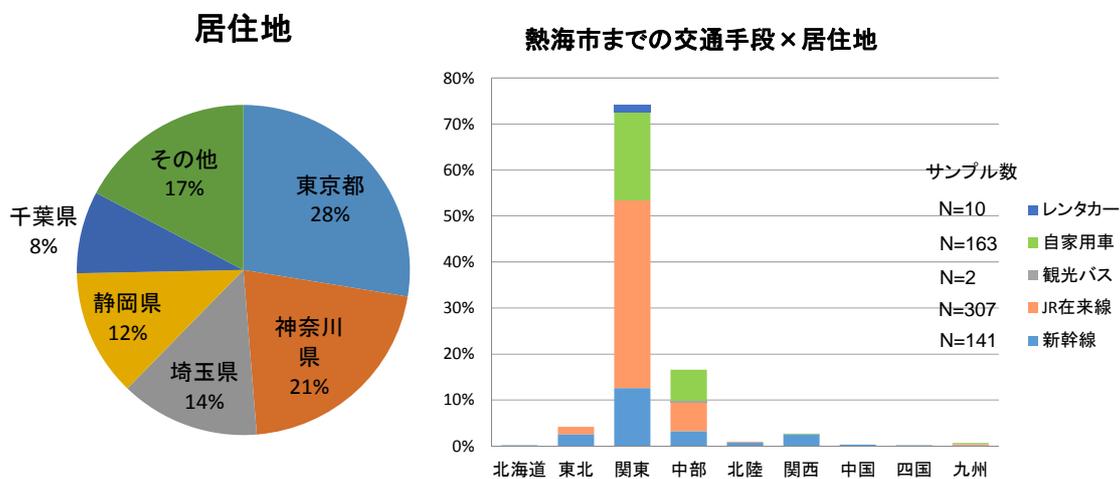
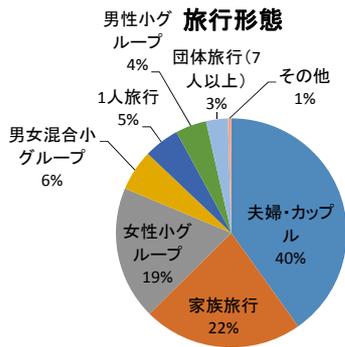


図 II. 3. 1 熱海市までの交通手段と居住地

- 熱海へ訪れる観光客の居住地は、「東京都」、「神奈川県」、「埼玉県」、「静岡県」、「千葉県」の近隣の1都4県で83%を占めている。
  - 居住地を熱海までの交通手段別にみると、関東および中部の近隣地域は「JR在来線」が最も多く、次いで「自家用車」が多い。
  - 東北や関西などの遠隔地域は「新幹線」利用が大半を占めている。
- 熱海観光においては、「首都圏に近接し、公共交通の利便性に優れる」といった地域特性が活かされている。

【年齢 × 旅行形態】



年齢 × 旅行形態

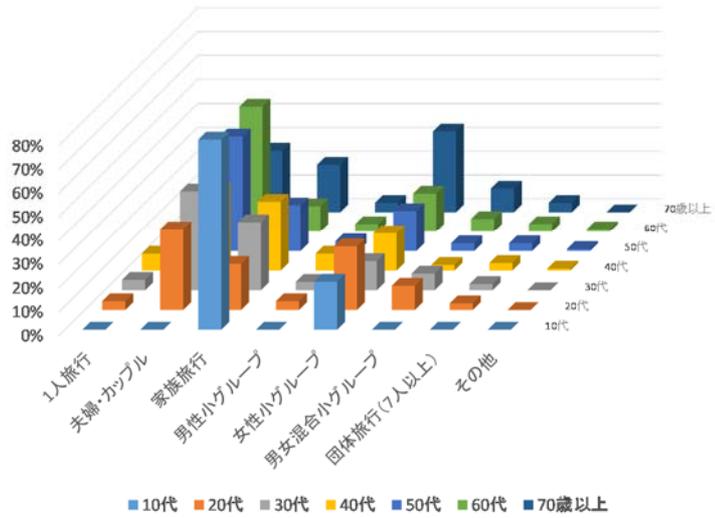
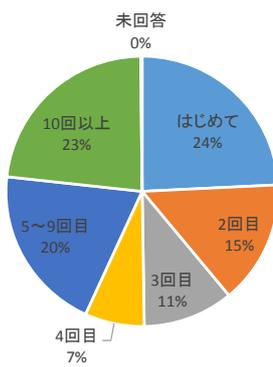


図 II. 3. 2 年齢と旅行形態

- 熱海観光を支える主要な顧客層は、「夫婦・カップル」、「家族旅行」、「女性小グループ」の3つ。
- 「夫婦・カップル」は、10代を除き、いずれの年代においても最も多い。
- 「家族旅行」は、10代が突出して多いほか、30代および40代にピークがある。
- 「女性小グループ」は、20代において27%と最も多く、30代以降も10%代をキープ。

【年齢 × 来遊回数】

熱海市への来遊回数



年齢 × 来遊回数

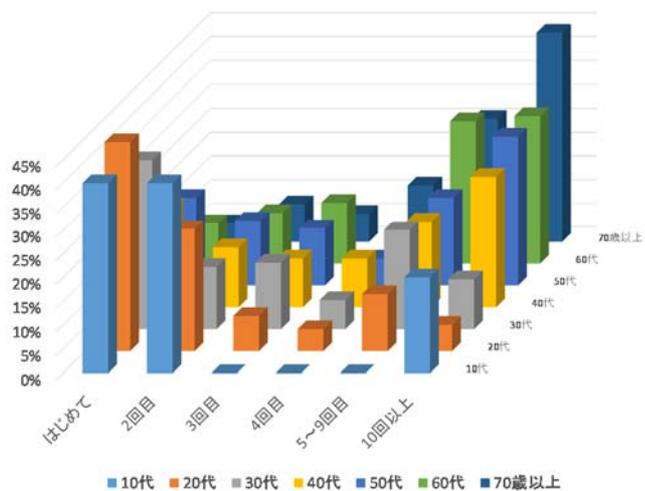
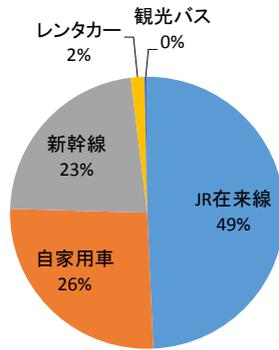


図 II. 3. 3 年齢と来遊回数

- 熱海市への来遊回数は、「はじめて」が24%と最も多く、次いで「10回以上(23%)」、「5~9回(20%)」と続いている。
- リピーター率が76%と高く、しかも4回以上来遊の観光客が半数を占めることから、何度行っても楽しめる観光地であるといえる。
- 熱海市への来遊回数を年代別にみると、年齢とともに来遊回数の増加傾向が認められる。

【年齢 × 熱海市までの交通手段】

熱海市までの交通手段



年齢×熱海市までの交通手段

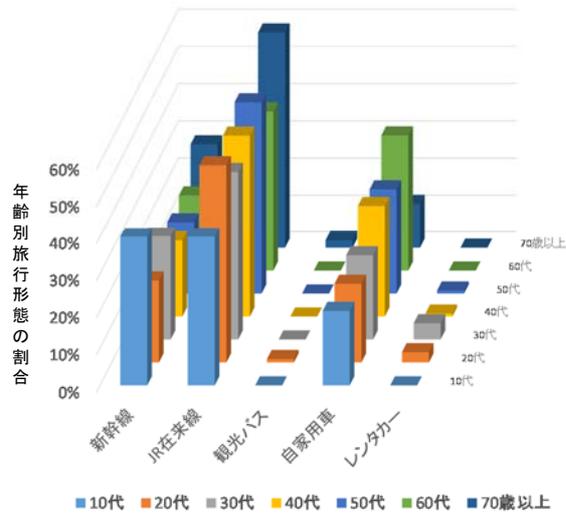


図 II. 3. 4 年齢と交通手段（熱海市まで）

- 熱海市までの交通手段は、「JR 在来線」が約半数を占めている。
- 「新幹線（23%）」を含めると、7 割以上が公共交通を利用。
- 「自家用車」利用は、26%と比較的少ない。
- 熱海市までの交通手段を年代別にみると、年代による大きな差異は認められない。

【熱海市までの交通手段 × 旅行形態】

熱海市までの交通手段×旅行形態

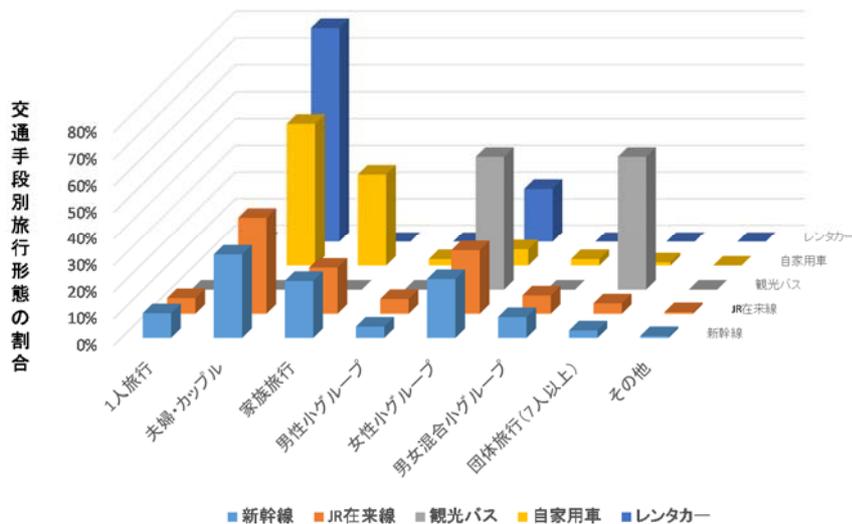


図 II. 3. 5 熱海市までの交通手段と旅行形態

- 熱海市までの交通手段において、「自家用車」を利用しているのは、「夫婦・カップル」および「家族旅行」に特化している。
- 「女性小グループ」は、「新幹線」および「JR 在来線」の利用が多い。

【熱海市までの交通手段 × 熱海市内の移動手段】

熱海市までの交通手段 × 熱海市内の移動手段

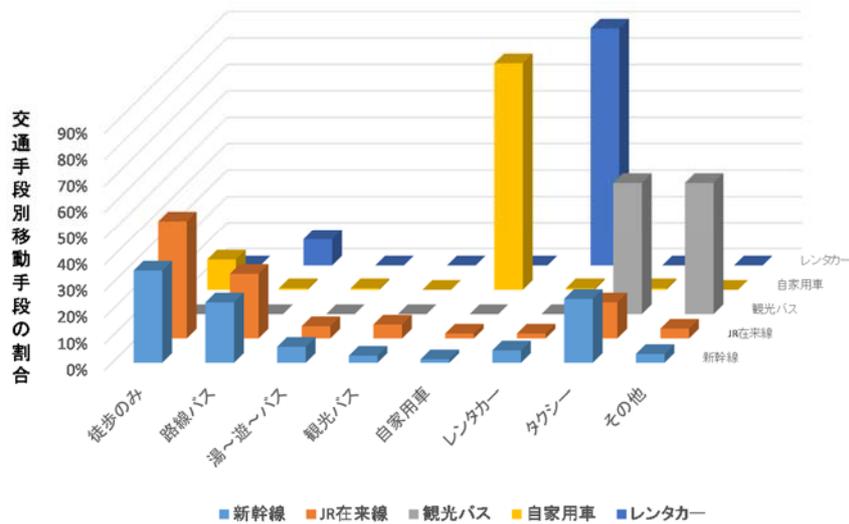
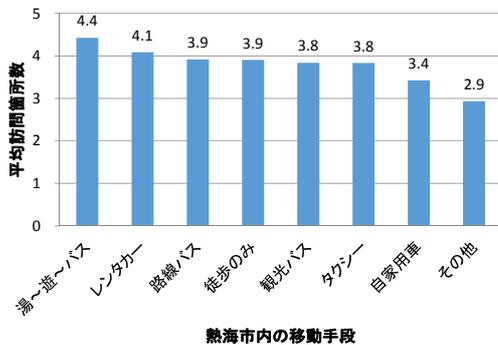


図 II. 3. 6 熱海市までの交通手段と市内の移動手段

- 熱海市まで「新幹線」および「JR在来線」を利用した観光客では、「徒歩のみ」がそれぞれ35%、45%と最も多い。次いで「路線バス」が多い。
- 熱海市まで「自家用車」で来訪した観光客は、その大半が熱海市内の移動においても「自家用車」を利用している。

【熱海市内の移動手段 × 訪問箇所数】

熱海市内の移動手段別平均訪問箇所数



熱海市内の移動手段 × 訪問箇所数

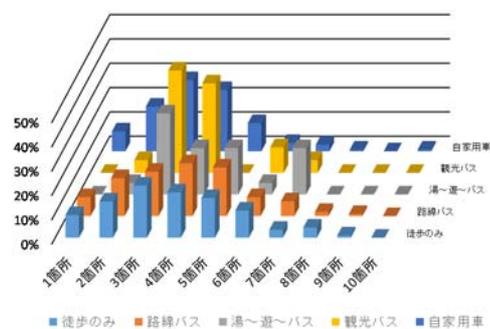


図 II. 3. 7 熱海市内の移動手段と訪問箇所数

- 熱海市内の移動手段別の平均訪問箇所数を比較すると、「湯～遊～バス」が4.4箇所と最も多く、一方、「自家用車」は3.4箇所と最も少ない。
- 「レンタカー」、「路線バス」、「徒歩のみ」、「観光バス」、「タクシー」は、いずれも4箇所前後である。
- 「湯～遊～バス」は市内周遊観光の利便性向上に寄与している。(ただし、利用者は少ない)
- 「徒歩のみ」でも他の交通手段と遜色のない周遊観光が行われている。
- 熱海市内においては、「自家用車」よりも「徒歩のみ」もしくは「バス」利用による周遊観光が多い。

【熱海市内の移動手段 × 選択した場所】

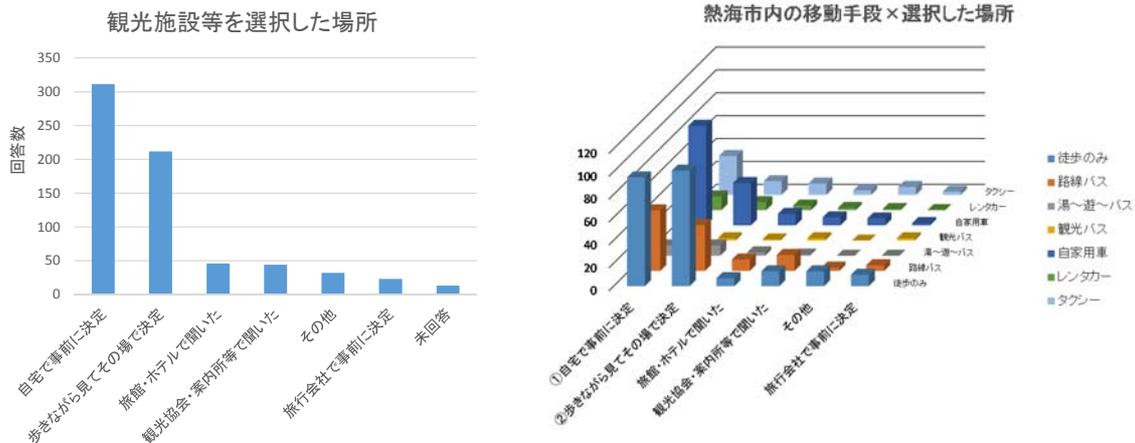


図 II. 3. 8 熱海市内の移動手段と選択場所

- 熱海を楽しむための観光施設、レストラン、ショップ等を選んだ場所については、「①自宅で事前に決定」が最も多く、次いで「②歩きながら見てその場で決定」が多い。この2つ以外は少数である。
- 熱海市内の移動手段別にみると、「自家用車」は「①」が「②」よりも2倍以上あることから、訪問先を事前に決めている傾向が窺える。
- 「路線バス」および「湯～遊～バス」は、「①」、「②」ともに同程度である。
- 一方、「徒歩のみ」では、「①」よりも「②」の方が多く、事前情報よりも現地での判断を重視している様子が窺える。
- 事前広報の充実を図るとともに、熱海市内における魅力ある拠点づくりやサイン計画等の対策により、来訪した観光客の周遊観光を促進させることが可能と考えられる。

【熱海市内の交通手段 × 熱海市以外の訪問地】

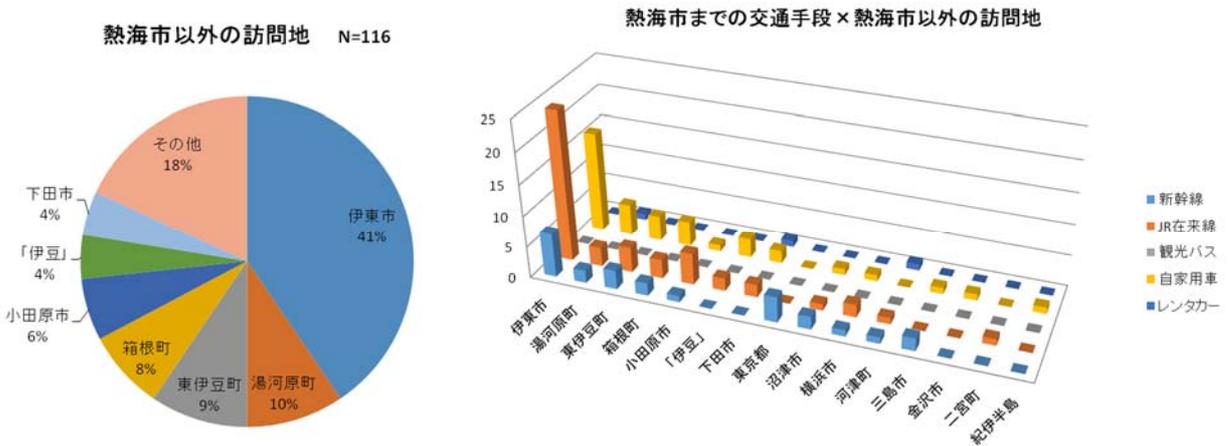


図 II. 3. 9 熱海市内の交通手段と熱海市以外の訪問地

- 熱海市以外への訪問者数 (n=116) の割合は全体 (n=623) の18.6%であった。
- 訪問地は、「伊東市」が41%と最も多く、次いで「湯河原町」、「東伊豆町」、「箱根町」など熱海市周辺の都市に立寄っていることが窺える。
- 交通手段別にみると、「自家用車」だけではなく、「新幹線」、「JR在来線」利用者も活発な周遊観光を行っていることが伺える。
- 「JR在来線」および「自家用車」では「伊東市」への訪問割合が高い。
- 「新幹線」利用者は、伊豆地域以外では新幹線駅のある都市への立寄りが高くなる。

【熱海市までの交通手段 × 訪問目的】

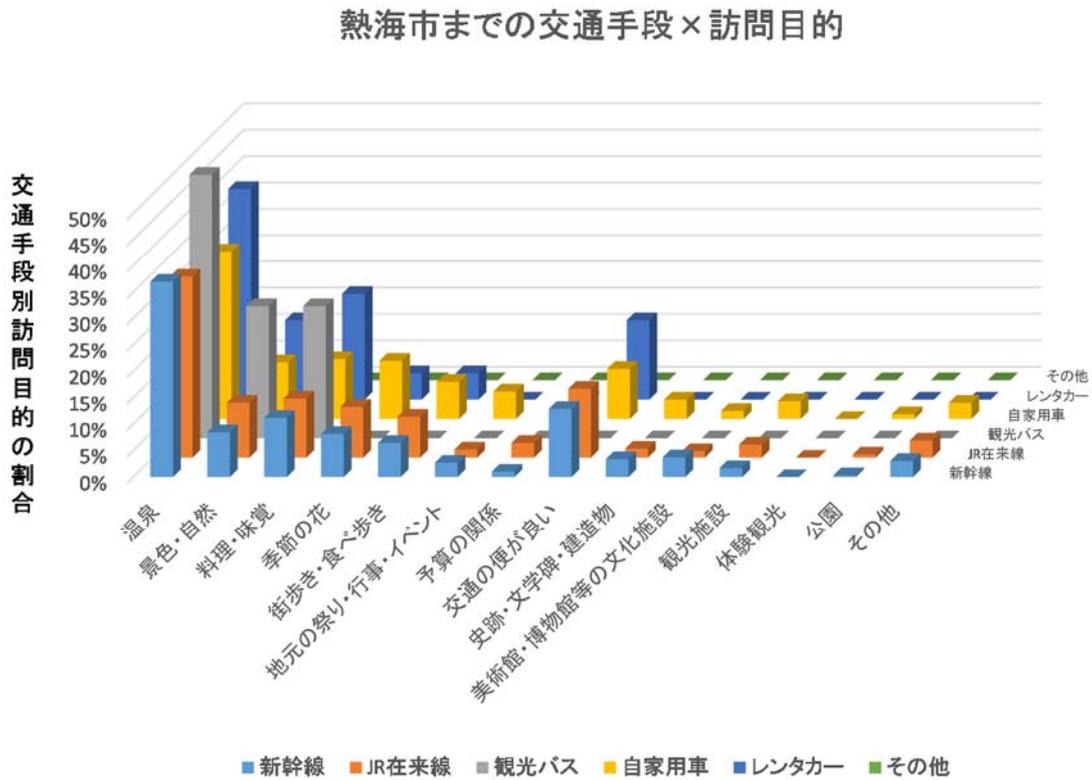


図 II. 3. 1 0 熱海市までの交通手段と訪問目的

- 熱海市までの交通手段別の訪問目的を比較すると、いずれの交通手段においても「温泉」が突出して第1位となっている。
- 次いで「交通の便が良い」、「料理・味覚」、「景色・自然」等が続いている。これらは、「新幹線」、「JR在来線」、「自家用車」において共通した傾向である。
- 「温泉」が熱海観光の大きな魅力として捉えられている。今後より誘客・滞在時間の増大を図るためには、「温泉」のみに依存するのではなく、多様性のある魅力度の増大を図ることが重要と考えられる。

## (2) モバイルビッグデータによる分析結果

### ① 目的

従来のアンケート調査結果による分析は、特定の時期の調査であり、サンプル数の確保や、年間を通じた状況を把握することが困難である。

観光客の行動および動態把握の客観性向上のため、従来のアンケート調査と比較して、より広範囲、長期間を対象とするモバイルビッグデータを用いてデータ分析を実施した。

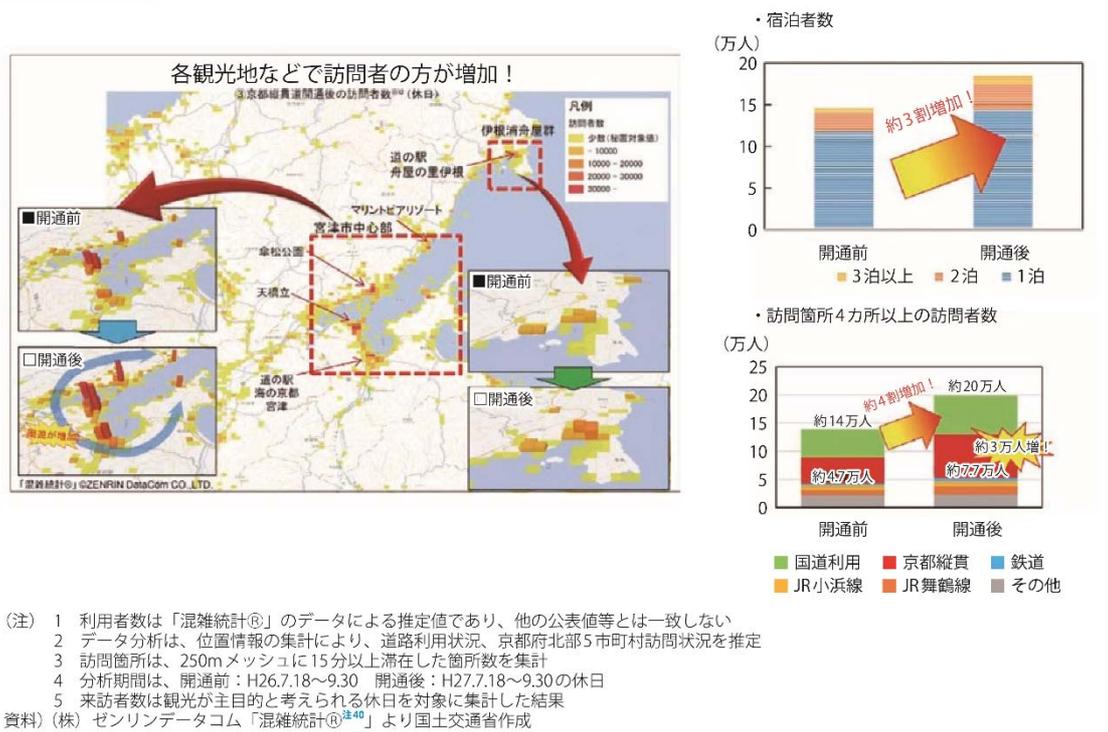
モバイルビッグデータとしては、国の報告書等で活用実績のある株式会社ゼンリンデータコムが提供する『混雑統計®』を用いた。

本データは、整備後に実施する整備効果検証の際の整備前データとしても活用が可能である。

以下、国土交通省において、本データを用いて、インフラのもたらすストック効果の分析事例として公表されている事例を示す。

### 参考資料

図表 2-1-41 京都縦貫道開通後の訪問者数、宿泊者数（休日）



出典：平成27年度 国土交通白書 2. ストック効果の「見える化」

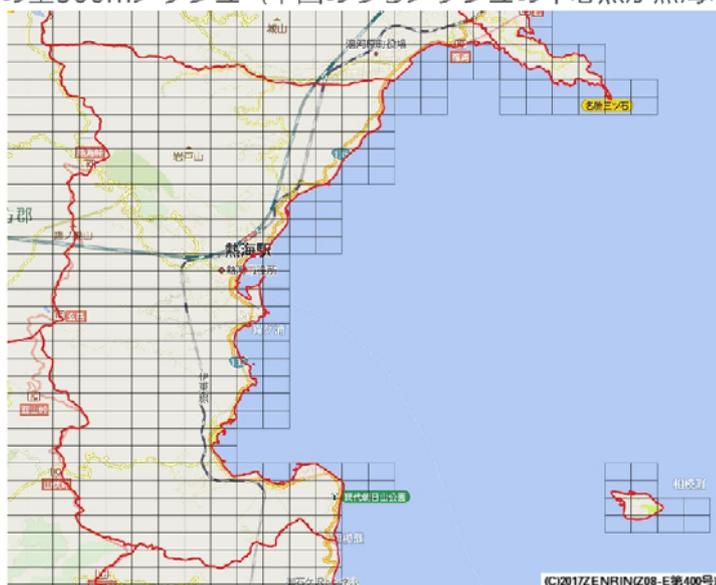
## ② データ概要、分析項目

「混雑統計<sup>®</sup>」データは、NTT ドコモが提供する「ドコモ地図ナビ」サービスのオート GPS 機能利用者より、利用許諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報を、総体的かつ統計的に加工を行ったデータである。

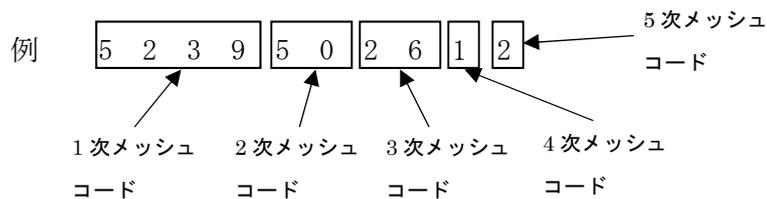
携帯電話、スマートフォンを保有するユーザーの位置情報は、最短 5 分毎に測位される GPS データ（緯度経度情報）であり、性別・年齢等の個人を特定する情報は含まれない。

### a. 集計エリア

- ・ 4 次メッシュについて、その中心点が熱海市内にあるもの
- ・ 熱海市内の全 500m メッシュ（下図のうちメッシュの中心点が熱海市内にあるもの）



※メッシュ番号について



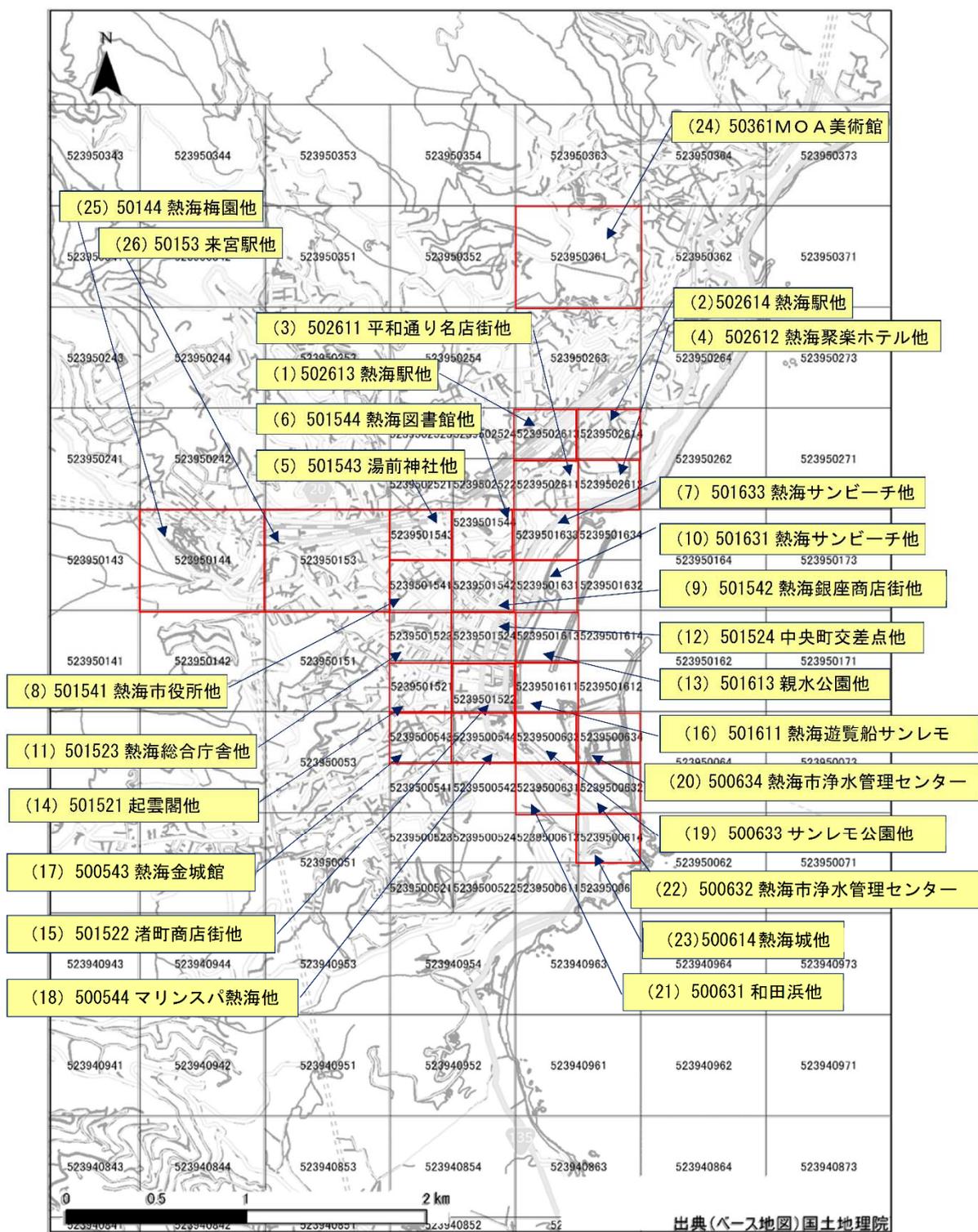


図 II. 3. 11 分析対象メッシュ位置図

b. 集計期間

- 平成 29 年 1 月～平成 29 年 12 月（1～3 月、4～6 月、7～9 月、10～12 月の 4 区分）

c. 集計対象

- 上記集計対象エリアのいずれかに集計期間中 15 分以上留まったサンプル

d. 集計上の定義等

- 「観光客」 or 「地元民」  
「観光客」・・・熱海市内に居住地と勤務地の双方を有しない  
「地元民」・・・熱海市内に居住地もしくは勤務地のいずれか 1 つ以上を有している
- 「滞在」の定義  
GPS の測位誤差範囲内に 15 分以上留まった場合、滞在与みなす
- 「宿泊」の定義  
午前 4 時をまたがる滞在を宿泊とみなす
- 「旅行形態」の定義  
旅程中に熱海市内で 1 回以上宿泊滞在した場合：宿泊旅行  
それ以外：非宿泊旅行
- 「居住地（大分類）」の分類  
東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、静岡県、その他

e. 集計条件

●集計 1-A：特定地域訪問者の居住地別旅程集計

表 II. 3. 2 熱海市内に滞在行动があったサンプルの居住地と旅行形態のデータ

訪問エリア	集計期間	平休日	旅行形態	地元民フラグ	居住地(大分類)	居住地	のべ推定(旅程)	推定UU	のべ(旅程)	UU
523931971	2017/1/1-2017/3/31(1~3月)	平日	非宿泊	観光客	東京都	府中市	NA	NA	NA	NA
523931971	2017/1/1-2017/3/31(1~3月)	平日	非宿泊	観光客	東京都	NA合算	NA	NA	NA	NA
523931972	2017/7/1-2017/9/30(7~9月)	休日	非宿泊	観光客	神奈川県	横浜市中区	NA	NA	NA	NA
523931972	2017/7/1-2017/9/30(7~9月)	休日	非宿泊	観光客	神奈川県	NA合算	NA	NA	NA	NA
523931982	2017/7/1-2017/9/30(7~9月)	休日	宿泊	観光客	神奈川県	横浜西区	NA	NA	NA	NA
523931982	2017/7/1-2017/9/30(7~9月)	休日	宿泊	観光客	神奈川県	NA合算	NA	NA	NA	NA
523931991	2017/10/1-2017/12/31(10~12月)	平日	非宿泊	観光客	神奈川県	横浜市金沢区	NA	NA	NA	NA
523931991	2017/10/1-2017/12/31(10~12月)	平日	非宿泊	観光客	神奈川県	NA合算	NA	NA	NA	NA

(留意点)

- 旅程数をカウント
- 午前 4 時をまたがる滞在を宿泊とみなす
- NA 合算は、東京・神奈川・埼玉・千葉・静岡は市町村単位、その他は道府県単位

●集計 1-B : 特定地域訪問者の時間帯別流動人口集計

表 II. 3. 3 訪問エリア（メッシュ単位）における、流動人口データ

訪問エリア	集計期間	平休日	地元民フラグ	時間帯	推定流動人口	流動人口
523931884	2017/7/1-2017/9/30(7~9月)	平日	観光客	19	NA	NA
523931884	2017/7/1-2017/9/30(7~9月)	平日	観光客	NA合算	NA	NA
523931893	2017/7/1-2017/9/30(7~9月)	平日	観光客	8	NA	NA
523931893	2017/7/1-2017/9/30(7~9月)	平日	観光客	NA合算	NA	NA
523931894	2017/1/1-2017/3/31(1~3月)	平日	観光客	14	NA	NA
523931894	2017/1/1-2017/3/31(1~3月)	平日	観光客	NA合算	NA	NA

(留意点)

- ・滞在行動が集計されているわけではなく、5分ごとのGPS移動履歴情報の集計である
- ・データが0の時間帯は記載なし
- ・NA合算は24時間単位
- ・訪問エリアの表記方法

熱海市内 : メッシュ番号  
 東京・神奈川・埼玉・千葉・静岡 : 市区町村  
 その他 : 道府県

●集計 1-C : 特定地域訪問者のOD（起終点）別移動集計

表 II. 3. 4 2地点間を移動したサンプルを集計したOD（起終点）データ

集計期間	平休日	地元民フラグ	発地エリア	着地エリア	発地メッシュ	着地メッシュ	のべ推定(移動)	のべ推定(旅程)	推定UU	のべ(移動)	のべ(旅程)	UU
2017/1/1-2017/3/31(1~3月)	休日	観光客	523932814 伊東市		523932814	523921902 NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
2017/1/1-2017/3/31(1~3月)	休日	観光客	523932814 伊東市		NA合算	NA合算	NA	NA	NA	NA	NA	NA
2017/1/1-2017/3/31(1~3月)	休日	観光客	523940342 伊東市		523940342	523930862 NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
2017/1/1-2017/3/31(1~3月)	休日	観光客	523940342 伊東市		NA合算	NA合算	NA	NA	NA	NA	NA	NA
2017/1/1-2017/3/31(1~3月)	休日	観光客	523940344 伊東市		523940344	523930674 NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
2017/1/1-2017/3/31(1~3月)	休日	観光客	523940344 伊東市		523940344	523930771 NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
2017/1/1-2017/3/31(1~3月)	休日	観光客	523940344 伊東市		523940344	523930774 NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA

f. 分析項目

分析項目を以下に示す。

- 熱海市全域の500mメッシュ流動人口分析図（観光客・地元民別／平日休日別／季節別）
- 流動人口の時間変動（熱海駅、サンビーチ、親水公園・マリーナ、サンレモ公園・熱海港／平日休日別／季節別）
- 年間居住地別滞在者数（宿泊者・日帰り者別／平日休日別）
- 起終点別の移動特性（熱海市～熱海市外の移動、熱海市内の移動）

### ③分析結果

#### a. 熱海市全域の 500mメッシュ流動人口分析図

(観光客・地元民別／平日休日別／季節別)

- ・ 図 II. 3. 1 2 (1)～(10)に、モバイルビッグデータ「集計 1-B」による流動人口分析図を示す。
- ・ 熱海市全域の 500mメッシュ流動人口を示している。また、市街地中心部については、さらに 250 メッシュ流動人口を示した。
- ・ 流動人口分布図については、非特定化・集計処理・秘匿処理が行われた 3 か月単位の一次集計結果、またはそれらを年間で合計した値を、当該日数で除すことにより、日単位の各種集計値を算出した。

表 II. 3. 5 モバイルビッグデータによる流動人口分析図一覧

	全体 (観光客+地元民)	観光客	居住者
平日	図 II. 3. 1 2 (1)	図 II. 3. 1 2 (3)	図 II. 3. 1 2 (5)
休日	図 II. 3. 1 2 (2)	図 II. 3. 1 2 (4)	図 II. 3. 1 2 (6)
1～3 月		図 II. 3. 1 2 (7)	
4～6 月		図 II. 3. 1 2 (8)	
7～9 月		図 II. 3. 1 2 (9)	
10～12 月		図 II. 3. 1 2 (10)	

これらの分析結果から、以下の事項が明らかとなった。

#### 【観光客の流動人口】

- ・ 平日・休日ともに熱海駅周辺（田原本町）の流動が最も多い。熱海駅周辺には駅ビルを中心に飲食店や土産店が集積していること、鉄道利用観光客の玄関口であることから流動人口が増大しているものと考えられる。
- ・ 流動人口が多い箇所は、熱海駅南側の平和通名店街、熱海仲見世通り名店街のある地区および東海岸町を経て、銀座町・中央町等の中心市街地へとつながっている。これらの地区にはホテル・旅館等の宿泊施設やレストラン・食堂等の飲食施設および土産品販売施設等が集積していることが、流動人口が多い要因であると考えられる。
- ・ 熱海駅から中心市街地に至る流動人口の多い地区には、幹線道路であり、バス通りでもある市道が通っており、観光客はこの市道を利用して移動しているものと推察される。
- ・ 平日と休日を比較すると、平日より休日の方が全ての地区において流動人口が多い。

### 【地元民の流動人口】

- ・ 平日においては、熱海駅周辺および中心市街地における流動人口が多い。これらの地区においては業務施設および商業施設が集積していることがその要因として考えられる。
- ・ 休日においては地元民の流動は平日より活発化している。中心市街地における流動人口が増加しているとともに、郊外においても増加傾向が認められる。

### 【観光客と地元民の比較】

- ・ 観光客と地元民の流動人口を比較すると、平日・休日ともに地元民より観光客の方が多。

### 【観光客流動人口の季節変動】

- ・ 図 II. 3. 1 2 (7)～(10)は、観光客流動人口の季節変動を示したものである。
- ・ 1～3 月において熱海梅園への来訪者が多いことが明確に表れている。また、それに伴い、熱海駅周辺や中心市街地における流動人口も増加傾向にある。
- ・ 一方、10～12 月において、海岸部における流動人口が減少している。

### b. 流動人口の時間変動（熱海駅、サンビーチ、親水公園・マリーナ、サンレモ公園・熱海港／平日休日別／季節別）

表 II. 3. 6 (1)～表 II. 3. 6 (26)に、モバイルビッグデータ「集計 1-B」による流動人口時間変動図を示す。また、各表に示す分析対象メッシュの位置図を図 II. 3. 1 2 (11)に示す。

### 【熱海駅周辺の時間変動】

- ・ 表 II. 3. 6 (1)および表 II. 3. 6 (2)は、熱海駅周辺地区であることから、鉄道利用観光客の特徴が強く反映されていると考えられる。
- ・ 午前中の 8 時台から 11 時台にかけて、流動人口が急激に増加している。12 時台から 14 時台に流動人口はピークとなり、その後急激に減少している。すなわち、午前中は熱海駅へ来訪客が到着することにより流動人口が増加するが、午後になると帰宅客が増加するため流動人口が減少しているものと推察される。
- ・ 熱海駅前におけるピーク時の流動人口は約 6,000 人/h（1～3 月・休日）であり、人口密度で示すと 960 人/ha に該当する。

#### 【熱海サンビーチの時間変動】

- ・ 表 II. 3. 6 (10)は、熱海サンビーチ周辺地区である。7～9月および1～3月の休日における流動人口が、約1500人/h以上（10時から15時台）と多い。7月～9月は海水浴客の影響、1～3月はメッシュ内の温泉施設宿泊者等の影響と考えられる。
- ・ また、7～9月は20時台においても顕著なピークがあり、花火大会の影響と考えられる。
- ・ 一方、4～6月および10～12月における流動人口は全般的に少なく、賑わっている時間帯も短い傾向にある。

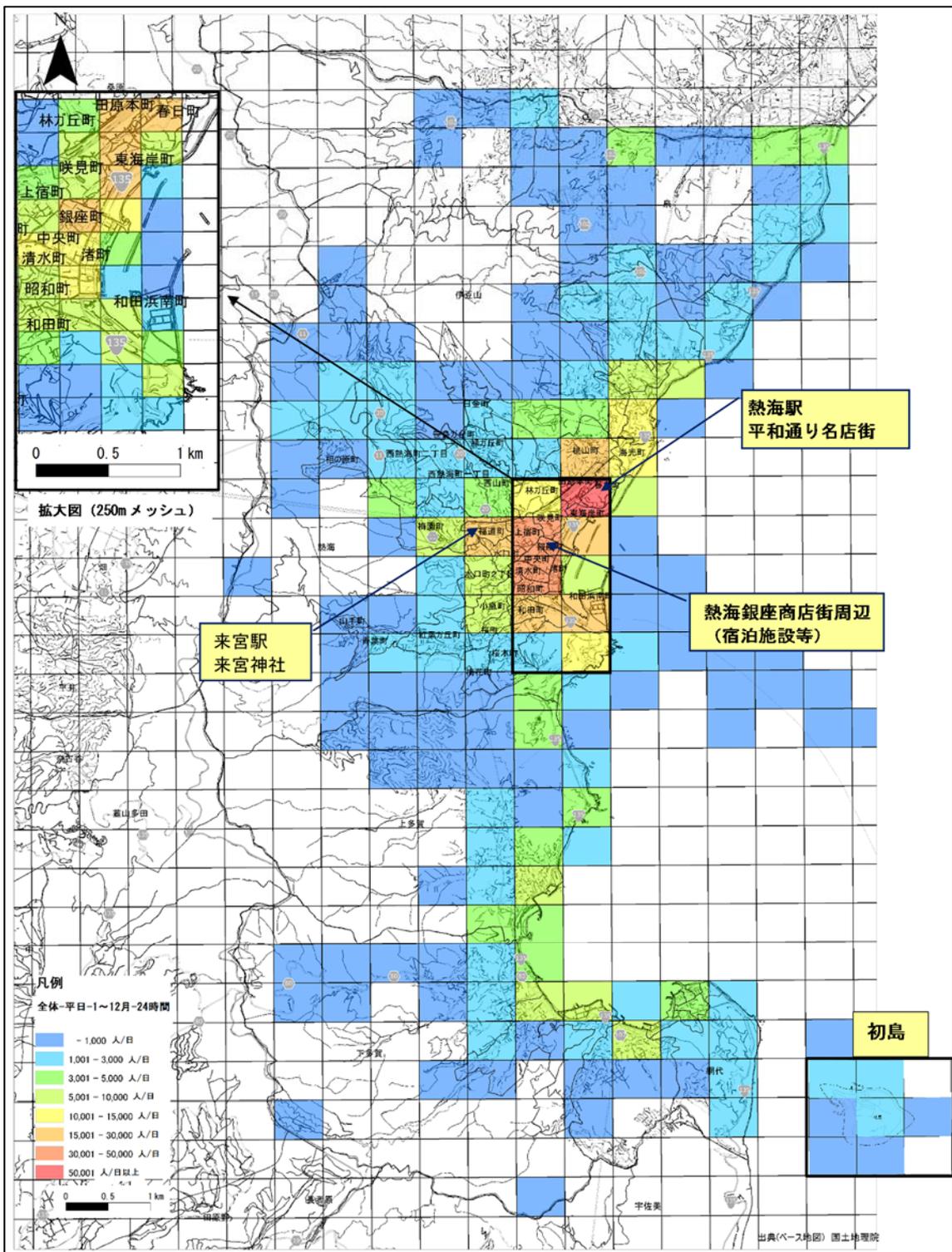
表 II. 3. 6 (7)も熱海サンビーチの位置するメッシュであるが、温泉施設を含むメッシュであり、温泉宿泊者の影響を受けやすく、1～3月3,200人/h（10時から15時台）と最も多くなっている

#### 【親水公園、マリーナの時間変動】

- ・ 休日においては、年間を通じて昼にピークが認められる。一方、20時台にもピークが認められる。
- ・ 2017年における熱海海上花火大会の開催回数は1～3月：1回、4～6月：3回、7～9月：8回、10～12月：4回であったことから、20時台のピークは花火大会の影響と考えられる。

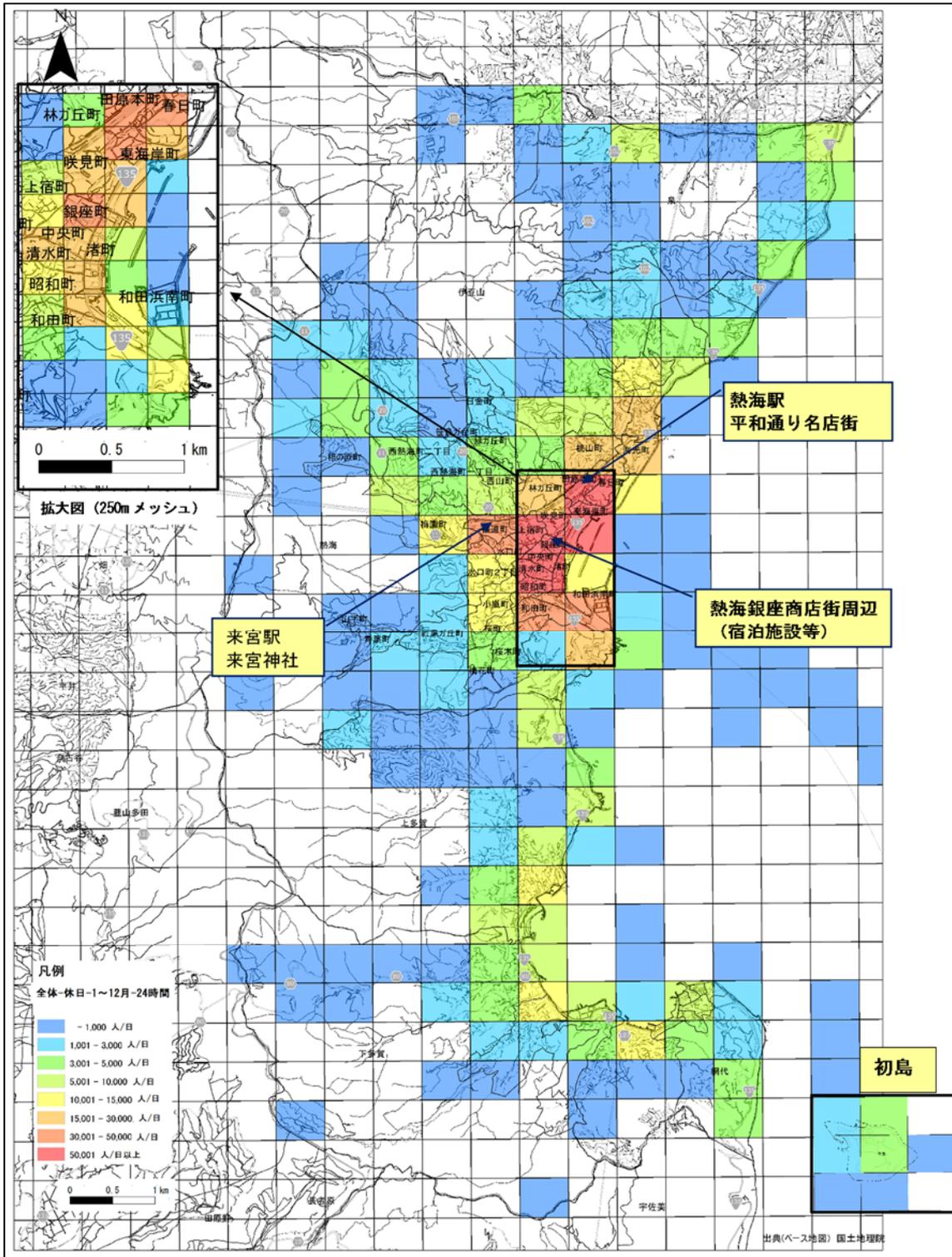
#### 【サンレモ公園、熱海港、熱海釣り公園の時間変動】

- ・ 休日においては、午前と午後にピークが認められる。昼食の時間帯においては、観光客が他のゾーンへ移動してしまっていることがうかがえる。



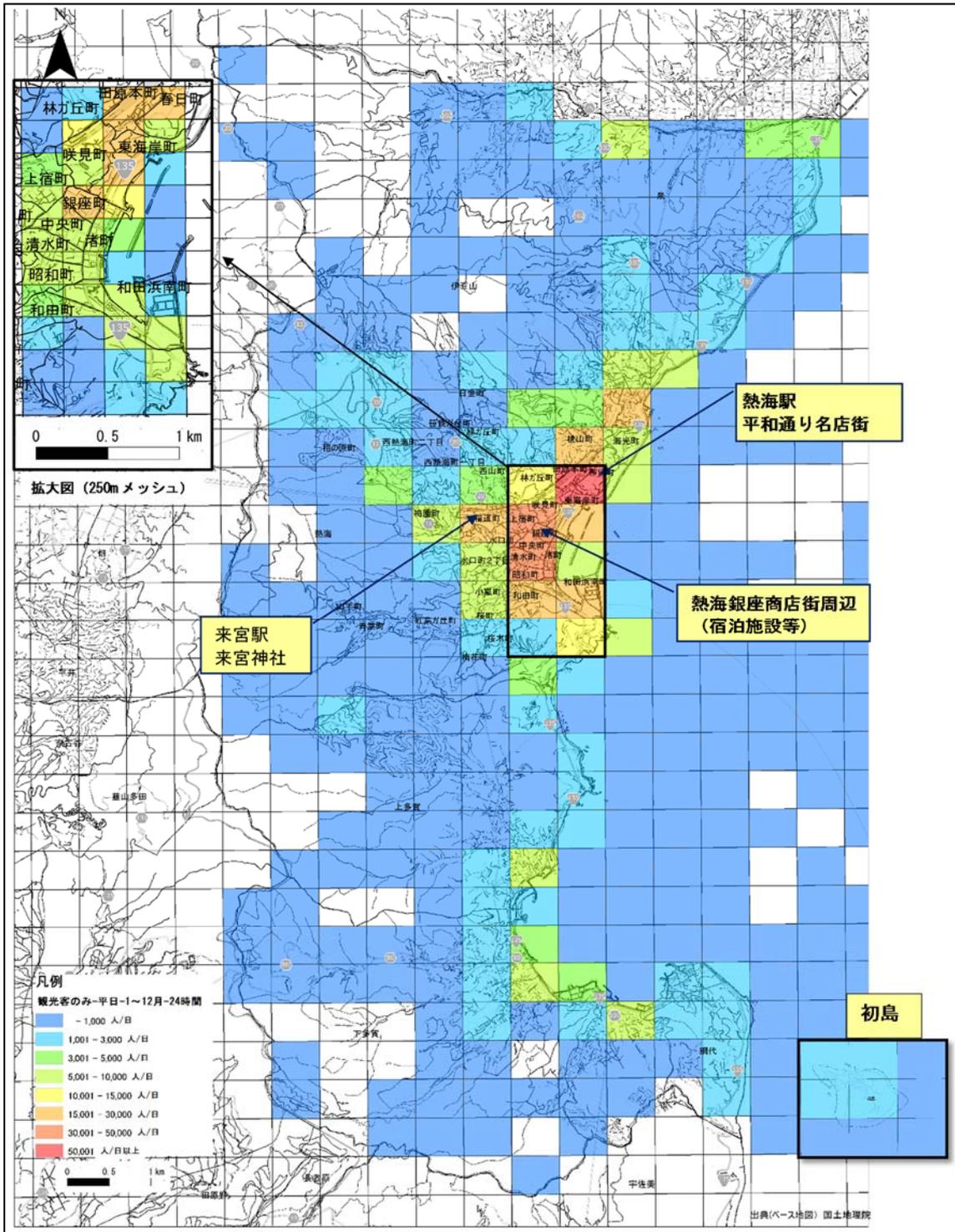
流動人口データの出典：「混雑統計」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 1 2 (1) モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500メッシュ毎)(全体)(平日)(1~12月)



流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 1 2 (2) モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500メッシュ毎)(全体)(休日)(1~12月)



流動人口データの出典：「混雑統計」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 1 2 (3) モバイルビッグデータによる流動人口分析図  
(500メッシュ毎)(観光客)(平日)(1~12月)

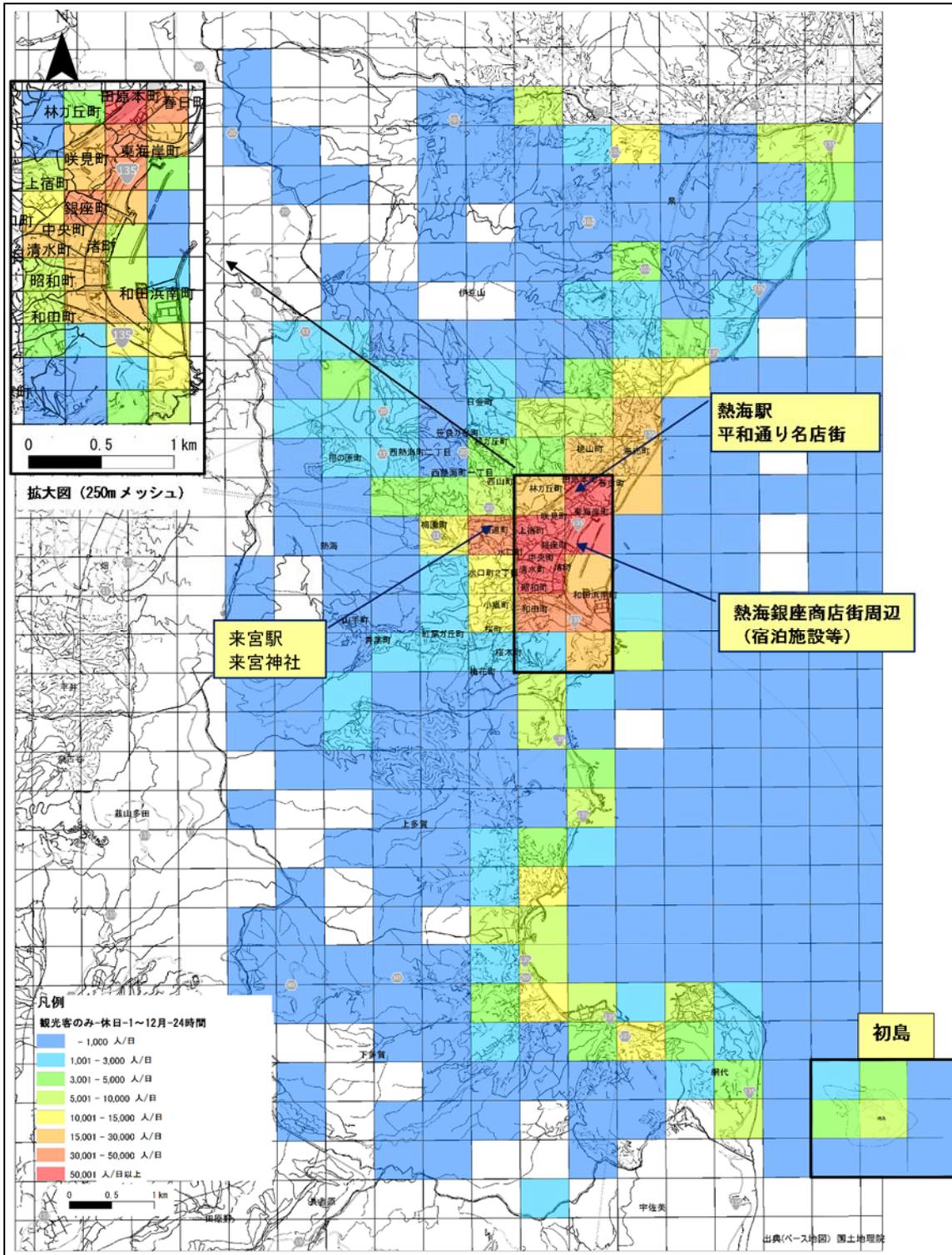
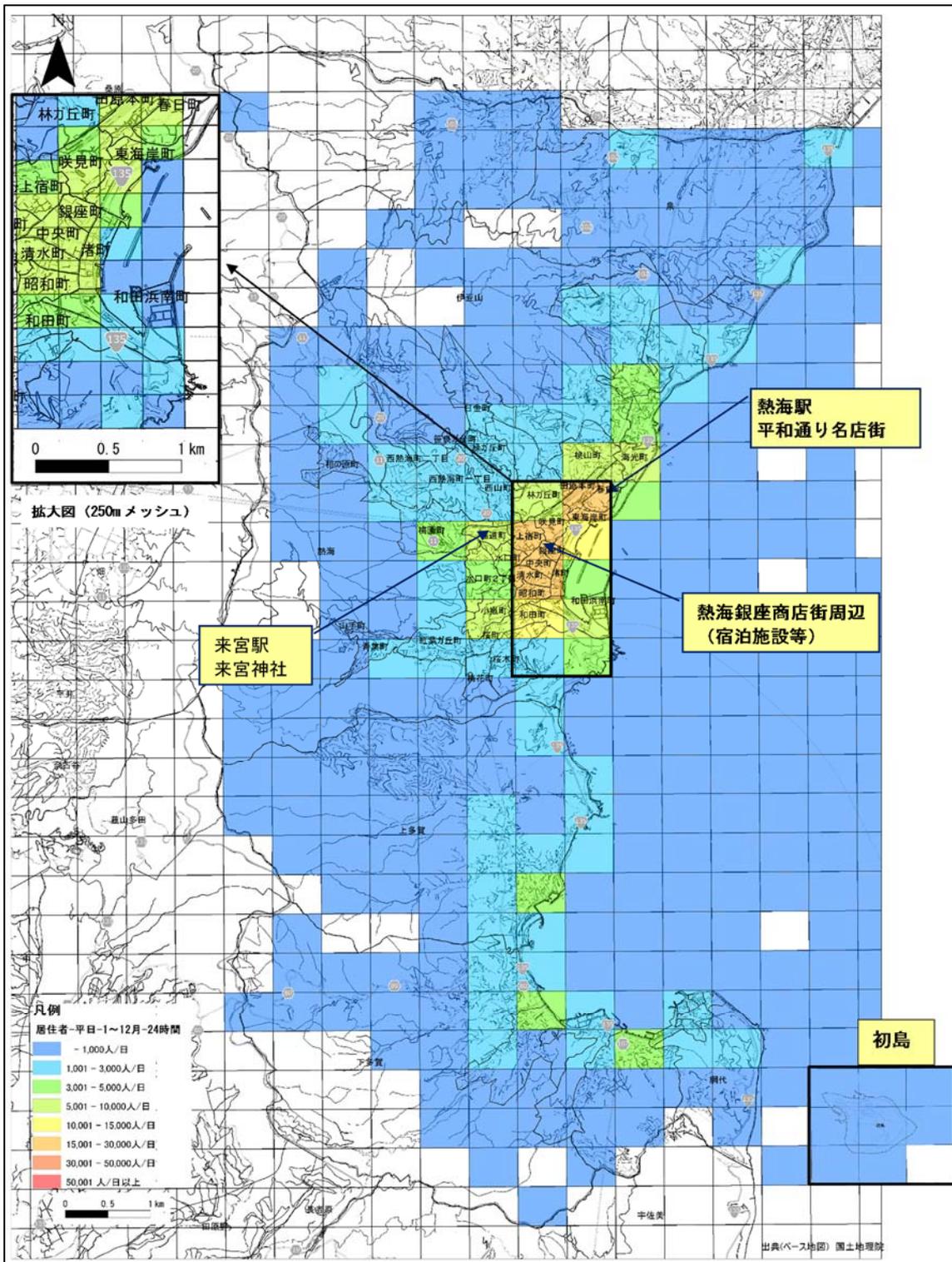
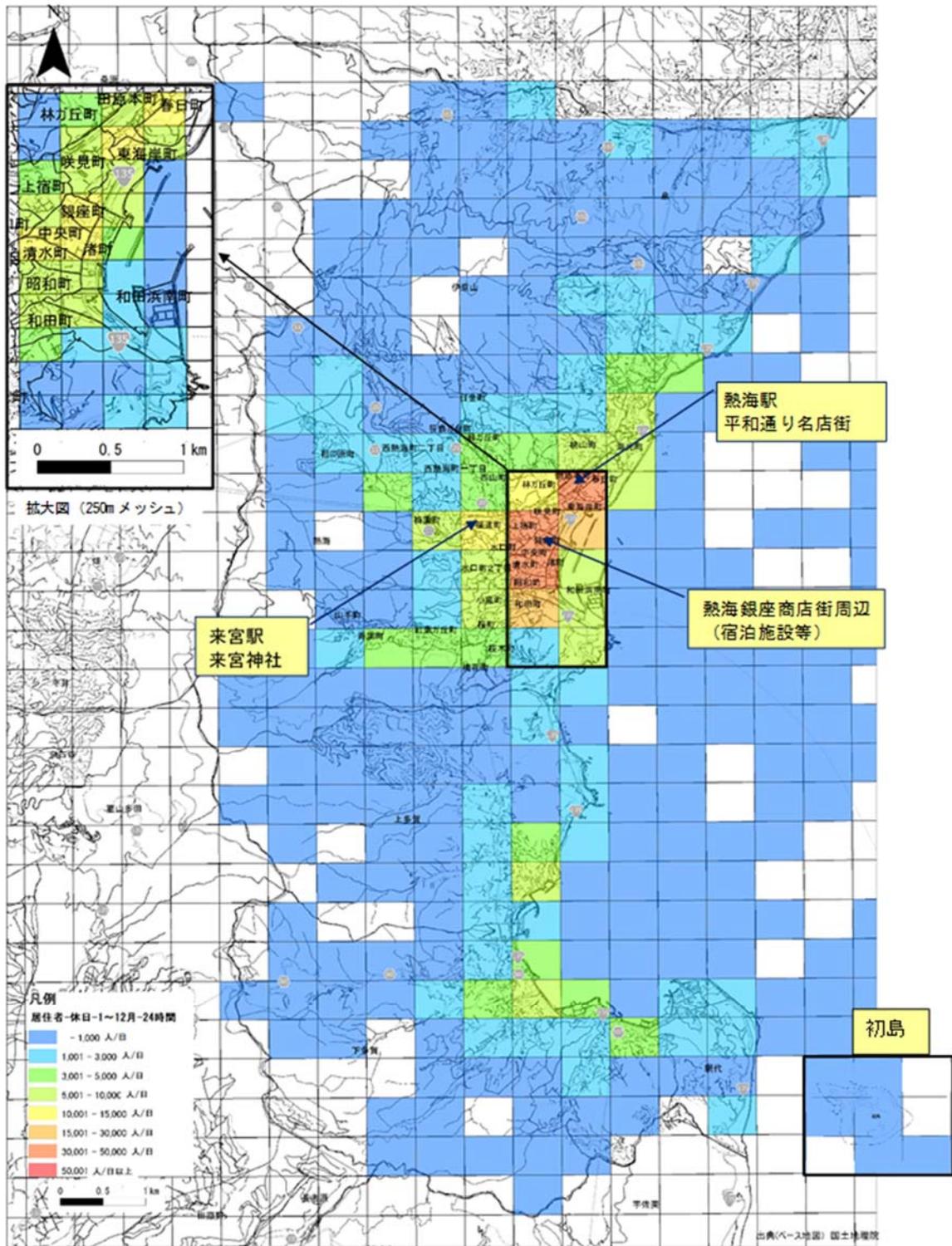


図 II. 3. 1 2 (4) モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500メッシュ毎) (観光客) (休日) (1~12月)



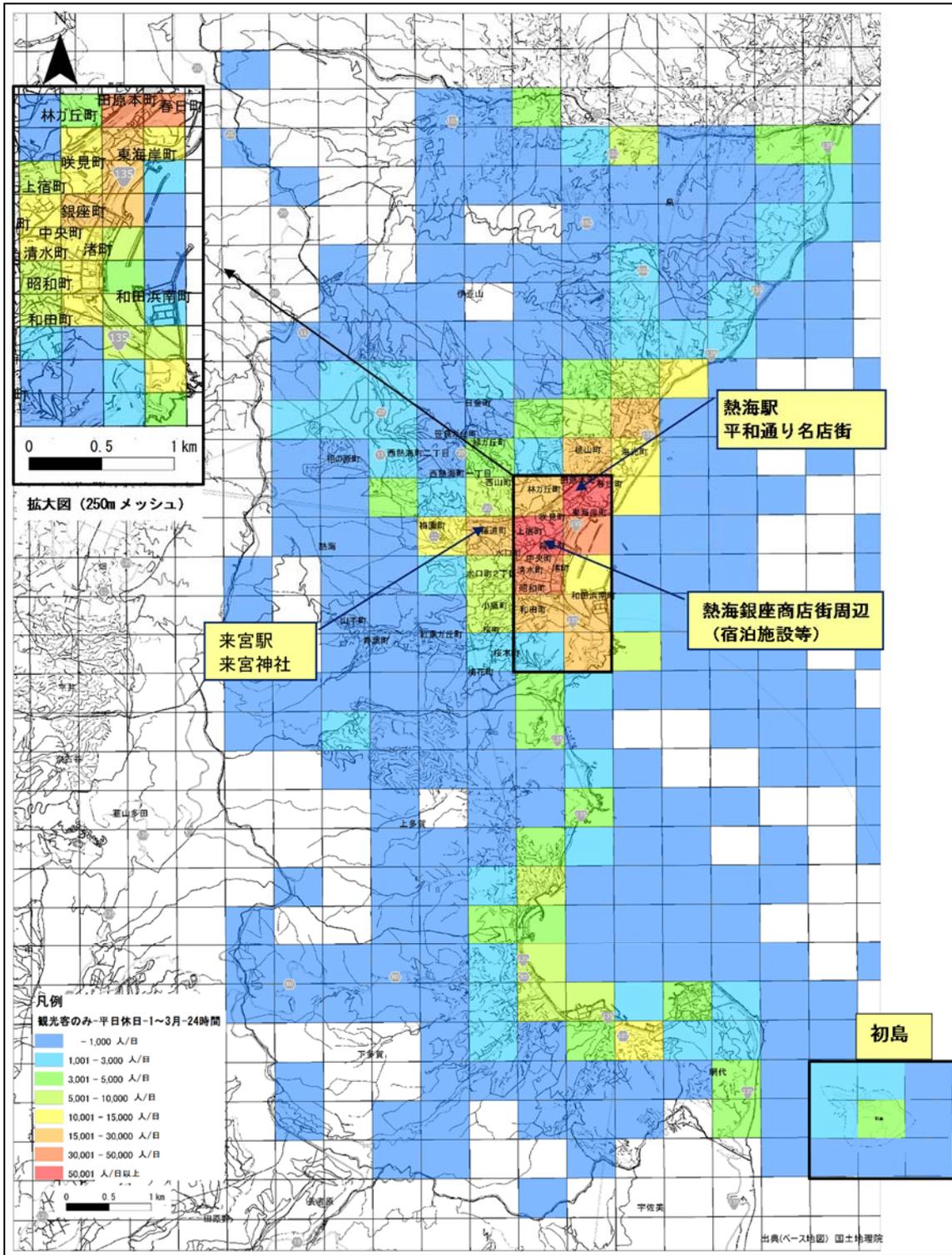
流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 1 2 (5) モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500メッシュ毎) (居住者) (平日) (1~12月)



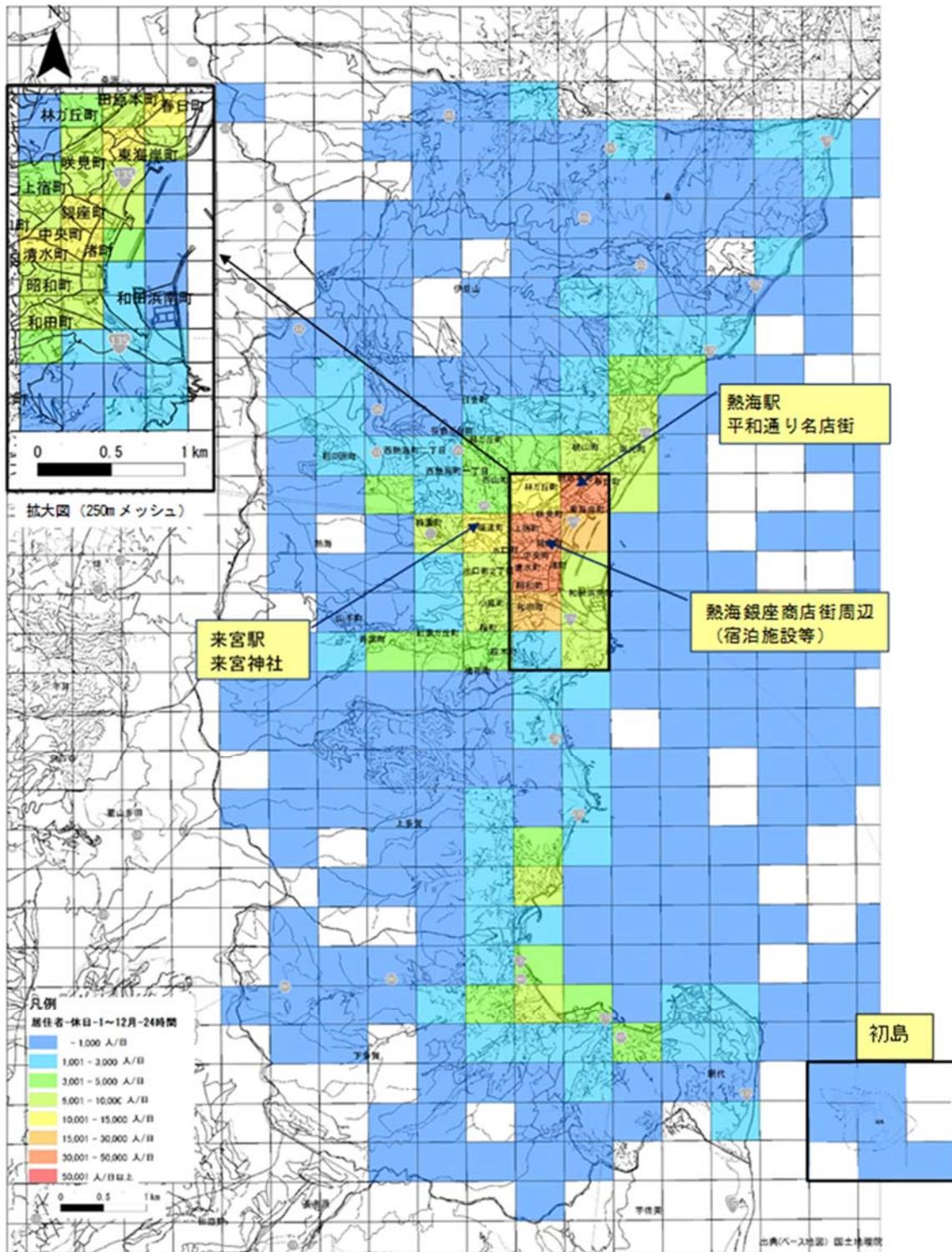
流動人口データの出典: 「混雑統計」 ©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 12 (6) モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500メッシュ毎)(居住者)(休日)(1~12月)



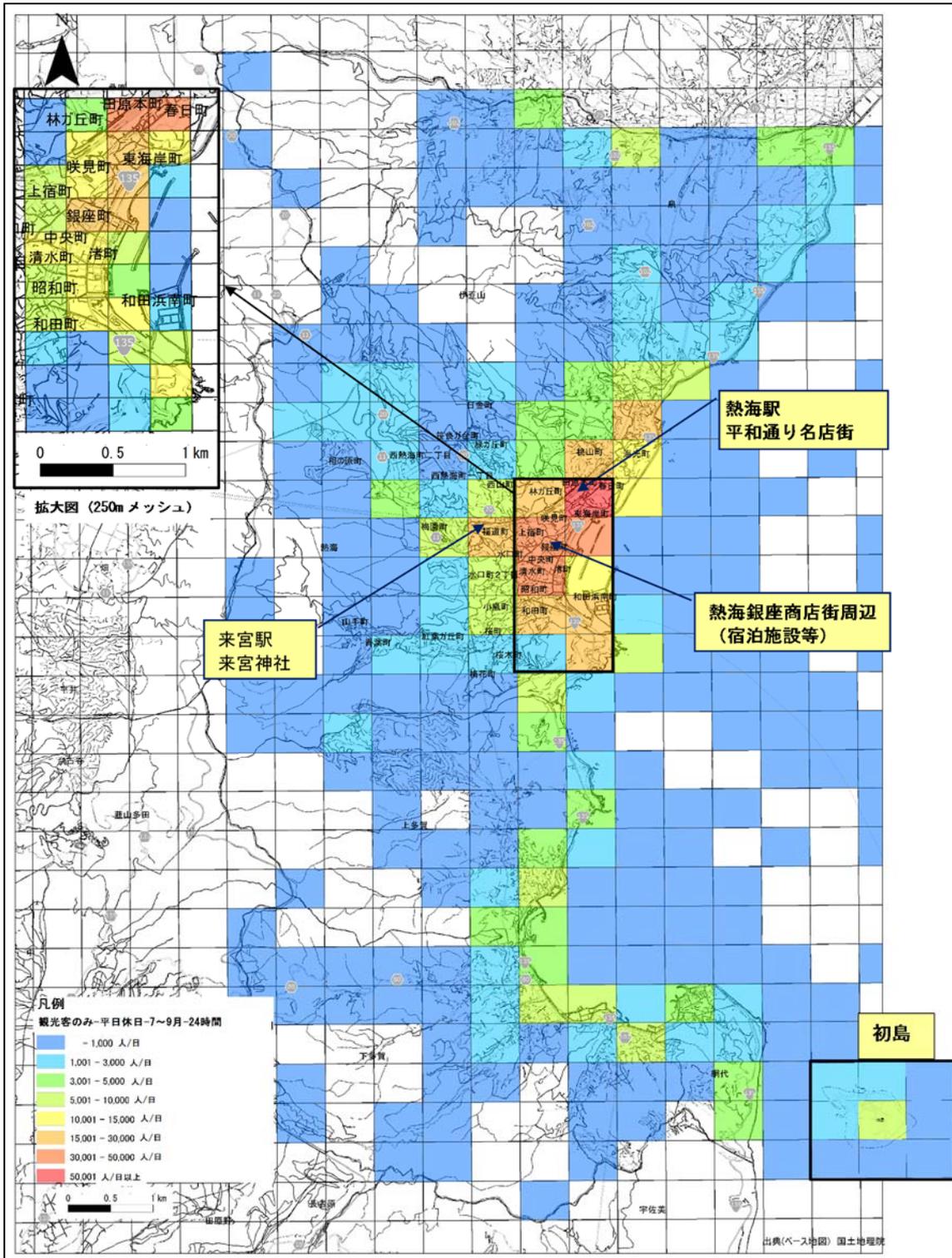
流動人口データの出典：「混雑統計」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 1 2 (7) モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500メッシュ毎)(観光客)(平日休日)(1~3月)



流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 1 2 (8) モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500メッシュ毎)(観光客)(平日休日)(4~6月)



流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 1 2 (9) モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500メッシュ毎)(観光客)(平日休日)(7~9月)

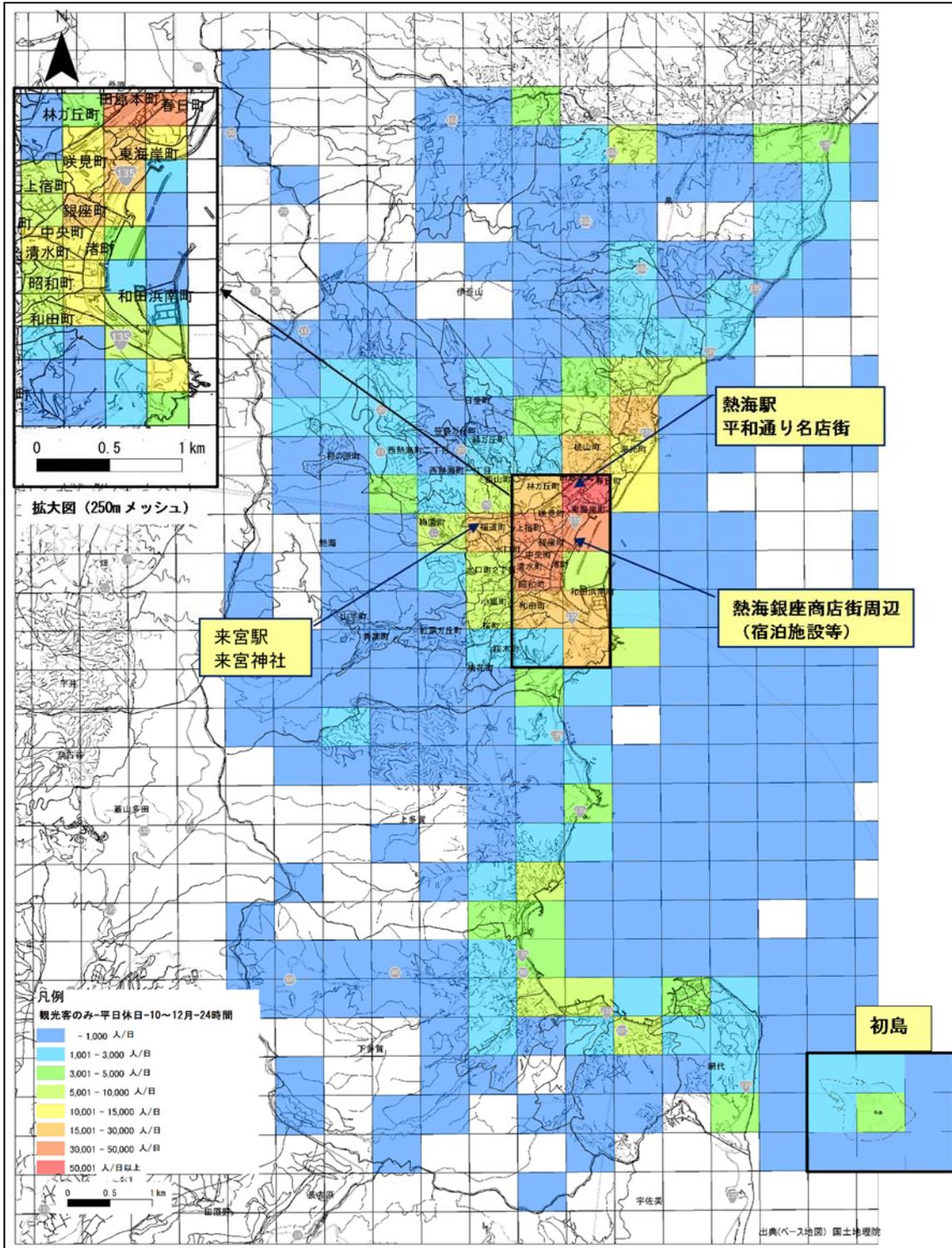


図 II. 3. 1 2 (10) モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500メッシュ毎)(観光客)(平日休日)(10~12月)

表 II. 3. 6 (1) 熱海駅、ラスカ熱海【502613】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 502613</p>	<p>地元民(1~3月) 502613</p>
<p>観光客(4~6月) 502613</p>	<p>地元民(4~6月) 502613</p>
<p>観光客(7~9月) 502613</p>	<p>地元民(7~9月) 502613</p>
<p>観光客(10~12月) 502613</p>	<p>地元民(10~12月) 502613</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>平日、休日ともに昼にピークがある。</li> <li>休日は10時～15時間は安定して多い。</li> <li>1～3月の流動が最も多く、熱海梅園へ訪れる鉄道利用者の影響と考えられる。</li> </ul>	

流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (2) 熱海駅、家康の湯、バスターミナル、静岡家庭裁判所熱海出張所【502614】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 502614</p>	<p>地元民(1~3月) 502614</p>
<p>観光客(4~6月) 502614</p>	<p>地元民(4~6月) 502614</p>
<p>観光客(7~9月) 502614</p>	<p>地元民(7~9月) 502614</p>
<p>観光客(10~12月) 502614</p>	<p>地元民(10~12月) 502614</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>平日、休日ともに昼にピークがある。</li> <li>休日は10時～15時は安定して多い。</li> <li>1～3月の流動が最も多く、熱海梅園へ訪れる鉄道利用者の影響と考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休日には地元民の流動も多い。</li> </ul>

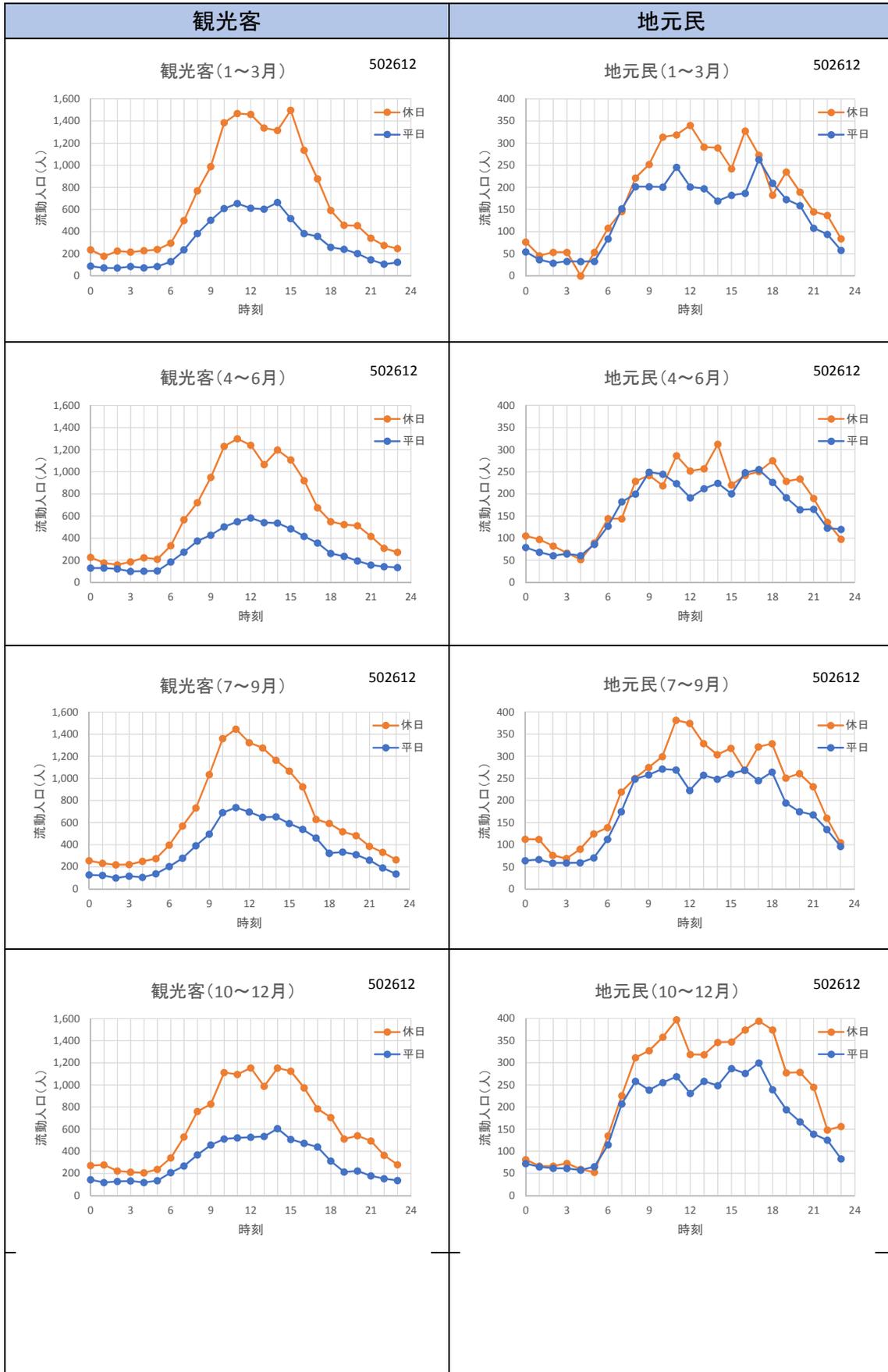
流動人口データの出典：「混雑統計®」 ©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (3) 平和通り名店街、熱海仲見世通り名店街、伊藤園ホテル熱海館【502611】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 502611</p>	<p>地元民(1~3月) 502611</p>
<p>観光客(4~6月) 502611</p>	<p>地元民(4~6月) 502611</p>
<p>観光客(7~9月) 502611</p>	<p>地元民(7~9月) 502611</p>
<p>観光客(10~12月) 502611</p>	<p>地元民(10~12月) 502611</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>平日、休日ともに昼にピークがある。</li> <li>1~3月の流動が最も多く、熱海梅園へ訪れる鉄道利用者の影響と考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休日には地元民の流動も多い。</li> </ul>

流動人口データの出典：「混雑統計®」 ©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (4) 熱海聚楽ホテル、熱海温泉さくらや旅館、松喜旅館【502612】



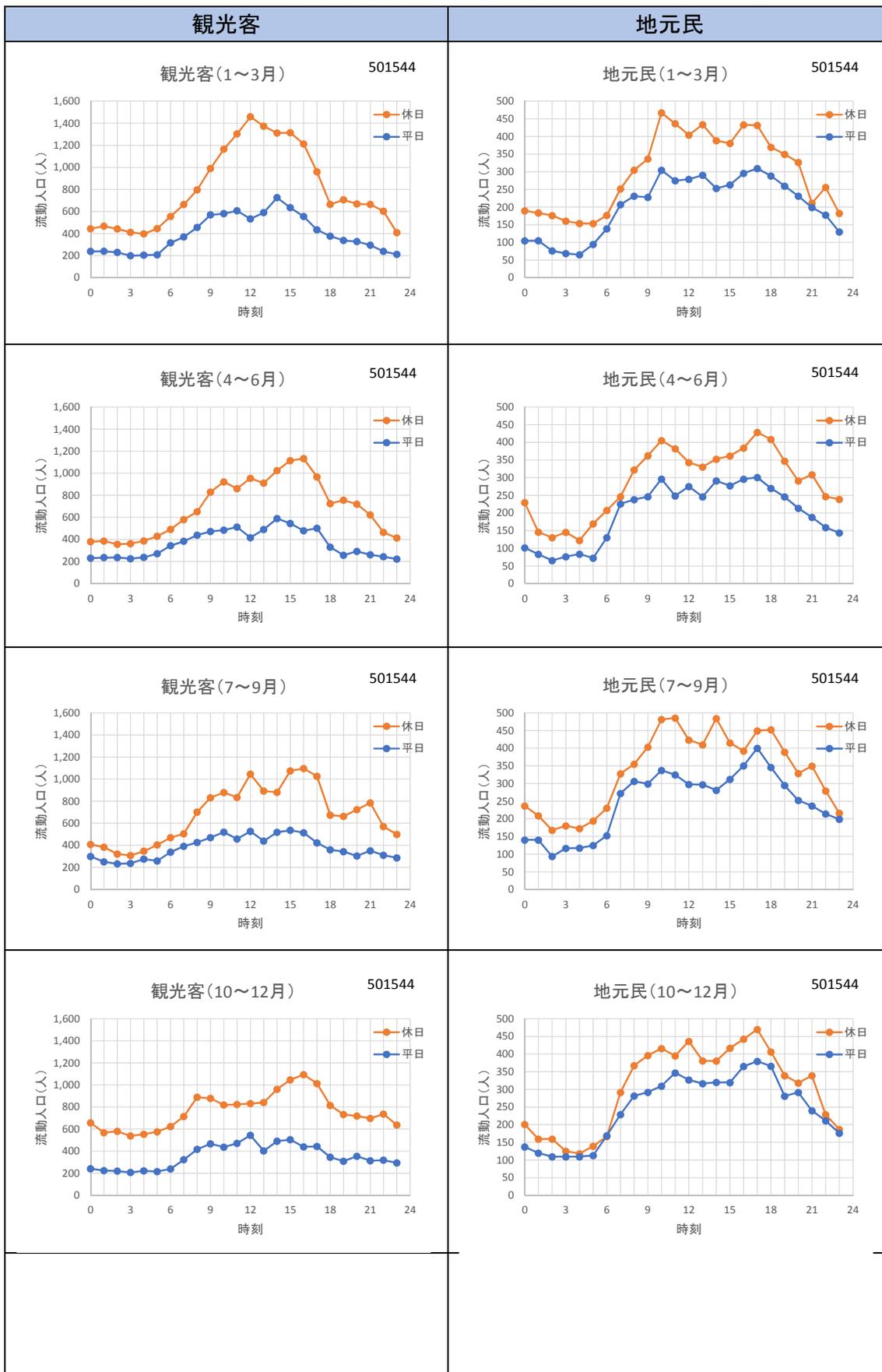
流動人口データの出典：「混雑統計®」 ©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (5) 湯前神社、熱海税務署【501543】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 501543</p>	<p>地元民(1~3月) 501543</p>
<p>観光客(4~6月) 501543</p>	<p>地元民(4~6月) 501543</p>
<p>観光客(7~9月) 501543</p>	<p>地元民(7~9月) 501543</p>
<p>観光客(10~12月) 501543</p>	<p>地元民(10~12月) 501543</p>
<p>・1~3月の流動が突出して多い。熱海梅園へ訪れる鉄道利用者の影響と考えられる。</p>	

流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (6) 熱海図書館、熱海温泉ホテル夢いろは【501544】



流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (7) 熱海サンビーチ、お宮の松、大江戸温泉物語あたま【501633】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 501633</p>	<p>地元民(1~3月) 501633</p>
<p>観光客(4~6月) 501633</p>	<p>地元民(4~6月) 501633</p>
<p>観光客(7~9月) 501633</p>	<p>地元民(7~9月) 501633</p>
<p>観光客(10~12月) 501633</p>	<p>地元民(10~12月) 501633</p>
<p>・1~3月の休日における流動が、約3千人超/hと最も多いが、大江戸温泉物語あたま側の市道が熱海駅と熱海梅園を結ぶ利用経路となっていることが原因と推察される。</p>	

流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (8) 熱海市役所、熱海七湯【501541】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 501541</p>	<p>地元民(1~3月) 501541</p>
<p>観光客(4~6月) 501541</p>	<p>地元民(4~6月) 501541</p>
<p>観光客(7~9月) 501541</p>	<p>地元民(7~9月) 501541</p>
<p>観光客(10~12月) 501541</p>	<p>地元民(10~12月) 501541</p>
<p>・1~3月の休日における流動が、最も多いが、熱海駅と熱海梅園を結ぶ利用経路上に位置していることが原因と推察される。</p>	

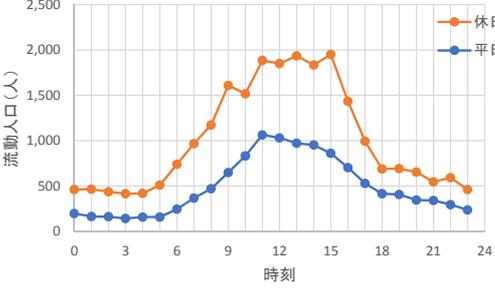
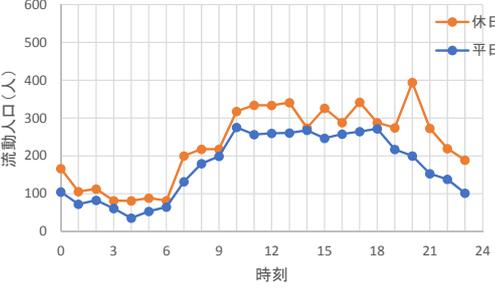
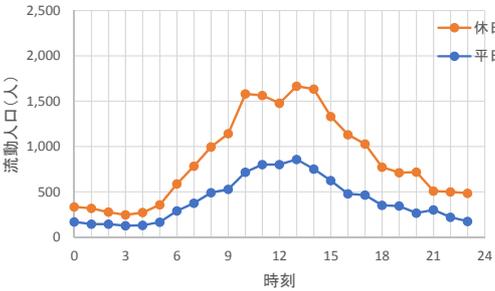
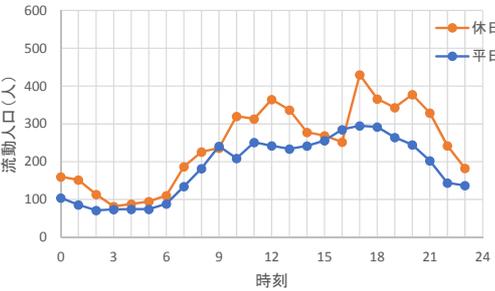
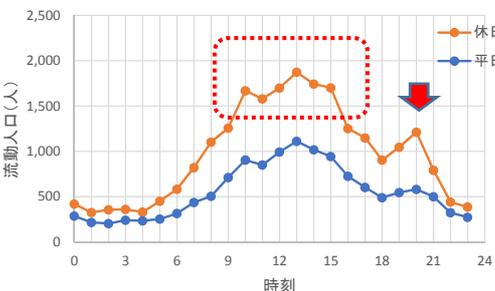
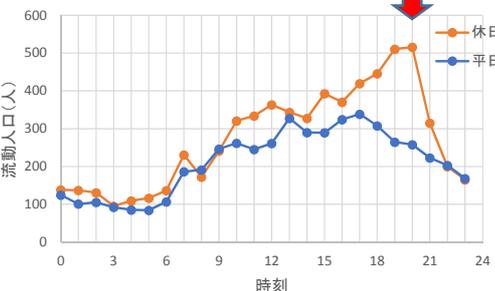
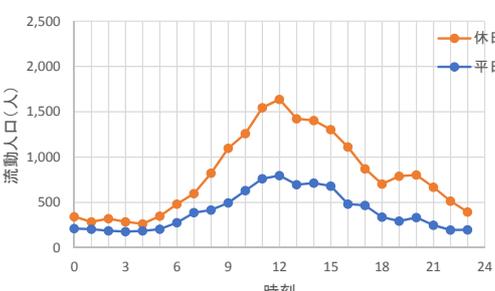
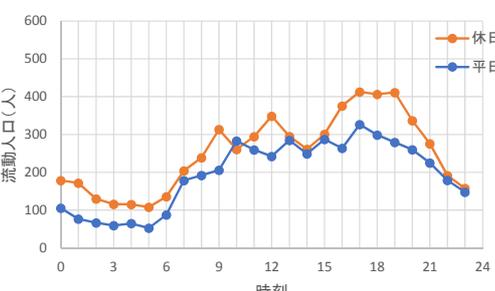
流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (9) 熱海銀座商店街、熱海ニューフジヤホテル、ホテル貫一【501542】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 501542</p>	<p>地元民(1~3月) 501542</p>
<p>観光客(4~6月) 501542</p>	<p>地元民(4~6月) 501542</p>
<p>観光客(7~9月) 501542</p>	<p>地元民(7~9月) 501542</p>
<p>観光客(10~12月) 501542</p>	<p>地元民(10~12月) 501542</p>
<p>・1~3月の休日における流動が、最も多い。          ・7~9月の休日における流動人口は、約2千人/hで、長時間にわたり滞在している。</p>	<p>・休日においては、昼と夕方に顕著なピークが認められる。          ・7~9月の休日における流動が多い。</p>

流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (10) 熱海サンビーチ、恋人の聖地、親水公園、渚町商店街【501631】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 501631</p> 	<p>地元民(1~3月) 501631</p> 
<p>観光客(4~6月) 501631</p> 	<p>地元民(4~6月) 501631</p> 
<p>観光客(7~9月) 501631</p> 	<p>地元民(7~9月) 501631</p> 
<p>観光客(10~12月) 501631</p> 	<p>地元民(10~12月) 501631</p> 
<p>・7~9月の休日における10~15時台の流動が多い。          ・また20時台においても花火の影響と考えられる顕著なピークが認められる。</p>	<p>・7~9月の休日における19時台~20時台において顕著なピークが認められる。</p>

流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (11) 熱海総合庁舎、マックスバリュ熱海店、中島水産市民市場【501523】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 501523</p>	<p>地元民(1~3月) 501523</p>
<p>観光客(4~6月) 501523</p>	<p>地元民(4~6月) 501523</p>
<p>観光客(7~9月) 501523</p>	<p>地元民(7~9月) 501523</p>
<p>観光客(10~12月) 501523</p>	<p>地元民(10~12月) 501523</p>
	<p>・休日においては、10~18 時台において、流動が多い。</p>

流動人口データの出典：「混雑統計®」 ©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (12) 中央町交差点、渚町商店街【501524】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 501524</p>	<p>地元民(1~3月) 501524</p>
<p>観光客(4~6月) 501524</p>	<p>地元民(4~6月) 501524</p>
<p>観光客(7~9月) 501524</p>	<p>地元民(7~9月) 501524</p>
<p>観光客(10~12月) 501524</p>	<p>地元民(10~12月) 501524</p>
<p>・休日においては、年間を通じてお昼時に顕著なピークが認められる。</p>	<p>・7~9月の休日においては、18~20時台にピークが認められる。</p>

流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (13) 親水公園、マリーナ【501613】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 501613</p>	<p>地元民(1~3月) 501613</p>
<p>観光客(4~6月) 501613</p>	<p>地元民(4~6月) 501613</p>
<p>観光客(7~9月) 501613</p>	<p>地元民(7~9月) 501613</p>
<p>観光客(10~12月) 501613</p>	<p>地元民(10~12月) 501613</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・休日においては、年間を通じて昼にピークが認められる。</li> <li>・一方、20時台にもピークが認められ、花火の影響と考えられる。</li> </ul>	

流動人口データの出典：「混雑統計®」 ©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (14) 起雲閣、染井旅館、花の館染井【501521】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 501521</p>	<p>地元民(1~3月) 501521</p>
<p>観光客(4~6月) 501521</p>	<p>地元民(4~6月) 501521</p>
<p>観光客(7~9月) 501521</p>	<p>地元民(7~9月) 501521</p>
<p>観光客(10~12月) 501521</p>	<p>地元民(10~12月) 501521</p>
<p>・休日においては、午前と午後にピークが認められる。昼食の前後の時間帯に起雲閣等へ訪れた観光客の影響と考えられる。</p>	

流動人口データの出典：「混雑統計®」 ©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (15) 渚町商店街、旅館立花、玉の湯ホテル【501522】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 501522</p>	<p>地元民(1~3月) 501522</p>
<p>観光客(4~6月) 501522</p>	<p>地元民(4~6月) 501522</p>
<p>観光客(7~9月) 501522</p>	<p>地元民(7~9月) 501522</p>
<p>観光客(10~12月) 501522</p>	<p>地元民(10~12月) 501522</p>
<p>・休日においては、年間を通じて昼に流動が多い。</p>	

流動人口データの出典：「混雑統計」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (16) 熱海遊覧船サンレモ【501611】

観光客	地元民
<p style="text-align: center;">観光客(1~3月) 501611</p>	
<p style="text-align: center;">観光客(4~6月) 501611</p>	
<p style="text-align: center;">観光客(7~9月) 501611</p>	
<p style="text-align: center;">観光客(10~12月) 501611</p>	

流動人口データの出典：「混雑統計®」 ©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (17) 熱海金城館【500543】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 500543</p>	<p>地元民(1~3月) 500543</p>
<p>観光客(4~6月) 500543</p>	<p>地元民(4~6月) 500543</p>
<p>観光客(7~9月) 500543</p>	<p>地元民(7~9月) 500543</p>
<p>観光客(10~12月) 500543</p>	<p>地元民(10~12月) 500543</p>
<p>・休日においては、午前と午後にピークが認められる。昼食の時間帯においては、観光客が他のゾーンへ移動していることがうかがえる。</p>	

流動人口データの出典：「混雑統計®」 ©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (18) マリンスパ熱海、ホテルニュータカハシ、ホテル大野屋【500544】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 500544</p>	<p>地元民(1~3月) 500544</p>
<p>観光客(4~6月) 500544</p>	<p>地元民(4~6月) 500544</p>
<p>観光客(7~9月) 500544</p>	<p>地元民(7~9月) 500544</p>
<p>観光客(10~12月) 500544</p>	<p>地元民(10~12月) 500544</p>
<p>・休日においては、午前と午後にピークが認められる。昼食の時間帯においては、観光客が他のゾーンへ移動していることがうかがえる。</p>	

流動人口データの出典：「混雑統計®」 ©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (19) サンレモ公園 熱海港、熱海海釣り公園【500633】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 500633</p>	<p>地元民(1~3月) 500633</p>
<p>観光客(4~6月) 500633</p>	<p>地元民(4~6月) 500633</p>
<p>観光客(7~9月) 500633</p>	<p>地元民(7~9月) 500633</p>
<p>観光客(10~12月) 500633</p>	<p>地元民(10~12月) 500633</p>
<p>・休日においては、午前と午後にピークが認められる。昼食の時間帯においては、観光客が他のゾーンへ移動していることがうかがえる。</p>	

流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (20) 熱海市浄水管理センター【500634】

観光客	地元民
<p style="text-align: center;">観光客(1~3月) 500634</p>	
<p style="text-align: center;">観光客(4~6月) 500634</p>	
<p style="text-align: center;">観光客(7~9月) 500634</p>	
<p style="text-align: center;">観光客(10~12月) 500634</p>	
<p>・年間を通じて流動が少ない。</p>	

流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (21) 和田浜、熱海ロープウェイ、青木建設、秀花園湯の花膳【500631】

観光客	地元民
<p style="text-align: center;">観光客(1~3月) 500631</p>	<p style="text-align: center;">地元民(1~3月) 500631</p>
<p style="text-align: center;">観光客(4~6月) 500631</p>	<p style="text-align: center;">地元民(4~6月) 500631</p>
<p style="text-align: center;">観光客(7~9月) 500631</p>	<p style="text-align: center;">地元民(7~9月) 500631</p>
<p style="text-align: center;">観光客(10~12月) 500631</p>	<p style="text-align: center;">地元民(10~12月) 500631</p>
<p>・休日においては、10~17 時台において流動が多い。</p>	

流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (22) 熱海市浄水管理センター、熱海後樂園ホテル、熱海港駐車場  
【500632】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 500632</p>	
<p>観光客(4~6月) 500632</p>	
<p>観光客(7~9月) 500632</p>	
<p>観光客(10~12月) 500632</p>	

流動人口データの出典：「混雑統計®」 ©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (23) 熱海城、熱海トリックアート迷宮館、熱海秘宝館、リゾートホテルロイヤルウイング  
【500614】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 500614</p>	<p>地元民(1~3月) 500614</p>
<p>観光客(4~6月) 500614</p>	<p>地元民(4~6月) 500614</p>
<p>観光客(7~9月) 500614</p>	<p>地元民(7~9月) 500614</p>
<p>観光客(10~12月) 500614</p>	<p>地元民(10~12月) 500614</p>
<p>・休日においては、11~15時台において流動が多い。</p>	

流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (24) MOA美術館【50361】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 50361</p>	<p>地元民(1~3月) 50361</p>
<p>観光客(4~6月) 50361</p>	<p>地元民(4~6月) 50361</p>
<p>観光客(7~9月) 50361</p>	<p>地元民(7~9月) 50361</p>
<p>観光客(10~12月) 50361</p>	<p>地元民(10~12月) 50361</p>
<p>・平日、休日ともに昼にピークがある。 (MOA美術館の営業時間は9:30~16:30)</p>	

流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (25) 熱海梅園、うたゆの宿熱海四季ホテル【50144】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 50144</p>	<p>地元民(1~3月) 50144</p>
<p>観光客(4~6月) 50144</p>	<p>地元民(4~6月) 50144</p>
<p>観光客(7~9月) 50144</p>	<p>地元民(7~9月) 50144</p>
<p>観光客(10~12月) 50144</p>	<p>地元民(10~12月) 50144</p>
<p>・平日・休日ともに1~3月における流動が突出して多い。          ・第73回熱海梅園梅まつり. 開催期間, 2017年1月7日(土)~2017年3月5日(日)の影響と考えられる。</p>	

流動人口データの出典:「混雑統計」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

表 II. 3. 6 (26) 来宮駅、来宮神社、法務局熱海出張所、熱海警察署、双柿舎【50153】

観光客	地元民
<p>観光客(1~3月) 50153</p>	<p>地元民(1~3月) 50153</p>
<p>観光客(4~6月) 50153</p>	<p>地元民(4~6月) 50153</p>
<p>観光客(7~9月) 50153</p>	<p>地元民(7~9月) 50153</p>
<p>観光客(10~12月) 50153</p>	<p>地元民(10~12月) 50153</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>平日・休日ともに1~3月における流動が突出して多い。</li> <li>毎年、約10万人の参拝客で賑わう来宮神社の初詣の影響と考えられる。</li> </ul>	

流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

c. 熱海市への居住地別訪問者数（宿泊者・日帰り者別／平日休日別）

モバイルビッグデータ「集計 1-A」を基に、宿泊者および日帰り者の年間地域別訪問者数について整理した。

宿泊者の年間地域別訪問者数を居住地別に整理したものを図 II. 3. 1 3 (1)に示す。東京都が 34%と最も多く、次いで神奈川県 24%、埼玉県 10%、千葉県 7%、静岡県 5%の順となっている。

一方、日帰り者の年間地域別訪問者数を居住地別に整理したものを図 II. 3. 1 3 (2)に示す。神奈川県 32%、静岡県 31%と近隣地域からの来訪が多く、次いで東京都 19%、埼玉県 5%、千葉県 3%と続いている。

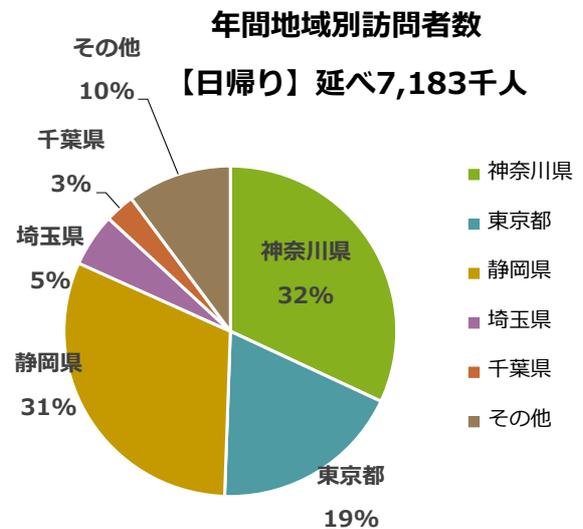
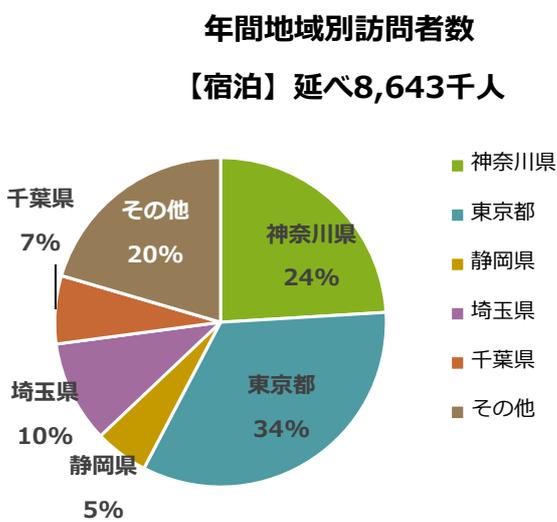


図 II. 3. 1 3 (1) 年間地域別訪問者数【宿泊】

図 II. 3. 1 3 (2) 年間地域別訪問者数【日帰り】

宿泊者の平日における年間地域別訪問者数を居住地別に整理したものを図 II. 3. 1 4 (1)に示す。東京都が 31%と最も多く、次いで神奈川県 26%、埼玉県 10%、千葉県 6%、静岡県 5%の順となっている。

一方、日帰り者の平日における年間地域別訪問者数を居住地別に整理したものを図 II. 3. 1 4 (2)に示す。静岡県が 37%と最も多く、次いで神奈川県 33%、東京都 15%、埼玉県 4%、千葉県 3%と続いている。

年間地域別訪問者数:平日  
【宿泊】延べ2,928千人

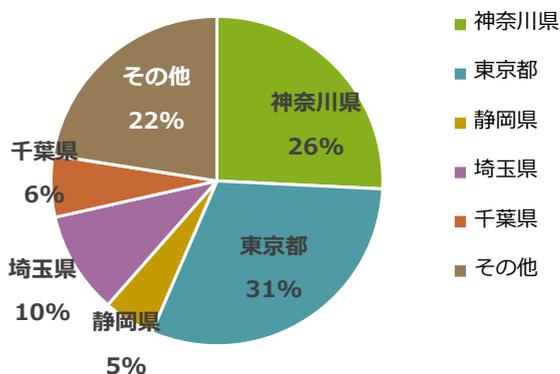


図 II. 3. 1 4 (1) 年間地域別訪問者数  
【平日・宿泊】

年間地域別訪問者数:平日  
【日帰り】延べ3,829千人

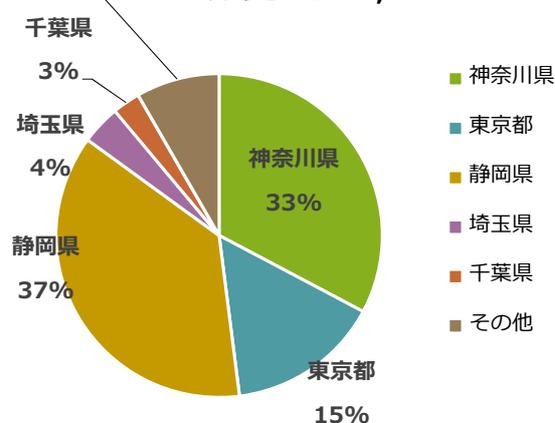


図 II. 3. 1 4 (2) 年間地域別訪問者数  
【平日・日帰り】

宿泊者の休日における年間地域別訪問者数を居住地別に整理したものを図 II. 3. 1 5 (1)に示す。東京都が35%と最も多く、次いで神奈川県23%、埼玉県10%、千葉県7%、静岡県5%の順となっている。

一方、日帰り者の休日における年間地域別訪問者数を居住地別に整理したものを図 II. 3. 1 5 (2)に示す。神奈川県が31%と最も多く、次いで静岡県25%、東京都22%、埼玉県7%、千葉県3%と続いている。

年間地域別訪問者数:休日  
【宿泊】延べ5,715千人

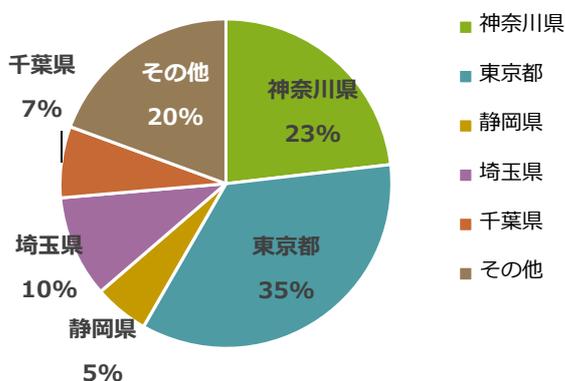


図 II. 3. 1 5 (1) 年間地域別訪問者数  
【休日・宿泊】

年間地域別訪問者数:休日  
【日帰り】延べ3,354千人

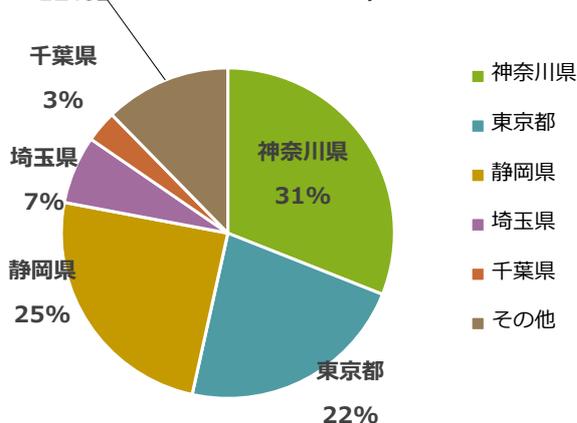


図 II. 3. 1 5 (2) 年間地域別訪問者数  
【休日・日帰り】

年間居住地別滞在者数データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

#### d. 起終点別の移動特性（熱海市～熱海市外の移動、熱海市内の移動）

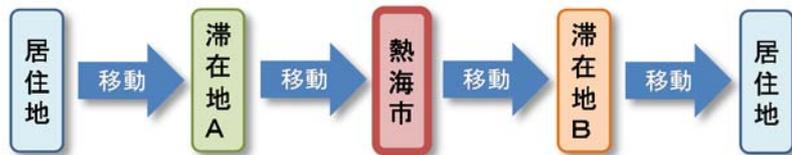
モバイルビッグデータ「集計1-C」を用いて、熱海市への訪問者の起終点D別移動集計を行った。熱海の観光客がどこからどこに移動しているかを把握する。

#### A：熱海市～熱海市外の移動

熱海市内に15分以上滞在した人を対象として、前後の滞在地（起終点別）について集計した。

- 熱海市内に流入する前にどこに15分以上滞在したか（熱海市へ訪れる前の滞在地：滞在地A）
- 熱海市内を流出した後、どこに15分以上滞在したか（熱海市へ訪れた後の滞在地：滞在地B）

ただし、居住地を出発してからどこへも立寄らずに熱海市へ訪問した場合、「居住地」＝「滞在地A」となる。同様に、熱海市を出発してからどこへも立寄らずに居住地に帰った場合、「滞在地B」＝「居住地」となる。すなわち、熱海市への訪問者の広域な流動特性を示すものであるが、「滞在地A」および「滞在地B」には「居住地」を含んでいる。



「全国都道府県⇒熱海市」の移動を図 II. 3. 16 に示す。また、「熱海市⇒全国都道府県」の移動を図 II. 3. 17 に示す。

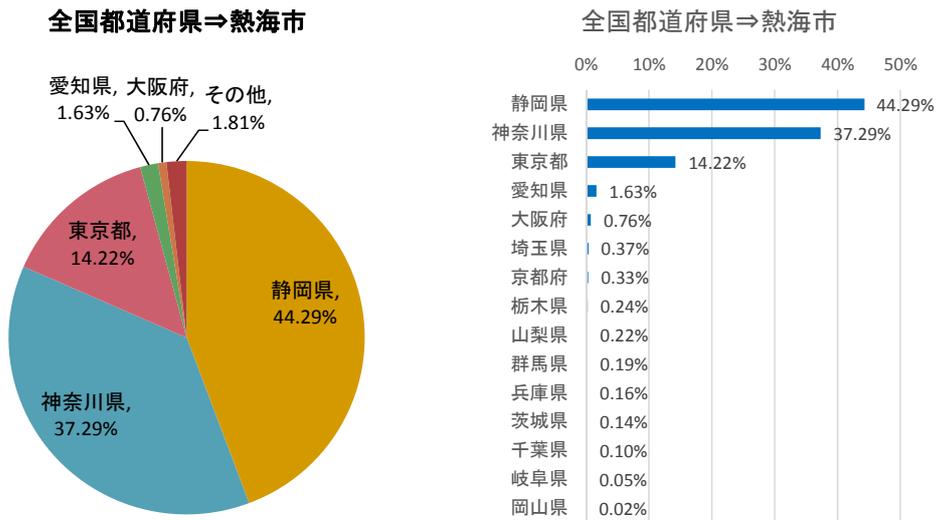


図 II. 3. 16 全国都道府県⇒熱海市

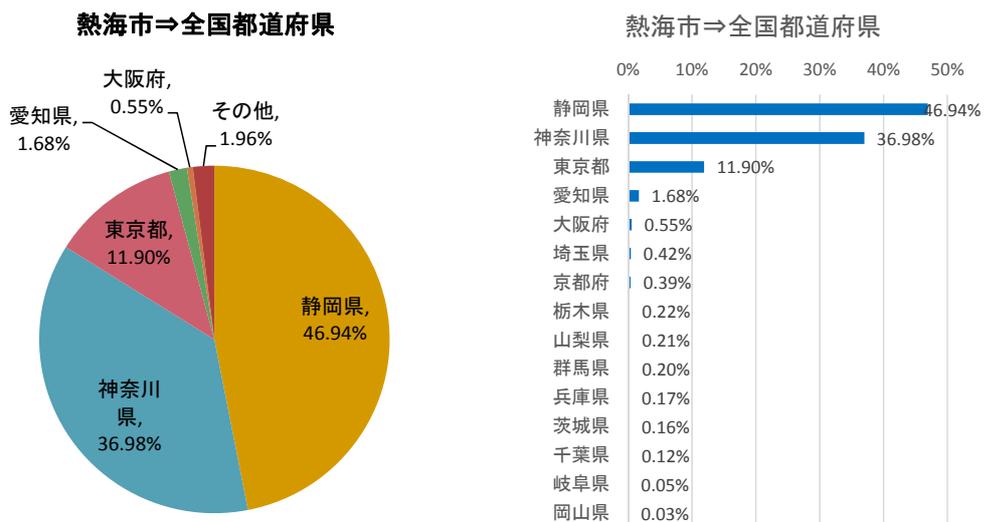


図 II. 3. 17 熱海市⇒全国都道府県

流入・流出ともに、静岡県が半数近くを占めている。次いで隣接する神奈川県、そして東京都の順となっている。3都県で大半を占めている。

次に、上記3都県について市町村別の割合を示したものを図 II. 3. 18～図 II. 3. 23に示す。

表 II. 3. 7 熱海市から熱海市外の移動の特徴

項目	特徴	
静岡県内⇒熱海市 (図 II. 3. 1 8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊東市 48.5%</li> <li>・沼津市 10.6%</li> <li>・三島市 9.4%</li> <li>・函南町 8.5%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱海市の南側に隣接している伊東市との流動が圧倒的に多く、次いで沼津市、三島市、函南町など JR 東海道線上の都市が続いている。</li> <li>・伊豆地域における観光交流客数（平成 28 年度）の上位都市を以下に示す。熱海市との流動が多い都市はこれら上位の観光都市となっている。</li> <li>①伊東市 11,553 千人</li> <li>②三島市 7,861 千人</li> <li>③熱海市 6,370 千人</li> <li>④沼津市 4,146 千人</li> </ul>
熱海市⇒静岡県内 (図 II. 3. 1 9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊東市 51.7%</li> <li>・沼津市 10.4%</li> <li>・函南町 9.8%</li> <li>・三島市 7.9%</li> </ul>	
神奈川県内⇒熱海市 (図 II. 3. 2 0)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湯河原町 36.9%</li> <li>・小田原市 28.7%</li> <li>・箱根町 6.6%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱海市の北側に隣接している湯河原町との流動が最も多く、次いでさらに北側の小田原市と続いている。これらの都市は JR 東海道線上にある。</li> <li>・一方、箱根町は箱根・湯河原地域において最も観光交流客数の多い町であるが、熱海市との直接的な流動は少ない。</li> <li>・箱根・湯河原地域における観光交流客数（平成 28 年度）の上位都市を以下に示す。熱海市との流動が多い都市は JR 東海道線上にある都市となっており、距離が近い順に多くなっている。</li> <li>①箱根町 19,595 千人</li> <li>②小田原市 5,943 千人</li> <li>③湯河原町 3,421 千人</li> </ul>
熱海市⇒神奈川県内 (図 II. 3. 2 1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湯河原町 36.2%</li> <li>・小田原市 29.9%</li> <li>・箱根町 6.4%</li> </ul>	
東京都内⇒熱海市 (図 II. 3. 2 2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千代田区 49.3%</li> <li>・港区 15.5%</li> <li>・台東区 4.0%</li> <li>・中央区 3.9%</li> <li>・大田区 3.8%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東海道新幹線駅がある千代田区（東京駅）および港区（品川駅）の流動が多い。</li> </ul>
熱海市⇒東京都内 (図 II. 3. 2 3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千代田区 27.1%</li> <li>・港区 12.4%</li> <li>・台東区 6.8%</li> <li>・中央区 6.3%</li> <li>・大田区 6.2%</li> </ul>	

OD別移動集計データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

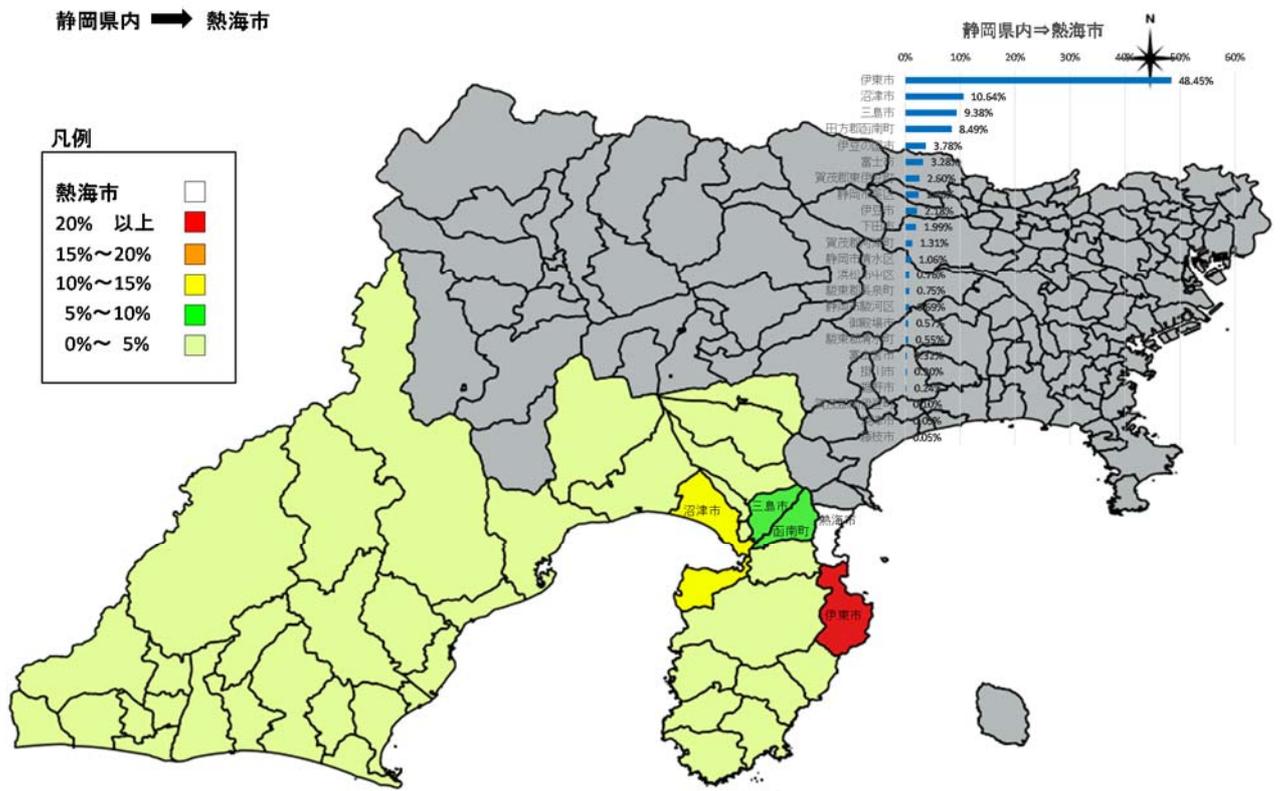


図 II. 3. 1 8 静岡県内⇒熱海市

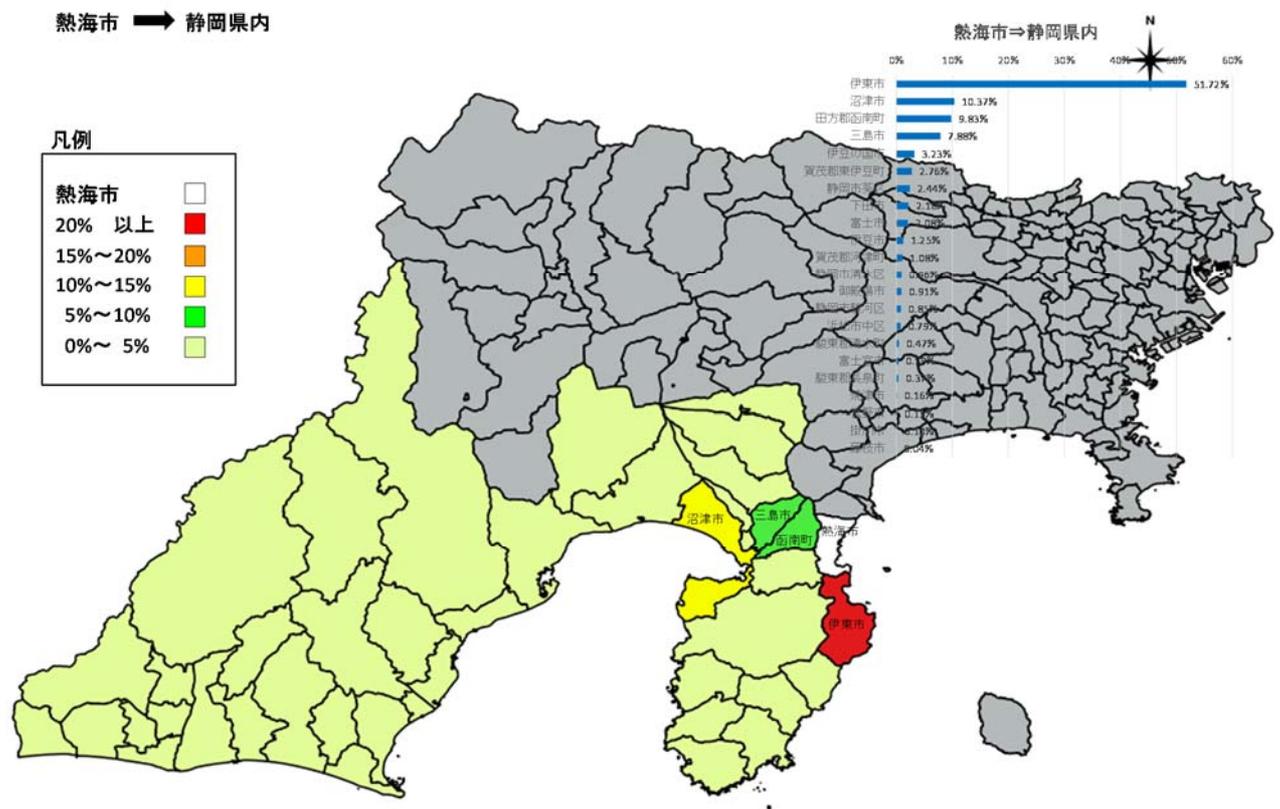


図 II. 3. 1 9 熱海市⇒静岡県内

OD別移動集計データの出典：「混雑統計」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

神奈川県内 → 熱海市

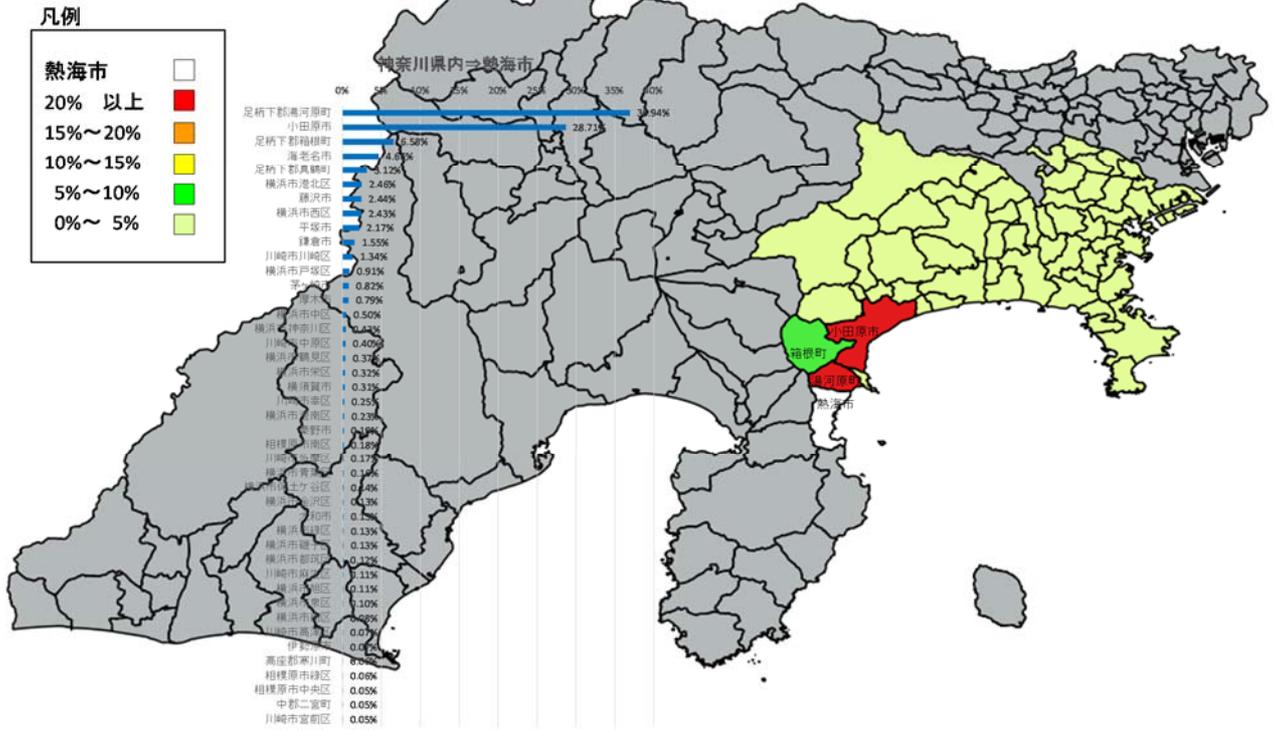


図 II. 3. 2 0 神奈川県内⇒熱海市

熱海市 → 神奈川県内

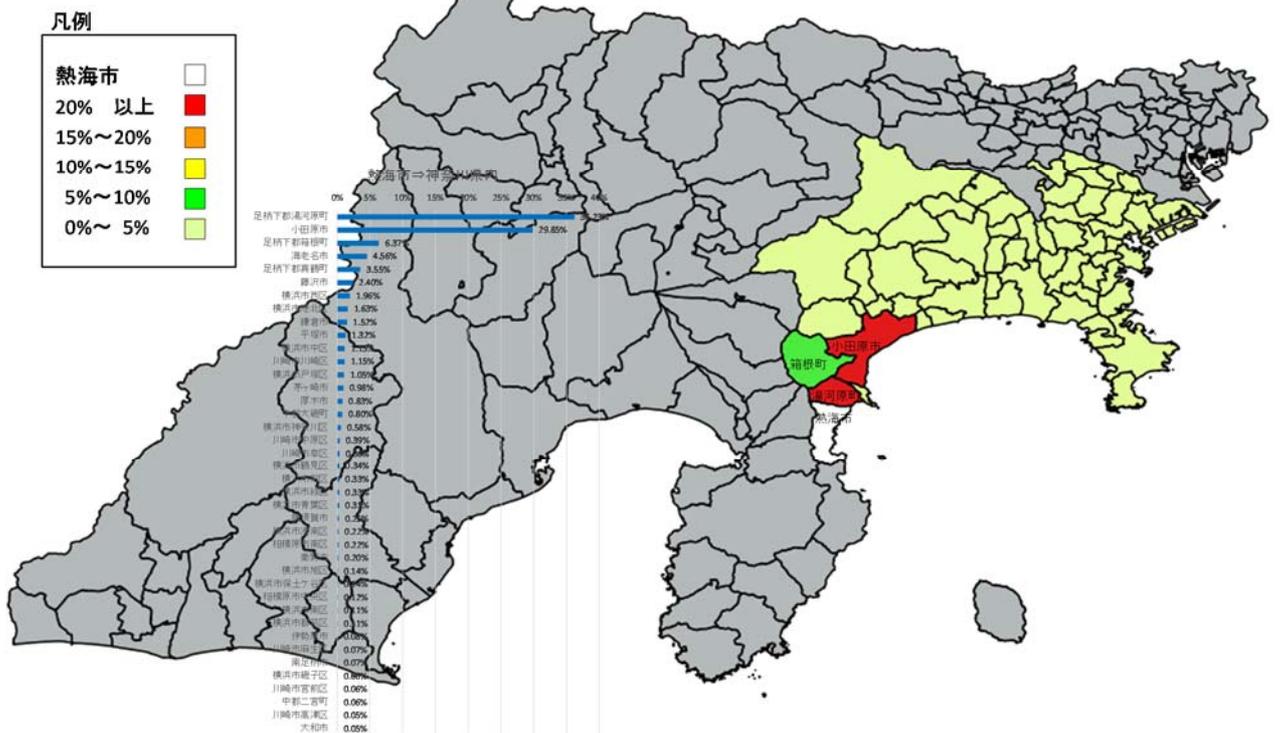


図 II. 3. 2 1 熱海市⇒神奈川県内

東京都内 → 熱海市

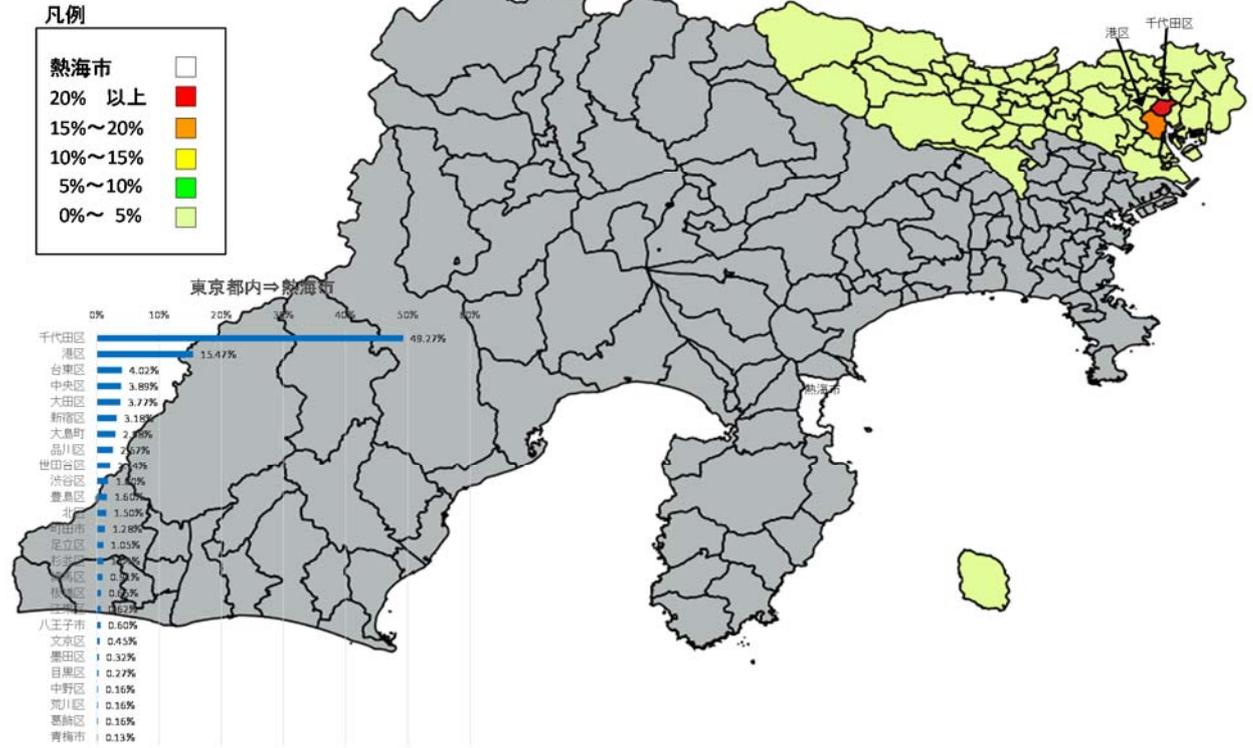


図 II. 3. 2 2 東京都内⇒熱海市

熱海市 → 東京都内

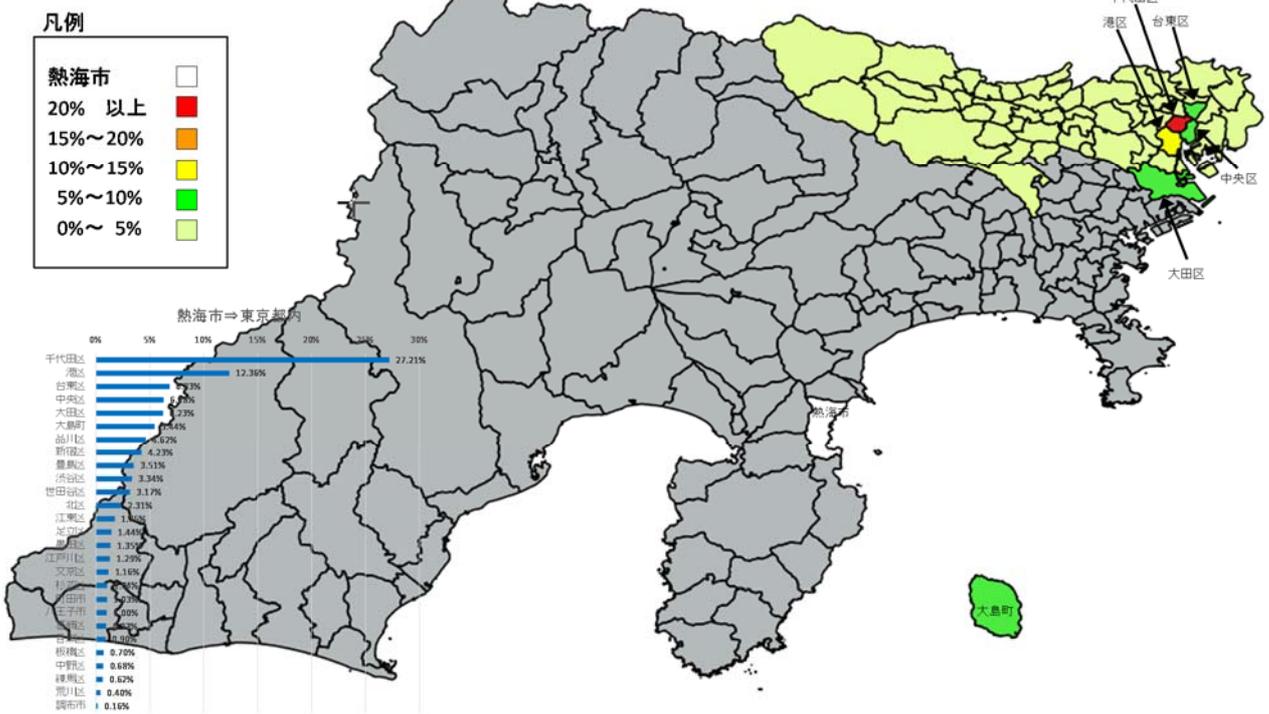


図 II. 3. 2 3 熱海市⇒東京都内

OD別移動集計データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

## B：熱海市内の移動

熱海市内に15分以上滞在した人を対象として、下記項目毎にメッシュ間のOD（起終点）について集計した。

図 II. 3. 2 4～図 II. 3. 4 1の流動人口分布図については、非特定化・集計処理・秘匿処理が行われた3か月単位の一次集計結果、またはそれらを年間で合計した値を、当該日数で除すことにより、日単位の各種集計値を算出した。

- i：全体（図 II. 3. 2 4～図 II. 3. 2 9）
- ii：熱海駅（図 II. 3. 3 0～図 II. 3. 3 3）
- iii：来宮神社（図 II. 3. 3 4～図 II. 3. 3 5）
- iv：熱海梅園（図 II. 3. 3 6～図 II. 3. 3 7）
- v：サンビーチ（図 II. 3. 3 8～図 II. 3. 4 1）

熱海市中心市街地周辺における500メッシュ番号および「メッシュの名称」を以下に示す。

### 500mメッシュ

50242		50251		50252		50261 熱海駅
50144 熱海梅園		50153 来宮神社		50154 熱海銀座商店街		50163 熱海サンビーチ
50142		50151		50152 起雲閣		50161 親水公園
50044		50053		50054		50063 和田浜
50042		50054		50052		50061 熱海城

## i. 全体

熱海市内の流動を対象とするメッシュ間の流動を次項図に示す。

集計時期は、観光入込客数の多い7月～9月（夏季）と、観光入込客数の少ない10月～12月（秋季）を対象とした（図 II. 3. 24～図 II. 3. 29）。

また、対象とする流動は、熱海市中心市街地およびその周辺（図に示す範囲内）を対象とした。

### 【主要動線】

- ・メッシュ間の流動について、全体の中で熱海駅を拠点とする観光施設や駅等の主要施設間の流動、熱海港と初島間の流動が多い。
- ・特に熱海駅と宿泊施設や飲食店が集積する「熱海銀座商店街」周辺への流動が多く、熱海駅から宿泊施設へ直行している観光客が多いことがうかがえる。

### 【季節特性】

- ・夏季（海水浴シーズン）と秋季（紅葉シーズン）の差異として、夏季は熱海駅と和田浜方面（熱海港、熱海城）への流動が多く、秋季は来宮駅や梅園方面への流動が多い特徴がある。

### 【周遊特性】

- ・秋季、夏季ともに熱海駅が流動拠点となっている。
- ・メッシュ間では、『熱海駅⇄熱海銀座商店街（宿泊施設が集積）、来宮駅、来宮神社、和田浜エリア内の熱海港、熱海城』への流動が多い。
- ・他方、秋季は『熱海駅⇄熱海銀座商店街、来宮駅、来宮神社間』の流動が多く、『熱海駅⇄和田浜エリア』への流動が少ない。
- ・特に『熱海駅⇄熱海銀座商店街』の流動が卓越しており、駅から宿泊施設への直行直帰型の移動が多いことがうかがえる。
- ・その他、アカオハーブローズガーデン、錦ヶ浦、伊豆山神社・伊豆山温泉、MOA美術館を含むメッシュへの流動が多くなっている。

### 【海岸エリア滞在の需要創出の可能性】

- 駅⇄サンビーチへの歩行者動線整備による海岸エリア滞在の需要創出の可能性
  - ・サンビーチを含むメッシュと熱海駅を含むメッシュ間の移動が他地区に比べて少なく、市外からの来訪者の交通手段として鉄道利用が比較的少ないことがうかがえる。
  - ・熱海駅からサンビーチエリアへの歩行者動線を確保し、マイカー利用から鉄道利用への転換を促すと共に夏季や休日の渋滞や駐車場待ちを減らすことで、サンビーチエリアを含む海岸エリアへの来訪者の増加、滞在時間の増加が見込まれる。
- 熱海銀座商店街周辺⇄サンビーチへの歩行者動線整備による海岸エリア滞在の需要創出の可能性
  - ・熱海駅を含むメッシュと宿泊施設が集積する熱海銀座商店街を含むメッシュへの流動が特に多く、宿泊客の熱海銀座商店街と海岸エリアへの周遊が比較的少ないことがうかがえる。
  - ・駅からサンビーチへの歩行者動線整備と合わせて、熱海銀座商店街からサンビ

一チへの歩行者動線整備を進めることで、『駅⇄宿泊施設』の移動を『駅⇄サンビーチ⇄宿泊施設』に促す動線が確保され、サンビーチエリアを含む海岸エリアへの来訪者の増加、滞在時間の増加が見込まれる。

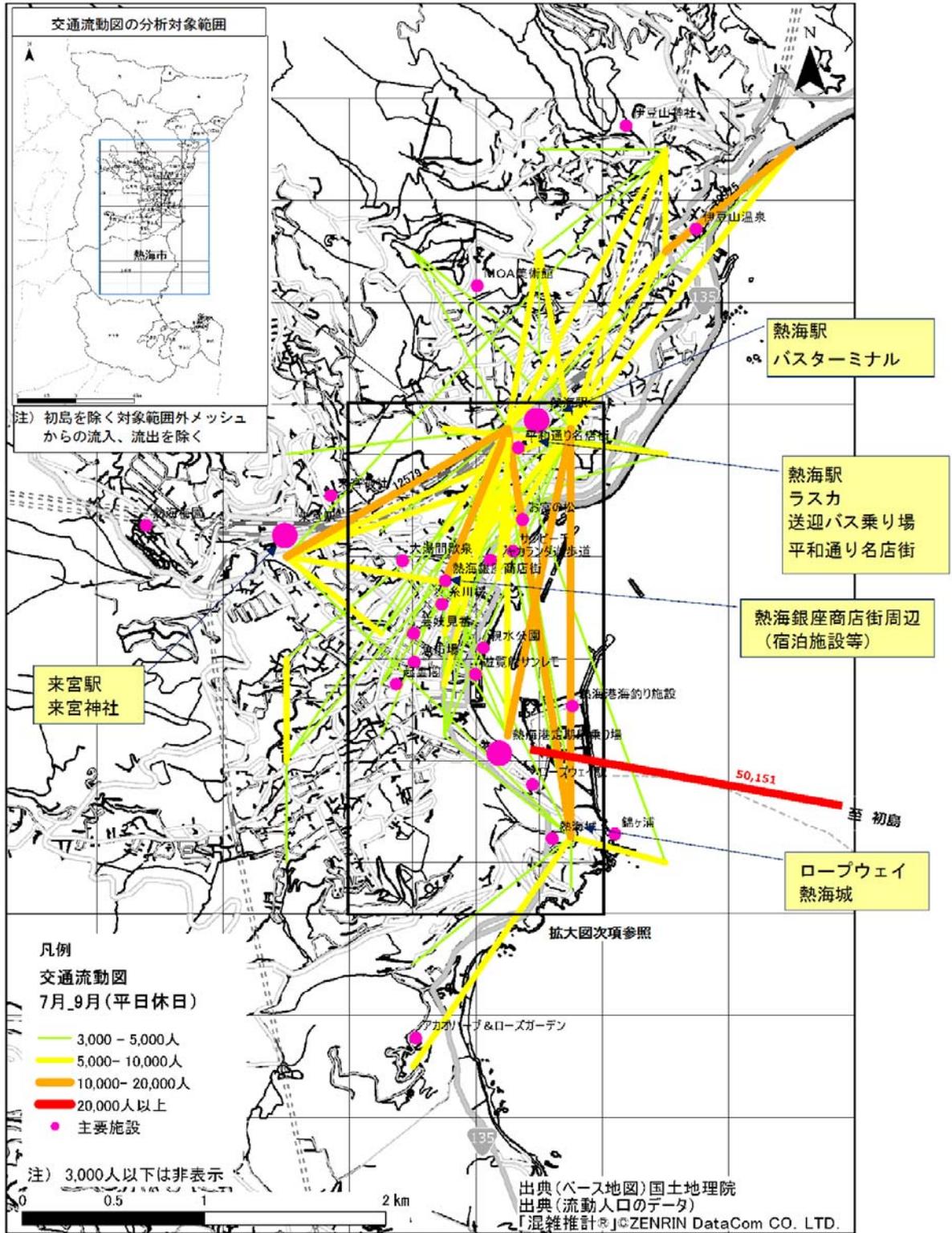


図 II. 3. 2 4 メッシュ間の流動状況図 (7月~9月 平日休日 観光客のみ)  
(熱海市内流動のみ)

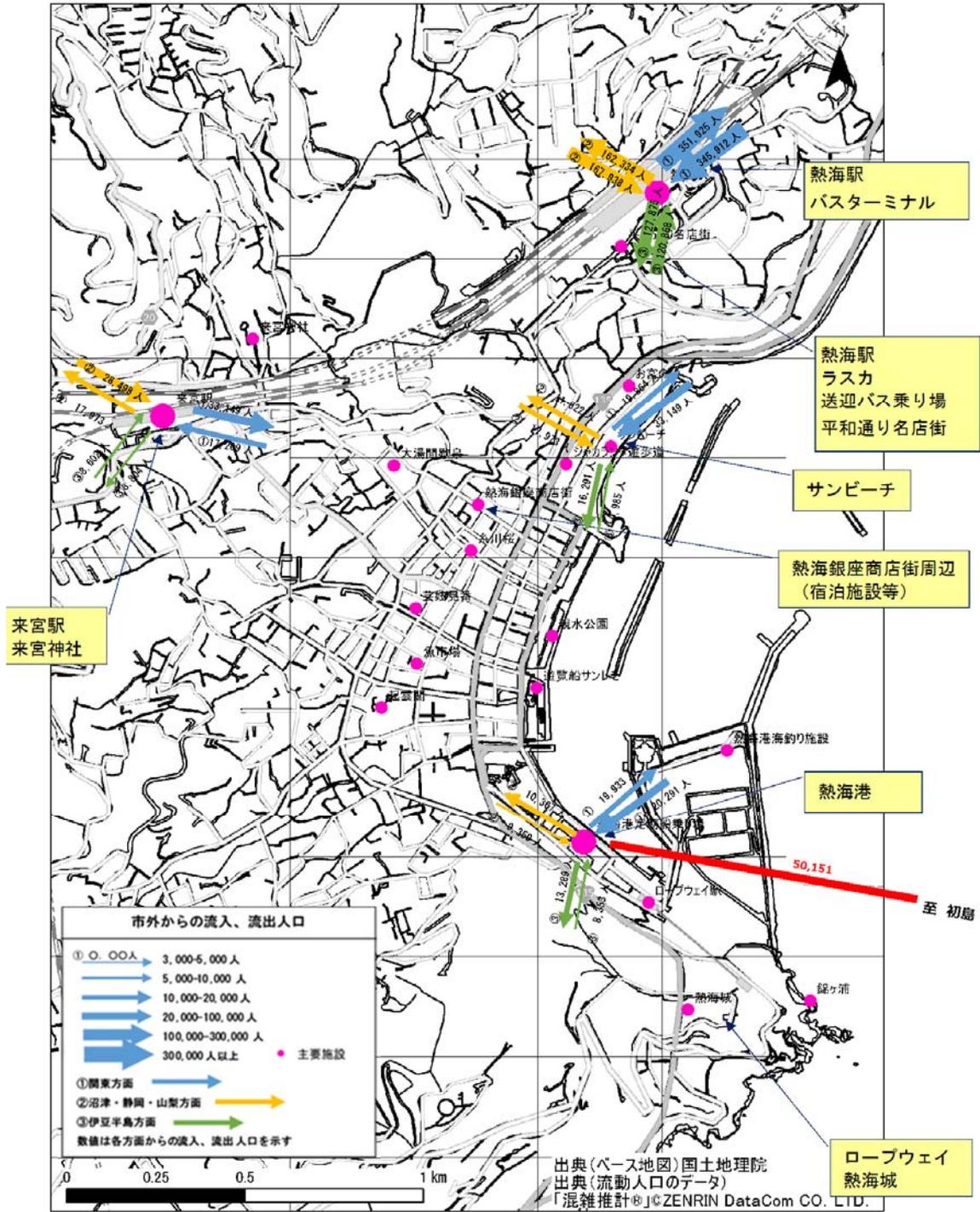


図 II. 3. 25 メッシュ間の流動状況図 (7月~9月 平日休日 観光客のみ)  
市街地部拡大 (市内流動+市内代表箇所と市外との流動を表記)

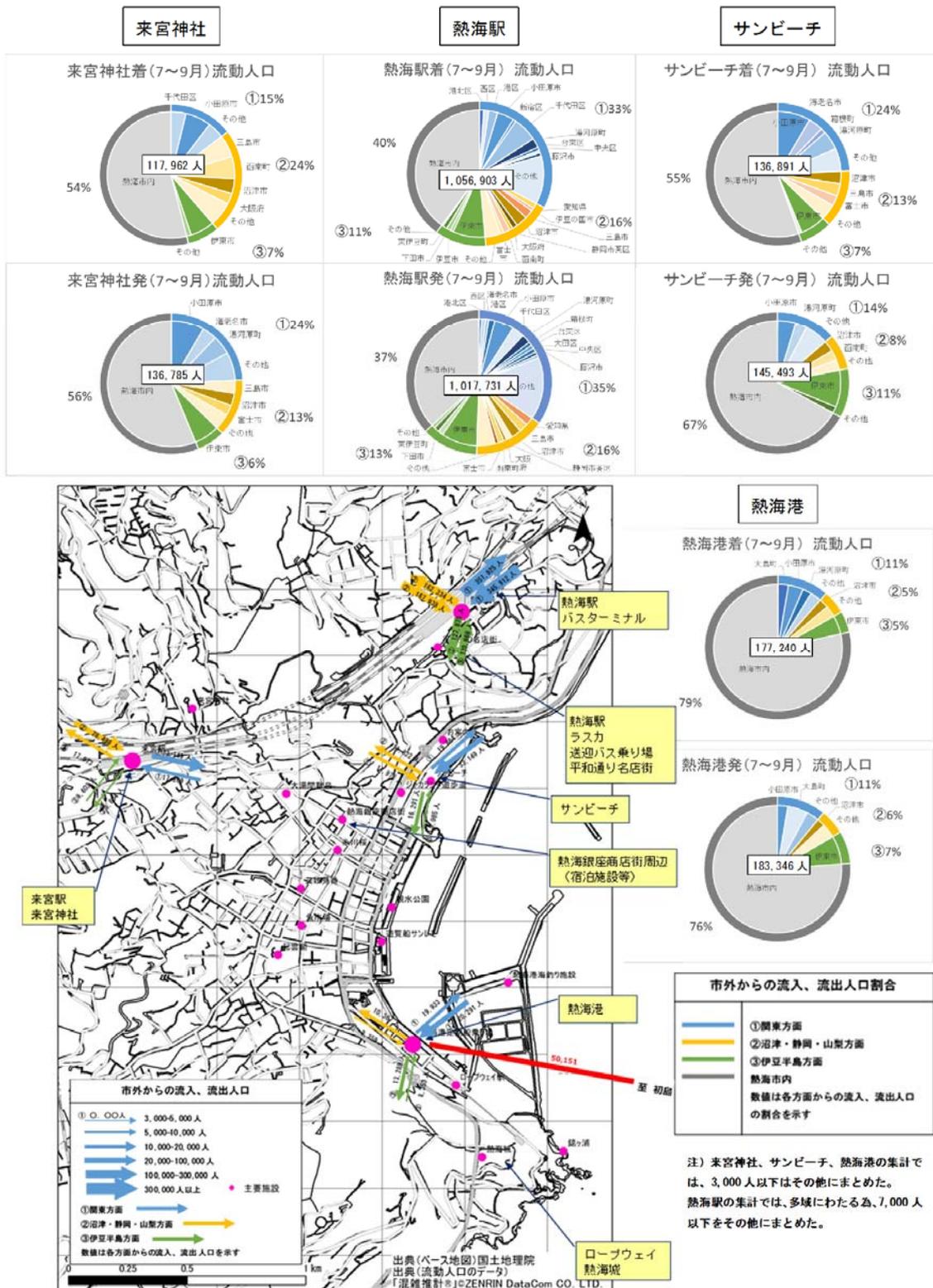


図 II. 3. 2 6 代表地点における方面別流動人口 (7月~9月 平日休日 観光客のみ)

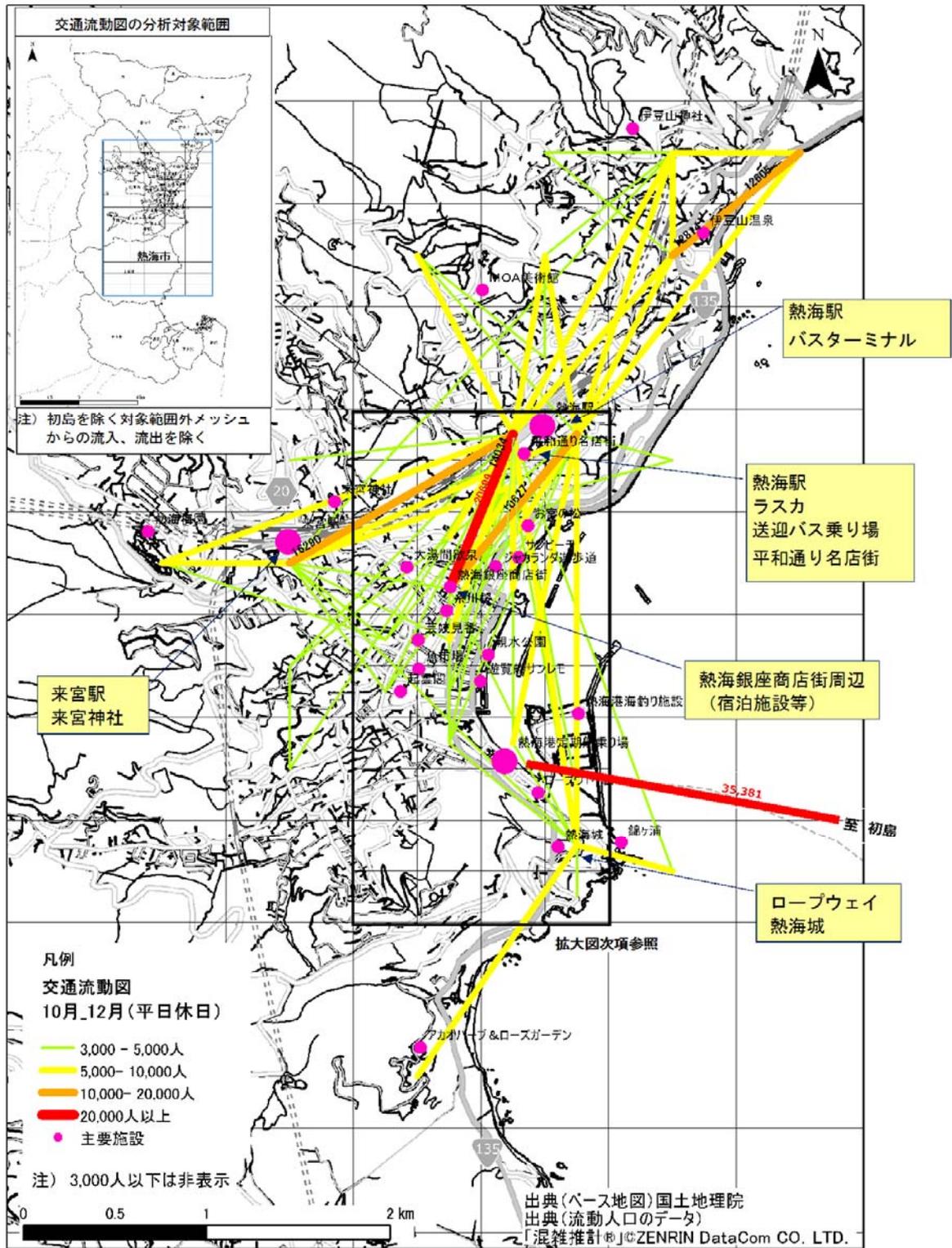


図 II. 3. 27 メッシュ間の流動状況図 (10月~12月 平日休日 観光客のみ)  
(熱海市内流動のみ)

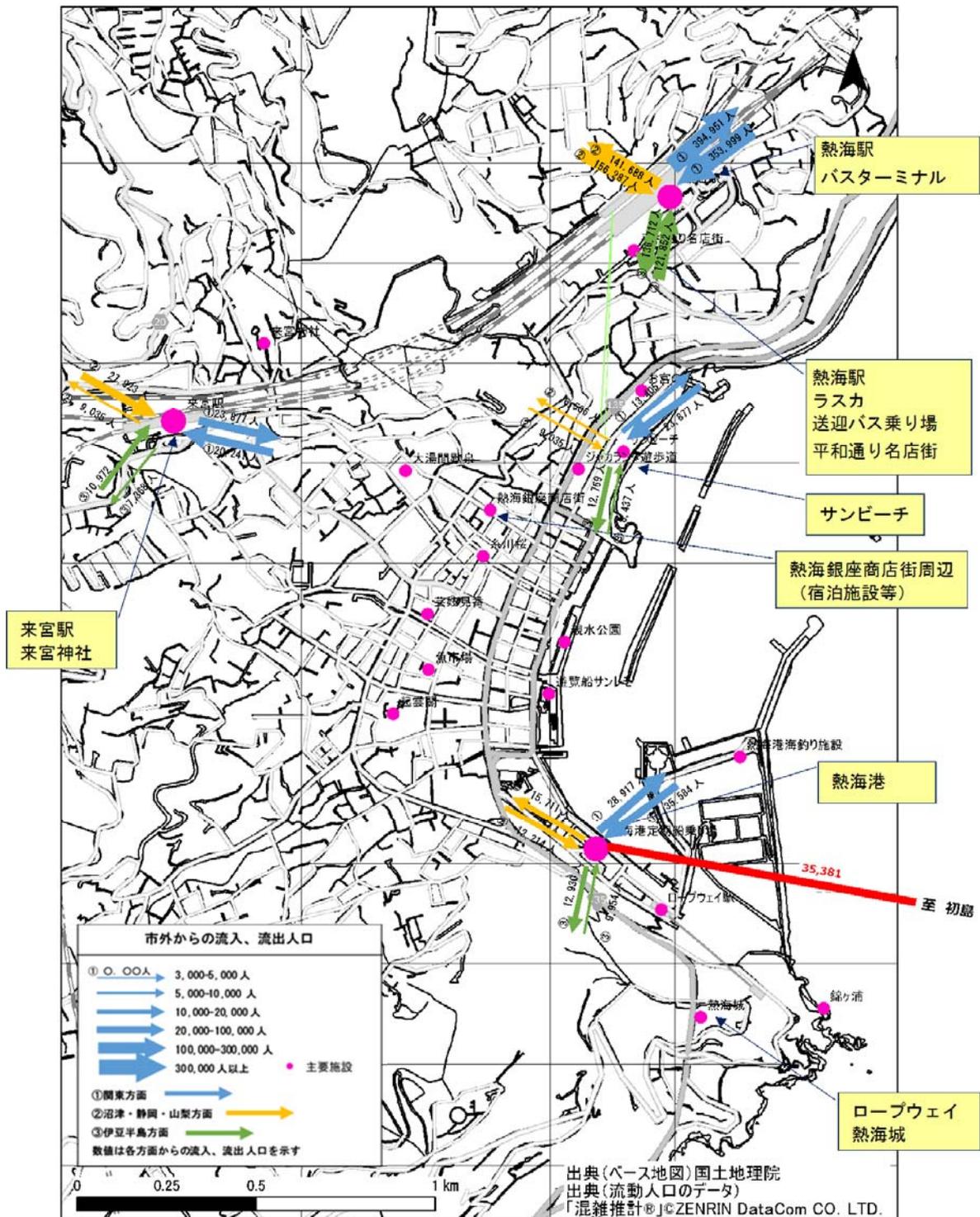


図 II. 3. 28 メッシュ間の流動状況図 (10月~12月平日休日 観光客のみ)  
市街地部拡大 (市内流動+市内代表箇所と市外との流動を表記)

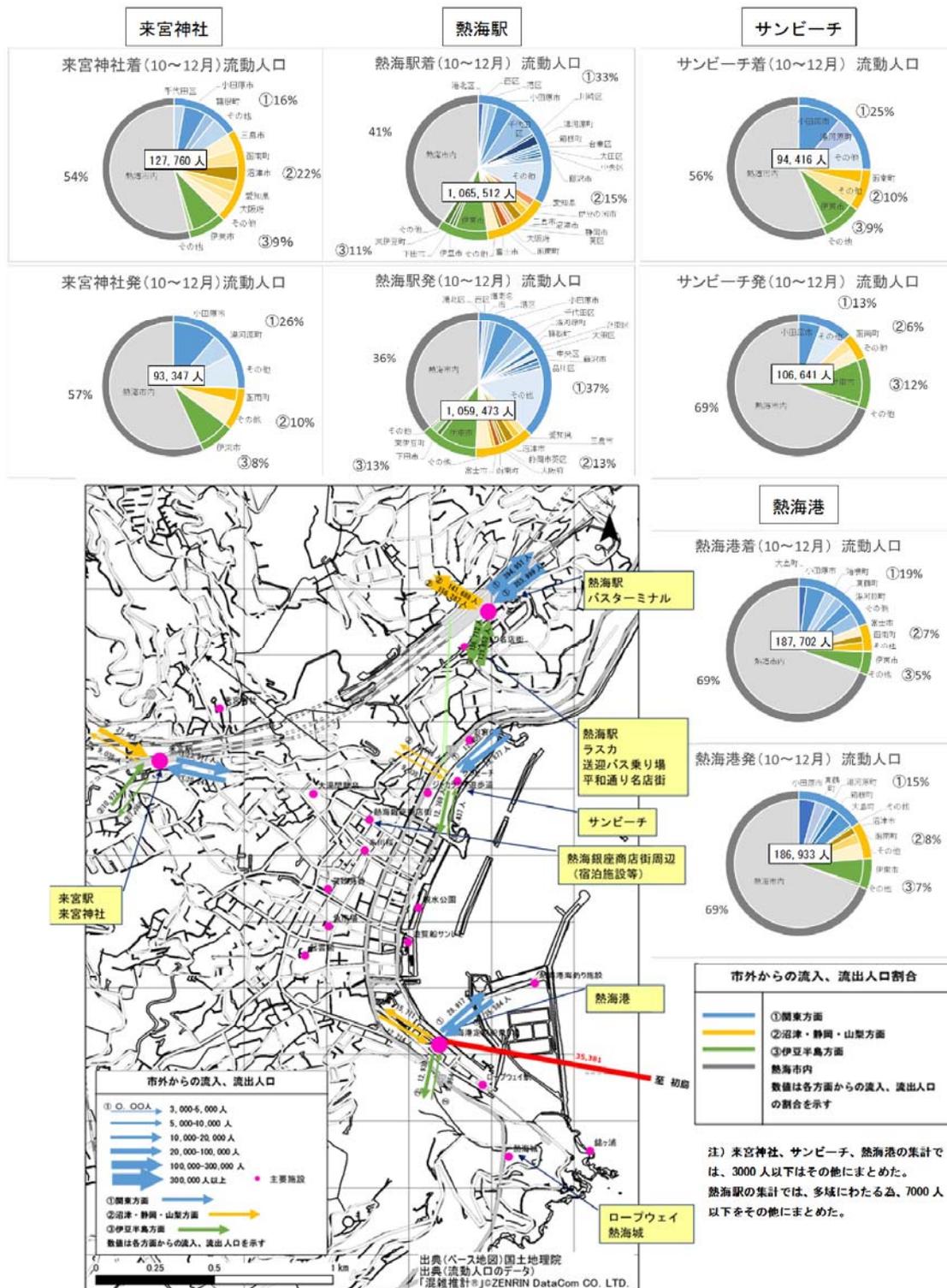


図 II. 3. 29 代表地点における方面別流動人口  
(10月~12月 平日休日 観光客のみ)

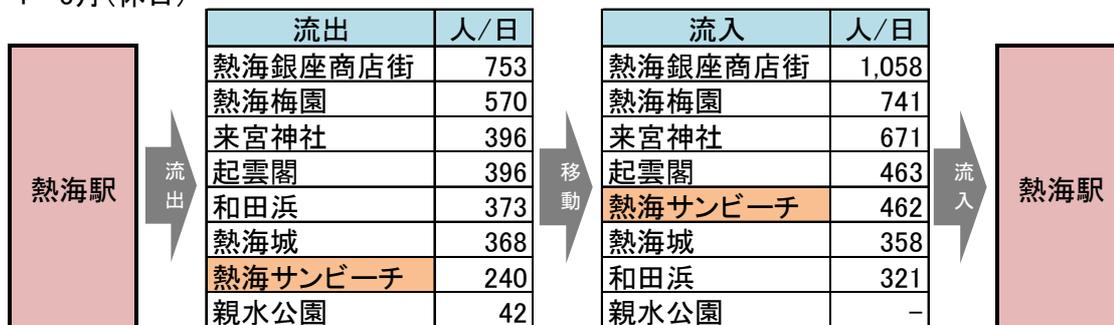
## ii : 熱海駅

中心市街地内の各地区から多くの流入・流出があり、熱海市の玄関口となっていることがうかがえる。

### 【冬季 1～3月】

- 宿泊施設や飲食店等が集積する「熱海銀座商店街」への流出・流入が多い。
- 「熱海梅園」が「熱海銀座商店街」に次いで多い。第73回熱海梅園梅まつりが、2017年1月7日（土）～3月5日（日）に開催された影響と考えられる。
- 次いで、「来宮神社」が多い。7～9月の2倍程度の流出・流入があることから、初詣客の影響と考えられる。
- 「熱海サンビーチ」は、熱海駅からの流出が比較的少ない。一方、流入が多いことから、主目的である「熱海銀座商店街」、「熱海梅園」、「来宮神社」等へ訪れた後、最後に立寄るケースが多いものと推察される。

1～3月(休日)

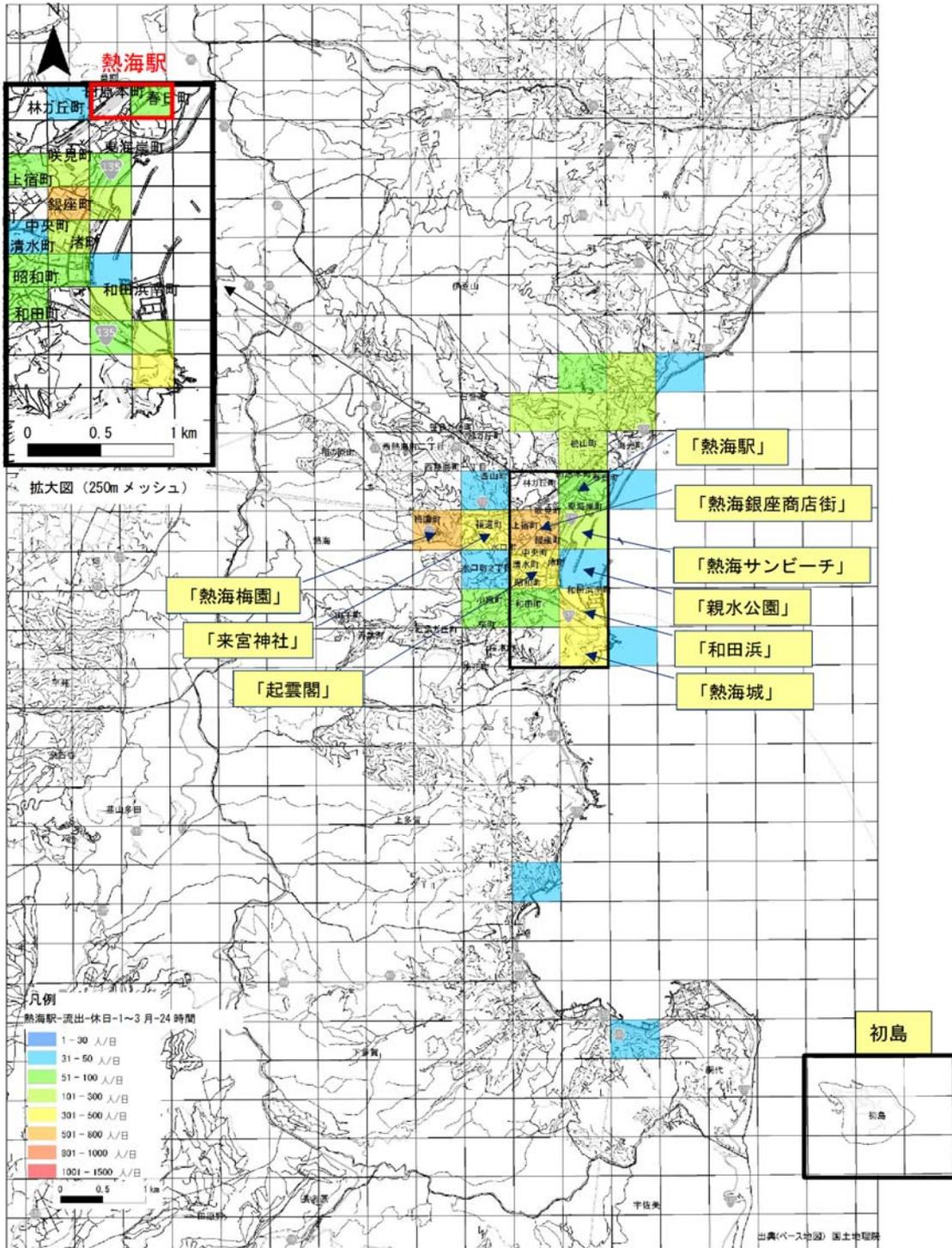


### 【夏季 7月～9月】

- 1～3月同様、宿泊施設や飲食店等が集積する「熱海銀座商店街」への流出・流入が多い。
- 海水浴シーズンであることから、「熱海サンビーチ」の流出・流入が多い。

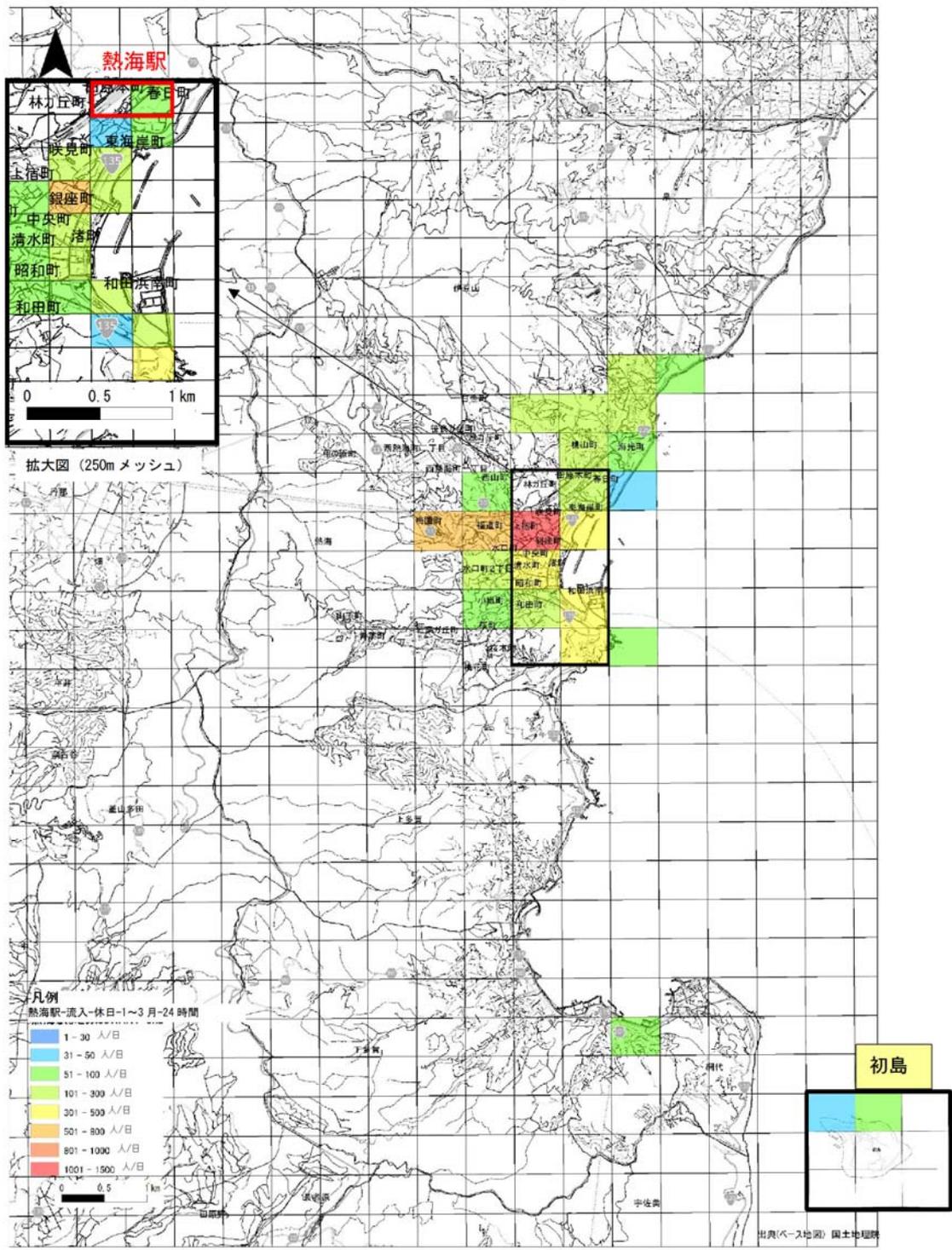
7～9月(休日)





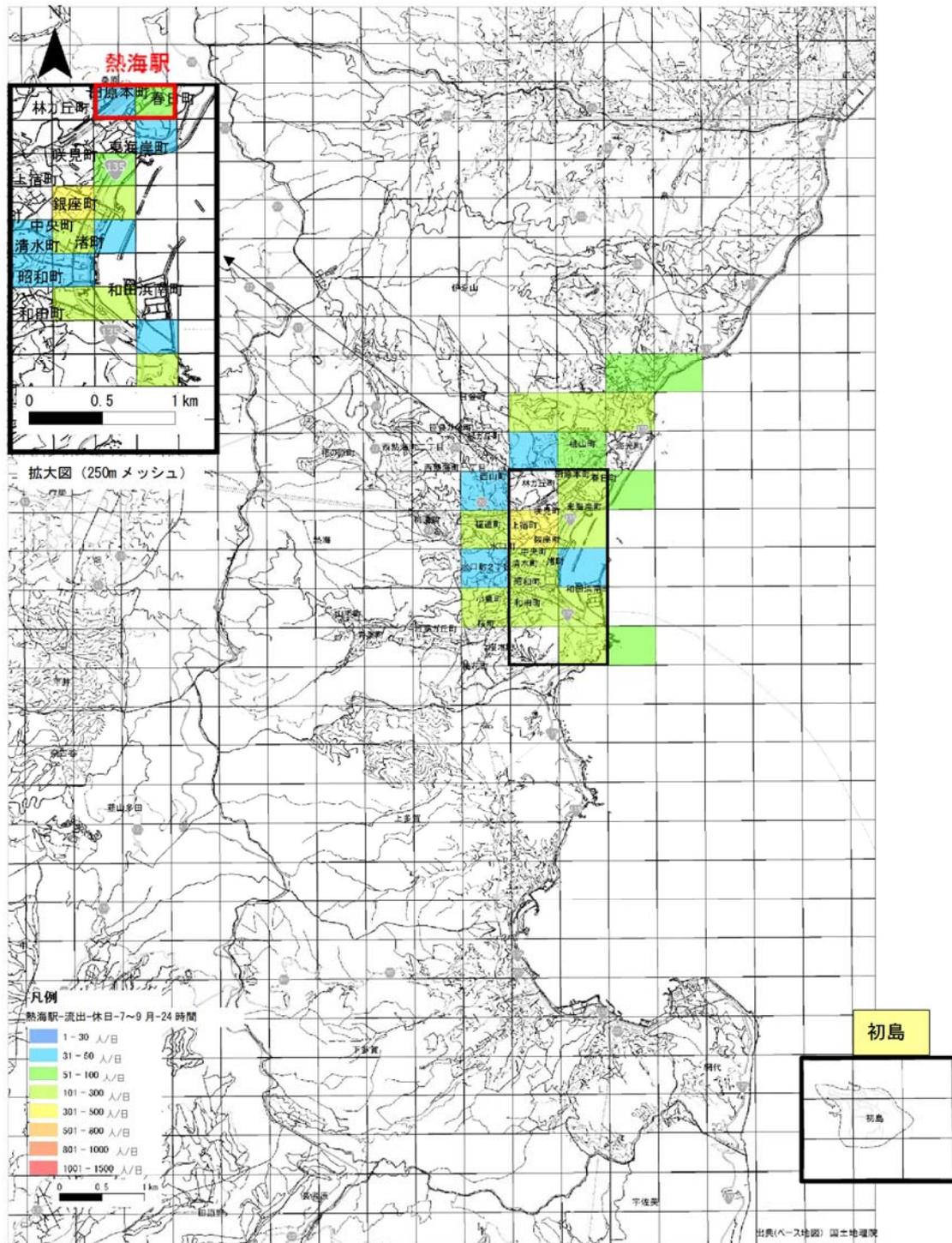
流動人口データの出典：「混雑統計®」 ©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 30 モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500mメッシュ毎) (熱海駅-流出) (休日) (1~3月)



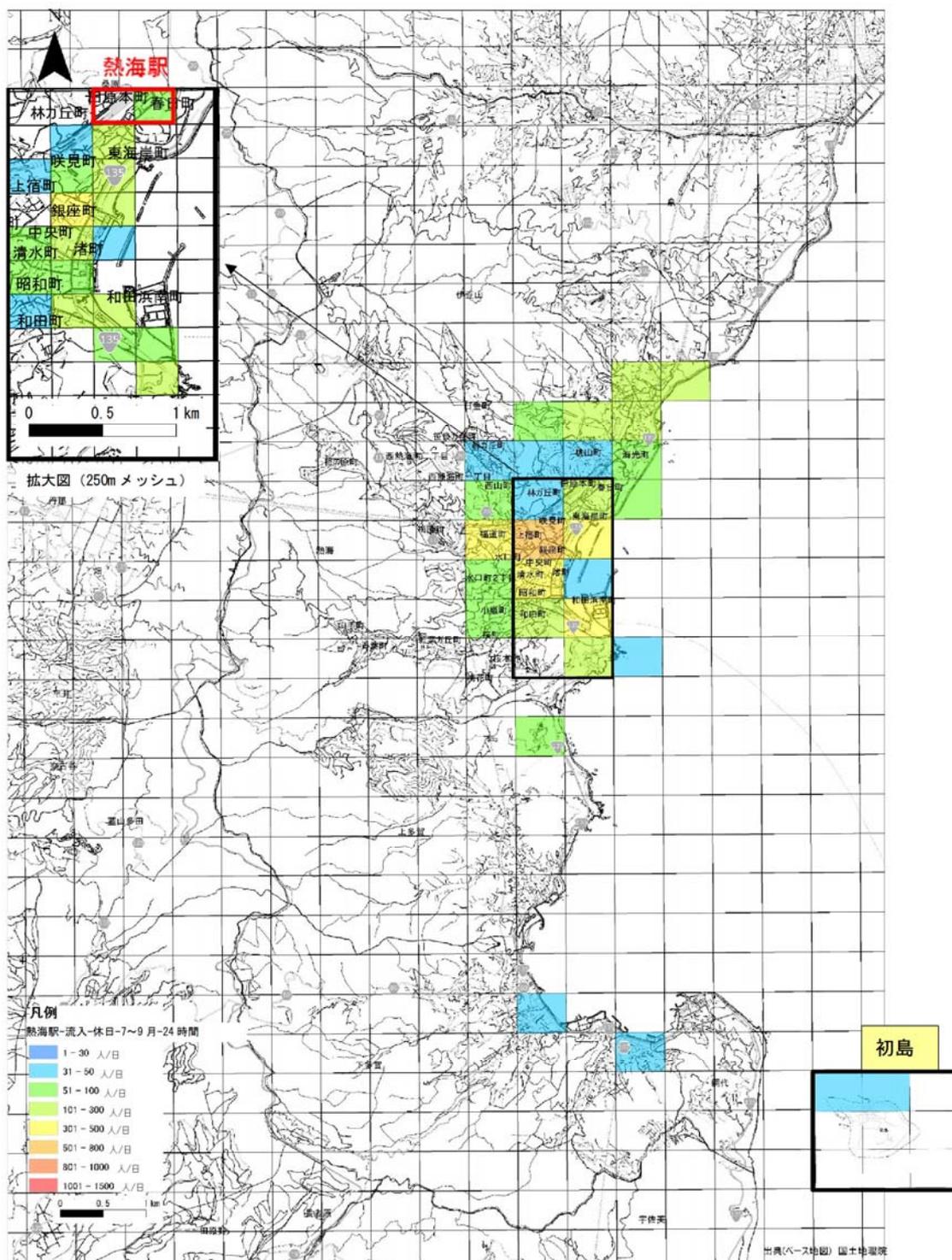
流動人口データの出典：「混雑統計」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 3 1 モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500mメッシュ毎) (熱海駅-流入) (休日) (1~3月)



流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 32 モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500mメッシュ毎)(熱海駅-流出)(休日)(7~9月)



流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 33 モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500mメッシュ毎) (熱海駅-流入) (休日) (7~9月)

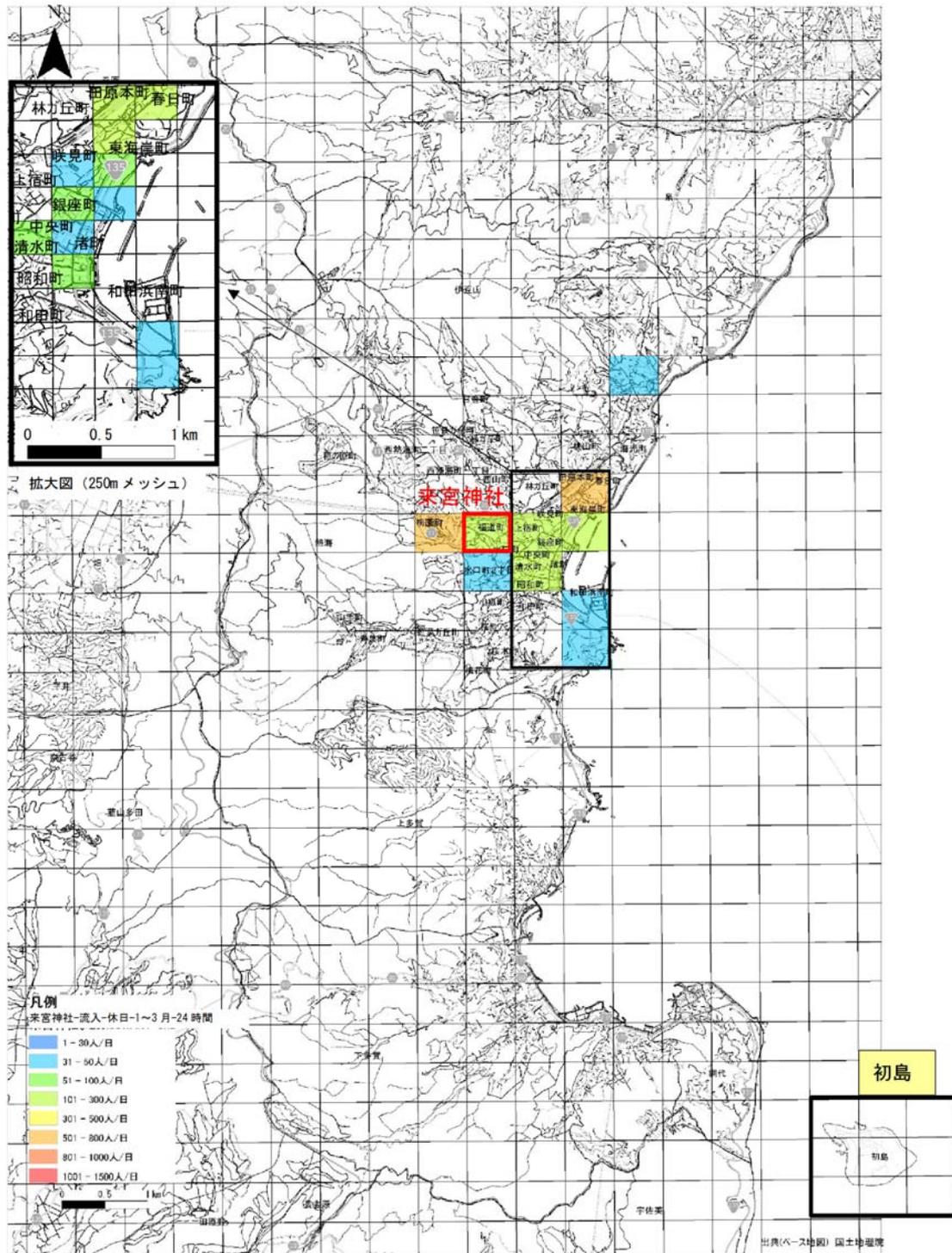
### iii : 来宮神社

#### 【1月～3月】

- 「熱海梅園」⇒「来宮神社」⇒「熱海駅」および「熱海駅」⇒「来宮神社」⇒「熱海梅園」の流動が多いと考えられる。
- 「熱海銀座商店街」および「起雲閣」への立寄りが認められるが、「熱海サンビーチ」、「和田浜」等、海岸部への立寄りには極めて少ない。

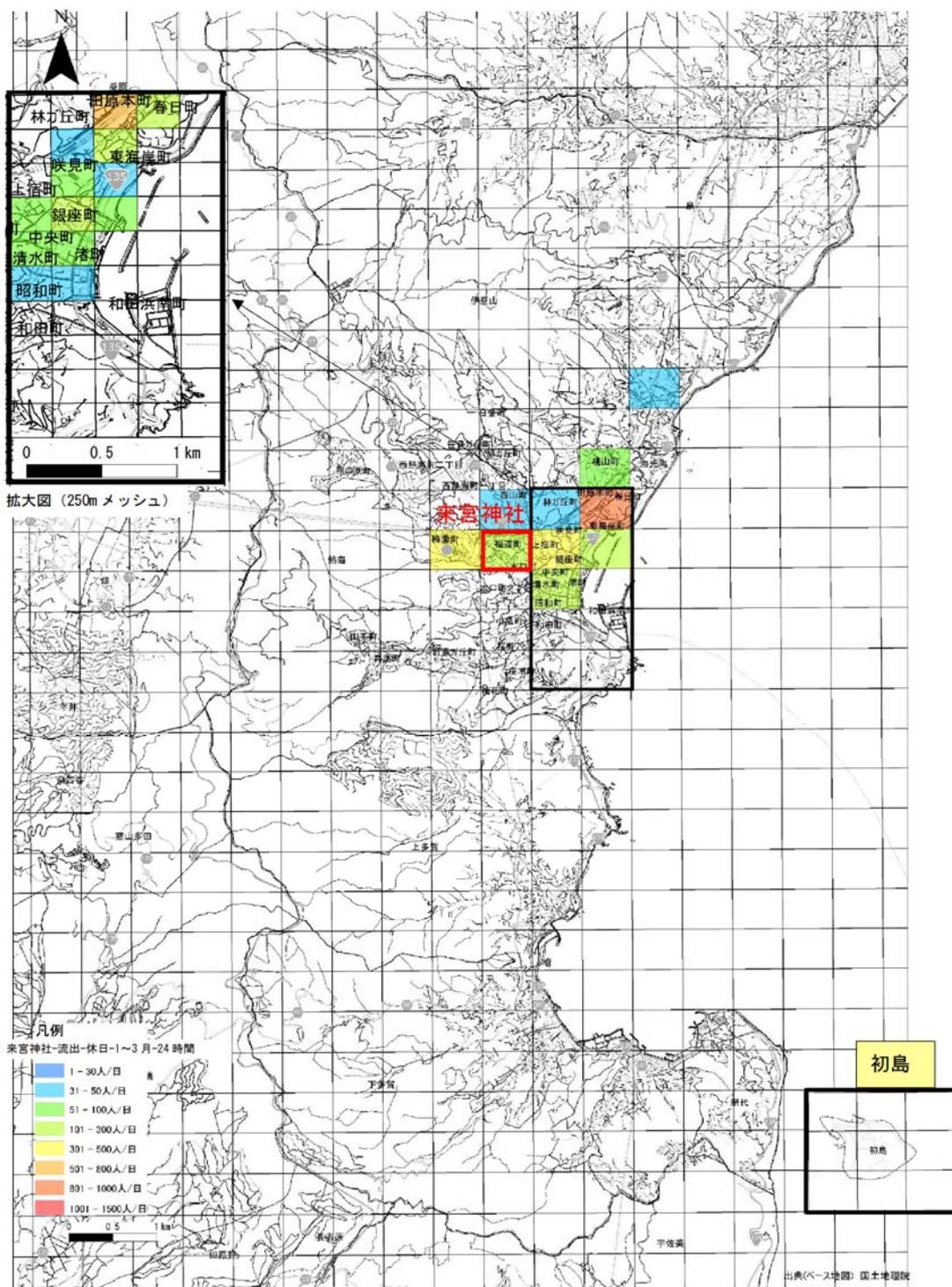
1～3月(休日)

流入	人/日	来宮神社	流出	流出	人/日
熱海梅園	743			熱海駅	828
熱海駅	540	熱海梅園	400		
起雲閣	195	熱海銀座商店街	332		
熱海銀座商店街	121	起雲閣	227		
熱海サンビーチ	112	熱海サンビーチ	130		
熱海城	44	和田浜	-		
和田浜	42	熱海城	-		
親水公園	-	親水公園	-		



流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 34 モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500mメッシュ毎) (来宮神社-流入) (休日) (1~3月)



流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

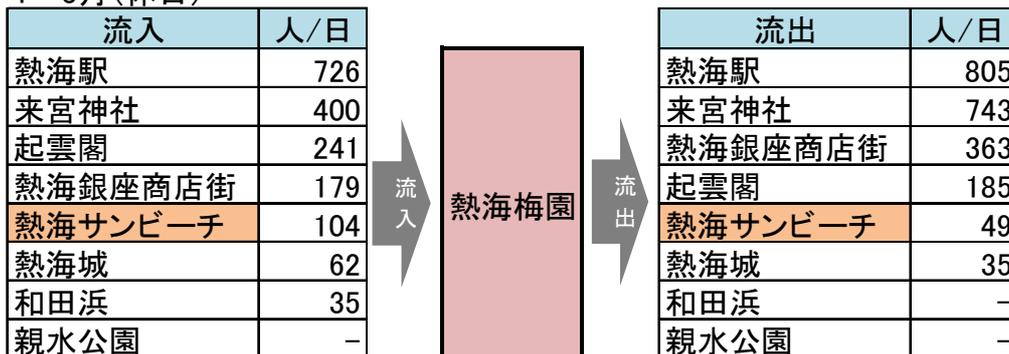
図 II. 3. 35 モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500mメッシュ毎) (来宮神社-流出) (休日) (1~3月)

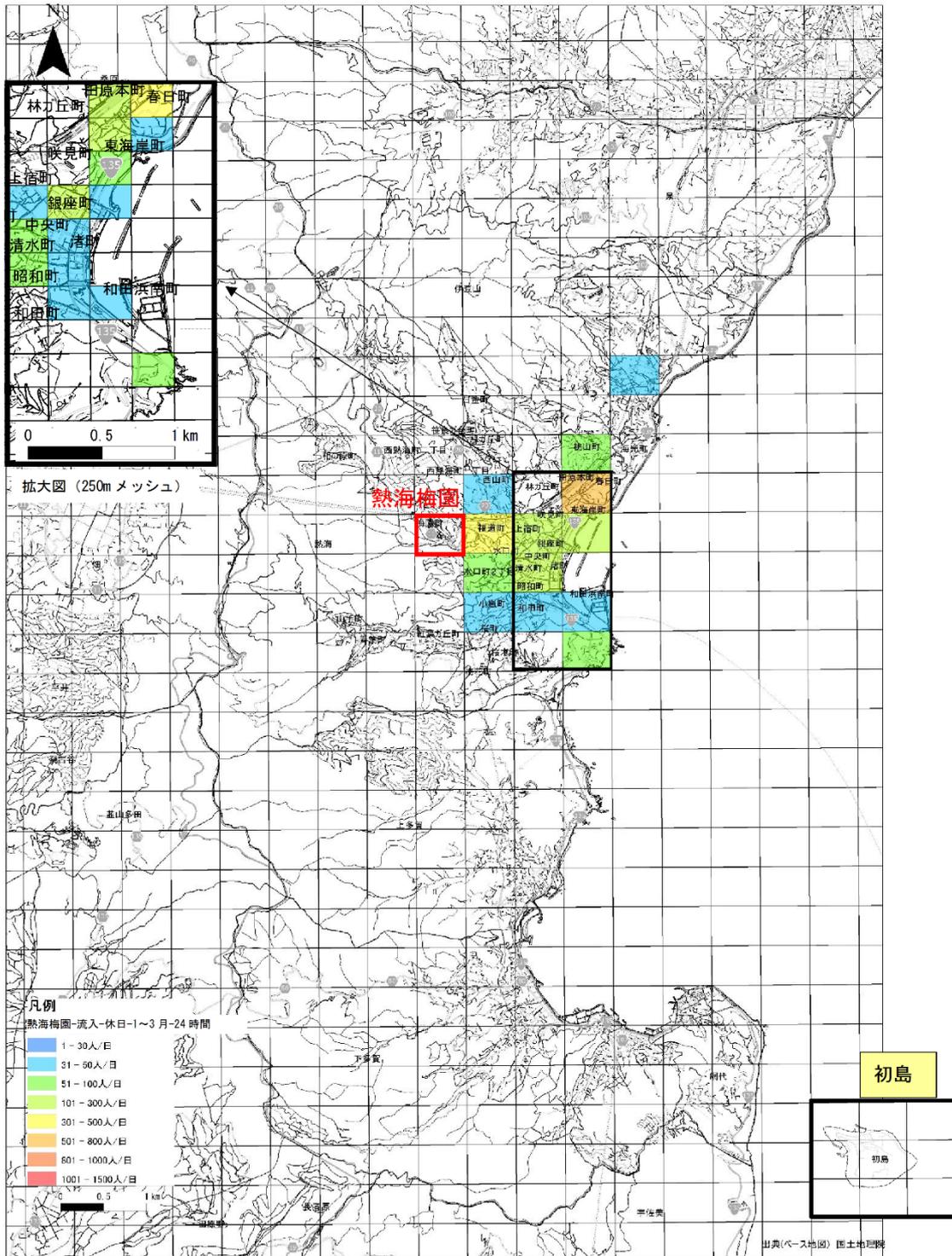
iv : 熱海梅園

【1月～3月】

- ・「熱海駅」⇒「熱海梅園」⇒「来宮神社」および「来宮神社」⇒「熱海梅園」⇒「熱海駅」の流動が多いと考えられる。
- ・「熱海銀座商店街」および「起雲閣」への立寄りが認められるが、「熱海サンビーチ」、「和田浜」等、海岸部への立寄り は極めて少ない。

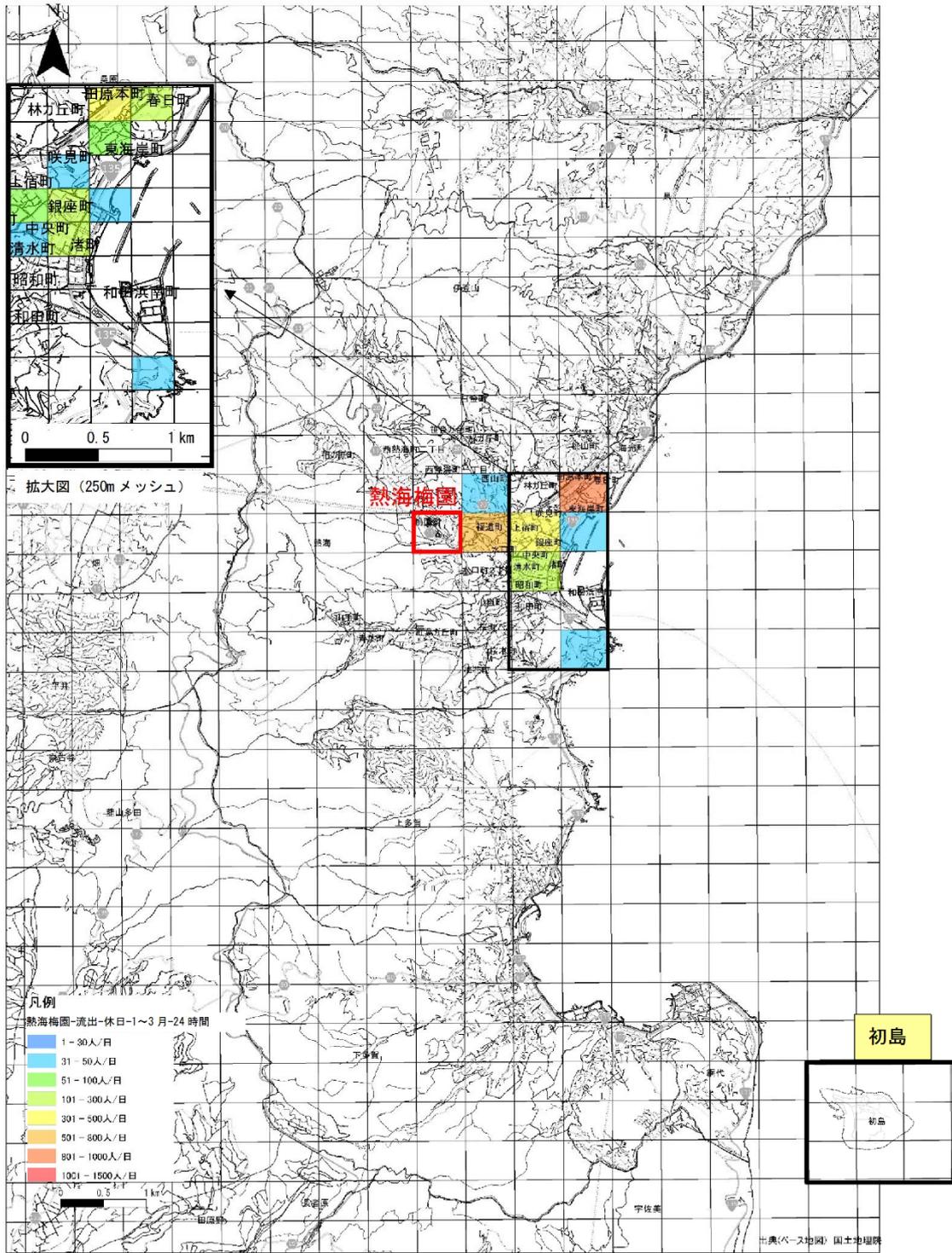
1～3月(休日)





流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 36 モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500mメッシュ毎)(熱海梅園-流入)(休日)(1~3月)



流動人口データの出典:「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

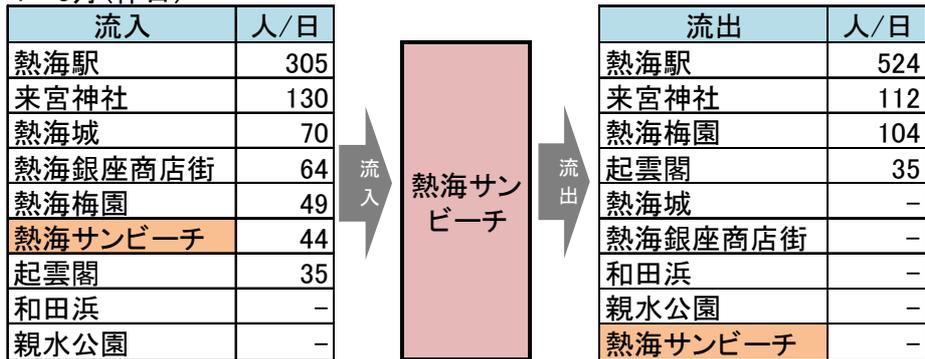
図 II. 3. 37 モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500mメッシュ毎)(熱海梅園-流出)(休日)(1~3月)

v : 熱海サンビーチ

【1月～3月】

- ・「熱海駅」⇔「熱海サンビーチ」の流動が突出しており、他地域との交流が少ないことがうかがえる。
- ・「来宮神社」および「熱海梅園」への来訪客の「熱海サンビーチ」への立寄りが比較的多い。
- ・「熱海城」、「熱海銀座商店街」への来訪後の立寄りが認められる。

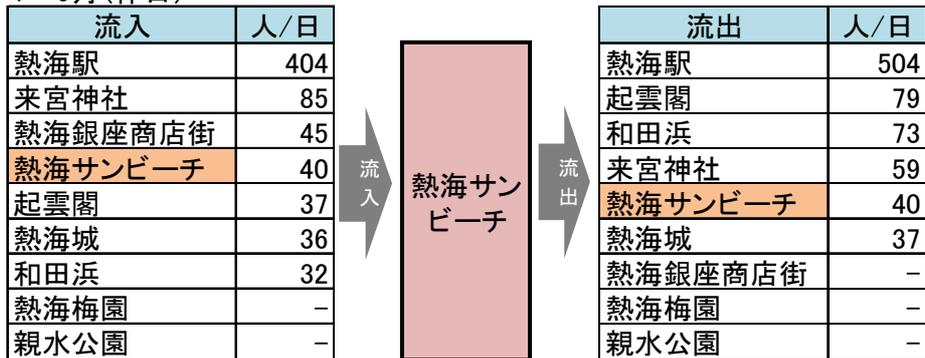
1～3月(休日)

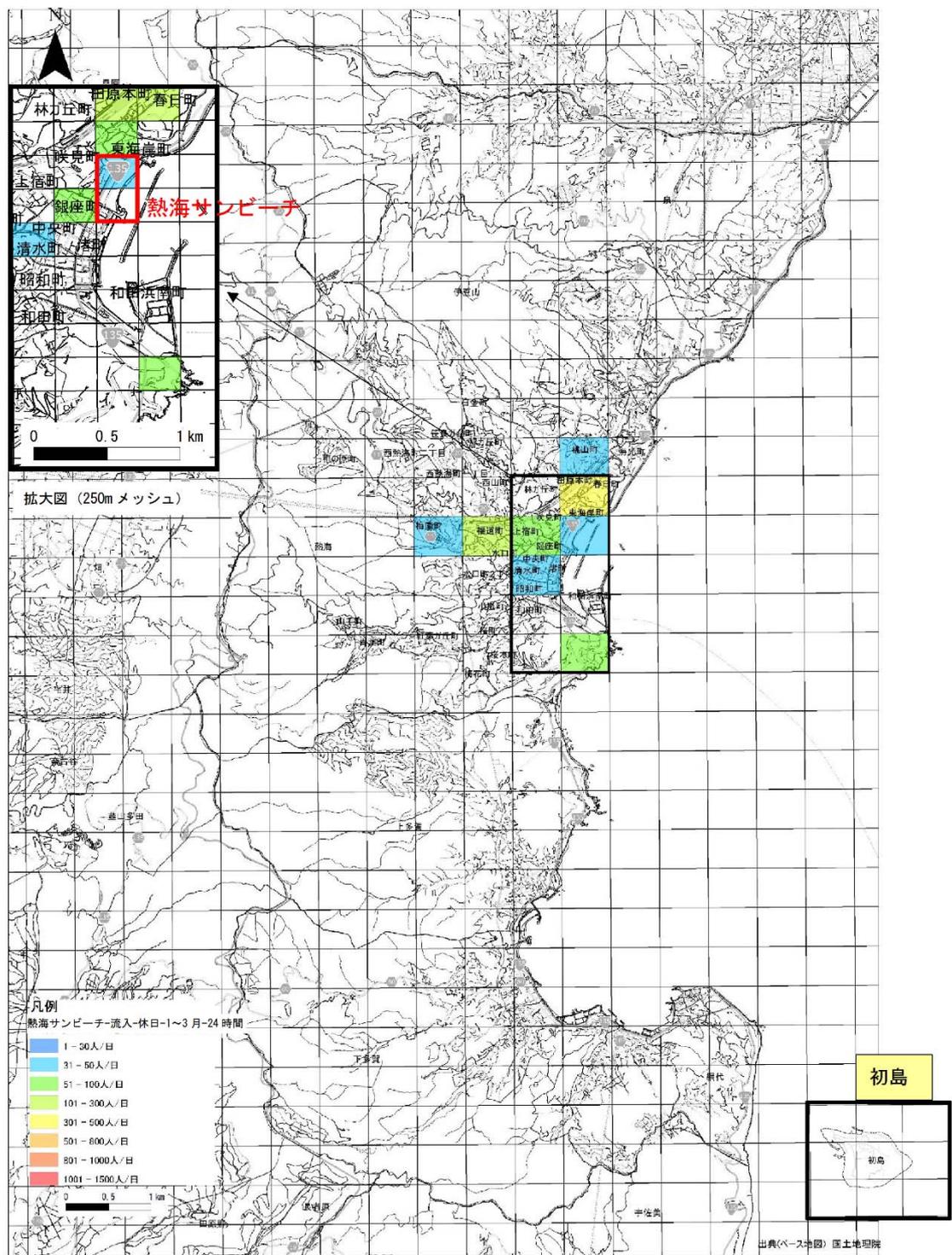


【7月～9月】

- ・1～3月と同様、「熱海駅」⇔「熱海サンビーチ」の流動が突出しており、他地域との交流が少ないことがうかがえる。
- ・「熱海サンビーチ」内での回遊が認められる。

7～9月(休日)





流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 38 モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500mメッシュ毎)(熱海サンビーチ-流入)(休日)(1~3月)

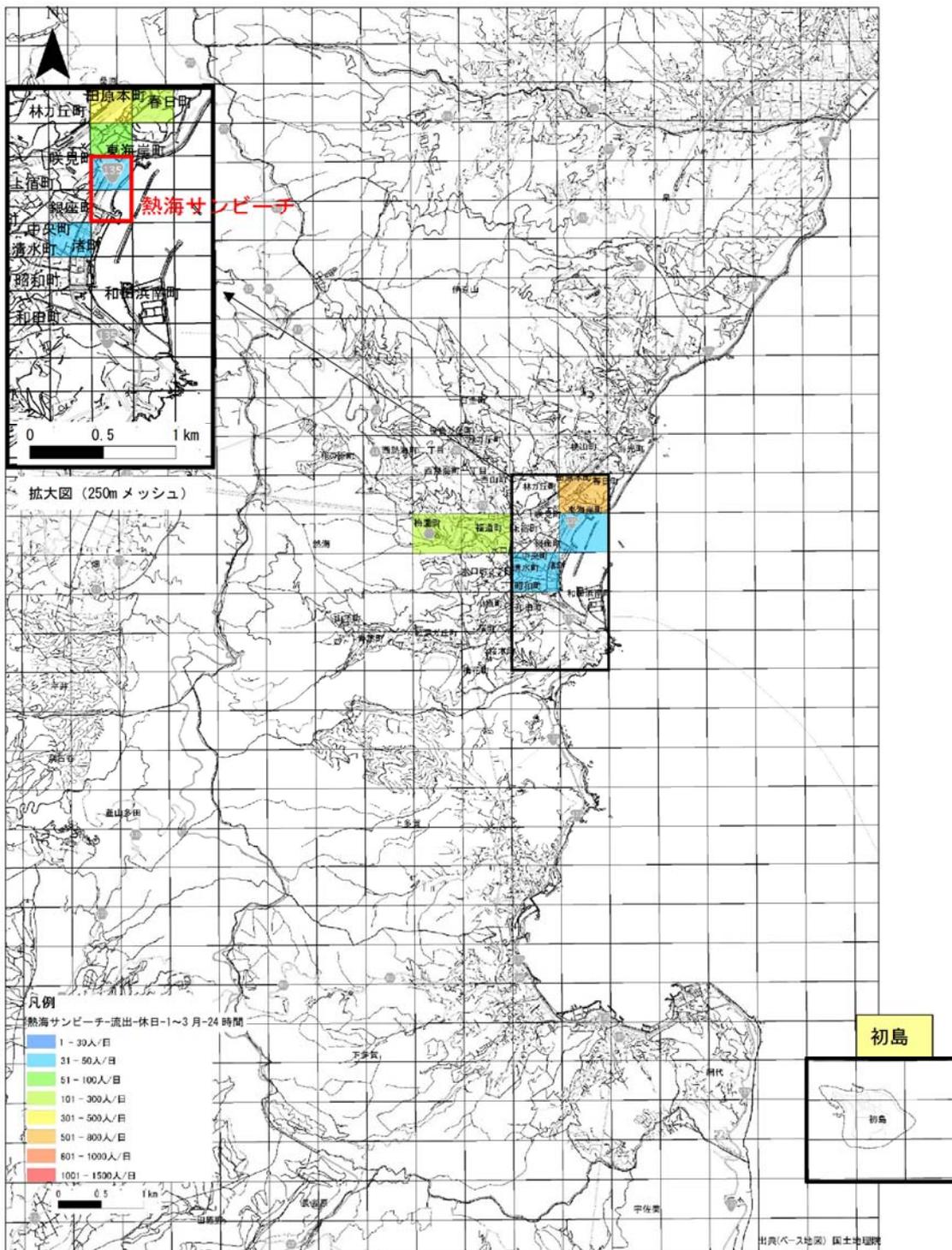
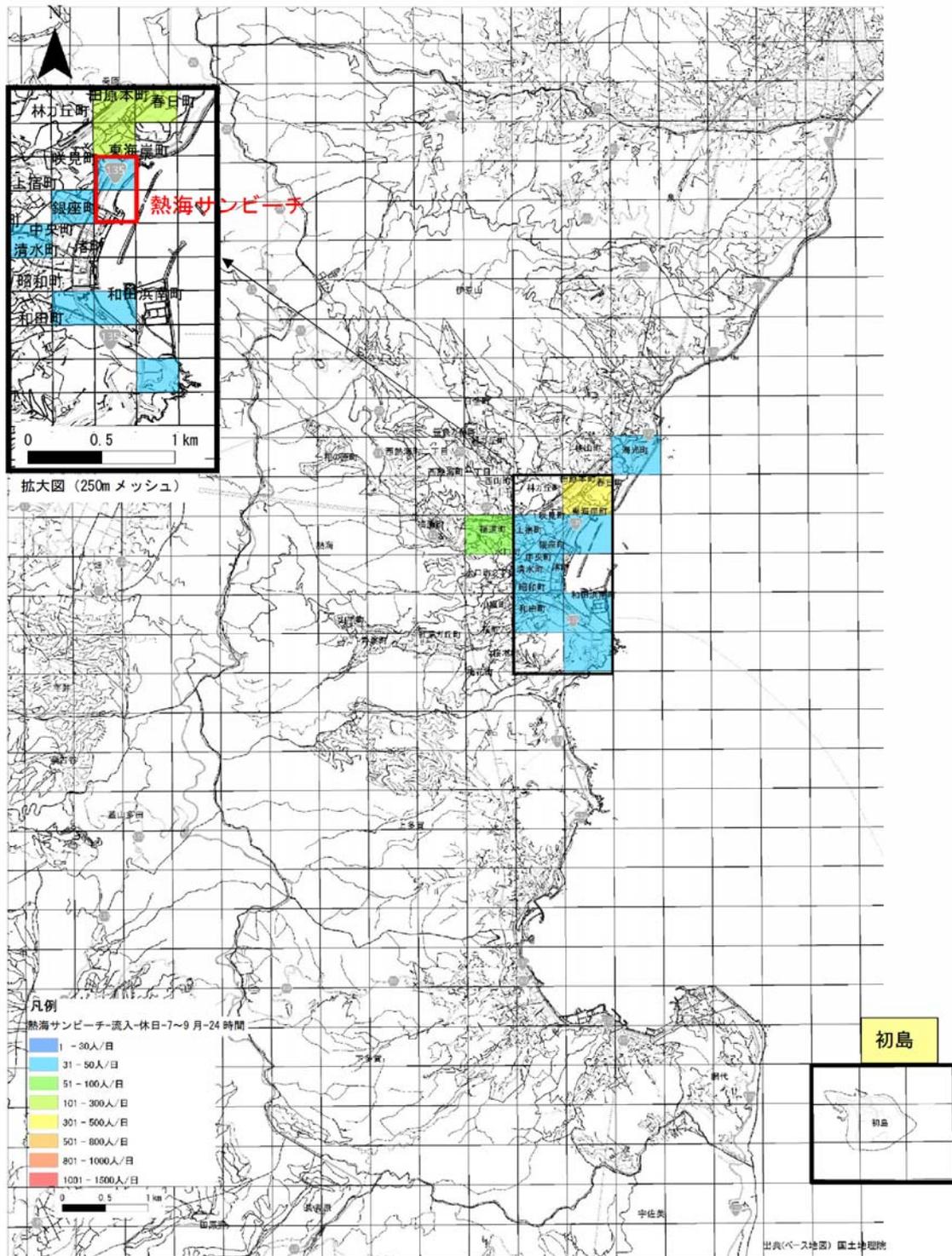
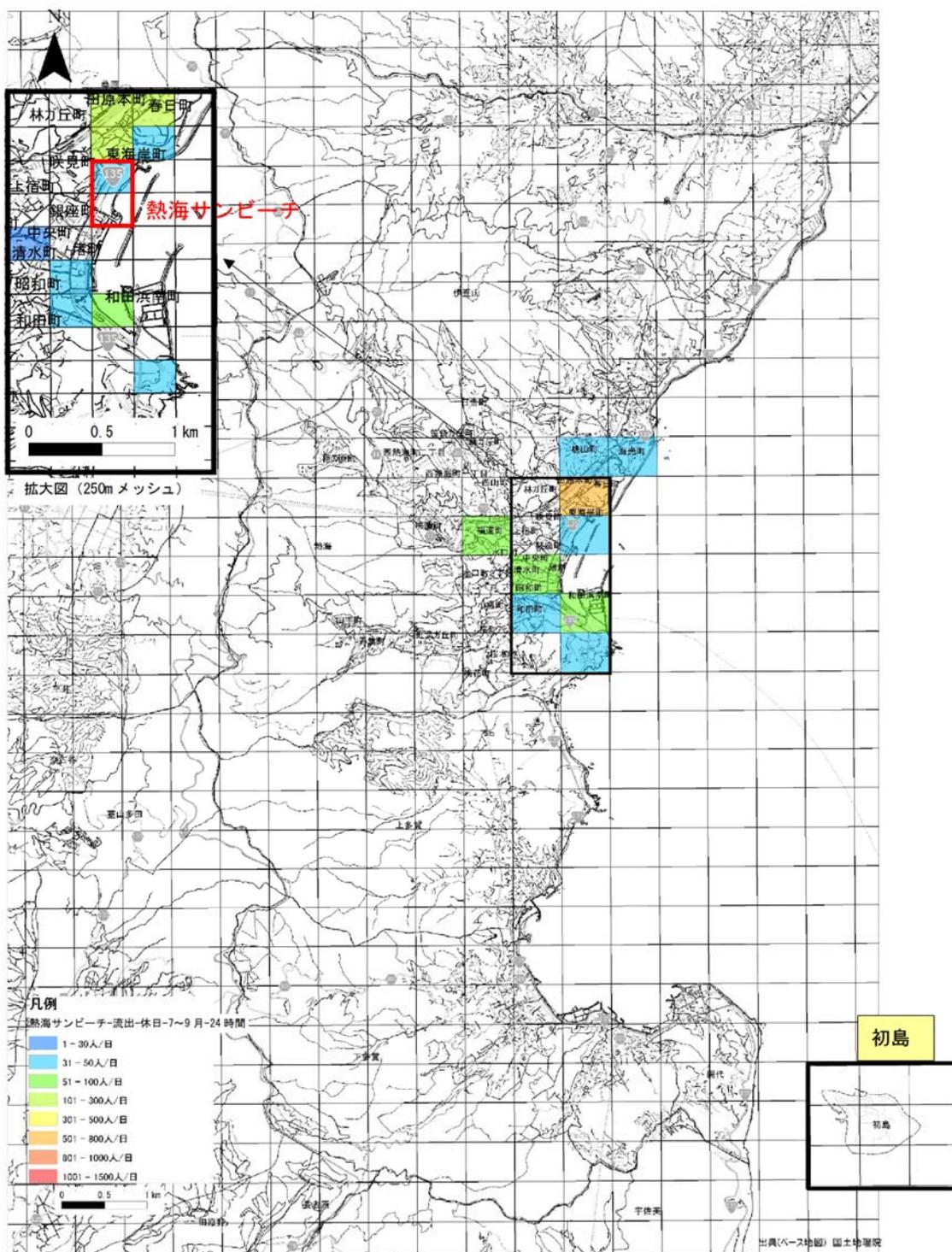


図 II. 3. 39 モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500mメッシュ毎) (熱海サンビーチ-流出) (休日) (1~3月)



流動人口データの出典：「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

図 II. 3. 40 モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500mメッシュ毎)(熱海サンビーチ-流入)(休日)(7~9月)



流動人口データの出典：「混雑統計®」 ©ZENRIN DataCom CO.,LTD.

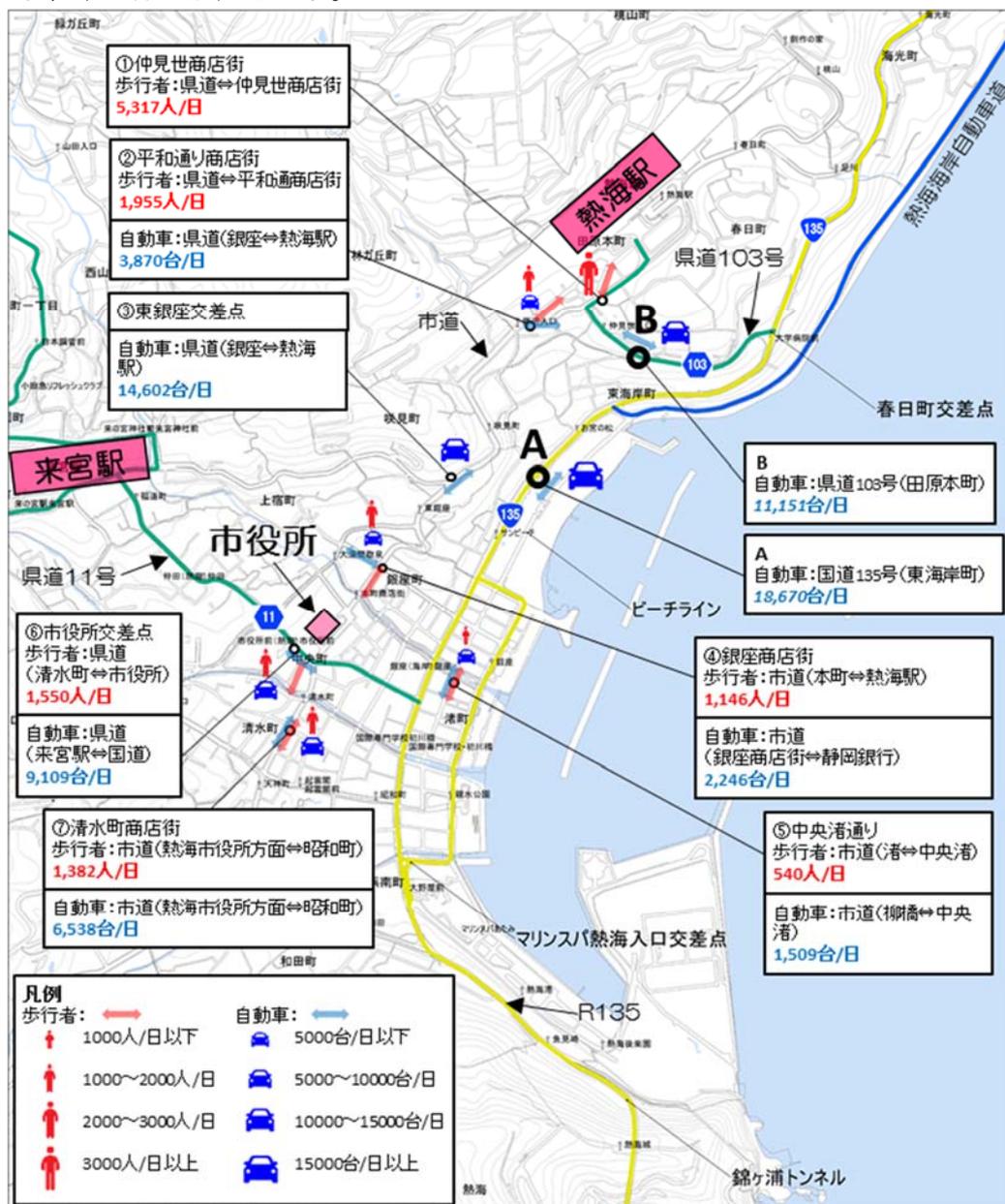
図 II. 3. 4 1 モバイルビックデータによる流動人口分析図  
(500mメッシュ毎) (熱海サンビーチ-流出) (休日) (7~9月)

## 2) 道路の渋滞状況、交通事故の発生状況

### (1) 道路ネットワークと交通量

- 国道 135 号および熱海海岸自動車道（首都圏）、県道 11 号、伊豆スカイライン、伊豆縦貫自動車道（静岡方面、伊豆エリア）が当該エリアへのアクセスおよび広域連携の幹線道路の機能を担っている。
- 海岸部の国道 135 号の交通特性として、平日に比べ休日利用の多い路線であり、特にお盆等の観光シーズンの交通量が多い状況となっている（図 II. 3. 4 2 (2) 参照）。

図 II. 3. 4 2 (1) ～ (2) に主要路線の交通量および自動車交通特性（時間変動、平日休日別）を示す。



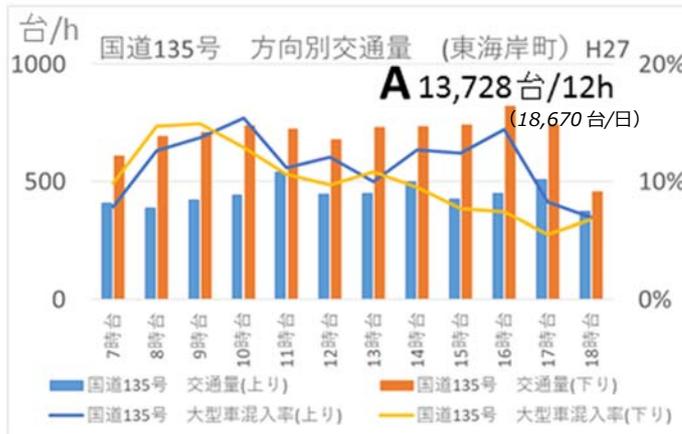
(交通量の出典：平成 27 年道路交通センサス、熱海市商工会議所調査 H29. 3)

※AB 交通量の出典 平成 27 年度 道路交通センサス (平日)

※その他交通量の出典 熱海 商工会議所調査 (平日) (H29. 3) (下り：小田原方面、上り：伊東方面)

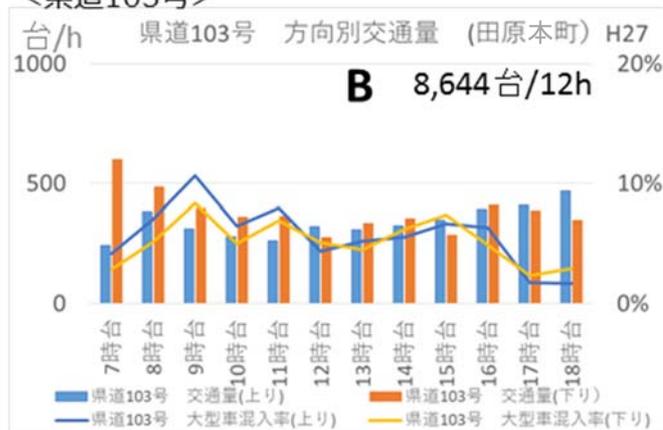
図 II. 3. 4 2 (1) 熱海市内の道路ネットワークと交通量

<国道 135 号>



国道 135 号交通特性 (平日・休日別)

<県道103号>



<県道11号>



※交通量の出典 平成 27 年度 道路交通センサス (平日) (下り: 小田原方面、上り: 伊東方面)

図 II. 3. 4 (2) 交通特性 (時間変動)

参考資料：商工会議所調査（H29.3）

①仲見世商店街歩行者

歩行者：県道⇄仲見世商店街（H29.3調査）

		平日平均	休日平均
1	駅→県道	1,971	3,208
2	県道→駅	3,346	4,567
1+2.	断面	5,317	7,775

②平和通り商店街

歩行者：県道⇄平和通り商店街（H29.3調査）

		平日平均	休日平均
1	駅→県道	1,072	1,456
2	県道→駅	883	1,020
1+2.	断面	1,955	2,476

自動車：県道（銀座⇄熱海駅）（H29.3調査）

		平日平均	休日平均
1	→銀座	2,720	3,681
2	→駅	1,150	1,545
1+2.	断面	3,870	5,226

③東銀座交差点

歩行者

		平日平均	休日平均
1			
2			
1+2.	断面	0	0

自動車：県道（銀座⇄熱海駅）（H29.3調査）

		平日平均	休日平均
1	→銀座	8,717	9,762
2	→駅	5,885	6,016
1+2.	断面	14,602	15,778

④銀座商店街

歩行者：市道（本町⇄熱海駅）

		平日平均	休日平均
1	→本町	731	977
2	→駅	415	683
1+2.	断面	1,146	1,660

自動車：市道（銀座商店街⇄静岡銀行）（H29.3調査）

		平日平均	休日平均
1	→静岡銀行	1,404	1,427
2	→銀座商店街	842	1,073
1+2.	断面	2,246	2,500

⑤中央渚通り

歩行者：市道（渚⇄中央渚）

		平日平均	休日平均
1	→中央渚	515	426
2	→渚	25	40
1+2.	断面	540	466

自動車：市道（柳橋⇄中央渚）（H29.3調査）

		平日平均	休日平均
1	→中央渚	997	1,071
2	→柳橋	512	539
1+2.	断面	1,509	1,610

3月より1月が多い

⑥市役所交差点

歩行者：県道（清水町⇄市役所）

		平日平均	休日平均
1	→市役所	701	590
2	→清水町	849	734
1+2.	断面	1,550	1,324

自動車：県道（来宮駅⇄国道）（H29.3調査）

		平日平均	休日平均
1	→来宮駅	4,619	4,679
2	→国道	4,490	4,803
1+2.	断面	9,109	9,482

⑦清水町商店街

歩行者：市道（熱海市役所方面⇄昭和町）

		平日平均	休日平均
1	→昭和町	785	755
2	→市役所	597	645
1+2.	断面	1,382	1,400

自動車：市道（熱海市役所方面⇄昭和町）（H29.3調査）

		平日平均	休日平均
1	→昭和町	3,214	3,009
2	→市役所	3,324	3,209
1+2.	断面	6,538	6,218

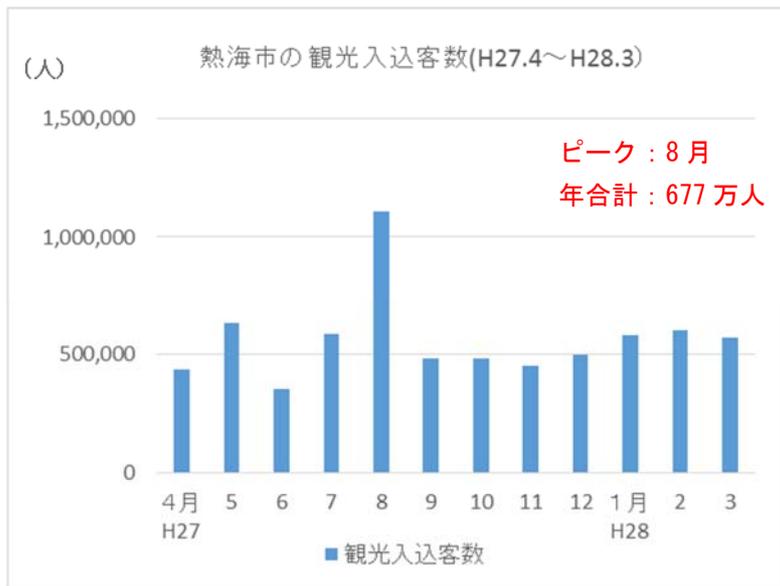
※交通量の出典 熱海市商工会議所調査（H29.3）

## (2) 道路の渋滞状況

- 国道 135 号：8 月のお盆など休日の観光交通により、道路混雑が発生  
東海岸町付近は、事故危険箇所指定（静岡県警指定）
- 和田浜エリア：国道の出入り口部の交差点で渋滞が顕著（ヒアリング意見）

次項より、モバイルビックデータ（携帯カーナビプローブデータによる平均速度値）を活用した、熱海市内の自動車交通の混雑状況を示す（平均速度データの出典：ナビタイムジャパン(カーナビプローブデータ)）。

また、観光入込客数（月変動）より、混雑時期のピークとして 8 月、平準時を 11 月と想定し、平日（H27 年 1 月～H29 年 11 月の 3 年平均）・休日（8 月お盆[8 月 11～15 日]の 3 年平均）で整理した。



(出典：熱海市統計書 H28)

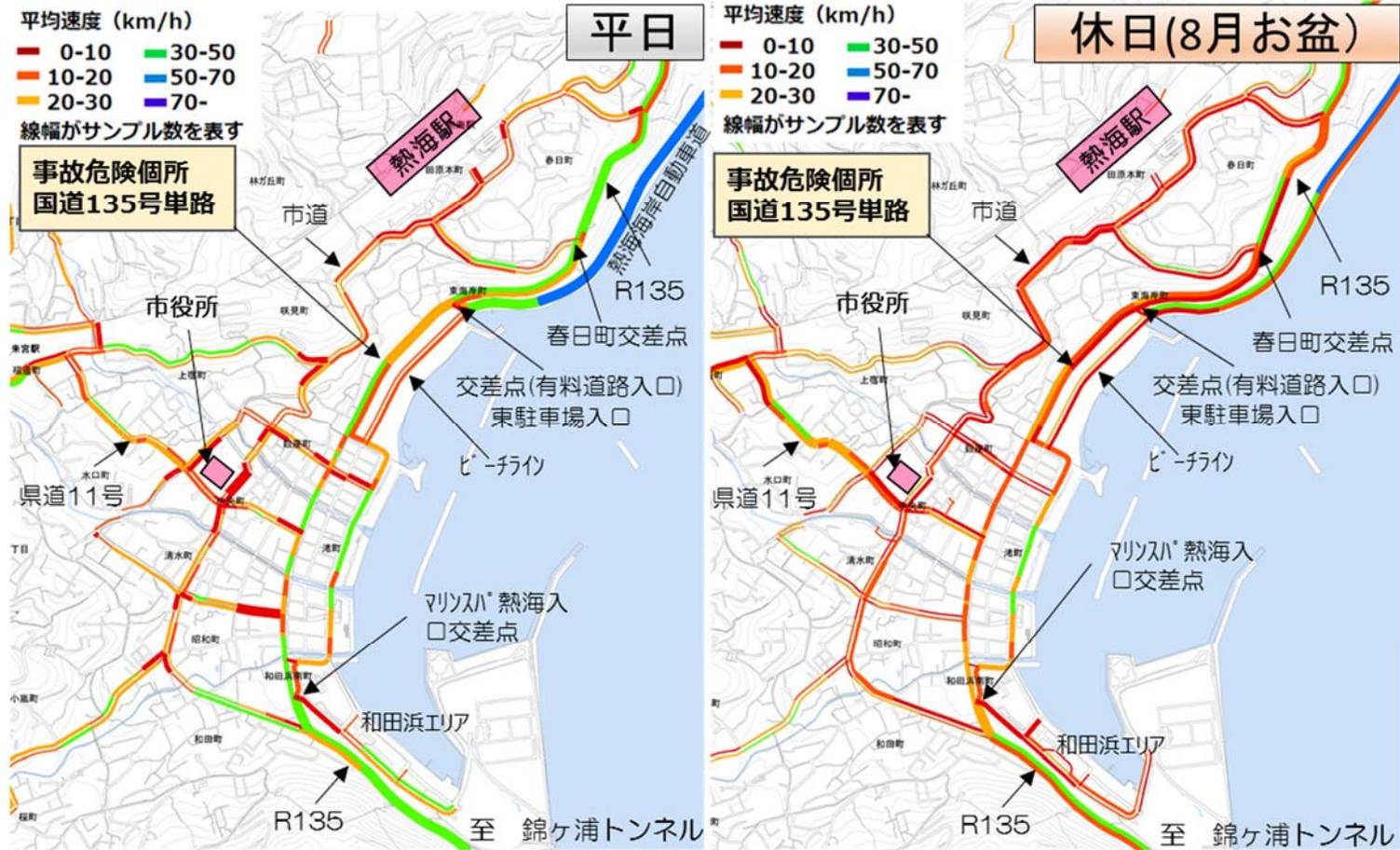
図 II. 3. 4 3 熱海市の観光入込客数（月変動）



(出典：静岡県 HP)

図 II. 3. 4 4 熱海ビーチライン(休日)の混雑状況

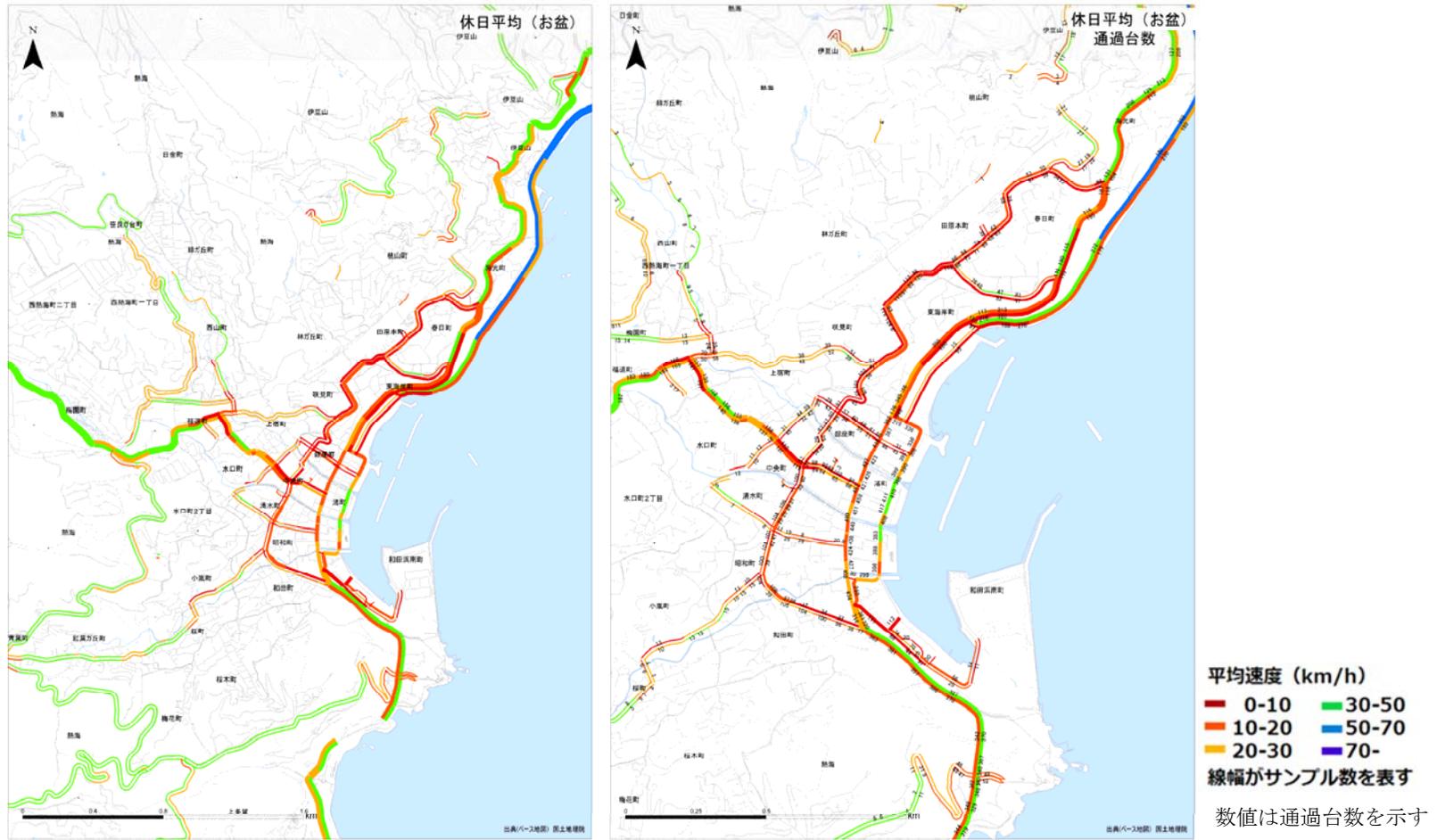
携帯カーナビプローブデータによる平均旅行速度図（平日休日比較）



出典 (ベース地図) : 国土数値情報  
平均速度データの出典 : ナビタイムジャパン

図 II. 3. 45 道路の混雑状況 (左 : 2017年11月[平日平均 1車線道路除く] 右 : 2017年8月お盆[11~15日1車線道路除く])

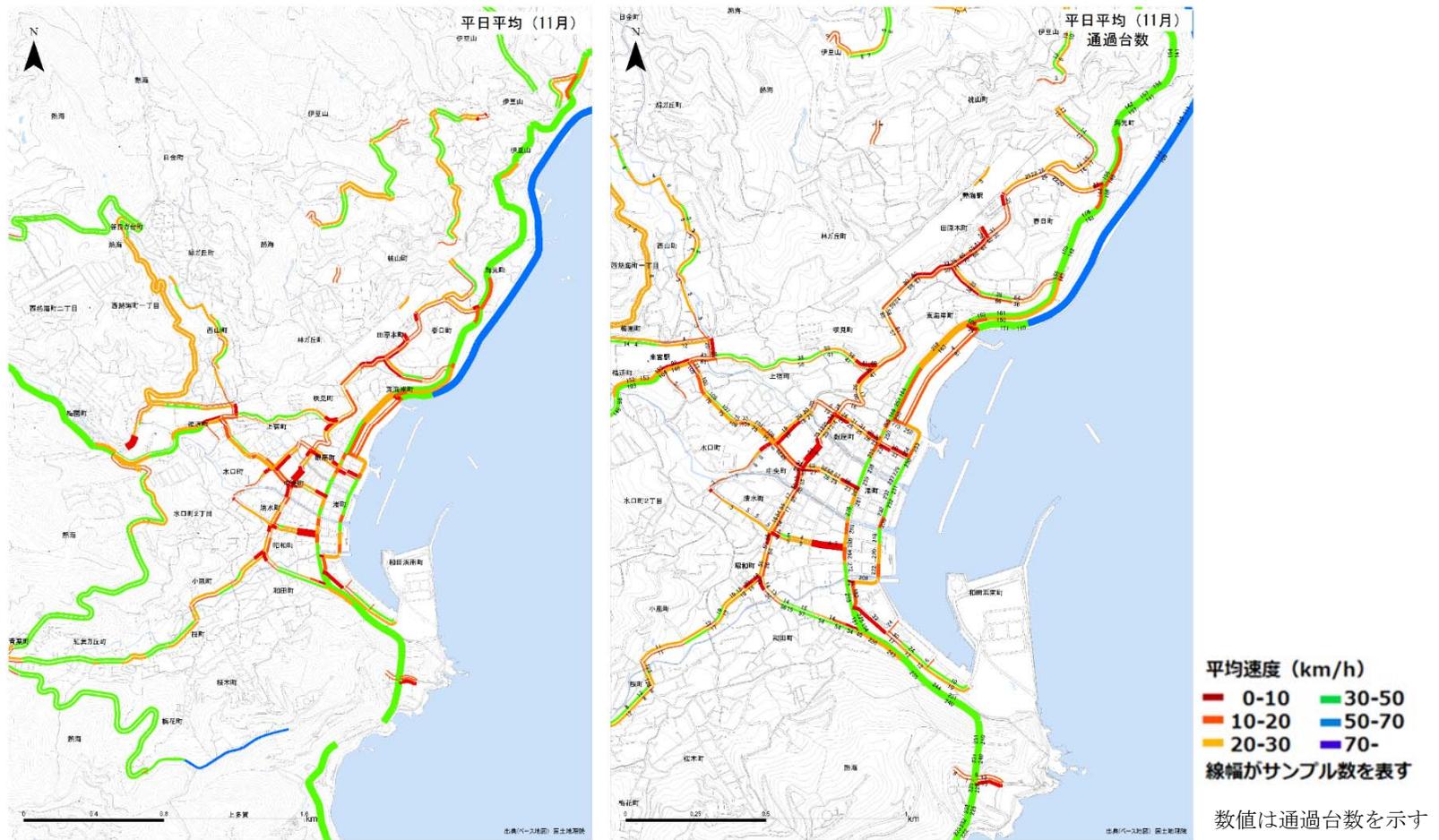
## 携帯カーナビプローブデータによる平均旅行速度図（休日平均（お盆））



出典（ベース地図）：国土数値情報  
 平均速度データの出典：ナビタイムジャパン（計測時期：2017年8月）

図 II. 3. 4 6 道路の混雑状況（お盆）

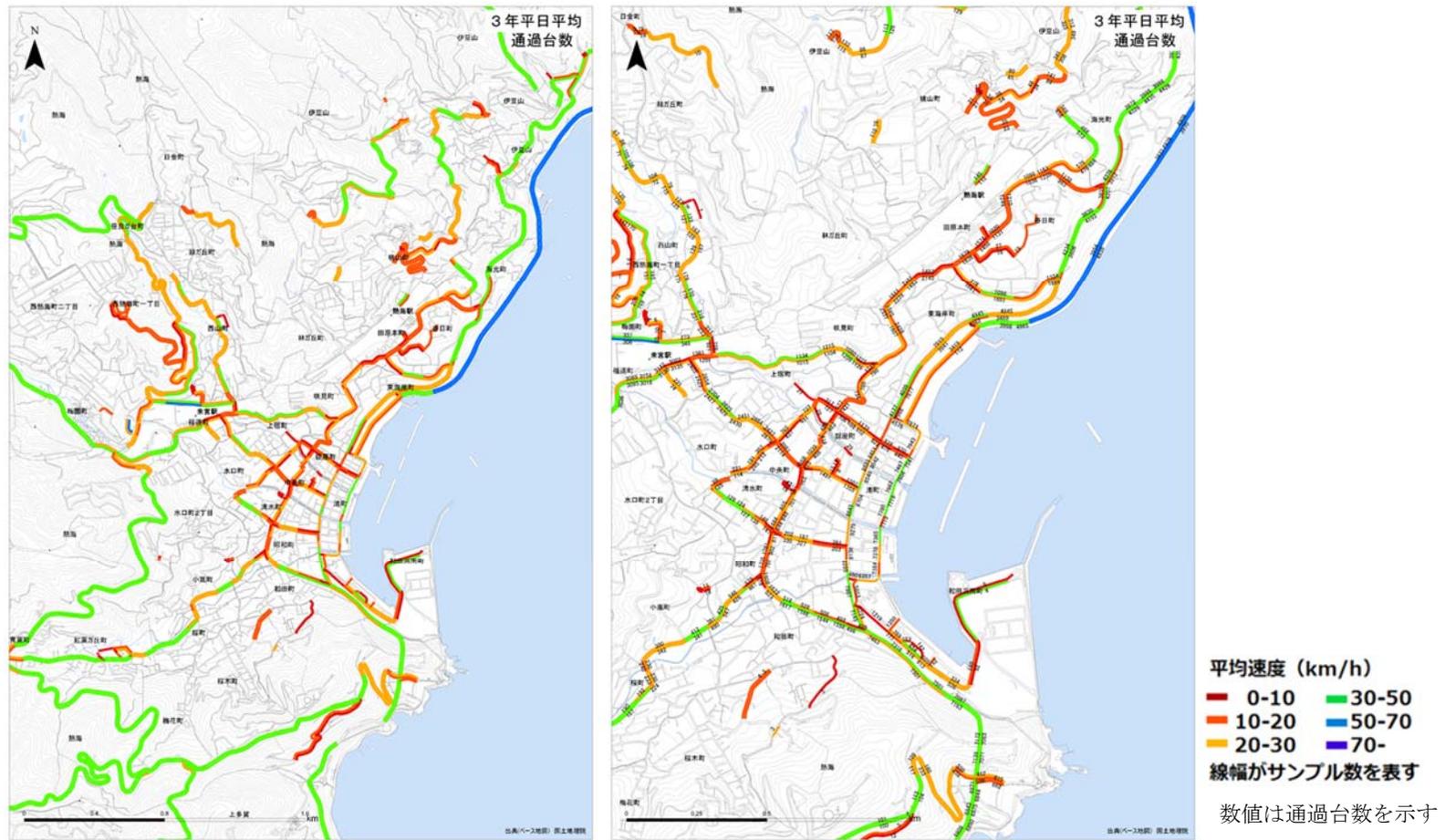
## 携帯カーナビプローブデータによる平均旅行速度図（平日平均（11月））



出典（ベース地図）：国土数値情報  
 平均速度データの出典：ナビタイムジャパン（計測時期：2017年11月）

図 II. 3. 4 7 道路の混雑状況（平日：11月）

## 携帯カーナビプローブデータによる平均旅行速度図（平日平均（3年平均））

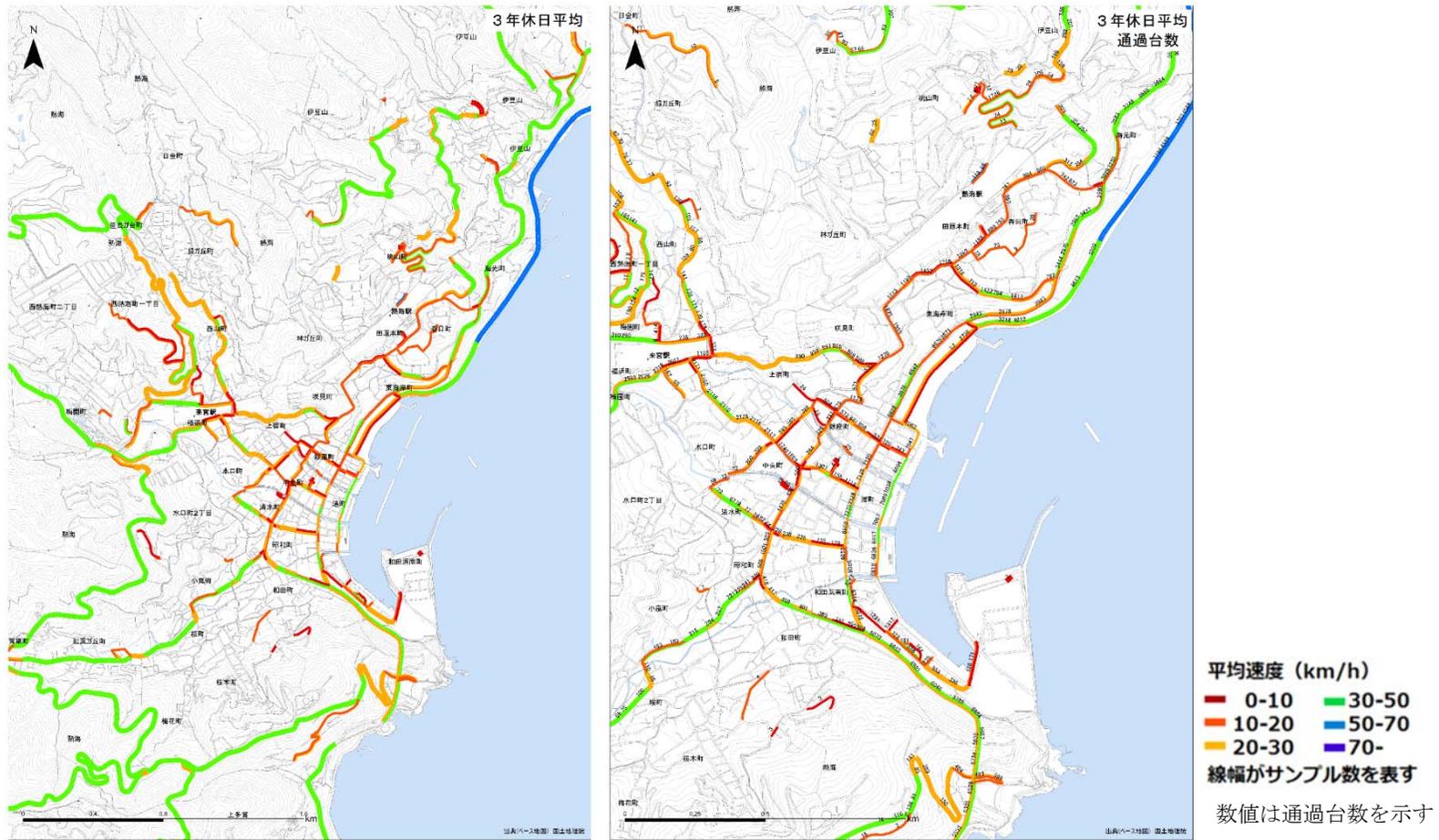


出典（ベース地図）：国土数値情報

平均速度データの出典：ナビタイムジャパン（計測時期：2015年1月～2017年11月平日）

図 II. 3. 48 道路の混雑状況（平日平均：3年平均）

携帯カーナビプローブデータによる平均旅行速度図（休日平均（3年平均））



出典（ベース地図）：国土数値情報  
平均速度データの出典：ナビタイムジャパン（計測時期：2015年1月～2017年11月休日）

図 II. 3. 49 道路の混雑状況（休日平均：3年平均）

① 携帯カーナビプローブデータ
データの概要
携帯カーナビ  
プローブデータ

データ取得対象サービス

ナビタイムジャパンが運営する  
下記サービスのデータを使用

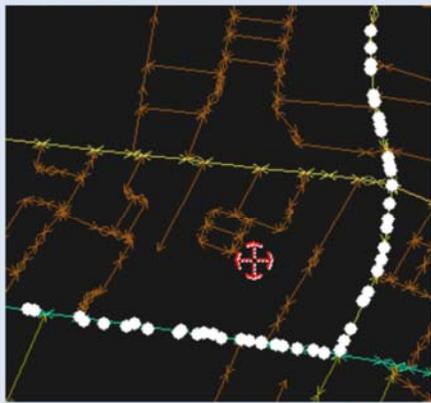
スマートフォン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライブサポーター</li> <li>・カーナビタイム</li> <li>・トラックカーナビ</li> </ul>
フィーチャーフォン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライブサポーター</li> </ul>



プローブデータの取得方法

- ・ 1～6秒間隔で測位したGPS座標から速度等を算出する
- ・ 匿名化の上、各種分析に利用

座標のプロット



100m

① 携帯カーナビプローブデータ
他社データとの比較
携帯カーナビ  
プローブデータ

分析項目	本プローブデータ	ETC2.0 道路プローブデータ	国交省 民間 プローブ旅行 時間データ	トラカン 交通量 データ	ETC データ
断面交通量	△ サンプルデータ	△ サンプルデータ	△ サンプルデータ	○ 全数	△ 料金所間のデータから最短経路の断面交通量を推定
出入OD交通量	△ サンプルデータ	△ サンプルデータ	× 経路が不明	× 経路が不明	△ 無料・均一区間は不明
街路利用経路	○ 街路のみ走行車両も把握可能	△ 高速道・直轄国道・高級車中心に把握可能	× リンク別集計のため経路が不明	× 経路が不明	× 街路の経路が不明
区間走行時間	○ 個車の所要時間を把握可能	○ 個車の所要時間を把握可能	△ リンク毎の所要時間の積算	△ QV関係に基づく断面速度から推定	△ 無料・均一区間は不明 ランプ走行時間を除去
走行速度分布	○ 個車の速度を把握可能 1秒間隔測位で高解像度	△ 個車の速度を把握可能 200m間隔測位で低解像度	△ 個車の速度を把握不能 リンク長に依存し低解像度	△ トラカン設置箇所毎に点データとして取得可能	× 把握困難

出典：ナビタイムジャパン

### (3) 交通事故の発生状況

- 国道 135 号で交通事故が多発しており、観光交通に着目した交通事故対策が急務。
  - ・ 国道 135 号では、市内の人身事故の 45% (104 件) が発生 (H27)。静岡県警に事故危険箇所として指定されている。
  - ・ 県外者事故、観光目的とする交通事故の割合が高い。
- 交通事故件数に占める歩行者事故の割合が高く、生活道路対策が急務 (歩行者事故 37 件/全 229 件)。

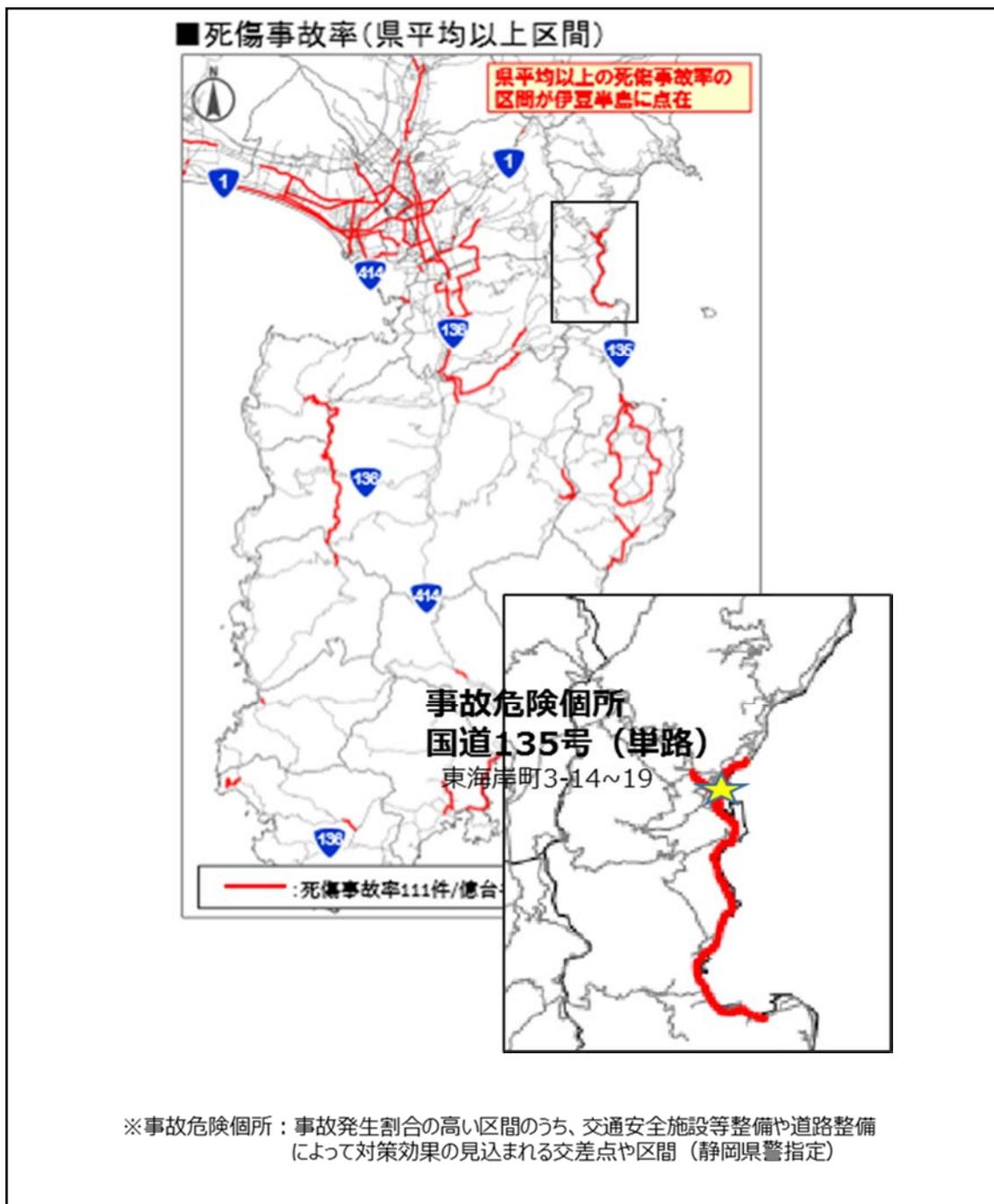
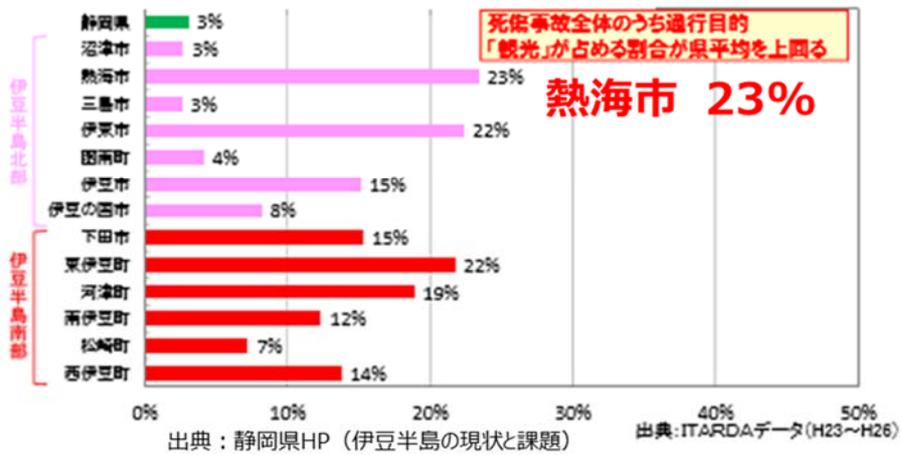


図 II. 3. 5 0 (1) 交通事故の発生状況

	熱海市		静岡県	
	発生件数	構成比率	発生件数	構成比率
交通事故件数	229件	-	31,518	-
高齢者事故件数	97件	42%	10,259	33%
歩行者事故件数	37件	16%	2,326	7%
県外者事故件数	109件	48%	2,603	8%

■死傷事故のうち、通行目的が「観光」の割合



参考：第10次熱海市交通安全計画H29.1

※事故危険箇所：事故発生割合の高い区間のうち、交通安全施設等整備や道路整備によって対策効果の見込まれる交差点や区間（静岡県警指定）

※あんしん歩行エリア：歩行者及び自転車利用者の安全な通行を確保するため緊急に対策が必要な住居系地区又は商業系地区

図 II. 3. 5 0 (2) 交通事故の発生状況

### 3) 歩行者経路の状況

- 高い高齢化率：熱海市 45.5%（県平均 28.2%）
- 高低差のある地形： 駅⇄海の標高差 約 60m（階段、急勾配）
- 歩行者ルート上で歩道の狭い区間の存在  
→歩行者の回遊性を損ねている



写真③：駅から海岸へのアクセス路(階段)

写真①：銀座通り商店街

※生活関連経路：歩行者の利用頻度が高く、重点的な整備が必要な経路

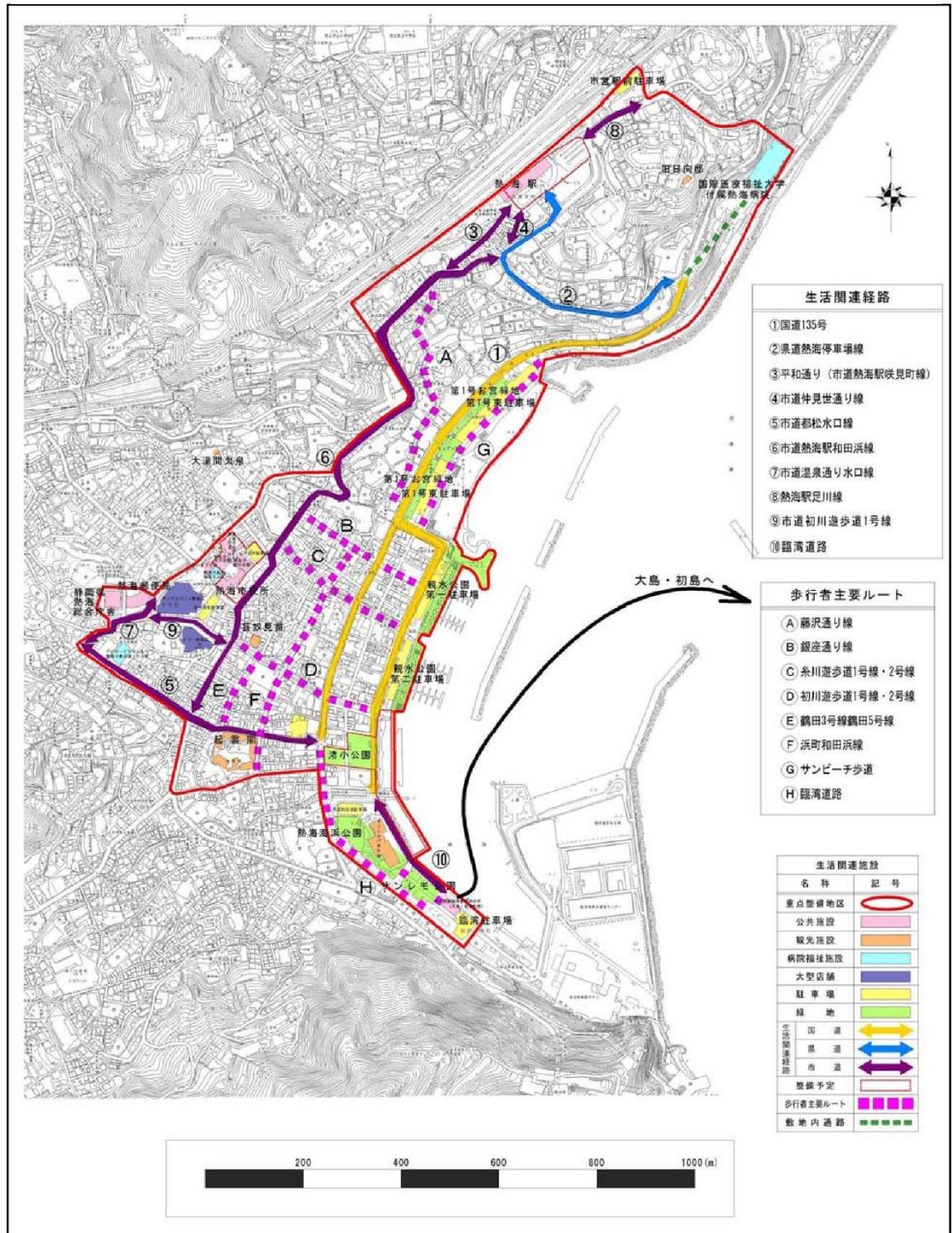
※歩行者主要ルート（中長期的な展望による補足経路）：観光地として「歩いて楽しいまちづくり」に必要な経路

※バリアフリー重点整備地区、経路の出典：移動円滑化基本構想（熱海市 H19.12）

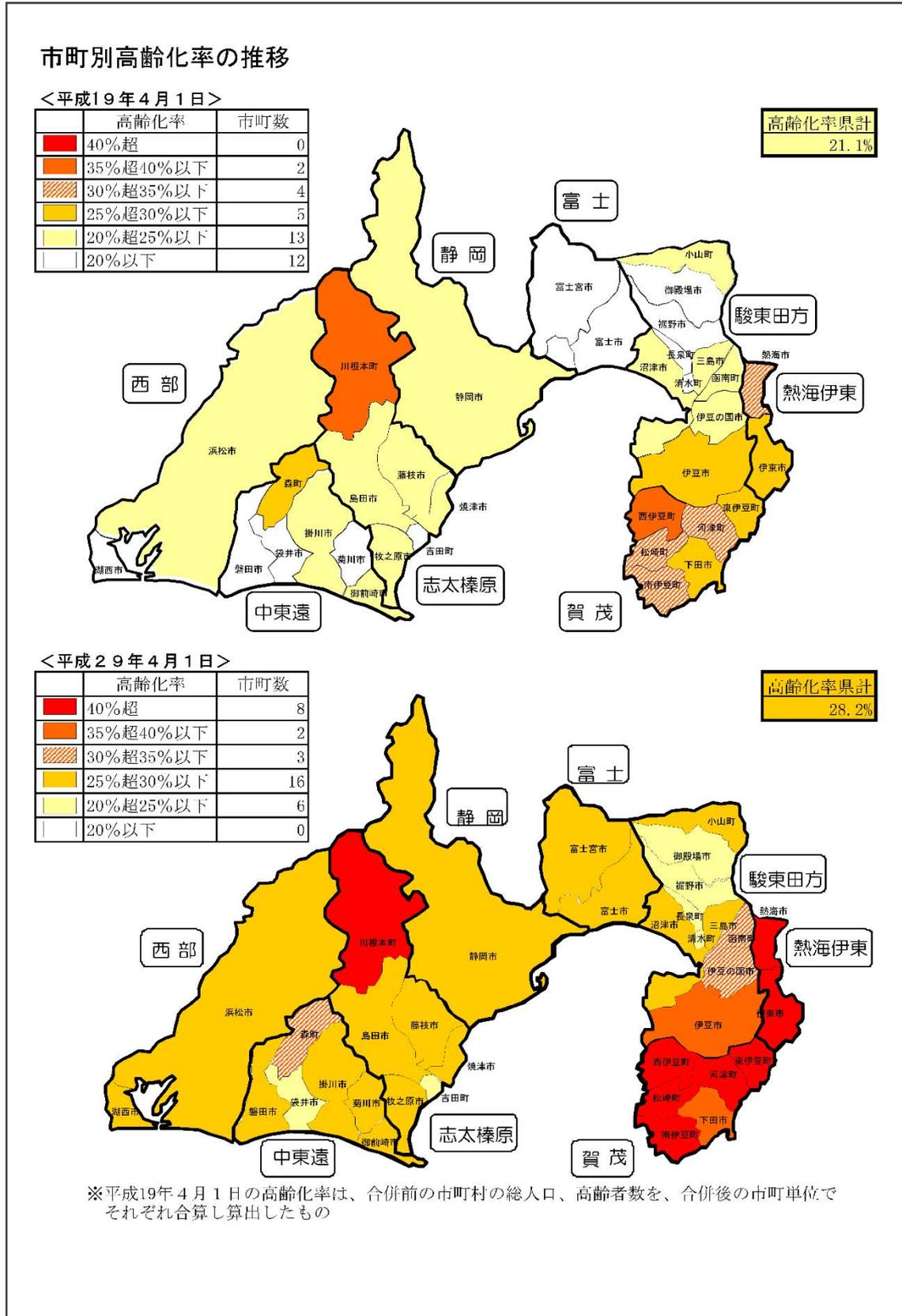
図 II. 3. 5 1 歩行者経路の状況

## 生活関連経路の設定

生活関連経路の基本的な考え方を踏まえ、下図の通り設定した。



参考資料：熱海市の高齢化の状況①



出典：平成29年度静岡県高齢者福祉行政の基礎調査 高齢化率の公表資料（2017年5月29日発表資料）

参考資料：熱海市の高齢化の状況②

市町別高齢化率（表2）

（平成29年4月1日現在 単位：人）

順位	市町名	男			女			計			(参考) 後期 高齢化率
		総人口	65歳以上人口	高齢化率	総人口	65歳以上人口	高齢化率	総人口	65歳以上人口	高齢化率	
1	西伊豆町	3,940	1,718	43.6%	4,386	2,279	52.0%	8,326	3,997	48.0%	26.5%
2	川根本町	3,492	1,488	42.6%	3,693	1,924	52.1%	7,185	3,412	47.5%	30.0%
3	熱海市	16,987	6,851	40.3%	20,625	10,276	49.8%	37,612	17,127	45.5%	24.0%
4	南伊豆町	4,127	1,656	40.1%	4,447	2,123	47.7%	8,574	3,779	44.1%	22.5%
5	松崎町	3,289	1,287	39.1%	3,632	1,741	47.9%	6,921	3,028	43.8%	24.0%
6	東伊豆町	6,021	2,390	39.7%	6,641	3,010	45.3%	12,662	5,400	42.6%	20.9%
7	伊東市	33,117	12,081	36.5%	37,228	16,207	43.5%	70,345	28,288	40.2%	19.8%
8	河津町	3,598	1,316	36.6%	3,857	1,674	43.4%	7,455	2,990	40.1%	20.7%
9	下田市	10,824	3,823	35.3%	11,653	5,148	44.2%	22,477	8,971	39.9%	20.4%
10	伊豆市	15,155	5,218	34.4%	16,470	6,770	41.1%	31,625	11,988	37.9%	19.6%
11	森町	9,269	2,612	28.2%	9,465	3,329	35.2%	18,734	5,941	31.7%	17.4%
12	伊豆の国市	23,789	6,778	28.5%	25,564	8,737	34.2%	49,353	15,515	31.4%	15.0%
13	函南町	18,757	5,156	27.5%	19,459	6,330	32.5%	38,216	11,486	30.1%	13.7%
14	沼津市	97,663	25,713	26.3%	100,461	33,333	33.2%	198,124	59,046	29.8%	14.5%
15	島田市	48,930	13,120	26.8%	50,831	16,530	32.5%	99,761	29,650	29.7%	15.2%
16	牧之原市	23,033	5,955	25.9%	23,380	7,638	32.7%	46,413	13,593	29.3%	15.1%
17	静岡市	344,589	89,425	26.0%	362,584	116,280	32.1%	707,173	205,705	29.1%	14.5%
18	藤枝市	71,536	18,680	26.1%	74,697	22,668	30.3%	146,233	41,348	28.3%	13.5%
19	焼津市	69,451	17,722	25.5%	71,410	22,022	30.8%	140,861	39,744	28.2%	13.5%
20	小山町	9,763	2,321	23.8%	9,170	3,006	32.8%	18,933	5,327	28.1%	14.5%
21	御前崎市	16,845	4,109	24.4%	16,382	5,108	31.2%	33,227	9,217	27.7%	13.6%
22	三島市	54,405	13,531	24.9%	56,834	17,263	30.4%	111,239	30,794	27.7%	13.3%
23	富士宮市	66,233	16,087	24.3%	67,756	20,544	30.3%	133,989	36,631	27.3%	12.9%
24	磐田市	85,889	20,756	24.2%	84,314	24,735	29.3%	170,203	45,491	26.7%	12.6%
25	浜松市	401,201	95,376	23.8%	405,206	118,390	29.2%	806,407	213,766	26.5%	13.3%
26	富士市	126,082	29,546	23.4%	128,978	37,486	29.1%	255,060	67,032	26.3%	12.6%
27	湖西市	30,769	7,252	23.6%	29,537	8,563	29.0%	60,306	15,815	26.2%	12.3%
28	菊川市	23,988	5,652	23.6%	23,839	6,683	28.0%	47,827	12,335	25.8%	12.6%
29	掛川市	58,886	13,695	23.3%	58,799	16,633	28.3%	117,685	30,328	25.8%	12.7%
30	清水町	15,905	3,455	21.7%	16,785	4,642	27.7%	32,690	8,097	24.8%	12.2%
31	裾野市	26,711	5,979	22.4%	25,879	7,040	27.2%	52,590	13,019	24.8%	11.2%
32	吉田町	14,790	3,125	21.1%	14,901	3,959	26.6%	29,691	7,084	23.9%	11.5%
33	御殿場市	45,341	9,223	20.3%	43,456	11,489	26.4%	88,797	20,712	23.3%	11.4%
34	袋井市	44,359	8,990	20.3%	43,198	10,838	25.1%	87,557	19,828	22.6%	10.6%
35	長泉町	21,444	4,072	19.0%	21,455	5,104	23.8%	42,899	9,176	21.4%	10.6%
	県計	1,850,178	466,158	25.2%	1,896,972	589,502	31.1%	3,747,150	1,055,660	28.2%	13.9%

※高齢化率、後期高齢化率については、小数第2位を四捨五入したものの。

出典：平成29年度静岡県高齢者福祉行政の基礎調査 高齢化率の公表資料（2017年5月29日発表資料）

#### 4) 公共交通の利用状況

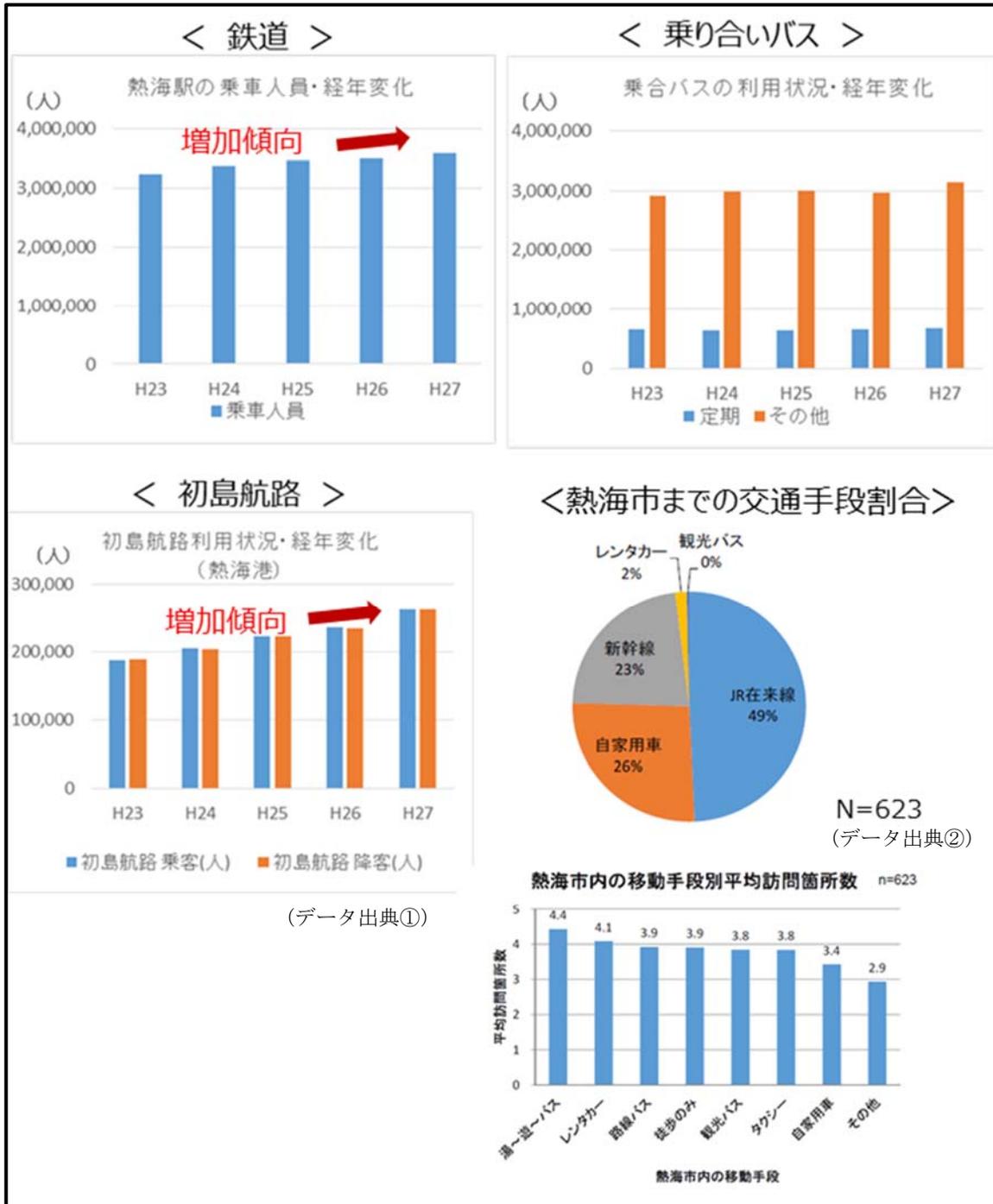
- 熱海駅(新幹線等)は、広域アクセスの強み(利用は増加傾向)
- 初島への定期船=島リゾート周遊の強み(利用は増加傾向)
- 路線バス、湯～遊～バスが市内移動を支える



出典：H28 熱海市統計書（伊豆箱根バス㈱、東海自動車㈱、富士急マリンリゾート、東日本旅客鉄道㈱横浜支社）

図 II. 3. 5 2 バス路線図

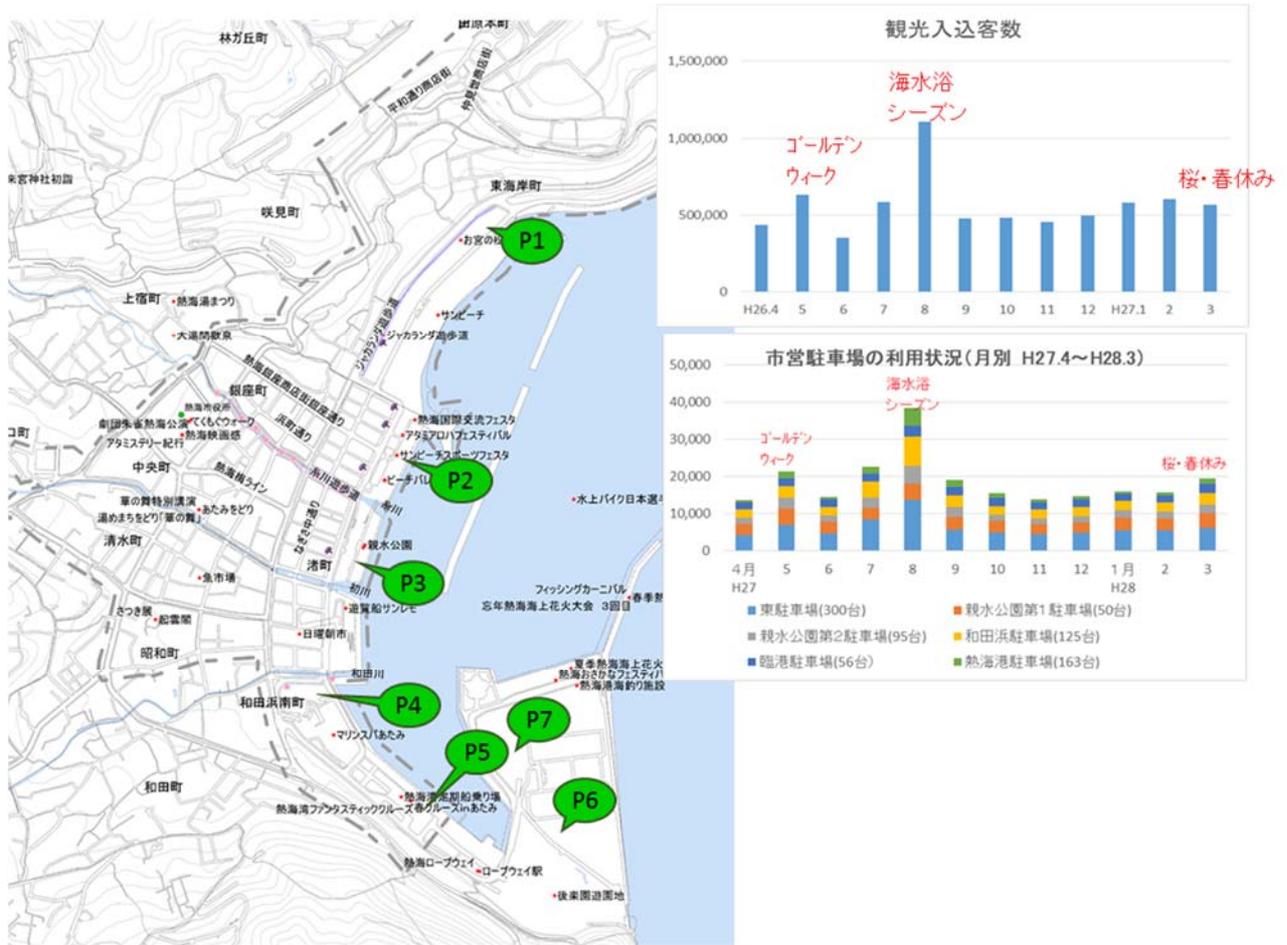
参考資料



出典：①H28 熱海市統計書（伊豆箱根バス㈱、東海自動車㈱、富士急マリリゾート、東日本旅客鉄道㈱横浜支社）  
 ②2015年度熱海市観光動線実態調査報告書

## 5) 公共駐車場の利用状況

- 夏季の海水浴シーズンに駐車場利用台数が多く、容量不足や駐車待ちの車列による渋滞の発生が懸念。
- パークアンドライドの実施に向け、容量の拡大（民間駐車場と連携）、分散（周辺駐車場との連携、案内の充実、料金施策）、需要調整（予約システム）、が必要。



※P7 熱海港海釣り施設駐車場 350台

図 II. 3. 5 3 海岸エリア周辺の公共駐車場位置図

表 II. 3. 8 公営駐車場利用状況

	①東駐車場	②親水公園第1駐車場	③親水公園第2駐車場	④和田浜駐車場	⑤臨港駐車場	⑥熱海港駐車場
収容台数	300	50	95	125	56	163
年合計	<b>75,331</b>	40,165	27,248	39,017	25,632	17,737
月平均	<b>6,253</b>	3,343	2,263	3,241	2,131	1,465
8月(ピーク)	<b>13,523</b>	4,439	4,746	8,043	2,810	4,743

出典(駐車場利用台数): 熱海市統計書 平成28年度(H27.4~H28.3)

## 6) 交通に係るニーズ等（地域意見）

### (1) ヒアリング意見一覧

計画検討にあたり、関係者（港利用者・地元まちづくり団体（NPO）へのヒアリングを実施した。以下にヒアリング意見を示す（交通関連のみを抜粋）。

表 II. 3. 9 (1) ヒアリング意見一覧

項目		問題点・課題のご意見
市内	歩行者交通 （駅や市内⇄海岸 エリアの動線）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内滞在できる動線の確保。</li> <li>・駅からの動線には、物理的な制約があるので工夫が必要。</li> <li>・地域資源を生かした散策ルートを広げる。</li> <li>・車両規制や周遊バスを使う案がある。</li> <li>・海上タクシーの案がある（海から陸を見る景観がよい）。</li> <li>・標識、サインを工夫すると良い。</li> <li>・国道による地域分断が魅力を損ねている（地下化がのぞましい）。</li> </ul>
	歩行者交通 （熱海銀座商店街）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱海銀座通り商店街の将来像として、歩行者空間の充実が必要であり、車両の交通規制し路面を芝生にすることを関係者に働きかけている。</li> <li>・ただ、海辺のマルシェ開催時に年数回の交通規制を実施しており、これ以上回数が増えると苦情がくる等の問題がある。</li> <li>・商店街の事業者との利害調整、自動車アクセスする顧客への配慮が必要。</li> <li>・商店街の事業者と調整しながら、一方通行から交通規制（車両の乗り入れ禁止）への段階的整備に同意。</li> <li>・一方通行規制は、騒音大気の問題から、南向き（下り1方向）が望ましいと考える。</li> </ul>
	歩行者交通 （公共空間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力的な公共空間が少ない。</li> <li>・多様な人々（市民・別荘利用者・来訪者）の交流の場が必要。</li> </ul>
	自動車交通	和田浜から国道への出口が渋滞し、1時間待ちの場合もある。港から出る人と車の処理が課題。
広域アクセス		<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏からの陸路と海路の周遊ルートの商品開発が必要。</li> <li>・熱海港は新幹線の駅から最も近い港であり、特性を活かすべき。</li> </ul>

## (2) ワーキング意見一覧（交通関連計画（案）に対するご意見等）

第1回ワーキングで頂いた交通計画（案）に対する委員からの意見、および第2回ワーキングで提示した第1回ワーキング意見に対する回答を表 II. 3. 1 0 (1) ～ (2) に示す。

また、第2回ワーキングで頂いた交通計画（案）に対する委員からの意見を表 II. 3. 1 1 (1) ～ (7) に示す。

表 II. 3. 10 (1) 交通関連計画(案)に対するご意見(第1回ワーキング)

区分		全体	方針1	方針2	方針3	方針4	方針5	意見区分	委員記述	発言記録	回答(第二回ワーキング時に提示済み)
交通	調査(駅⇔海への現状の利用状況、海の視点場)			○				質問	駅周辺に来られる観光客の方々は海に行きたいと思っているのでしょうか？	そもそも海を目指してくるのか？	<b>■熱海駅を発着地とする観光客等の流動状況(モバイルデータ分析結果)</b> ・「熱海駅」⇒「各地」への観光客等の流動では、「熱海銀座商店街周辺(宿泊施設等)」への流動は19.8%、「熱海城周辺」への流動は15.0%と多い。一方、熱海サンビーチ等の「海岸部」への流動は5.5%、6.8%と少ない。 ・「各地」⇒「熱海駅」への流動では、「熱海銀座商店街周辺(宿泊施設等)」の中心市街地からの流動が20.5%と最も多く、次いで「熱海城」からの流動が12.3%と多い。 ・一方、熱海サンビーチ等の「海岸部」からの流動は7.3%と少ない。 <b>■サンビーチ周辺を発着地とする観光客等の流動状況(モバイルデータ分析結果)</b> ・サンビーチ周辺を発着地とする流動のうち、「サンビーチ」⇔「熱海駅」の流動が全体の6割を占め、他地域との周遊が少ないことが想定される。
交通	調査(交通利用者の実態・交通手段割合)		○	○				質問	宿泊者十日帰り客の来訪手段や通過車両はどうか？ 来訪手段の割合は新幹線+在来線、自家用車、観光バス・・・となっているのか？	交通利用者の実態はどうか？	<b>■熱海市までの交通手段(2015年度熱海市観光動線実態調査結果)</b> (調査日:2015年1月23日(土)24日(日)) ・熱海市までの交通手段は、「JR在来線」が約半数を占めている。 ・「新幹線(23%)」を含めると、7割以上が公共交通を利用。 ・「自家用車」利用は、26%と比較的少ない。 <b>■熱海市内の移動手段</b> ・熱海市内の移動手段は、徒歩のみが33%で最も多い。 ・熱海市まで「新幹線」及び「JR在来線」を利用した観光客では、「徒歩のみ」がそれぞれ35%、45%と最も多い。次いで「路線バス」が多い。 ・熱海市まで「自家用車」で来訪した観光客は、その大半が熱海市内の移動においても「自家用車」を利用している。
交通	共通(歩行者空間整備)		○	○				提案	駐車場を含めての提案だが鉄道客にターゲットをしばってはどうか？	駐車場を含めての提案だが鉄道客にターゲットをしばってはどうか？	<b>■熱海市までの交通手段×旅行形態</b> ・熱海市までの交通手段において、「自家用車」を利用しているのは、「夫婦・カップル」及び「家族旅行」に特化している。 ・「女性小グループ」は、「新幹線」及び「JR在来線」の利用が多い。
			○	○				提案	ターゲットを絞り込んだ計画にすべき。	ターゲットを絞り込んだ計画にすべき。	<b>■ターゲット</b> ・渋滞は公共交通の利便性や歩行者の快適な移動等、周遊環境を損ねる要因となる。パーク&ライド等の渋滞対策の取り組みは、自動車と歩行者の双方を対象とするものであり、エスカレーターや銀座通り商店街の歩行者空間整備と合わせて、渋滞対策の取り組みが必要だと考える。
				○				提案	駅から徒歩・自転車での熱海港へ行くには？	歩行者が多いので、その対応も考える必要がある。	<b>■徒歩や公共交通による回遊性向上を基本方針に掲げている</b>
交通	駅⇔海岸エリア(歩行者空間整備・エスカレーター)			○				賛成	駅から徒歩・自転車での熱海港へ行くには？	エスカレーターはともいいと思う	<b>●賛成意見</b>
交通	駅⇔海岸エリア(公共交通、商店街との関わり・合意形成)		○	○				懸念	駅から海岸線までの交通アクセスと商店街との関わり	LRTも良いが、商店街は歩道だけ。影響は？	<b>■商店街との調整</b> ・商店街関係者との調整は、今後の課題、調整事項として整理する。
			○	○				懸念		商店街そのものが落ち込んでしまう懸念あり。	→今後の課題・調整事項 商店街との協議調整

表 II. 3. 10 (2) 交通関連計画(案)に対するご意見(第1回ワーキング)

区分		全体	方針1	方針2	方針3	方針4	方針5	意見区分	委員記述	発言記録	回答(第二回ワーキング時に提示済み)	
交通	銀座商店街 (歩行空間整備)			○				賛成	歩行者空間(銀座通り商店街)の整備はマル(必要)	提案内容と同感	<p><b>●賛成意見</b></p> <p><b>■市民代表へのヒアリング結果のご報告(対象: ATAMISUTA)</b></p> <p>①ATAMISUTAが描く熱海銀座通り商店街の将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車両の交通を規制し、路面に芝生を張ることをイメージしており、商店街の集まり等、機会があれば関係者に伝えるようにしている。</li> </ul> <p>②海辺のあたまマルシェで短期的な交通規制で生じている問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年6回以上の開催(交通規制)となると、関係者間の理解を得るのが難しい(高齢の方は車で買い物に来自ら、そうした客が来れなくなることが理由)。</li> </ul> <p>③提案に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル事業として、熱海銀座を对象に、関係者と協議調整しながら、1車線交通規制⇒交通規制の段階的整備によって実現性があると考え。</li> <li>・一方通行の方向としては、国道から北へ向かう方向は上りであり、特に商店街南側で大気や騒音の問題がある。そういう意味では南向きの一方通行がのぞましいと思う。</li> </ul> <p><b>■既往交通量調査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既往交通量調査より、熱海銀座商店街の自動車交通量は2,300台/日(平日)、2,500台/日(休日)H29.3平日商工会議所調査)となっている。上り方向規制の場合の迂回路として県道11号を想定。</li> </ul> <p>→今後の課題・調整事項 社会実験等により、自動車交通規制の受容性・有効性の検討/合意形成</p>	
				○				提案	車道から歩道へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通量調査等</li> <li>・交通体系の変更は地域住民の意見を確認し、よく調べる</li> </ul>		
交通	4工区~緑地公園まで (歩行空間整備)			○				提案	4工区から緑地公園までの動線を活発にするには	歩くだけでない工夫を(フィッシャーマンズワーフとか)	<p><b>■クルーズ船で市内消費拡大の事例紹介</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石川県では、H27.3の北陸新幹線金沢開業効果の一つとして、金沢港発着クルーズの定着を取り上げている。(平成27年19本(本州日本海側でトップクラス)、平成28年30本の寄港が確実。そのうち、前後泊を伴う等高い経済効果が期待できる発着型のクルーズが大幅に増加し22本が予定。金沢港発着を実施するコスタ・ピクトリア号による日本海定期周遊クルーズについては、現在順調に推移。以上、出展:石川県HP記者会見の要旨H28.2.19)</li> </ul> <p>→今後の課題 リニア開通後の新幹線の動向に着目し、レール&amp;クルーズによる熱海港発着クルーズの可能性の調査・検討</p> <p><b>■バスについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化への対応のため、歩行空間と合わせて公共交通等による移動手段の確保が必要だと考える。</li> </ul>	
				○	○			提案		地元にお金をおとす工夫を		
				○	○			提案		歩いて移動は大事 バス×		
交通	共通(クルーズ船客を市内に取り込む)				○			懸念	クルーズ船利用者の市内宿泊⇒現実性が感じられない	クルーズ船、その他にとまらせる施策の必要性		
交通	共通 (公共交通、採算性)		○		○		○	懸念	交通体系の整備⇒採算性と持続性	路線バス 補助金もらってトントン	<p><b>■交通体験新規導入する公共交通の採算性と持続性について</b></p> <p>採算性、持続性については、短期中長期の段階的整備などを含め、今後の調整事項として整理する。</p> <p>→今後の課題・調整事項 新規公共交通導入の採算性・持続性の検討/事業主体および関係機関との調整</p>	
			○		○		○	提案		資金についても踏み込んで検討		
交通	共通(クルーズ船からの人の流れ)						○	懸念	クルーズ船が来ても宿泊は船 観光は箱根等市外に行ってしまう	現状そのとおりにクルーズ船にセットになっている	<p><b>■クルーズ船誘致による市内消費拡大の方策(AI運行バス)について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年9月に鳥取県境港市で、クルーズ船の寄港地における消費拡大の可能性の調査を目的として、クルーズ船で来訪する外国人向け「AI運行バス」の実証実験を実施(山陰インバウンド機構)。</li> <li>・詳しい実証実験の結果は現在調査中。熱海での有効性等を含め今後の継続調査事項とする。</li> </ul> <p>→今後の課題 AI運行バスの実証実験結果のヒアリング、熱海での受容性・有効性の検討</p>	

表 II. 3. 1 1 (1) 交通関連計画 (案) に対するご意見 (第 2 回ワーキング)

■検討テーマ：計画全体

区分		全体	方針1	方針2	方針3	方針4	方針5	意見区分	委員記述	発言記録	備考
交通	調査(客観的データ)	○						提案	市民アンケート、観光客アンケートにより、属性、移動手段、来訪目的、立ち寄り場所、良いところ・悪いところ、提案等を把握すべき。		■観光動線実態調査結果の分析、モバイルビックデータを用いた分析結果を追加
		○						提案	調査がない、DATAがない、根拠がない、生の声がほしい。		同上
		○						提案	定量的なDATAが少ない。もっと必要。		同上
交通	基本方針(海からの視点)	○						提案	駅からのみでなく、クルーズ船の客を街中へが大切。	クルーズ客の回遊性が市の賑わいづくりとマッチング。基本は港湾からの出入りも重視。	■将来像、基本方針に反映
		○						提案	クルーズ船の客を中心とした回遊性が目的。		
		○						提案	海から入ることも強めて。		
		○						提案	海・陸両方からのアプローチ。	客船の乗客からも楽しめる熱海という観点も目的の一部として必要ではないでしょうか？	同上
		○						提案	海辺の玄関口ではなく「伊豆半島東海岸の玄関口」では。		■交通計画の目標に反映
		○						提案	海の玄関。伊豆半島東海岸の玄関口。	伊豆半島東海岸の玄関口	同上
交通	基本方針	○						提案	市のみでなく、箱根エリアも含めて計画すべき。結果的に市の賑わいにつながる。	駅から港を捉えるのではなく、港から駅または双方向、更には港から伊豆半島北東域と考えるべき。	同上
交通	駅⇄海岸エリア(サイン)			○				提案	駅から海岸へのサインがほしい(エスカレーターはすぐには難しいので)。		■方針2の施策メニューに反映
				○				提案	駅からの人の流れ-分かりやすくサインが必要。		同上

表 II. 3. 1 1 (2) 交通関連計画 (案) に対するご意見 (第2回ワーキング)

分類	旗と対応する場所	全体	方針1	方針2	方針3	方針4	方針5	意見区分	委員記述	発言記録	備考
交通	調査	○						提案	観光客の移動経路と手段を具体的に調査してもらいたい。施設と動線を定量的につかみたい。		■モバイルビックデータによる分析結果を追加 →今後の検討事項 (目的に応じた詳細調査・分析)
		○						提案	施設別のデータが欲しい。(ドコモデータ)		同上
		○						提案	ドコモデータ、数値(人数)で示してほしい		同上
		○						提案	観光客の動線、人数、施設の集客量など、データで示してほしい。		同上
交通	共通(公共交通)		○	○				懸念	自家用車と回遊バス等の公共交通手段のすみわけについて考える?		→今後の検討事項 観光交通対策検討 →今後の調整事項 官民連携、関係者間の合意形成
				○	○			賛成	公共交通機関を用いた回遊性向上は良いと思う		●賛成意見
交通	共通(公共交通・海上タクシー)			○	○			その他	熱海も川床と海上タクシーを実施した(去年)		
交通	共通(公共交通・バス)			○				提案	夜間バスの運行		
交通	共通(公共交通)		○	○	○			懸念	集客力ある施設同士の交通がない		→今後の検討事項 観光交通対策検討
交通	共通(歩行者空間・公共交通)			○				懸念	熱海駅→(バス)→集客施設、線で結ばれてしまっている。		→今後の調整事項 官民連携、関係者間の合意形成
交通	共通(公共交通・バス)		○	○				懸念	バス会社2社、仲が悪い。路線譲らず。		
交通	共通(公共交通)		○	○				懸念	公共交通機関の連携がない。		
交通	共通(歩行者空間整備)			○				提案	道路拡幅、全体、歩道・車道。		→今後の調整事項 都市計画事業等との調整
				○				提案	全体、出来る限り歩道も車道も拡げる。		同上
				○				懸念	回遊-まとまっていない。		→今後の検討事項 観光交通対策検討 →今後の調整事項 官民連携、関係者間の合意形成

表 II. 3. 1 1 (3) 交通関連計画(案)に対するご意見(第2回ワーキング)

分類	旗と対応する場所	全体	方針1	方針2	方針3	方針4	方針5	意見区分	委員記述	発言記録	備考
交通	共通(歩行者空間整備)			○				提案	まち歩き対策。歩道狭く、歩いていて怖い。		■方針2に反映
				○				懸念	歩いていて怖い。		同上
				○				懸念	疲れてしまって辿りつけない。ポイントで休めて面白みが欲しい。		同上
				○				懸念	夏はお客さんが歩かない。		同上
交通	駅⇄海岸エリア (歩行者空間整備・エスカレーター)			○				賛成	エスカレーター、欲しい。		●賛成意見
				○				賛成	エスカレーターが必要(全天候型)		●賛成意見
				○				賛成	駅下から東海岸町までの全天候エスカレーターの設置。		●賛成意見
				○				提案	階段部分を生かす エスカレーター。		→今後の検討事項 移動支援方策の検討(エスカレーター等)
				○				提案	石畳を残しながらエスカレーター。		同上
				○				提案	大理石の階段は歴史があるので残してほしい。その横にエスカレーター。		同上
				○				提案	熱海駅～藤沢通り～サンビーチの道路の修景整備が必要。		同上
				○				賛成	多様な移動手段。エスカレーターは早く欲しい。LRTなど熱海港の売り物を実現すべき。		●賛成意見
				○				懸念	駅前に展望がないので。		→今後の検討事項 景観検討(駅や市街地部からの海への眺望・視点場)
交通	駅⇄海岸エリア(移動の多様性)			○	○			提案	コンビニなどをレンタルサイクルステーションにする。		→今後の検討事項 観光交通対策検討 →今後の調整事項 官民連携、関係者間の合意形成
交通	海岸エリア(歩行者空間整備)							懸念	海岸は駅前に比べて利便性がない。		同上

表 II. 3. 1 1 (4) 交通関連計画(案)に対するご意見(第2回ワーキング)

分類	旗と対応する場所	全体	方針1	方針2	方針3	方針4	方針5	意見区分	記載内容	発言記録	備考
交通	駅⇄海岸エリア(歩行者空間整備)			○				提案	海と駅の最短経路を修景。視点場整備。車も人も。		→今後の検討事項 景観検討 駅や市街地部からの海への眺望・視点場
				○				提案	歩行者も通れる最短道、再検討しては？修景整備。		同上
交通	駅⇄海岸エリア (歩行者空間整備・トランジットモール)			○				提案	花火大会等歩行者が多い時は駅から海岸までトランジットモールにしたい。		→今後の検討事項 観光交通対策検討 →今後の調整事項 官民連携、関係者間の合意形成
				○				提案	花火大会など歩く人が多い時など車禁止。社会実験でも。		同上
交通	来宮神社～大湯～銀座通り商店街 (歩行者空間整備)			○				提案	来宮神社～大湯～銀座側道路の修景 整備および結節。		→今後の検討事項 景観検討 駅や市街地部からの海への眺望・視点場
交通	堤防→糸川遊歩道→銀座商店街 (サイン)			○				賛成	堤防上の導線から糸川遊歩道、さらに銀座商店街への案内の充実。		→今後の検討事項 景観検討 サイン計画
交通	銀座商店街(歩行者空間整備)			○				提案	海→街中へ人を。糸川から商店街へ人を呼び込む必要がある。		●賛成意見
				○				賛成	銀座通りが温泉の発祥。		●賛成意見
交通	和田浜(歩行者空間整備)			○				賛成	堤防4工区+和田浜陸間の整備で回遊性を確保。		●賛成意見
交通	和田浜・渚町・親水公園 (歩行者空間整備)			○				賛成	初川、和田川は水門整備と合わせた管理用通路整備で堤防上導線保持。		●賛成意見
交通	和田浜(歩行空間整備)			○				提案	第4工区ができれば動線ができるので、人も移動するのでは。		●賛成意見
交通	ビーチ～和田浜 (歩行者空間整備)			○				提案	サンビーチから第4工区までの動線確保はできる。		●賛成意見
交通	共通(観光交通対策)		○					賛成	渋滞解消は重要。対策は最優先で進めるべき。		●賛成意見
			○					賛成	交通渋滞対策はぜひ積極的に進めてほしい。		●賛成意見
			○					懸念	駐車場の対策。		■方針1に反映
			○					提案	駐車場の弾力的活用。		■方針1に反映

表 II. 3. 1 1 (5) 交通関連計画（案）に対するご意見（第2回ワーキング）

分類	旗と対応する場所	全体	方針1	方針2	方針3	方針4	方針5	意見区分	記載内容	発言記録	備考
交通	共通(観光交通対策)		○					懸念	自家用車で回遊させるつもりなのか、はっきりしない。		→今後の検討事項 観光交通対策検討 →今後の調整事項 官民連携、関係者間の合意形成
交通	Sea Side Station (観光交通対策・マイカー規制)		○	○				提案	交通拠点整備(マイカー利用抑制と街中流入規制)によるパーク&ライド&ウォークの推進。		●賛成意見
交通	第1親水駐車場 (観光交通対策)		○					提案	第一駐車場の入り口を逆に。		→今後の検討事項 駐車場配置の検討
			○					提案	第1親水駐車場の出入口を逆にする。		同上
			○					懸念	道がわかりにくい、説明しづらい。		同上
			○					懸念	桜が咲いている時、とめて入りたいと思っても過ぎてている。		同上
			○					懸念	すぐできそうでなかなか難しい。		同上
交通	和田浜①、和田浜②、渚町・親水公園 (観光交通対策)		○					懸念	夏のシーズンの港にくるお客さんを逃している。駐車場問題。		→今後の検討事項 観光交通対策検討 →今後の調整事項 官民連携、関係者間の合意形成
			○					懸念	駐車場に入れない車が渋滞を起こす。		同上
			○					懸念	駐車場経営は赤字。		同上

表 II. 3. 1 1 (6) 交通関連計画 (案) に対するご意見 (第2回ワーキング)

■検討テーマ：港湾検討

分類	旗と対応する場所	全体	方針1	方針2	方針3	方針4	方針5	意見区分	記載内容	発言記録	備考		
交通	海岸エリア (公共交通、海上タクシー・バス)		○	○			○	提案	水陸両用車。		→今後の検討事項 観光交通対策検討 →今後の調整事項 官民連携、関係者間の合意形成		
			○	○			○	懸念	海上タクシーありき。				
			○	○			○	懸念	路線ベース無いところで海上タクシーは不可。				
			○	○			○	懸念	海上タクシーは補助金が必要。				
			○	○				○	賛成	水陸両用車の導入。パーク&ライド施設と連携。		●賛成意見	
			○	○				○	賛成	海と陸で回遊。水陸両用。		●賛成意見	
			○	○				○	賛成	遊々水上バス。		●賛成意見	
			○	○				○	賛成	ホテルに横付け→水陸両用。バスで海上周遊。		●賛成意見	
			○	○				○	懸念	水陸両用と漁船出入りとの住み分け調整。		→今後の検討事項 観光交通対策検討 →今後の調整事項 官民連携、関係者間の合意形成	
			○	○				○	懸念	水上バス、定期船との調整必要。			
			○	○				○	懸念	海上タクシーについては十分検討必要。			
									懸念	補助金ありきは可。			
			○	○					○	賛成	海上タクシーは有効な移動手段。		●賛成意見
			○	○					○	賛成	海上タクシーで横磯～親水公園～熱海港から-7.5を結ぶ。		●賛成意見
	○	○					○	賛成	海上タクシー。		●賛成意見		
	○	○					○	賛成	海上タクシー有効、渋滞解消、海から熱海を見る、低コストで導入。	非日常体験	●賛成意見		

表 II. 3. 1 1 (7) 交通関連計画（案）に対するご意見（第2回ワーキング）

分類	旗と対応する場所	全体	方針1	方針2	方針3	方針4	方針5	意見区分	記載内容	発言記録	備考
交通	海岸エリア (公共交通、海上タクシー・バス)		○	○			○	賛成	海上タクシー、社会実験実施、-7.5に定期船、サンビーチ、サンビーチまでの誘導がポイント。	熱海ならではの魅力	●賛成意見
			○	○			○	賛成	港内の回遊性向上。海上タクシー。	熱海ならではの魅力	●賛成意見
交通	駅⇄海岸エリア (歩行者空間整備・エスカレーター)			○				賛成	駅から海へ人を降ろすことが重要。エスカレーター。	熱海ならではの魅力	●賛成意見
交通	和田浜①、和田浜②(大型バスの移動の安全性・快適性の確保)				○			賛成	港奥部の道路の線形改良賛成。護岸構造の検討必要。	屈曲部の改良と水際線整備	●賛成意見
					○			賛成	湾奥屈曲部 道路線形変更とともに水際線利用は？		●賛成意見
交通					○			懸念	道路広げる。		→今後の調整事項 都市計画事業等の他事業との調整
交通	和田浜①、和田浜②、渚町・親水公園 (観光交通対策)		○					提案	七半岸壁に賑わいが生じると現在の引込道路では身動きがとれなくなる。それで親水公園渚デッキから橋を渡して車の渋滞を軽減する必要がある。		→今後の検討事項 交差点の渋滞対策検討

## 7) 交通に係る課題の整理

熱海市の交通の現状のまとめを表 II. 3. 8 に示す。

また、次項の表に熱海港湾エリアの賑わいを創出する上で、居住者や来訪者にとつての交通に係る課題を示す。

表 II. 3. 8 (1) 交通に係る現状

現 状		
観光交通特性	アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱海市までの交通手段 首都圏からの観光客、JR 在来線、新幹線利用者が多く、首都圏に近接し、公共交通の利便性に優れている立地条件が活かされている (強み)。</li> <li>熱海市内の交通手段 「湯～遊～バス」は市内周遊観光の利便性向上に寄与している。 「徒歩のみ」でも、訪問箇所数は他の交通手段と同等であり、コンパクトな観光地の特性が活かされている (強み)。</li> </ul>
	モバイルビッグデータ分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>流動人口： 流動人口が多い箇所は、熱海駅および熱海駅南側の平和通名店街、熱海仲見世通り名店街のある地区および東海岸町を経て、銀座町・中央町等の中心市街地へとつながっている。和田浜エリア周辺の流動人口は少ない。</li> <li>主要動線： 熱海駅と宿泊施設等が集積する熱海銀座商店街周辺との間の流動が多く、熱海駅から宿泊施設への直行している観光客が多いことがうかがえる (弱み)。</li> </ul>
市内アクセス	歩行者交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道 135 号を中心に観光交通による渋滞が発生し、歩行空間の安全性、快適性、回遊の魅力を損ねる要因となっている (弱み)。</li> <li>交通拠点となる「熱海駅」から「中心市街地」、「サンビーチ」へのアクセス路上で、急勾配箇所や歩道幅員の狭い箇所の存在し、歩行空間のバリアフリー性、回遊性を損ねる要因となっている (少子高齢化への対応が不十分) (弱み)。</li> <li>歩行者動線整備が不足している (魅力ある散策ルート、標識、サイン) (弱み)。</li> </ul>
	公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱海は熱海駅 (在来線、新幹線) があり、利用は増加傾向にある (強み)。</li> <li>路線バス、湯～遊～バスが市内移動を支えている。</li> <li>熱海港から島リゾートを楽しむ初島への定期船が出ており、利用は増加傾向にある (強み)。</li> </ul>
	自動車交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道 135 号や和田浜から国道への出口で観光交通による渋滞が発生し、自動車による移動の安全性、利便性を損ねる要因となっている (弱み)。</li> </ul>
広域アクセス	クルーズ船の誘致	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ客の受入れ環境整備として、クルーズ客を市内観光に誘致する工夫、増加する大型バス交通を鑑み、大型バスの移動の安全性、利便性確保が必要である (弱み)。</li> <li>クルーズ船誘致に向け、熱海港は熱海駅 (新幹線) から近い港であり、その特性を生かすべき (陸路と海路の連携) (強み)。</li> </ul>

表Ⅱ. 3. 8 (2) 交通に係る課題

課 題

**課題1 観光交通による渋滞と交通事故の削減**

渋滞は、地域交通・緊急交通の妨げになるだけでなく、観光地としての魅力低下の一因ともなり、円滑な交通の確保が課題となっている。

**課題2 少子高齢化に対応した交通環境の整備**

熱海市の高齢化率は45.5%で、静岡県内市の中では最も高齢化率の高い市となっている。

交通拠点の熱海駅は、標高70mの高台に位置しており、狭くて急な坂道や階段が多く、居住者や来訪者の歩行による移動、回遊性を損ねている。

**課題3 クルーズ客の受入れ環境整備**

クルーズ客を市内観光に誘致する工夫が必要である。

海岸エリアから中心市街地、熱海駅へのアクセス路について、徒歩や公共交通など、小回りのきく移動を確保する必要がある。

また、増加する大型バス交通を鑑み、大型バスの移動の安全性、利便性確保が必要である。

**課題4 観光地間競争力の向上、富士箱根伊豆交流圏との連携**

熱海は、位置条件（伊豆半島の付け根）、鉄道アクセス条件（新幹線停車駅）に恵まれるほか、富士箱根伊豆交流圏の新たな海の玄関口（熱海港）への期待から、首都圏および国内外の広域アクセスの強みを有している。

今後観光地間競争に勝ち抜くためには、「熱海」の持つ観光ポテンシャルを高めるとともに、広域アクセスの強みを活かし、富士箱根伊豆交流圏と連携し一体となって、その相乗効果で発展していくことが必要である。そのためには、陸路と海路の乗り継ぎのシームレス化を図り、連携を強化することが必要である。